
エルカと『シュガー』な仲間達

Black・K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エルカと『シュガー』な仲間達

【Nコード】

N4953L

【作者名】

Black・K

【あらすじ】

カエル似の妖精エルカと『シュガー』に集まる人々（人間、妖精、幽霊達）の楽しくて、そして、ちよっぴり切ない物語です。

基本、コメディイなのですが、ストーリー上、仕方なく残酷な描写が少しありますが、お許し下さいませm(____)m

出だし慣れてなくて（汗）自分で読み返しても読みづらいです）

— ;)

しかも途中 名前とか間違っちゃったりして(汗)
でも書き換えが出来なくて(T—T) すいません。

少しずつ面白が出てくるようなものにしたいと思いますので、
覗いてやって下さいです。宜しくお願い致しますm——) (m

(´・`・´) 僕エルカです

(´・`・´) 初めまして。僕…
カエルの姿をした妖精の
《エルカ》と申します。
宜しく、どうぞ…。

僕、いつもは妖精の姿で
飛び回ってるんだけど、
たまに、人間の姿で、
ぶらぶらする事もあるよ

自分で言うのも…
何だけど、人間の姿を
している時の僕は、
かなりの、イケメンさ！
なんつってね(ノ #)

人間界での名前は、
二階堂 光一、23才
って事になってます。
ヨロピクね…(´・`・´)

もし、どこかで、僕を
見かけたら、遠慮なく
声かけてね(´・`・´、#)
人間の姿をしても、
見える人には、妖精の
方の姿で見えちゃう

みたいだからさ…(汗)

妖精のままにいる時は、人間さん達には僕の姿は見えないようになってるはずなんだけどね(…)；

多分…特殊な能力の、持ち主なんだろね(汗)

もちろん、二階堂光一の時は、見えるようになってるよ(・)(…)

僕ね、妖精の姿の時は、緑色の、ジャージを着てるんだ(…)(#…)

僕、カエルに似た姿をしてるんで、違和感のないようになって事で、スタイリストの、マキちゃんが用意してくれたんだよ(…)(…)

ちゃんと、左胸んところに《エルカ》って、ネームも入ってるんだ(…)(#…)

これはね、マキちゃんが

後から、わざわざ手縫いで貼り付けてくれたの。

マキちゃんは、カッパの姿をした妖精さんなんだ

カッパに似てるってゆうだけなので、頭の上に…お皿は、無いよ。

皿に見えるのはね、ゲハつまり、ハゲなんだ…。カッパハゲってやつさ。

たまに…女性が付けるような、ヘアピースを乗せてるんだけど…

何気に…いつも横に、ズレちゃって、ぶら下がってるんだ(汗)

だから、遠くから見たら髪の毛の、髪飾り…？みたいな感じに、なっちゃってるけどね(…)

近くで見ると、みんな、ビクビクするよ(汗)

マキちゃんは男子なんだ
けど、女子っぽい事が、
大好きなんだ…（、、）

お裁縫も上手だし料理も
めっちゃ、上手なんだよ。
僕と違って、人間界には
あまり来ないけどね。

でもね、人間の姿をして
いる時の、マキちゃんは
超カッコイイんだよ！

あとね、自慢じゃない
けど僕達、羽は無いけど
空を飛ぶ事も出来るんだ

んでね、テキストに、
飛び回ってたらね…
面白くて、楽しくて、
癒される、いい店を
見つけたんだ（# #）

夫婦だけで、やっている
《シュガー》とゆう、
カウンターが13席だけの
小さな店なんだけど、

ミキ&ケンと、黒木

その店に集まる

常連客達が、個性豊かで面白くて、人が善くて…
なんか、ホツとするんだ

僕ね、ほとんど毎日…

夜になると、その店の後ろの棚に座って、人間ウォッチングしてるんだ

ちなみに《シュガー》の店名は、夫婦の名字の、
佐藤 砂糖で…シュガー
になったみたいだよ。

カウンターだけの、
小さな店…なんだけど、
どんなに混んできても、
1番奥の席は、必ず
空けてあるんだよ。

ん？どうしてか？って…

それはね、その店の、
スーパ―常連の、ミキ

笹木美樹・28才の席
だからなんだ。

どうやら、その席には、
ミキにしか見えない、
ケンとゆう、イケメンの
幽霊が居るらしいんだ。

僕も、見ようと思えば、
見えるんだけど、なにせ
妖精と、幽霊だからね、
若干、エネルギーを使う
とゆうか、もつのすごく
苦い、キャンディを舐め
なきゃならないんだよ。

身体には、いいらしいん
だけどね。でも、そんな
苦い思いまでして、
見えなくてもいいかな…
つて、思っしさ(><)

ミキは、その、イケメン
幽霊のケンとやらに
会う為に、週3〜5日、
シュガーに来るんだ。

ミキが来ない日は、その
イケメン幽霊の、ケンが
その席に座っていてね、
ミキが来店すると、
ケンは、カウンターの

中に入り、ミキの相手をするみたいだよ。

ミキは、楽しそうに…
話してるけど、廻りには
独り言を言ってるように
しか見えないんだ。

でも、常連さん達は、
慣れちゃってるから、
さほど、気にならない
みたいだけどね（><）

ある日、シュガーの
常連客の1人、黒木沙織
《33才・独身》が店に
顔を出したよ。

黒木が、シュガーに
来ると、空いてる席は、
偶然？にも、いつも、
ミキの横だけなんだ。

なんてゆうのかな…
やっぱり、他の常連客達
も、慣れてるとはいえ、
ミキの横に座るのは、
少し怖いんだろね（汗）

そのてん…黒木は無頓着

とゆうか、鈍感とゆうか
そうゆう事は全く、気に
してないので、普通に、
ミキの隣に座った。

黒木は、ミキが、幽霊の
ケンと話しているのを
見ながら思った…。

《黒木》イケメン幽霊の
ケンさんって、一体…
どんな、イケメンなのか
なあ…？ キムタク似
とかだったら、幽霊でも
いいから…私も、1度
見てみたいなあ…

(…)(…)と、思った瞬間、
黒木にも、ケンの姿が
見えちゃったよ(…)(…)

よくさ、靈感の強い人の
側に居ると、その人も、
靈感が強くなるってゆう
よね？ 黒木も来る度に
いつも、ミキの隣に座っ
ていたから、靈感が強く
なったのかもね(…)(…)

でもね…黒木は、見えた
驚きよりも、違う意味で

驚いていたよ（；）

ミキは、イケメンと
言ってるけど、黒木には

どうしても、どう見ても
南 キャンディーズの
山ちゃんが、メガネを
外した時の顔にしか見え
なかつたからなんだっ。

黒木は、目を、こすり
ながら、3度見してたよ

実はね…僕も、毎日の
ように、シュガーに来て
1番奥の棚に、座ってる
せいか、ミキの霊感が
移ったみたいなんだ。

苦い、キャンディを舐め
なくても、黒木と一緒に
ケンの姿、見えちゃった
ラッキー（喜）

にしても…本当に、
山ちゃんに、似てるわ！

そのうち、ケンは、
スウ〜っと、消えていっ

たけど、僕は、それから
ずっと見えっぱなしさ。
今では大の仲良しだよ。

黒木は、その後、見ては
いけない物を見てしまっ
たような、後味の悪さに
ポケ〜っとしていた…。

そんな黒木に、けいこ
ママが『ねえ、黒ちゃん
中年の男性タレントで、
一緒に飲んだり、食事を
してみたいな…って人を
誰か1人あげなさいって
言ったら誰にする？』と
聞いてきた。

黒木は、しばらく考えて
『中年ですか？う〜ん
あ、高田純二さんかなあ
結構、年いつてるのに、
面白いし、若々しいし』

と言った瞬間…
横から熱い視線が…

そう…あの、ミキが、
驚いたような、
でも嬉しそうな顔で

黒木を、じつと見つめて
こう言った。

『黒木さんって、
私みたいに靈感のある人
好きなんですか？』

《黒木・心の声》

そっかあ、高田純二さん
って、あんな明るく
してるけど、実は、靈感
ある人だったんだあ。

()すると、

けいこママが、

『違うよ！ミキちゃん、
稲川純二じゃないよ。』

黒ちゃんが言ってるのは
高田純二だからね！』

ミキは、あつ、と言って
ゆでだこ…のように顔を
真っ赤にして、静かに
正面を向いた() ()

ミキはね、長い黒髪が
素敵な、キレイな女性
なんだ。幽霊と話す…
なんて事がなけりゃ、
モテモテだと思うよ。

黒木は今まで、なんとなく近寄りがたくて、隣に座っても、ミキとは、あまり話した事が、無かつただけど、その日は照れ屋で、ちよつと天然で、南 キャンデイズの山ちゃん似の幽霊を、イケメンと言い張る
ミキを、ちよつと、いや結構、好きになつたんだ

その日から、黒木は、ミキと、よく話すようになったよ。ミキも、ちよつと照れながらも、黒木と話すようになり、メルアドも交換してたよ

そんな、2人を、幽霊のケンは、ニコニコしながら、でもちよつと寂しそうに眺めてたよ。そりゃそーだよね…。

でも今度からは、僕が居るから大丈夫さ！ミキが黒木と話してる時は、今度は僕が、ケンの話し

相手さ(・く)

回りは、カラオケで
賑やかに盛り上がったた
けど、そこだけ異空間の
ようだったよ…。

時間も、あつとゆうまに
過ぎて、黒木も、ミキも
帰ろうかと思っている時

前】プチ常連の小林

最近ちよくちよく顔を、
出すようになった、

プチ常連の、小林かずや
30才・独身 が入って
来て黒木の横に、ドンっ
と座った。

小林は人なつつこい性格
で、黒木と、シユガーで
会うのは確か、その日で
3回目のはずなんだけど
まるで昔からの知り合い
のように話しかけてくる
んだ。 その、くったく
ない笑顔に、黒木は、
苦笑いするだけだった。

すると、小林は…

『ねえねえ、黒木さん、
聞いて下さいよあ〜！
俺、自分で言うのも何な
んだけど、めっちゃ歌、
上手いんすよ！ 聞いて
くれますう〜！』

と言つて、黒木の返事も聞かずに小林は、手袋…じゃない、コブクロの、ここにしか咲かない花を歌い始めた

曲がかかり、小林が歌い始めると…なんとゆう事でしょう《シユガー》に居る客全員が、金縛りにあつてしまつたのです！

そう、小林は、キーが合わずに、音が取れないのか、ずーっと、はずれっぱなしなんだ(…;))

はつきりいつて、ド下手くそなんだよ。でも、歌っている小林の顔を見てもみるとね、まるで、ドラ もんに出てくるジャイアンのように気持ち良さそうに…目を閉じて歌っているでは、ありませんかっ！

ある意味、ある意味、衝撃映像ですっ()><()

しばらくして曲も終わり
客達の金縛りもとけ、
ホツとしていたのも
つかの間、小林は満面の
気持ち悪い笑顔で、

『ねえ、上手いでしょ！
今からでも、遅くないか
なあ、歌手にでも、
なっちゃんおうかなあ、
どうしようかなあ！』

(…;)などと、のたまわ
り、またまた回りの者達
を金縛りに、あわせて
しまったのです(…;)

小林君！ あなたが…
あなたが、歌手になれる
んだったら、フルポンの
村上さんだって、

オードリーの、若林さん
さんだって、

あの光浦靖子さんだって
歌手になれちゃうよね？
ありえないよね(…;)

ってゆーか、この3人の

方が、あなたよりずっと
上手ですからっ() ()

小林君、あなたは、

もう少し、もう少し、

自分を、因幡あきらって

下さいっ！　ちなみに、

因幡あきらって下さい…

とゆうのは、わかって

下さいとゆう意味なんだ

けど(汗)ままま、小林

の話は、また後でね。

1 小野寺と佐々木

次はね《シユガー》に、
1ヶ月に、1〜2度の、
ペースで顔を出す

小野寺たくみ 24才の
話しをするよ（^^）v

小野寺はね、大学を出て
から、就職が決まらず、
トンカツ：じゃなくて、
就活をしながら、実家の
近くの、コンビニで
アルバイトをしている。

バイト料は、だいたい
9万円弱位で、実家には
食費として、3万円
入れているよ（^^）

残りで、自分の携帯代や
洋服代等を払い、少ない
中から貯金もしている。

小野寺が《シユガー》に
行くようになった
きっかけはね、

その店の、マスターの
佐藤が、財布を落として
小野寺が、交番に届けた
つてのが、きつかけ
なんだ（^^）b

その日、マスターは、
支払いのために、
お金を、おろしたばかり
だったから、正直に
交番に届けてくれた
小野寺には、とても、
感謝しているんだ。

《シユガー》は、何時間
居ても、カラオケを何曲
歌っても、3千円以上は
かからないので収入の
少ない小野寺にとっても
ありがたいんだ。

ある日の事…小野寺は
早番で仕事をしていた。

そこへ遅番で、やってき
たバイト仲間の佐々木が

《佐々木》おっはよー！
た〜くちゃん！この間の
休みの日、狸小路歩いて

たでしょ？何？一緒に
歩いてた女の子って、
もしかして…彼女？

あんな、綺麗な子、一体
どこで見つけたんだよ！
ヒュ〜ヒュ〜（。^）

《小野寺》え？女の子？
俺：1人だったけど…。

《佐々木》またまたあゝ
照れちゃってえ〜！隠さ
なくたっていいじゃん！
くおのこのお〜（^）

（…）佐々木は、ヒジで
小野寺の脇腹を、
ツンツンして、これまた
気持ち悪い笑顔で、
ウインクをして着替えに
行った（・く〜）

小野寺は佐々木に言われ
た事が気になっていた。

実はね、小野寺は
佐々木に言われる前にも
こんな事があったんだ。

小野寺は、中学の頃から
何でも揃う、狸小路が
大好きで、バイトが休み
の日には、しょっちゅう
狸小路周辺を、ブラブラ
しているんだ。

狸小路とゆうのはね、
札幌にある商店街の事
だよ（、、）

その日も、いつもの様に
狸小路を歩いていた。

母親に頼まれた、

ドライヤーを、ドン・キ

ーテで買い、

自分の用事も済ませ…

歩き疲れたので

冷たい物でも飲もうと、

ある喫茶店に入ったんだ

小野寺は、壁際の

2人掛けの、小さな、

テーブルに座った。

すると、ウェイターは

『いらつしやいませ…』

と言って、水の入った、

グラスを、2つ置いて

いった（。。。）…

《小野寺》あのおゝ、
僕、1人なんですけど…

《ウェイター》え？でも
さつき、女性の方と、
お2人で入ってきました
よね？あれ？

《小野寺》いやいやいや
何、言ってるんですか？
やめて下さいよおゝ。

1人ですよお（^^;）
こわいなあゝもおゝ！

《ウェイター》あつああ
そうですか…。それは
大変、失礼致しました。

（…）ウェイターは、
首を傾げながら、水を
下げて行った。

その時は、ウェイターの
勘違いだろうと…
いなかったんだけど、

小野寺は、気にもとめて

佐々木に言われてからは
気になって気になって
仕方がなかった（…）

その夜：小野寺は、
《シュガー》に、顔を
出した。相変わらず、
カウンターの、1番奥は
スーパ―常連の、ミキが
座っていて、いつもの
ように、イケメン幽霊の
ケンと話しをしていた。

カウンターしかない
小さな店なので、混んで
いたが、ミキの隣が2つ
空いてたので、小野寺は
ミキの隣を、1つ空けて
座った。ん、やっぱり
小野寺も、ミキの横に
座るのは怖いのかな…？

小野寺の最近の飲み方の
お気に入りは、こうだ

やっぱり最初は…
とりあえず、生でっ！
って事で…

生ビールを、1〜2杯。
続いて、サワー系を
2〜3杯。その後は、
焼酎の玉露割りを？杯。

ちなみに、この店は、
お腹を空かして行っても
大丈夫なんだよ（^^）

通しで、マスターお手製
ピラフ、オムライス、
ドリア、カレーライス等
を、出してくれるからさ

小野寺は、バイトの帰りに
直接、飲みに行くので
これもまた、とても助か
るんだよね（^^）

それで、いつも、どの客
からも、3千円しか取ら
ないんだ。小野寺にとつ
ては、とつても、ありが
たい事なんだけどね、
たまに…心配になっちゃ
うんだ。

だって、《シュガー》は
小野寺にとつては、唯一
くつろげる場所だから、
無くなればちや困るから
ね。早く、ちゃんとした
職について…もつと顔出
せるようにならなきゃ…

なんて事を思いながら、
マスターと話していると
スーパ―常連のミキが、
小野寺の方を向いて、
ニコニコしながら話して
いる（ ^ # ）

だからといって小野寺に
話しかけている訳では
ないんだよ。 たぶん…
小野寺の横には、ミキに
しか見えない誰かが…
座っているんだろうね。

《小野寺》え？ 何？
俺の横に、誰か居るの？
もしかして俺、何かに
とり憑れてんのかな…。

あ、でも…もし、何か
憑いてたとしても、絶対
悪い奴じゃないよな…！

だって、だって、
ミキさん、こおくんなに
楽しそうに、おしゃべり
してるし、バイト先の、
佐々木だって、キレイだ
って言ってたし…。

あ、そっか、わかった！
俺の守護霊だなきつと！
そうだよ！俺の事を
護まもってくれてる

んだよ！ そうだそうだ
絶対、俺の守護霊様だ！

おまけに、キレイなんだ
から怖がる事ないよな！

(…)(小野寺は、自分に
そう言い聞かせながら、

隣の…誰かが座っている
であろう席に向かつて
楽しそうに話している、
ミキを、流し目で、
じい…と見ていた…。

すると、ミキは、笑顔で
けいこママに、隣の席の
人？に、ストローを付け
て、ウーロン茶を出して
ほしいと頼んだ(^^)

けいこママは、馴れた
感じで驚いた様子もなく
普通に、ウーロン茶を
出した(…)(…)

《小野寺》 いやいやいや
嘘でしょ！ え？ 何？
目に見えない隣の人が？
ウーロン茶飲むっての？
けいこママも、なんで、
なんで驚かないわけ？

(…) 小野寺は、平静を
装いながらも、またまた
チラ〜と、流し目で隣の
ウーロン茶に目をやった
減ってなかった。

《小野寺》 だつよね〜！
減るわけないよね〜！

(…) 小野寺は、ホツと
して、気分を変えようと
思い、カラオケを歌い
始めたよ おやおや、
中々、歌、上手いね！

小野寺の声って、顔に
似合わず、いやらし系…
じゃない、癒し系の、
めっちゃ優しい声なんだね
エルカ、ちよつと、
びっくり(…) 小林に
聞かせてやりたいよ…！

小野寺は、しばらくの間
隣の事も忘れ、カラオケ
に夢中になってたが、

歌ってる最中に、なんと
なく、ウーロン茶が、
目に入った。ん？半分に
減ってた(。。)

《小野寺》どおっひえ！
ううっそおお~~~~~！

(。。。) 小野寺は、驚いて
マイクを落としそうにな
り、歌も小林なみに、
ズレまくったが、ここで
取り乱しては、ダメだど
思い、マイクを置いて、
平静を装った。。

焼酎の玉露割りを飲もう
と思い、グラスを持つが

まるで、シエイクでも
するかのように手が震え
中々。。。思うように、口に
持っていけなかった。

それを見ていた、ミキは
クスツと笑った(^^)

《小野寺》な、何が…
お菓子好きですか？
じゃない…おかしいんで
すか（大汗）

《ミキ》あ、いいえ…。

（…）と言って、ミキは
真顔で、ホホを赤くして
正面を向いた（…）

そして、けいこママと
マスター、幽霊のケン？
隣の人？ 小野寺に、
挨拶をして、静かに
帰って行った…。

《小野寺》ねえ、ママ、
僕の隣って、誰か座って
るのかなあ？ウーロン茶
も半分に減ってるしさあ

《けいこママ》
そうみたいね（^^）

《小野寺》
そ、そうみたいねって…

《けいこママ》大丈夫！
ミキちゃんが、あんなに

楽しそうに、おしゃべり
するって事はね、

悪い人（霊じゃないから

小野寺君も、そのうち

わかるわよ（^^）

（..）そう言つて、

けいこママは薄気味悪い

笑みを浮かべながら、

3回、うなづいたんだ。

マスターも横で、同じく

3回うなづいていたよ。

小野寺は次の日、休み

だったんだけどね、

なんだか、ぐったり疲れ

たので早めに切り上げて

帰る事にしたよ。

小野寺の家までは歩くと

40〜50分：かかるが タクシー代を浮かせよう

と思い、歩く事にした。

歩きながら、小野寺は

横を、チラチラと

気にしながら…

《小野寺》今も俺の横に

居るんだらうか？
にしても…なんで俺には
見えないのかなあ…。

見える人と、見えない
人の違いって、一体
なんなんだろ？

純粹な人に見えるって、
よく聞くけど、ままま、
俺、めっちゃ純粹とは
言わないよ…言わないけ
どさ、そんなに不純でも
ないと思うんだけどな。

(…)(…) 小野寺は、口を
突き出し、ちよつと、
ふてつた顔で、ブツブツ
言いながら歩いていると

後ろから小走りに走って
来た、OL風の女性が、
ドンつと、小野寺に
ぶつかってきた(> <)
その拍子に、その女性の
バックの中から、手帳の
ような物が落ちた。

《小野寺》あ、ちよつと
これ、落ちましたよっ！

(…)(…) 女性は、えっ？と
言って、カールした長い
髪の毛を、小野寺の顔に
思いきり、ぶつけて振り
向いた。

《小野寺、心の声》

うわあ〜、カワイイ〜！
めっっちゃ、タイプう〜！

(…)(…) 目を、ハート型
にして、口を、ポカンと
開けて見とれている、
小野寺に向かつて…

《女性》あ、すみません
ありがとうございます

(…)(…) 小野寺は、あまり
にも好みのタイプなため
声までも舞い上がって、
裏返ってしまい…。

《小野寺》いえ、いええ
あ〜あのお、あれですよ
そ、その、バツクの口、
し、閉めておいた方が、
い、いいい〜っすよ！
また…落ちちゃったら

ほら、大変だから…ね！

《女性》あ、そうですね
気をつけます。ありがと
うございます（笑顔）

あの、もし、よかったら
これから、一緒に、
カラオケ行きませんか？

わたし、今日 友達に
すっぱかされちゃって、
1人なんですよ。

（…）小野寺は、女性の
言葉に、かぶる勢いで
即答した。

《小野寺》はいはいはい
行きます！行きます！

すると、いきなり小野寺
の携帯が鳴った。
母親の、あや子からだ。

【お父さんが倒れた。
早く帰ってきて！】

（…）小野寺は顔面蒼白
になり…石のように

固まってしまった。

《女性》どうしたの？

《小野寺》すいません…

急用できちゃったんで、

カラオケ行けなく

なっちゃいました…。

すいません（　　）

《女性》そうですかあ…

残念。あ、じゃあ、これ

わたしの、メアドなんで

すけど、もし良かったら

メール下さいね（^^）

待ってます（・<）

（　　）そう言っただけ女性

名刺のような、メモ紙を

小野寺に渡した。

《小野寺》あ、ありがと

必ずメールしますから！

（　　）そう言っただけ小野寺

は、急いで、タクシーを

拾い、家に向かった。

小野寺は、指を組んで

オデコに、あてながら、

どうか、どうか…親父が
無事でありますように！
神様、仏様、お地藏様？
と祈っていた（人）

しばらくして家に着いた
いつもは、きちんと、
釣銭をもらう小野寺だが
この時ばかりは、おつり
も受け取らずに…って、

ん、しっかり受け取って
るね。ちゃっかり…じゃ
ない、しっかり者だね。

そのくせ慌ててるので、
タタシーから、転げ落ち
そうになったが、まるで

バレーボールの選手が、
回転レシーブでもするか
のように、クルリつと、
一回転して、前に、つん
のめりながら、家の中
入って行き、父親発見！

たぶん…母親の趣味であ
ろう、パジャマは…上下
どっぴんくである。父親

酔っ払ってるだけ？え？
なんで？　なんでーっ！

（…）そこへ、母親が、
風呂から上がってきたよ

これまた上下どピンクの
パジャマを着ている…。
まるで林家ペー、パー子
夫妻のようだね…（笑）

《母親》うるさいねえ！
夜、遅いんだから静かに
してよっ！ったくう〜！

《小野寺》えええーっ！
だって親父が倒れたから
早く帰って来こいっつて、
メールよこしたの、胃袋
じゃねえ…お袋じゃん！

《母親》は？何？私が？
たくちゃんにメールした
つての？する訳ないし！

ほら、お父さんだつて、
バカまるだし…じゃない
元気まるだしじゃんっ！

《小野寺》じゃ、じゃ、

この、メールは、一体、
誰からなんだよおっつ！

(…)(小野寺は、母親に
見せようと、受信BOX
で、さっきの、メールを
捜すが、見つからない。

《小野寺》え、なんで！
無い無い無い無い(泣)

《母親》もおゝさあゝ、
ごちゃごちゃ言っでない
でさ、お風呂入るんだっ
たら、とつとと入っちゃ
つてくれる？んで、入り
終わったらさ、ついでに
洗っというてちよんまげ！

(…)(母親は父親の横に
座って、テレビを観なが
ら2人で…じゃないね…
1人で、ビールを、ガブ
ガブと飲み始めたよ…。

《小野寺》なんだよゝ、
訳わかんねえしいゝ！
つてゆゝか、削除もして
ないのに、なんで勝手に
メールが消えんだよっ！

2 小野寺と佐々木

も、もしかして俺に憑いてるってゆう何者かの、
仕業なんだろうか(汗)

(…)(あらららららら…
パニックっちゃってるね。
次から次へと、こんな事
続いたら無理もないか。

でも…一体、誰からの、
メールだったんだろね？
ちよっと気になるよね。

小野寺は、何がなんだか
解らずに、高木ボくつと
したまま風呂に入った。

どこをどう洗ったかも、
わからないまま風呂から
あがり…自分の部屋に、
戻っていったよ(＞＜)

少し、天パーの髪の毛を
引っ張って延ばしながら
乾かしているよ(…)(；)

んん？鏡に…誰か映つて
るね。うわあ、キレイな
女の人だよ。結構大胆に

ピースなんかしながら…
ガバーっと映ってるんだ
けどね…小野寺には見え
ないみたいだね…うん。

小野寺はといえば、とに
かく、さっきのメールが
気になり…ドライヤーを
置いて…またまた、携帯
電話の、受信BOXを、
確かめはじめたよ（…）

何度も何度も携帯電話を
見直したが、やっぱり、
そんな、メールは無い。

《小野寺》どお～して、
消えちゃうんだよ（泣）

（…）と…ブツブツ言い
ながら天然パーマの頭を
クシャクシャしながら…

《小野寺》あ、（#）
そお～いえば、さっき、
ぶつかった女性から、

メアドもらったんだっ！
メールしてみようかな。

(…)(小野寺ったらね、
とっても単純なんだよ。

だってね、その女性の事
思い出しただけで、顔が
明るくなって、まるで、

しおれかけの花に、水を
あげた時のように、みる
みる元気になっちゃった
んだよ…(^ ^ #) /

鼻歌混じりで、メアドの
メモを捜すんだけどね、
これまた、どこを捜して
も見つからないんだ…。

《小野寺》無い、無い！
なあい()。(うぐ…

ああ、まあ、今日は
一体、なんなんだよ！
変な事ばかり起きるし、
メアドは無くすし(泣)

これって…やっぱり、
やっぱり、俺に憑いてる

何かの、何かの仕業？
なんだからあ…？

（…）あゝあ、またまた
落ち込んだじゃったね…。

小野寺は、髪の毛もまだ
半乾きのうちに、布団に
もぐり込んだじゃったよ。

今日は、多分…眠れない
だろうなあゝかわうそ…
じゃない、かわいそう。
ん、1分もしないうちに
グーグーと、いびきを
かいて寝ちゃったね…。

口を開けて、何かの叫び
声のような、いびきを、
かいて寝ている小野寺に
誰かが呼びかけてるよ。

しかも、なんか、甘くて
いい匂いがするね。。。

《誰か？》たくちゃん！
起きて、たくくシヨン！

（…）ん、クシヤミ…？

小野寺は、ボーとした顔で、ムクつと起き上がり声が聞こえる方に、顔を向けた。なにやら人影のよような物影が見えたが、

眠たさに負けたのか布団を、バサつと、かぶり、また寝てしまったよ…。

《人影》…寝るんかい！
ハハ、ハハツクション！

(…) はいはい、はい。
やっぱり、くしゃみしてたんだね。花粉症かな？

そして、その女性らしき人影は、ちっ！と言って小野寺の、ベッドを足で軽く蹴り、あまい香りを残して、スウ〜つと、消えていってしまった。

顔ハッキリ見えなかったんだけど…鏡に映りこんだ女性じゃないのかな？

小野寺は次の日、休みだ

とゆうのに、ぐっすり眠ったせいか、朝7時半には目が覚めてしまった。

部屋の、カーテンを開けてみると、天気も良くて気持ちよかった（ ）

小野寺は下に降りていき顔を洗って歯を磨いた。

テーブルの上には朝食の用意がしてあるよ…。

父親は、健康の為に散歩がてら歩いて会社に行っているので、とっくに出勤掛けていて居なかった。

小野寺は母親の作った、ちよつと甘めの卵焼きと漬け物と、きゅうりの、味噌汁で…つて、え??

きゅうりの味噌汁…つてあんまり聞いた事ないね

あれ、でも…ちよつと、美味しそうだね。僕も、今度作ってみようつと。

あ、ごめん、ごめん……。
話それちゃったね(汗)

小野寺は朝ごはんを食べ
ながら考えていたよ……。

《小野寺》昨日は……訳、
わかんない日だったな。

あれっ？そお〜いえば、
昨日：寝てる時、誰かに
声かけられたような……？
夢だったのかなあ〜？

おふくろだったのかな？
でも、なんか……あま〜い
香りがしたような……。

(……) 小野寺は、ご飯を
食べ終わり、食器を下げ
母親を、探しはじめた。

《小野寺》おふくろお！
あれ？何処にいるんだ？
おふくろ！おふくろ〜！

《母親》こつちこつち。

(……) (……) さん、お母さんね、

1 番奥の部屋でね、古いアルバムを、めっちゃ懐かしそうに見ているよ。

《小野寺》何してんの？

《母親》ちよつと片付けようと思ったら懐かしいアルバム出てきてさ…。たくちゃんも見てみる？
(…) 小野寺は、へえ〜と言いながら、アルバムを、見始めた。すると、笑顔の素敵な…綺麗な、女性の写真を見つけた。

《小野寺》ねえ、ねえ、この、女の人、誰なの？めっちゃ、キレイだね。

《母親》ああ、その人ね…お母さんの妹。たくちゃんの、叔母さんだよ。

《小野寺》あの…若い時に亡くなっただってゆう？へえ〜、初めて見るけど綺麗な人だったんだね。

《母親》あ〜ったりまえ

じゃん！お母さんだつて昔は、めっちゃ、キレイでさ、ご近所さんでは、超ちよ〜美人姉妹で有名だつたんだからあ〜！

(…)(小野寺は、ズルツと、コケながら、母親の言葉に『いやいやいや、それは、ないでしょ！』と心の中で、ツッコミをいれていた)(…)(…)(ん。

《母親》生きてればね、お母さんより、2コ下だから…今、38才かな。なあ〜んつつて)(><(

(…)(ん、嘘やめようねお母さん、50才だから妹さんは、48才だね。

《母親》たくちゃんが、産まれた時ね、とつても喜んでくれて『私も早く結婚して、こんな可愛い赤ちゃんが欲しいなあ』なんて言つてたのに…。

それから、すぐだよ……

あんな事故に遭ったのは

（…）そうそう、その、
お母さんの妹さんはね、
名前【さち子】ってゆう
んだけど…24年前の、

ある日の仕事帰りにね、
横断歩道を歩いていたら
信号無視で突っ込んでき
た車に、はねられて亡く
なってしまったんだよ。

すぐに救急車を、呼んで
くれていたら助かったた
かもしれないんだけど…
はねた車は、そのまま走
り去ってしまったんだ。

ちょうど、今の小野寺と
同じ年の時に、さち子は
亡くなっただんだね…。

母親の話しを聞きながら
小野寺は、ハッ（。。。）
とした顔をして、何を思
ったのか、叔母の写真を
母親から、1枚もらい、

バイト先の、コンビニへ
母親の、ママチャリで、
前のめりになりながら…
急いで向かったよ(´▽`)

コンビニに着いた小野寺
は、急いでいながらも、
ママチャリに、ちゃんと
鍵をかけて、中に入って
いった。

そして、キョロちゃんの
ように…キョロキョロと
佐々木を探すが居ない。

他のバイト仲間に聞くと
佐々木は風邪をひいて、
休んでるとゆうのだ…。

小野寺は、ひとり暮らし
の佐々木のために弁当や
カップ麺、お茶等を買ひ

佐々木のアパートの近く
の薬局で風邪薬と、栄養
ドリンクを買ひ、佐々木
のアパートへ向かった。

佐々木の部屋は、2階。
カンカンカンカン…と、

小野寺は、軽快に階段を上っていった。

すると佐々木の部屋から帽子を被って、マスクをした女性が出て来た。

うつむいてるので、顔がよく見えない…。

《小野寺》こんな朝早くに、誰かな？あ、佐々木の彼女かな？風邪が移らないように、マスクしてるんだな…きつと。

(^ ^) 小野寺が、女性に声を掛けようとすると、女性は、びっくりして、黒い、サングラスを落とした。

小野寺は『すいません』と言って、サングラスを拾い、女性に渡そうとしたが…女性は顔を隠し、サングラスも受け取らずに、逃げるように…早足で走り去ってしまった。

《小野寺》マスクして、

帽子被って、この黒い、
サングラス…？って、
変装でもするつもりだっ
たんだらうか？変なの！

（…）小野寺は、女性の
走り去る後ろ姿を、目で
追いかけているが…ハッと
我に返り佐々木の部屋の
チャイムを鳴らした。

出てこないの、ドアを
ドンドンと叩いてみたが
返事が無い…。

そういえば…さっきの、
女の人、鍵かけてかなか
ったよな？と思い、ドア
を開けてみた。開いた

中を覗いてみると、幸せ
そうな顔をして佐々木は
スヤスヤと眠っていた。

差し入れと、薬を置いて
帰ろうともたけど、鍵を
掛けないのは、ぶっそう
だよな…と思い、小野寺
は、佐々木が起きるまで
看病をしながら少し待っ

てみる事にしたよ…。

水で濡らした、タオルを
佐々木の、おでこに乗せ
ようとすると…佐々木は
意味不明の寝言を、言い
ながら、ニヤけている。

かと思つたら今度は泣き
そうな顔をしている…。

一体…どんな夢を見てる
んだか…小野寺は、クス
ッと笑いながら、おでこ
に、タオルを乗せた…。

にしても…昼を過ぎても
佐々木は起きる気配が、
まったく無い（；）…

お腹が空いてきたので、
自分が持つてきた、差し
入れの弁当を食べた…。

お腹が、一杯になったら
今度は急に眠たくなつて
きてしまい、2人掛けの
小さな椅子に猫のように
背中を丸めて、眠ってし
まったよ（；）

しばらくして、佐々木が目を覚ました。

フア〜と、あくびをしながら、トイレに行こうと思いい、立ち上がると…、何かが、視野に入った。

佐々木は、ビツクリして跳び上がった(°。°) //

《佐々木》おお〜っ！
びつくりしたあ〜(驚)

なに？誰？たくちゃん？
ちよつと、ちよつとっ！
起きて、たくちゃんっ！

(…)(小野寺は、眠たい目を、こすりながら起き上がるうとしたが…、

小さな椅子で、ずっと、丸まって寝ていたため、背中が痛くて、ソファーから転げ落ちちゃった。

《佐々木》おいおいおい
大丈夫？っーか、何で、

ここに居んの？（；）

《小野寺》店に行ったら
風邪ひいて休んでるって
ゆうからさあ…差し入れ
持ってこようと思って。

それとさ…この写真も、
見てもらいたくてさ…。

《佐々木》誰の写真…？
な〜んだ、たくちゃんの
彼女の写真じゃあ〜ん！
この間、狸小路と一緒に
歩いてた女の子でしょ？

え、え、え？なにになに？
この写真を見せたくて？
わざわざ？来たつての？

おい、おいおいおい！
どんだけ、のろけたいん
この、このお〜！

ゲホっ、ゲホっ、ゲホ！

《小野寺》だ、大丈夫？
ね、寝てた方がいいよ。

（；）（小野寺は真っ青に

なりながらも…咳込む、
佐々木を気遣いながら、

ベッドに寝かせ、お腹が
空いたとゆう佐々木の為
に、持ってきたカップ麺
を作っであげたよ…。

にしてもね…驚いたね。
小野寺の傍に居たのは、
叔母の、さち子だったん
だね(…;)きつと何か
意味があるんだろうね。
悪い人(霊)ではなさそ
うだもんね。

《小野寺》この写真の…
女の人さ、俺の叔母さん
なんだ…。

《佐々木》うっそお！
めっちゃ、若いじゃん！
おまけに超キレイだし。

てっきり、たくちゃんの
彼女だとばかり思っ
たよ！にしても叔母さん
ってゆうより、姉ちゃん
って感じだよな(^^)

いーなあ、俺も、こんな
叔母さん欲しいなあ。

《小野寺》…24年に、
亡くなってるけどね…。

(…)(…) 佐々木は、ブハッ
と麵を嘔き出しながら…

《佐々木》ななななな…
亡くなっただって、おまえ
何、言ってるの？意味、
わかんないし(…)(…)?

《小野寺》あのね、多分
幽霊…ってゆーか、俺の
守護霊なんだと思う…。

《佐々木》ええー(驚)
じゃ、何？俺が見たのは
ゆゆゆゆ、幽霊って事？

《小野寺》うん(…)(…)
だと思う。きつと、今も
俺の横に居ると思うよ。

(…)(…) ん？誰かが僕を、
さっきから、つつくよ。

あ、僕って、エルカの事
だよ。トドからず…じゃ
なくて、アシカからず…。

でも姿が見えないんだ。
たぶん…叔母の、さち子
だとは思っただけだね。

前にも、言っただけど…、
妖精と、幽霊だからさ…
若干の違いがあっただね、

幽霊さんを見る為には、
とつても、とおくつても
苦い、キャンディを舐め
なきゃならないんだ…。

それはそれは…想像もつ
かない程、苦いんだよ。

でも、どうしようかな。
小野寺の為に、頑張って
舐めようかなあ（…；）

だってね、さつきから、
つつかれるってゆうより
ケリを、入れられてるよ
うな気がするんだよね。
ほらまた、イテテ（痛）

僕に何か、言いたい事があるんだよね、きつと。

もお、仕方ないっ！
こーなったら、どうなっ
てもいーやっ！

えい！（飴舐）んんん？
あれれ？おいすうい！

え？なんで？なんでっ？
（裏の説明書を見る。）

なあゝるほろ、味、改良
されたんだ。だよゝ、
最後に舐めたのって確か
200年前位だもんね。

《さち子》ちよつと、
そこの、カエルさんっ！

…（あ（驚）小野寺の
叔母さんの、さち子さん
ですね？はじめまして、

僕、妖精の、エルカと、
申します…。にしても、
写真と同じで、めっちゃ
キレイですね） ^ #（

《さち子》あら、やだ、
そんな本当の事を（照）

あ、それよりも、カエル
さん、ちよつと、テレビ
つけてくれませんか？

（…）（…）テレビ…ビですか？
どうしてですか？

つてゆーか、カエルじゃ
なくて、エル力ですつ。

《さち子》つべこべ言わ
ないで、早く入れてっ！

（…）（…）こわっ（汗）

どうやら、さち子さん、
リモコンの、電源ボタン
押そうと思っても、すり
抜けちゃうらしいんだ。

僕ね、言われるがままに
テレビの電源入れたよ。

いきなり、テレビの、
スイッチが入ったので、
小野寺と、佐々木は、
ビックリして、金縛りに
あつたように固まって、

テレビを観ているよ…。

(…) ん？なんかね…、
ニュース…やってるよ。

あれえ？この、女の人…
小野寺に、ぶつかって、
メアドくれた子じゃない
のかな？詐欺かなんかで
捕まってるよ(… ;)

えっと…、なにになにい？
目星をつけた男性を、
カラオケBOXや、
ホテルに、誘いこみ…
睡眠薬を飲ませ、眠った
ところを見計らって、
財布から、お金を抜き取
っていた。

被害者の数は、相当なも
ので…中には、亡くなっ
た人もいるらしいよ…。

《小野寺、佐々木》
えーっ！！ うっそー！

(…) ん？ 小野寺は、

わかるけど、どうして、
佐々木まで驚くんたら？
って、思うでしょ？

実はね、佐々木も、同じ
手口で、2週間前に…
その女性に、声掛けられ
てたんだ。

じゃあ、ちよつと…
2週間前の、佐々木を
これに、映し出して、
見てみようね（# #）

え？ これ？これはね、
妖精界の『カシコモ』の
携帯電話なんだ。えへ

この…『過去機能』の、
ボタンを押すと、画面に
『妖精』『人間』って、
表示されるよ。

この場合、佐々木は、
人間なので、『人間』の
ボタンを押すんだ。

そして、見たい妖精や、
人間の顔写真を添付する
と携帯が勝手に、その人

の情報を表示するんだ。

その次に、戻りたい時間や日数、年数などを入力すると、携帯の画面に、戻った時間の、場面が、映し出されるんだよ。

巻き戻し、早送り、停止ボタンも、あるよ。

もちろん『未来機能』も付いてるよん（・・）

でも…この場合、他人の未来は、ずーっと先まで見る事が出来るけど、自分の未来は、1年先までしか見る事が出来ないんだ。どうしてだろね？

過去は、どこまででも見られるのにね。

でも、この優れた機能付き携帯は、誰でもが持つる訳ではないんだ。

この、ケータイを持つ為には、筆記試験や面接が

あるんだ。やっぱりさ、
個人情報とか、色々な
問題があるからね。
そこら辺は、妖精の世界
も厳しいんだよ。

それに、妖精だからとい
つて…みんなが、みんな
善い人ばかりじゃない
からさ…(;)ん。

じゃあ、早速、見てみる
としますか…。

えっと、ちょ、ちょっと
待ってね(汗)

最近…この今日じゃない
機能、使ってなかった
からさ…やり方が(焦)

あ、見えた見えた(…)
じゃあ、ここからは、
画面の光景に、合わせて
ケータイ君の音声の説明
してくれるよ(・く)

あ、でも…リアルに、
聞きたい時や見たい時は
こっちの『生声』ボタン

を押せば、大丈夫だよ。

じゃ、ケータイ君、

ヨロピクね（´、＃）

『その日、佐々木は、
久しぶりの、飲み会に
遅れそうだったので、
急いでいた。』

そんな時、前を歩いて
いる女性が、ハンカチを
落とした。

佐々木は、ハンカチを
拾いあげ、その女性に
渡した。

女性は、佐々木を、
カラオケに誘った。

急いでいる佐々木は、
もちろん、断った。

その女性は、メモを
書いたメモを、佐々木に
渡した。 以上。』

（…）ケータイ君、
ありがとね。ん、でも…

小野寺の時と全く、同じ
なんで、わざわざ見る事
もなかつね（　　）ふっ

えっ？『カシコモ』の、
携帯電話を、自慢したか
っただけだろ？　って！

（　；　）　な　な　な　何　を　ゆ　う
山田優、ダルビツシユ有

…ん、中々…するどい、
ツッコミ…もろきゅー！
じゃない…テンキュー！

ま　ま　ま　ま、『カシコモ』
の話しは、こっちに
置いといて…と（　・　）
それじゃ話しを戻すよ。

佐々木はね…その女性の
事ね、あんまり…タイプ
ではなかったらしいのに
…次の日、メールしたん
だつて。変なの（　　）

それからとゆうもの…
その女性は、毎日、必ず
朝7時と、夜11時には

メールを、よこすようになっただって。

にしても…7時と11時
って…どこかの、コンビニ
二みたいだね（苦笑）

でもね…いつも佐々木を
気遣ってくれる優しい…
文面に、佐々木は癒されて
いたんだ。最近では、
メールが来るのを楽しみに
していたみたいだし。

そして今日も、いつもの
ように朝7時に、メール
がきた時、佐々木は風邪
をひいて仕事を休み、寝
ていると返信したんだ。
すると女性から…

『大丈夫ですか？
心配なので、会社に行く
前に寄りますね。住所、
教えて下さい。お薬は、
ありますか？

何か食べたい物あったら
言って下さいね。
買って行きますから』と

即、メールが来たんだ。

優しそうな文面に見えるけど…半ば、強制的にも取れるよね（…；）ん。

佐々木は、風邪で弱ってるせいもあつてか、とても嬉しかったんだ。

そして、風邪薬と、大、大、大好きな桃と、みかんの缶詰を頼んだよ

女性は、近くに住んでいたのか…30分もしないうちに、佐々木の部屋に来た。

《女性》大丈夫ですか？朝ごはん、食べました？

《佐々木》いや、昨日の夜から、何も食べてないんだ。

《女性》だめですよ！身体が、弱ってる時こそしっかり食べなくちゃ！今、お粥作りますから、

寝ていて下さいね。

(…)(…) そういつて、女性
は、お粥を作り始めた。
佐々木は、そんな女性の
後ろ姿を見ながら…
ニヤニヤしているよ。

ん、キモいね…(…)

《佐々木》えへへへえへ
なんか、いーなあ…
こうゆうの(…、#)

でも、わざわざ来てくれ
るなんて、俺の事、どん
だけ好きなんだよ…。

ま、仕方ないよな。俺つ
て、いい男だもんなあ…
わお、俺って罪な奴う！

(…)(…) ん、バカだね…。

そんなこんなしている
うちに、おかゆが出来た
みたいだよ。 たまご粥
だね…美味しそお〜。
ちゃんと梅干しもあるよ

佐々木は、腹ぺこだったので、ハフハフしながら一気に食べてしまった。

食べ終わると、女性は、『この風邪薬、とってもよく効くから飲んでね』

と…水と錠剤を、佐々木に渡した。

佐々木は、疑う事もなく女性の言うがままに、飲み込んだよ。

しばらくすると、佐々木は、急に…眠たくなってきたてしまい…

そのうち、半開きの、薄気味悪い目で、スヤスヤと、深い眠りについてしまったよ…。

そう、その女性は、看病するふりをして、お粥に睡眠薬を入れてたんだ。

風邪薬と言って渡した錠剤も…実は、睡眠薬

だっ たんだよ。

その女性は、メールで、
佐々木の、情報を細かに
聞き出していたんだ。

一人暮らしだとゆう事。

イタリアに旅行に行きた
いので貯金している事。

銀行が嫌いで、
現金は机の引き出しの、
1番下に入れてある事。

お金が増えるように、
現金は、黄色の封筒に
入れてある事。

などを全部、女性に教え
ていたんだ。多分、女性
も、上手に聞きだしたん
だろね（…；）怖いね。

みなさんも、
気をつけなはれや（…）

テレビを見た、佐々木は
慌てて、机の引き出しを
見てみたんだけどね、

案の定、お金の入った
黄色い封筒は無くなって
いたよ。

《佐々木》 無い無い無い
なあ〜い（　　）うぐ

《小野寺》 どうしたの？

《佐々木》 お金が入った
封筒が無くなってるとんだ
ちつくしょー（　　）

一生懸命、節約して貯め
たのになあ〜（；；；）

《小野寺》 無くなつたつ
て、いくら盗られたの？

《佐々木》 50万（泣）

《小野寺》 えーっ！
そんなにい（驚）一体、
誰に盗られたんだよ！

《佐々木》 さつき、
テレビに出てた詐欺女。

《小野寺》 え！お前も？

《佐々木》お前もって、
たくちゃんも、お金
盗られたの？

《小野寺》いや、俺は…
何も盗られてないんだ。
多分…叔母さんに助けら
れたんだと思う。
さっき、テレビが勝手に
ついたのも、叔母さんの
仕業だと思うし…。

(…)
小野寺は、
カラオケに誘われた時に
メールがきて、行けなく
なった事や、メアドの紙
が無くなった事など、
その他…諸々を佐々木に
全部話した。

佐々木も、その詐欺女
から、毎日メールが来た
事や、今日の朝、部屋に
来た事などを全部話した

朝、佐々木の部屋から出
て来て、すれ違いざまに
ぶつかつた女性が、その
詐欺女とわかり、小野寺

は即、警察に電話した。

翌日、小野寺は勤務だったが、バイト先の了解を得て、2人は、警察署に向かった。

長い時間、根掘り葉掘り色々と聞かれてみたいだけ、佐々木の部屋を出てから、まもなくして

その詐欺女は、捕まったみたいなので、不幸中の幸いといいますか、何といいますか、結果…、

佐々木の、お金は、全額戻ってくるそうですよ。よかった…(^^)ね！

僕は僕でさ、あれから、小野寺の、叔母さんの、さち子と、あ、いや、さち子さんと、ずっと一緒に居るんだ。

3 【小野寺と、さち子】

あつ！ でもね…夜中の
2時から、2時間位、
何処かに出掛けてたみた
いだけどね…。

んでね…出かける前は、
してなかったのに…、
帰って来た時、めっちゃ
甘くて、美味しそおくな
匂いしてたんだよね。

生クリーム？ チョコ？
まままま、とにかく甘い
美味しそうな匂いなんだ
。。。(、)、#。。。

一体…何処に、行ってき
たんだろ？なんか幸せ

話しは変わるけど…
僕…昼間と、夜寝る時は
身体を小さくして、

妖精界から持ってきた、
『マイハウス』の、レン
タルルームで、過ごして

いるんだ(^^)

この『マイハウス』は、
人間界で、ゆうとね…

『大〇ハウチュ』じゃな
い…『大〇ハウス』みた
いなもんなんだ。

僕、今までは、レンタル
してたんだけど、

レンタルだと、自由に
部屋の中を、いじれない
から、今回、思い切って
買い取つんだ(^^#)

新しいのを勧められたん
だけどさ、やっぱり、
愛着があつて住み慣れた
ルームの方がいいから、

今まで、レンタルしてた
のを、そのまま買い取つ
たんだ。それに、新しい
のを買うより、安いしね

どうゆう風に、するかっ
てゆうとね…まず、折り
たたんである、ルームの

扉を、好きな場所の壁に貼付けるんだ。

扉は、1度、貼付けると暗証番号を押さない限り絶対、はがれないようになってるんだよ。

そして、扉を開けると、その壁の奥は僕の、マイルームになってるのさ。

広さはね、人間さんの感覚でゆうと、だいたい24畳位かな…。
一人暮らしの割には、広いでしょ。

んでね…僕、部屋を仕切るってのが、あまり好きじゃないんだ。

だから買い取ってから、すぐ、業者さんに頼んでトイレと、お風呂以外は全部、仕切りを取って、ひと部屋にしたんだ。

ベッドのところだけは、カーテンを付けてもらっ

たけどね。

んでね、キッチンなんて
めちゃくちゃ凄いよ。

6日じゃない、いつか…
結婚した時の為にと
思ってたさ…まるで、
どこかのレストランの
厨房かよ！
って見間違っ位、立派に
造ったんだけれども…、

肝心の相手が、まだなん
だよ…（ ）ふっ。

テレビは、リモコンの
ボタンひとつで妖精界と
人間界の放送どちらも、
観られるようになってる
よん（ ・ ）（ ）

基本、僕は、小野寺の
部屋の机の横の、壁に、
住みついてるんだけど、

さち子さんはね、
小野寺の部屋に行くと、
くしゃみが出て、止まら
ないからって、ずうっと
居間に居るんだ。

だから、なんとなあ〜く
僕も、さち子さんと一緒に
居間に居るんだよね。

はつきりは…してないん
だけど、くしゃみの原因
はね、小野寺が部屋で
飼ってる、インコのせい
みたいなんだよ（　）
鳥アレルギーなのかな？

もっちろん、僕は、全然
大丈夫だよ（　）

この、インコ、名前は、
『コイン』ってゆうんだ
けど、こいつさ、僕に
話しかける時、めっちゃ
タメ口なんだよね。

でもね、こいつ、口は悪
いけど、すっごい、いい
鳥^{ヤツ}なんだ。

今では、大の仲良しだよ
たまに、僕の部屋にも、
遊びに来るしね。

でね、この、さち子さん

ね、顔は確かに、キレイだよ。キレイなんだけどさ、めっちゃ怖いんだよ

え？なんで、そんな小さな声で話すのか…って？

だって、だって、だってへたな事言っつて、聞こえたりしたら…ケリ、入れられるんだもん（　　）

《さち子》ん？なに？
なんか、言っつた？

（　　）なな、何も言っつてません…はい。

《さち子》あ、今日、夜『シユガー』に、行きますからね、カエルさんも一緒に来て下さいよ。

ミキちゃんと打ち合わせして、たくちゃんも、シユガーに来るように、なってますから。

（　　）（　　）ミキ？ そっか…
夜中に出掛けていたのは

ミキの所へ行つてたんだ

そういえば、ミキは、
最初から、さち子の…

あつ、やば、『さん』
つけないと、ケリ入れら
れちゃうからね…

さち子さんの事、見えて
たし、話してたもんね。

ん？でも、今日は日曜日
だから、『シユガー』は
休みじゃないのかな？

ま、いつか…さち子さん
とミキだもん、その辺、
抜かりはないだろうしね
にしても、一体…何を
する気なんだろね？

僕、『シユガー』には、
休みの日以外は、毎日と
いっていい位、入り浸つ
てるんだけど…、

基本、妖精の姿で行つて
ミキの後ろの棚に座つて
るだけだから、申し訳な
いんだよね…(；；)

それでも、たまに人間の姿で店に顔を出すと、マスターと、けいこママは、僕を常連さん扱いしてくれて…大事にしてくれるんだ。

ありがたいよね。

(アリなのに、鯛…?)
ん、気にしないでね(汗

【そして、夕方…5時】

(…)
僕ね、久しぶりに人間の姿に変人じゃない変身して『シユガー』に来たよ。

もちろん、さち子さんも一緒だよ。

中に入ると、お約束のように、スーパー常連のミキが、1番奥に座ってるよ。一体…なん時から来てたんだろね(…;))

ん？ でもね、なんか…いつもと違うよ…。

『幽見キャンディ』舐めたせいかな？

もちろん、ケンの姿は、
見えるんだけどね、
ミキの後ろにも、占い師
のような格好をした、
女の人が立ってるよ。

しかも…身体中キレイな
紫色の光りに包まれてい
るよ…。(;) 誰?…。

《さち子》ミキちゃん
霊子さん、さっきは、
どうも、ありがとうね。

(;) さち子さんは、
ミキに駆け寄り、隣に、
ドンっとなんて座ったよ。

そして、ミキの後ろの、
霊子ってゆう人と、3人
で、仲良さそうに話し始
めたよ (^ #)

《さち子》そういえば、
さっき作った、チヨコレ
ートケーキ、持ってきて
くれた?

《ミキ》はい、今、

冷蔵庫に入れてもらって
ます（　＾＾　）うふ。

《さち子》よかったあ。
ありがと。この間、姉が
旦那様の、やすおさんと
話してるところ聞いたの。
たくちゃんは、チヨコレ
ートケーキが、好きだっ
て。だから、食べさせて
あげたかったの。

（　；　）そうだったんだ。
小野寺の為に、ミキの家
で、一緒に、チヨコレー
トケーキ作ってたんだ。
結構、優しいとこ、ある
じゃん。

でもさ…けい子さん、
物つかもうと思っても、
すり抜けちゃうから、
多分、作ったのは、ミキ
なんだろうけどね（　；　）

まままま、そこんこは
スルツと、スルーして
もらってですね…（汗）
はい、失礼しましたー！

ん？あれ？ けいこママ
の後ろには、可愛い…
お婆ちゃん？（、、）

マスターの後ろには、
つるっぱげの、お爺ちゃ
んが、現れたよ（。。）

マスター、将来は、ゲハ
るね。ん、つまり、ハゲ
るって事ね（；；）。。

多分：後ろにいる方達は
みなさん、守護霊さん達
なんだろうね。

今までは、ミキの力で…
ケンの姿しか見えなかつ
たけど…やっぱ、すごい
なあ『幽見キャンディ』
って。

全部見えちゃうんだもん
なあ…（><；）

え？ じゃあ、小野寺の
家の父親と、母親の他に
居間に居た人達は、
ご近所さんだとばかり
思ってたけど、守護霊の
方達だったのかな？

でも、3人居たよなあ。

1人余るよね？

誰の守護霊だろ？

だって、小野寺の守護霊

は、さち子さんでしょ？

そんな事を色々、考えて
ボケっつとしていると、

さち子さんが、こっちに
来いって、手招きするか
らさ、僕、さち子さんの
横に座ったよ（ ; ; ）

すると、ミキが、小さな
声で、僕に話しかけてき
たんだ（ ; ; ）

《ミキ》二階堂さんの、
人間の姿、久しぶりです
ね。いつも、カエルの
『妖怪』の姿で、後ろの
柵に座ってるから…。

でも、やっぱり、人間の
姿の時の、二階堂さんは
ステキですね。ケンちゃ
んには負けますけど…。
うっふっふっふっふっ。

(…)(…ん、悪いけど…
その笑い方やめた方が、
いーと思うよ。何気に、
不気味だからね)(…)

おまけに、僕は『妖怪』
ではなく『妖精』ですけ
どね…。

しかも、ケンよりは、
イケてると思います…

まままま、人には、それ
ぞれ好みってゆうものが
ありますからね、それは
仕方ないですつ。はい。

それよりも、ミキが僕の
事、気付いてたのには、
びっくりだよ(…)(…)

それなら、そーと、早く
声かけてくれたらいいの
にね。人が悪いよなあ。

僕、気付かれてるなんて
知らなかったからさ、

ちよつと…恥ずかしいん

だけど、ミキの後ろの棚
で、オナラした事あるん
だけとお…いやあ…ん、
ハズカシ〜（ > < ）

すると、ケンが、スウ〜
っと、僕の後ろに来て、
肩を、ポンポンしながら

『気にする事ないって。
出ちゃうものは仕方ない
よ。自然現象だもん。』

僕なんか、幽霊なのにも
かわからず、オナラ…
出ちゃうんだから…。

おまけに、幽霊なのにも
かわからず、二オイまで
するんだぜ…。はつきり
言つて、僕の方が恥ずか
しいよ…。

（…）ケン、ありがとう。
でも、オナラの事で、
なくさめられるって…、
逆に恥ずかしいね…。
でも、ありがとう。
でもさ…僕、ケンには、
言えなかったけど、心の

中で思ったよ…。

幽霊なのに、オナラする
んだっ！…ってね（　）

でも、せつかく、慰めて
くれているのに、つつこめ
なかつたよ（><）

【5時半】…小野寺が、
やって来た。バイトは、
5時上がりだったので、
真つすぐ『シュガー』に
来たんだね。

小野寺の、バイト先は、
セイオーマートとゆう、
北海道だけにしかない
コンビニなんだ。でも、
間違つてたら、メンゴ。

小野寺が、バイトしてる
その店は、酒屋さんも、
やってるから、シフトの
組み方も、少し他とは
違ふみたいだよ。

ん？小野寺、誰かと一緒
だよ。あれ？、さつき、
小野寺の家の、居間に
居た人じゃないかなあ。

なんか、品のいい中年の紳士だよ。ん？もう1人居るよ。あ、佐々木だ！

へえ、佐々木も、一緒なんだ。今日、バイト休みなのに、わざわざ来たんだね。…なんで？

あれ？ またまた、1人、入って来たよ。

あららら、佐々木を、そのまま年取らせたって感じの、男の人だよ。にしても、そっくりだあ

《さち子》カエルさん、悪いけど私の横、空けてくれるかしら？

(…) はいはいはい…。
わかりましたよあー。

ん、僕ね、入口の近くの端っこの席に移ったよ。

にしても…ケンは優しいよ。ずっと、僕の横に

座って、話し相手になつてくれてるんだ(^^)

顔は、イケメンじゃないけど、ハートは、めっちゃイケメンなんだね(^^)ん、でも…幽霊なのに、オナラするけどね…。

イテテテテ(＞。＜;)いきなり、さち子さん、僕の腕を、つかんで店の外へ連れ出したよ。

《さち子》カエルちゃん
あなたが舐めてた、
あの、キャンディ、
たくちゃんに舐めさせて
もらえないかしら？

あれ、舐めると、
私の事、見えるようになるのよね？ お願い！

(…)(いやいやいや…、
この、キャンディは、
妖精用だから、人間は、
無理ですよ(＞＜)

《さち子》ええ〜っ！
じゃあじゃあ、人間用
出してよっ！ 早くっ！

(…)(人間用って…)(汗

あ、でも、一応…この
キャンディ、人間が舐め
ても大丈夫なのかどうか

この、この、あ、この、
『カシコモ』の携帯で、
調べてみますね。

ええつとおう、ちよつと
待って下さいよおう。

あ、出た出た！えつと…

『人間が舐めても身体に
害は無い。だが、妖精が
舐めると、1個で1週間
効き目があるが、人間が
舐めた場合は、1日だけ
しか、効き目がない。』

…だって。ま、ある意味
ちよつといいっちゃ、
いーかもね(＞。＜)

《さち子》よかったあ
じゃあね、その、キャン
ディを、ミキちゃんに、
渡してちょうだい。

後は、ミキちゃんが適当
に、やってくれるから。

（ん、僕ね、さち子
さんに言われるがまま、
ミキに、キャンディを、
1個、渡したよ。

ええつくと、それでは、
ちよつと、こちら辺で、
どうゆう風に座ってるか
説明しとくね）・（

奥から、順番にいくよ。

1番 奥は、もちろん、
スーパ―常連のミキだよ

そして、さち子さん、

次が、小野寺。

小野寺の後には、
品のいい、中年の紳士。

そして佐々木。

佐々木の後ろには、
佐々木に、そっくりな、
男の人。

間を置いて…僕、ケンの
順番だよ（^。^）b

カウンターの中はね、
いつもの、ケンの場所に
ミキの守護霊の霊子さん
が座っているよ。

そして、マスター、ママ
守護霊の、お爺ちゃん、
お婆ちゃんだよ。

小野寺は、バイト先から
まっすぐ『シュガー』に
来たし、佐々木も、お腹
を空かして来たので、

マスターは、2人の為に
オムライスを作っであげ
たよ。この、マスターの
作る、オムライスは…

めっちゃめっちゃ美味しい
んだよ。たまごなんか、
フワトロでさ〜（、、）

前に…僕も、人間の姿で
来た時に、食べた事ある
んだけど、ホントに、
美味しいよ（・）（）

みんなに、食べさせてあ
げられないのが残念だよ

2人も、あまりの美味し
さと空腹で、言葉もなく
モクモクと食べ、3分も
しないうちに、食べ終え
ちゃったよ。 早っ！

食べ終わるのを待つて、
ミキは、話し始めた。

《ミキ》小野寺君…、
今日は、急に呼び出しち
やって、ごめんね。

今日はね、小野寺君の、
叔母様の、さち子さんに
頼まれて呼び出したの。
今、ここに座ってます。

（…）小野寺は、少し、
驚いた顔をしたけど、
今までの事が、あるので
さほど、驚かなかった。

それよりも、驚いたのは
佐々木だった。

《佐々木》えー？！

こここけーここに居るの
えーっ！（ ）”

（^）ん、うるさいね。

しかも、声デカすぎだね
もう少し工藤…じゃない
静かにしてほしいね。

《ミキ》それで小野寺君
には、この、ドロップを
舐めてほしいの。これを
舐めると、さち子さんの
姿が、見えるようになり
ますから。

（ ” ）小野寺は、ためら
いながらも、ミキから、
キャンディを受け取り、
怖々、口に入れ、舐めた
ちなみに、ドロップじゃ
なくて、キャンディです
けどねえ（ ）…

小野寺は、キャンディを

《ケン》 うんうんうん、
わかるよ。その気持ち…
さち子の事、好きなんだ
よね。でも、相手にされ
ないから悔しいんだね。
かわいそうに…。

ま、そのてん、僕には、
ミキちゃんが、いてくれ
てますけどねえ。エへ

(…)(…)(…)(…)(…)
山田優、ダルビツシユ有

ぼ、僕が、さち子さんを
す、好きだなんてえっ！
そんな事言われたら…、
意識しちゃうよ)。#(

っーか、何で、ケンが、
さち子さんの事、呼び捨
てしてんだよ！ったくう

しかも、慰めてくれてる
どころか、のろけてくれ
ちやってますからあゝ！

…
オナラするくせに…。

《さち子》たくちゃん、
今日は、来てくれて、
ありがとう。(ニッコリ)

() () ()
『さん』抜きで話すよ；

そして、さち子は、
24年前の、事故の事、

どうして…今、この世界
に居るのか？ 等を、
話し始めた。

さち子は、24年前…、
白い車に、はねられて、
ボンネットに、跳ね上が
った時、運転している
男と、目が合った。

助手席には、赤ちゃんが
居た。さち子は、走り去
る白い車の、ナンバーを
薄れていく意識の中で、
ずっと見ていた。

しばらくして…、
気がつくと病院に居た。

ベッドには、自分が寝ている。ベッドの回りには父と母、姉夫婦、そして赤ちゃんの小野寺が居た

小野寺は、さち子が亡くなった事が、わかるのかずっと泣きっぱなしだ。

さち子は、すぐに自分が死んだのを悟った。

それより、どうゆう訳かさち子は、跳ねた車の、助手席に居た赤ちゃんの事が…気になっていた。

多分、小野寺と重なって見えちゃったんだろね。

それから、さち子は、自分を跳ねた白い車を、探し始めた。

ナンバーを覚えていても探すのは、難しかった。

もしかしたら、同じ道を通るんじゃないかと思い自分が跳ねられた場所に

行ってみた。

案の定、その白い車は、その道を通った。

さちこは、スウ〜ツと、助手席に座った。

しばらくすると、

あるマンションに着いた

男は、部屋に入ると、奥の、畳の部屋に行き、棚に置いてある写真に、手を合わせて、涙ぐみながら何か、ぶつぶつ言っていた。

その写真は、男の亡くなった妻の写真だった。

妻は、赤ちゃんを産んですぐに亡くなったんだ。

お互いに、身寄りのない夫婦なので、男は、妻が亡くなった後は、男手ひとつで、赤ちゃんを預けながら働いていた。

そんなある日の、夕方…

赤ちゃんの預け先から、
電話があり、赤ちゃんが
少し熱っぽいので、

病院に連れて行った方が
いいのでは？と、連絡が
あった。男は上司の了解
を取り、早目に仕事を
上がらせてもらった。

預けてあるところは個人宅
なんだ。自分の子供も、
3人、育てあげた、
パンチパーマのベテラン
の、おばちゃんなんだよ

個人宅だけど、ちゃんと
許可を取って、やってい
るとこだから、大丈夫…
なんだけどね。ん…

男は、おばちゃんちに
着いて、急いで赤ちゃん
のそこへ行ったよ。

ん？赤ちゃんは、ベビー
ベッドに、スヤスヤと寝
ているように見えるね？

すると、おばちゃんは、
『今は、大丈夫だけど、

さっきまでは本当に、
熱っばかったんだよ。

風邪、ひいてたら大変
だからね、大丈夫だとは
思うけど、明日にでも、
病院に連れてつたら？』
と言った。

なにせ、男は、子育てが
初めてなもんだから、

おばちゃんに、そう言わ
れると、スヤスヤ寝てい
る顔までが、熱で苦しん
でいるように見えてしま
ったんだ（ ; ; ）

男は赤ちゃんを抱き抱え
次の日なんて待てずに、
そのまま病院へ向かった

さち子を跳ねたのは、
その病院へ、向かう途中
だった。跳ねた時、
男は止まろうと思ったが

横を見ると、熱で息絶え
絶えの、今にも死にそう
な娘がいる。

男は、グッと歯を噛み締め、ブレーキを踏まずにさち子を、そのままにして病院へ向かったんだ。

(;) ン、あのね…

この時、赤ちゃんはね、全然…大丈夫だったんだ

実はね、ここだけの話、おばちゃんがね…用事があつて、赤ちゃんを早く迎えに来てほしくて、軽い気持ちで嘘をついただけだったんだ。

その嘘が、まさか、こんな事になるなんて、おばちゃん、思ってもいなかったらうね。

悪気が無かったとはいえ何も分からない男に対して、つく嘘ではないよね

こんな、赤ちゃんに熱があるなんて言ったら、男じゃなくても、慌てるに決まってるし…。

男は、そんな事とは
知らずに、ただただ…
愛する妻が、命と引き換
えに残してくれた大事な
我が子を死なせたくない
とゆう、その思いだけ
だったんだ。

だからといって、人の命
を見殺しにしていって
ゆう理由には、決して
絶対、ならないけどね。

赤ちゃんは、一応…、
大事を取って、1日だけ
入院することになった。

さち子が、車を見つけ
たのは、その病院の帰り
だったんだ。

ん、結局、病院に向かう
時に、さち子を、ひいて
病院の帰りに亡くなった
さち子を、乗せたって事
なんだね (>< ;)

さち子は、そのまま、
男の様子を見ていた。

男は、妻の写真の前に
座り、『どうか、娘が無事
でありますように。』

そして、さつき、跳ねた
女性が助かりますように
絶対、絶対…助かります
ように…』と、長い間、
手を合わせて祈っていた

翌朝…男は新聞で、
自分が跳ねた女性が、
亡くなつた事を知つた。

男は、新聞に載っている
さち子の写真に向かつて

すいません、すいません
許して下さい。すいませ
んと…何度も何度も
謝りながら、頭を畳に
叩きつけ泣き崩れていた

さち子は、その姿を見て
恨むどころか、許そうと
思つたんだよ。

その時、さち子の身体が
青白い光に包まれて、

男の前に、姿を現した。

男は…ウツヒエー！と
びっくりして、後ろに
のけ反り、ブリッジ状態
になってしまった。

男は、すぐに、さち子
だと分かり、身体を
ひよいと、元に戻して、
畳に、頭を、こすりつけ
ながらひたすら謝った。

さち子は、優しい笑みを
浮かべ、優しい声で…

『頭を、上げて下さい』
と声をかけた。

男は、涙と鼻水だらけの
ぐっじゃぐじゃの顔を
おもむろに、上げた。

さち子は、思わず吹き出
しそつになりながら、

『私は、あなたを、
許します…許します。』

そう言って、さち子の

姿は、青白い光を残しながら消えていった…。

男は、さち子が消えた後も、『ありがとう

ございます。すみません
すみません』と、ずっと
謝り続けていた。

そして新聞から、さち子の
写真を切り取り、
キレイな写真立てに入れ
妻の写真の横に置いた。

毎朝、毎夜…男は、手を
合わせ、さち子に詫びて
いた。お墓も捜しだし、
月命日には必ず墓参りに
行き。手を合わせていた

実は…この男、娘に手が
掛からなくなったら、
田舎に住んでる親友夫婦
に子供を預けて自首しよ
うと、考えていたんだ。

でも娘は、ぜんそく持ち
で、一旦、咳込むと止ま
らずに、息が出来なくな
り、しょっちゅう病院に

入院していたんだ。

男は、さち子の写真に向かい、詫びると共に…娘を残して自首出来ない事も謝っていた。

男の娘は、今、小野寺と
同じ年の24才である。

昨年、23才の時に、
めでたく結婚していた。

男は、娘の結婚を、
見届けた後、家に帰り、
暗い…畳の部屋の、妻の
写真の前に、ガツクリと
肩を落として、座り…

『俺とうとう、独りぼっ
ちに、なっちゃったよ。
もう、なんか…疲れた。』

お前の所に逝きたいよ…
お願いだから、早く、
迎えに来てくれよ…』

男は、そう言って、泣き
ながら布団に入った。

夜中の、2時過ぎ、男の
身体が、青白く光り、

身体が、本体の身体から
抜け出し、そのまま、
上へ、上へと浮かび…

男は天井に顔を、ガンと
ぶつけた。(痛っ)

男は、びっくりして、
目を覚ました(。。。)

すると、自分の身体が、
本体から離れているのを
見て、妻が迎えに来てく
れたんだ！ と思い、
辺りを、キョロキョロ
見渡した。

すると『あなた…』と、
後ろから、妻の声が
聞こえた。振り向くと
妻らしき女性がいた。

男は、思った。『あれ？
こんな顔だったっけ？
でも確かに、声は妻だし
ま、いつか…。』

そうなんだ。その女性は
確かに、男の妻なんだ。

でも、写真立ての写真は
実物とは、ほど遠い、

まぐれに、よく撮れた、
たった1枚の、写真だっ
たんだ。男は、その実物
とは、ほど遠い、まぐれ
に、よく撮れた写真に、

何十年も、手を合わせて
いたので、後ろを振り返
った時、ギャップを
感じたんだろね(。。)

年月が過ぎると、大体…
人間とゆう生き物は、
昔の事を、美化しちゃう
もんだしね(><)”

男は、そのまま、妻に手
を取られて、あの世へ、
逝ってしまったんだよ。

おいおいおいおい！
人を、ひき殺しといて、
あの世(天国)に逝ける

訳ないじゃん！と思うで
しょ？

どうして…男が、天国へ
行けるのか？ってゆうと

それはね、さち子の、
お陰なんだよ。

さち子は、死んで天国に
逝った時、真っ先に
天国の、お偉方に、

自分を死なせた男が、
もし死んだら、天国へ
来れるようにして欲しい
と頼みこんでいたから
なんだよ（><）

そして、恨んでない事や
男の事情も全部、話した
んだ。もちろん、天国の
調査課の調査員も嚴重に
調査して検討した上での
結果、男の天国行きは
決まった事なんだよ。

今では、あの世で、
茶飲み友達さ。

さち子は、その時に、
小野寺たくみが、
自分の死んだ年と同じ
24才になった時、
小野寺に逢いに行かせて
ほしいと、お願いして
いたんだ（人）

初めての、かわいい、
甥っこだからね（人）

結果は『さち子の、亡く
なった年齢と同じ数の、
24日間だけ、下界に
降りる事を、許可する。

約束の、24日間を、
1秒でも過ぎた場合は、
重たい罰を与える。』と
ゆうものだった（人）

重たい罰とゆうのは、
もし、約束を破ったら
2度と…天国には、戻れ
なくなっちゃうってゆう
事なんだよ…。戻れない
どころか、永遠に暗闇の
世界を、さまよう事に
なってしまうんだ。怖っ

そして、小野寺が、
24才になった、ある日
さち子は、こつちの世界
に来て、小野寺と行動を
共にしてたんだよ。

さち子は、しばらく、
小野寺を観察していたが

まあ、小野寺は、
お人よしで、嫌と言えな
い性格で、おまけに、
好きなタイプの女性には
コロっと、簡単に騙され
そうになるしで…、

さち子は、ハラハラ
しっぱなしだったんだ。

詐欺女に、カラオケに
誘われそうになった時に
小野寺に、メールを送っ
たのは、さち子だった。

メールの文字は、念で、
送ったものなので、1分
位で消えちゃったんだ。
それだもん、いくら
捜しても見つからない訳
だよね (><;)

詐欺女の、メアドの紙は
小野寺が、タクシーから
降りる時、一回転した
でしょ。その時に、
ポケットから、落ちちゃ
ったんだって。

ん、結局、自分で落と
したんだね（ ）…。

4【小野寺と、さち子】

小野寺は、さち子が亡くなった時の話を聞いて、涙と、青っぱなを流していた（　　）ぐずっ

さち子は、ティッシュで小野寺の、つららの様に伸びた、青っぱなを拭いてあげた（　　；　　）

そして、青っぱなを、拭いた、ティッシュを

その、青っぱなを拭いたティッシュをだよっ、

丸めて僕に、ポイと、投げてよこしたんだ！
汚なっ（　　）んもお！
さち子ったらあ（怒っ）

さち子は、小野寺の肩を優しく抱いて…

《さち子》

あのね、たくちゃん、
友達を大事にするって
ゆうのは、とつても
大事な事だと思うよ。

でも…大事にするって、
都合よく使われるって事
じゃないと思うんだ。

そんなの、本当の友達
じゃないじゃないじゃない
いじやなっっ(痛っ)

(…)(さち子、セリフ
かんだと思ったら…
舌まで、嚙んだね。

ん、ティッシュなんか、
投げてよこすから、
そんな目にあうんだよ。

ごめんごめん(…人、)
話それちゃったね。

そう、小野寺は、
高校時代の、同級生の、
西田に…何回も、お金を
貸していたんだ。

西田の家は、超裕福で、

西田は、働きもせず、現金で、30万もの小遣いを、親から、もらい、遊んでばかりいるんだ。

西田に、カードを渡すと限りなく使ってしまうため、親は現金で、これ以上は、渡さないとゆう約束で、小遣いを、毎月、30万円、与えているんだ。

(;) (いやいやいや…
それも、どうかと思いま
すけれどもね…) ()

そして、親からの金が尽きると、小野寺に、ケータイ代が、払えないとか、親元で暮らしているのにも関わらず、

家賃が払えない等と、ウソを言っては、5千円1万円と借りていたんだ

小野寺は、疑いもせず、素直に信じて、貯金を、はたいてまでも、貸して

いたのさ (><)

この…2人、普段は全然付き合いが無いんだけど

小野寺は、高校時代：

下校途中に、カツアゲ

されそうになった事が、あるんだ。

その時、助けてくれたのが西田だったんだ。

西田は、そんな事、

すっかり忘れてるけど、

小野寺は、その時の事を今でも感謝しているんだ

そして、1年前の、

クラス会の時に、

電話番号と、メアドを交換したんだ。

西田に、金を貸すようになったのは、その時からなんだ。

小野寺は、貸した金額と日付を手帳につけていた

今までで貸した、金額は

18万円になっていた。

小野寺にとっては、大金である。返してもらおうと思い、メールや電話をしても、『頼めるのは、お前しか居ないんだよ』

と、いつも上手く、かわされ、なあなあになっ

た。『さち子』西田君はね、親から、たつくさん、お小遣い、貰ってるの。

たくちゃんが借した、お金はね、全部、遊びに使われっちゃってんのよ

いい？ もう…絶対に、貸しちゃ、ダメよ。わかった？

たくちゃんは、親切のつもりかもしれないけど結果、西田君を、カメ…じゃない、ダメにしてるだけなんだよ。

せっかく、コツコツ
貯めた大事な、お金なん
だから、もつと大事に
使わなきゃ。お金さんが
泣くわよ（ ）…

（ ）小野寺は、うん
うんと、うなづきながら
さち子話を聞いていた
すると、小野寺の
後ろにいた中年紳士も
小野寺の背中を、
ポンポンしていた。

この紳士はね、小野寺の
守護霊なんだ。

小野寺の父親の、父の、
卓郎だよ。つまり小野寺
の、おじいちゃんなのさ
おじいちゃんといつても
亡くなった時は、
52才だったので、

おじいちゃんって
呼ぶのは、ちよつと、
かわうそ…じゃない、
かわいそうだけどね。

ちなみに、『たくみ』
って名前は、この、
卓郎じいちゃんの『卓』
を、もらって『たくみ』
って、付けたらしいよ。

卓郎じいちゃんは、

小野寺の父親が、27才
の時に亡くなってるんだ

息子も無事、結婚して

早く、孫の顔を見たいと
楽しみにしていた時に、

脳溢血で、あっけなく
亡くなってしまったんだ

初孫に逢いたい…とゆう
気持ちが強かったせいか

卓郎じいちゃんは、

小野寺が産まれた時から
ずっと守護霊となつて、

小野寺を、見守つて
いるんだ…けどさ…、

この卓郎じいちゃん、

小野寺以上の、お人よし
だったんだ。それが、

今の小野寺に、少し

影響が出てるのかもね。

しかも、たまにとゆうか
ほとんど、フラフラと、
どこかに、出掛けてしま
つてて、全然、守護に
なっていないだよ。

さち子は、卓郎に、
あまり、フラフラと
出歩かけないで、
しっかり、小野寺を
守護する事。

そして、小野寺には、
むやみに、人を信用して
お金を貸さない事。
女には、騙されない事。

と、カツを入れた。

小野寺と卓郎じいちゃん
は立ち上がって、説教を
する、さち子の前で、
ハイ…ハイと2人、顔を
揃えて、うなづいていた

その時、小野寺の携帯が
鳴った　西田からだ。

メールには、『今日、
ケータイ代、払わないと
止められちゃうんだ。
1万円、貸して。
これから、バイト先まで
取りに行くから。』
とゆうものだった。

実はね、西田は小野寺の
バイト先の、コンビニの
近くで飲んでいて、金が
足りなくなり、メールを
したんだ。

西田にとって、1万円
なんかは、紙くずみたい
なもんだから、こんな
常識のない事が、平気で
出来ちゃうんだろね。

すると、さち子は…

《さち子》カエルっ！
あの、名探偵コロンの、
蝶ネクタイのように声を
変えられる物ないの？

(…)(…)
あるよ…。
くうう〜！ 言ってみた
かっんだあ〜)(…)#

キムタクの、ヒーローに
出てくる… あの、謎の
マスターのセリフ。

っーか、カエルって…
呼び捨てかよっ () ()

《さち子》ブツブツつぶ
言っていないで、早くっ！

() () はいはいはい (怖
ちよお)っ と待ってね…

あつたあつた。

これ、これ、これはね…

一見… 白い、マスクに
大きな唇の、絵を描いた
だけの、ふざけたマスク
のように見えますがぁ、

なんとですね…

この、大きな唇に、
変えたい声の人の
顔写真を、かざすだけで
ですね、この大きな唇が

ピピピって、感知して
その人の声に、変えて

くれちゃうとゆう優れ物
なんだよ（＾＃）

ただ…その、マスクを
つけると、誰もが、

『笑ウせえるす〇ん』の
『もぐるふくぞう』に
見えちゃいますけどね。

どうやら、さち子は、
小野寺の声で、西田と
話そうとしてるみたい。

さち子は、大きな唇の絵
を描いた、その白い、
マスクを付けた。

（、。、）ぷぷ（笑涙）
さち子も、やつぱり、
まぐる…じゃない、
もぐるふくぞうに見える
よ！うつけるうゝ（笑）

回りの、みんなも、
笑いを、こらえるのに、
必死だよ（><）うぐ。

そして、小野寺は、
佐々木に、写メで自分を

写してもらい、その写真を大きな唇に、かざした

え？何？　なんで、物をすり抜けちゃう、さち子が、マスクを付ける事が出来るのか？　…って。

ん、この、マスクはね、妖精、人間、幽霊、妖怪　ぜえ〜んぶに、対応出来る、すぐりふみえ…　じゃない、すぐれ物なんだよん（・）〜

《さち子》んん。。
あ、あ、あ、テステス…

（　；）ん、マイク
じゃないけどね（　）

《さち子》　どう？
たくちゃんの声に聞こえるかな？　どう？どう？

（　；）（　）回りは、うんうん『聞こえる、聞こえる』と、合わせたかのように声と、頭を揃えて、うなづいた。

さち子は、会話が回りに聞こえるように設定して

いよいよ、西田に電話をしようとした時…逆に、西田から、かかってきた

《西田》 ああ、もしもし
今さあ、お前の、バイト先の、コンビニに来てんだけど、何？もう上がったんだって。

悪いんだけどさあ、コンビニの前で待ってるから、急いで、1万か2万、持ってきてよ！

《さち子、小野寺の声》
んん…西田君、ごめん。
今、僕んち、大変なんだ

親父は、会社リストラされちゃうし、おふくろは、身体壊して、入退院繰り返してるし…

僕の貯金も、全部使い果たしちゃってさ…。

1万円どころか、1円も無いんだ。ってゆーか、今日、食べる米も無いんだよ。だからさ、今まで貸した、お金、返して…

《西田》あっそ、じゃあいいわ、(切)プープー

(^) さち子、顔を真っ赤にして、マスクを投げすて、唇は、ワナワナと震え(＃、＃)うう

そして、口調は、
武田鉄矢っぽく…

《さち子》ほら、ほら、ほらあ〜っ！ たにし…
じゃない、西田って奴は

に・し・だあっ！ て奴は
こうゆう奴なんだよっ！

たくちゃんも、よお〜く
わかったでしょ！ ああっ

《ミキ》ままままま、
さち子さん、さち子さん

落ち着いて、落ち着いて
ね、ね…（、、；）

あ、そうだ、みんなで、
チョコレートケーキ、
食べましょ…チョコレート
ケーキ、ね（；、）

さち子さんも、ほら、
座って、座って。

（…）ハアハアと、肩を
いからせて興奮している
さち子を、ミキは優しく
なだめて椅子に座らせた

さち子は、ウーロン茶を
ガーっと、一気に、
飲みほし…ほんの少おし
落ち着いたみたいだよ。

にしても…さつきから
佐々木は、ドラクドラ
ゴンの塚地じゃない方の
メガネの、鈴木のように

ボケーっと口を開けまん
まで見ているよ（#）
ん、顔も似てるしね…。

ま、そうなるのも無理
ないかあ（…；）…

だつて佐々木は、なんにも見えてないから、急に小野寺が、立ち上がり、誰も居ないところに向かつて、ペコペコと、頭を下げたり、

マスクが宙に浮いたり、ティッシュが、ひとりで小野寺の、青っぱなを、拭いてあげたり…

佐々木じゃなくても
驚くよね。にしても…
佐々木、口開けすぎ…。

僕は僕で、カウンターの隅っこで、佐々木の後ろに居る佐々木似の守護霊の男性とケンと、3人でボーズ？トークをしていたんだ…（^#）”

なんかね、この男性は、佐々木の、年の離れた、お兄さんなんだって。

2年前に、亡くなつたらしいよ。

実は、佐々木の両親は、佐々木が、小学4年の時に、離婚していたんだ。

佐々木には、6つ離れた兄が居た。佐々木は兄が大好きで『お兄ちゃん、お兄ちゃん』と、いつもくつついていた(^^)

兄も、年の離れた弟を可愛がっていた(´、´)

両親が、離婚した時、兄は、父親に、佐々木は母親に、ついていった。

父親は、それからすぐに東京へ転勤になり、兄も一緒に行つてしまった。

佐々木は、兄に会いたくても、会えなくなつてしまつたんだ(；。；)

月日が流れ…佐々木の母親は、佐々木が高2の

時に再婚した。

佐々木は母親の再婚相手の男とは合わなかった。口も、ほとんど聞いた事がないんだ…（　　）

佐々木は、高校を、卒業すると同時に家を出て、バイトで貯めた金で、今の、アパートを借りて一人暮らしを始めたんだ

そして佐々木が、21才になった時に、兄は、足を滑らせて、歩道橋の階段から、転げ落ちて、亡くなってしまったんだ

佐々木は、大好きな、兄の死を知り、しばらく立ち直れなかった…。お葬式には、母親だけが出席したんだよ。

でもね、佐々木はね、人前に出る時は、いつも笑顔だったんだ（　　）

バイト先にも、バイト

仲間にも、誰にも言わな
かったしね…小野寺も、
知らないみたいだよ。

そして、アパートの暗い
部屋に帰ると、兄の写真
を見ては泣いていたんだ

その時、兄は佐々木の傍
に居ただけだね（…）

僕：佐々木にも、この、
お兄さんに逢わせたくて
小さな声で、佐々木に
話しかけたんだ。

《（…）二階堂》

ねえ、佐々木君、君も、
キャンディ舐めてみる？

今、君の後ろに、

お兄さん、居るんだけど
舐めたら、逢えるよ。

《佐々木》えっ！（驚）

お兄ちゃん？ホントに？

なななめなめなめたけ、
ご飯に乗せて食べたら、
美味しいです…じゃない

舐めますっ！はいっ！

舐めさせて下さいっ！

お願いします（>。<）

（…）僕ね、佐々木に、
キャンディあげたよ。

佐々木は、すぐに、
キャンディを、ポイと
口に入れ、舐め始めた。

……………

ん？あれえ〜？佐々木…
見えてないみたいだね？

ちよつと、裏の説明書
見てみるね…。

ん、なるほどね…
なんかね、すぐ効く人と
しばらく効かない人が、
いるんだって。

靈感とか、そうゆう感…
とか無い人、あと…普段
から口を、ポケーっと、
開けてる人は、効くまで
5〜10分位、かかるん
だって。なるほど、すぐ

に効かない訳だ（…；）

ごめん、佐々木君の場合
キャンディの効果が出る
まで、ちよつと時間かか
るみたいなんだ。

でも、必ず見えるから、
少し待ってね（^人^）

そんなこんなしてるうち
に、けいこママが、
チョコレートケーキを、
人数分に切つて、皿に
乗せて、置いてくれた。

今、佐々木に、見えてる
のは、ミキ、小野寺、
けい子ママ、マスター
僕の、5人だけだから、
13皿も、出てきたの
を見て、びっくりしていた

ミキは、ケーキを、
みんなの前に置きながら
小野寺に話かけた。

《ミキ》小野寺君つて、
チョコレートケーキ、
好きなんですつてね？

《小野寺》いえ、僕、あんまり…甘い物、得意じゃないんですよ…。

《さち子》え？だつて、たくちゃんは、チヨコレートケーキが、好きだつて…姉が、話てるの聞いたんだけど…。

《小野寺》ああ、きつと佐々木の事じゃないかな

佐々木、もう少しで、23才の、誕生日なんですよ。こいつ、僕のおふくろに、めっっちゃ、気に入られてるんで、

しかも親父と、誕生日が2日違いだから佐々木も一緒に、お祝いしようつて事になつたんですよ。

親父は、タコと、サバとイカの刺身さえあれば、幸せな人なんで、

バースデーケーキは、

佐々木の好きな、
チョコレートケーキを
用意するって、おふくろ
言ってたし…。()。

() さん、さち子、聞き
間違っちゃたんだね…。
ちよっと、残念そうな顔
してるけど…。

《さち子》そっかそっか
じゃあさ、じゃあさ、
今日は、ちよあ〜っと、
早いかもしれないけど、
みんなで、パーティーと、
佐々木君の、お誕生会
しましょうよあ〜！

＼(# ^ ^ #) /

《佐々木》あ、ありがと
うございます()——(;)

() さん、佐々木、
幸せそうな顔で、ケーキ
食べ始めたよ。今日来て
良かったね…。(^ ^)

《佐々木》すみません、
じゃあ、お言葉に、

めっちや、甘えまして…
いったただきまあゝす

うんゝゝ おおおお
おおゝゝいすういゝい
。。(#、ゝ、#)。。

《佐々木兄》よかったな
お前ホント、ちっちゃい
時から、チョコレート
ケーキ好きだもんなあ。

《佐々木》うん、
そうゆう…兄ちゃんだ…
つてつて…え？(。。

(。)ん、佐々木やっ
と見えるようになった
みたいなんだけどね…

驚いて、自分のケーキに
思いつきり、顔…突っ込
んじやってね、鼻の辺り
チョコだらけに、なっち
やっつたよ(^ ^ #)

でも佐々木は、そんな事
関係なく、佐々木兄に
抱きつこうとしたら、
佐々木兄は、いきなり、

外人口調で、大きな声で
両手を上げて、

《佐々木兄》 ノオーウ！
NO！ 触らなあいつ！
NO！服が、汚れるっ！
ちゃんと顔と手を拭いて
からあゝっ！（、。、）

（…） 佐々木兄はね、
超キレイ好きなんだよ。

ましてや、今日は、
白っぽい服着てるから、
よけい、敏感になつて
るんだね（…；）…

佐々木は、けいこママ
から、おしほりを、
もらい、顔と手を拭いて
仕切り直して兄に抱きつ
こうとしたら、またまた
兄は、外人口調で…

《佐々木兄》 ノオーウ！
ちゃんと、ちゃんとっ！
まだ、きつたなあゝい！
ノオーウ！ ノオーウ！

（…） 佐々木は、再度

けいこママに、おしほり
をもらい、顔と手を赤く
なるまで、拭いて拭いて
拭きまくり（　　）

どうゆう訳か、佐々木も
ボビィオロゴンの口調で

《佐々木》（　　）
おお〜にい〜ちゃあ〜ん

（　　）と言って、2人
感動の…抱擁である。

その時、いつの間に用意
したのか、クラッカーが
バンバン。。。と鳴り

お誕生日おめでとう
と『シュガー』にいる、
全員が立ち上がり、
拍手を送った（　　）

それからは、思い思いに
話をして、カラオケ
なんかも、始まって
みんな、楽しんでいた。

ん？でもさ、小野寺が、
キャンディを舐めてから

1時間以上…経つのに、
まだ見えてるみたいだね

でね、僕『カシコモ』の
携帯で、店の中を写して
みたんだ。そしたらね、
スゴいんだよ(。。() //

ミキの、身体の回りは、
紫色に光り輝いていて、
1番、スゴいんだけど、

他の守護霊達も、今日は
テンションが上がってる
せいか…店中が、赤く…
エネルギーとパワー的な
輝きで包まれているんだ

だから…普通に、椅子に
座れたり、ウーロン茶を
飲んだり、ケーキを食べ
たり、出来るんだろね。

そうそう…佐々木兄弟は
カウンターの隅っこで、
2人で、ずーっと、
おしゃべりしてるよ。

つもる話があるんだろう
ね(# ^) (^。^)

にしても…さち子、幸せ
そうな顔で、小野寺と
話してるよ…。()。

こうして見てると、
さち子って、やっぱり、
キレイだなあ。()。^#()

《ケン》なにになに？
またまた、さち子に、
惚れ直したの？ひゅう

(#)ち、違うよっ！
そ、そんなんじゃないよ
ってゆーか、さち子って
呼びすてにすんなよ！

《ケン》あつれえ、
自分だって、呼びすてに
してんじゃない。別に、
さち子と付き合ってる訳
でもないくせに()

(;) ()僕は、この話の
ナビ役とゆうか、進行役
だから、いーんだもん！

《ケン》ふう〜ん、
焼き芋焼い…じゃない、

やきもち、やいてんだあ
カッワイー（^。^）

（；；）だから、違っ、

あれ？どうしたのかな？
小野寺、楽しんでいるよ
うに見えるけど；；なんか
淋しそうな顔してるね。

やっぱりさ、さっきの、
西田の事が、シヨック
だったんだろうなあ；；。

ん？く、臭っ（x。x）
な、なんだ？この臭い？
ケンの奴；；やったな；；！

（；；）（；；）
ほ、ホントに；；くっさ！

まま、そんなこんなで；；
楽しい時間？は、あつと
ゆうまに過ぎ、そろそろ
お開きにして、帰る事
になりました。（；；）

そして僕達は、ミキ、
マスター、けい子ママ、
守護霊さん達に、挨拶を

して…、僕と小野寺、
守護霊の中年紳士と、
さち子と、佐々木兄弟で
店を出た。

店を出た途端、守護霊の
中年紳士と、さち子と、
佐々木兄は、見えなく
なってしまった(。。)
ん、僕は見えてるけどね

《佐々木》 あれ？あれ？
兄ちゃん？どこ？どこ？
おお〜にい〜ちゃん！
どこに行ったんだよお！

(。。)ん、佐々木兄は、
あんまり、弟が泣くので
店に入って姿を見せた。

泣きやんだので、出ると
また泣くので、佐々木兄
は、まるで…早送りの
ように何回も店を出たり
入ったりしていた(。。)

そこへ、ミキが、
スウ〜っと、やって来て
佐々木の両手を取り、

しばらく、目を閉じた
まま…握りしめていた。

佐々木は、ミキに手を
握りしめられて、顔が、
りんごのように真っ赤に
なってるよ）、、（

そりゃ、そうだよね。
前にも言ったけどさ、
ミキは長い黒髪が素敵な
キレイな女性なんだよ。

そんな女性に、しかも
両手を握りしめられたら
照れちゃうよね）；（

しばらくするとね、
握りしめている、ミキの
手が、赤紫色に光り、

佐々木の身体も、青白く
光り始めたんだ。
やや、しばらくして、
少しづつ、光りも消えて
いき、ミキは、佐々木の
手を、離れた。

すると佐々木は、兄の姿
が見えるようになった。

《ミキ》これで、3日は
お兄様の姿が、見えると
思いますよ…。でも、
見えなくなつたとしても
お兄様は佐々木君の傍に
ちゃんと、居ますから、
泣かないで下さいね…。

《佐々木》ありがとうございます
ございます…。(――)

(;) す、すごい…
ミキは、僕が思っている
以上に、すごいかも…。

それなのに、なんで…、
あんな臭い、オナラを
する奴が…いいんだろ？
ん、不思議だ(;)？

そして、ミキに見送られ
僕たちは店を後にした。

佐々木兄弟とは、途中で
別れ、僕も小野寺に、

じゃあ…と、別れの挨拶
をして、ヒョイと小路に
入り、すぐに妖精の姿に

戻り、さち子の横に、
行ったんだ（# ）

《さち子》カエルちゃん
今日は、ありがとう！

カエルちゃんの、お陰で
たくちゃんとも話せたし

みんなとも、仲良くなれ
たしさ…良かったあ。。

わたし…あと、5日で、
つてゆーか、もう少しで
4日なんだけどさ、

天国に戻らなきゃいけない
じゃない…だから、
居る間に、たくちゃんに
しっかりしてもらいたい
なんて思ってたけど、

所詮、この世の者じゃな
いから、ずっと、一緒に
居られる訳じゃないし、
無理なんだよねえ…。

にしても、あの、たにし
腹立つわあ〜（、）。
（

…）（西田ですけどね。

家に着いて、小野寺は、
2階の自分の部屋に戻り

さち子は、いつもの
居間に行かず、その日は
1番奥の部屋で、
体育座りして、静かに
してたんだ…。

その日も、いつものよう
に僕は、ずっと、さち子
と、一緒に居たよ(;)

その夜は、さち子…
全然しゃべらないで、
悲しそうな顔で、
ポーンとしていたんだ。

でもさ…不謹慎かもしれ
ないけど、その悲しげな
横顔がさ…キキ、キレイ
なんだ…(# #)ポッ
やばっ！僕…マジで、
さち子の事、好きになっ
ちやっただかも(;)

だめだめだめだめ…！
僕は妖精、さち子は幽霊

しかも…あと、4日で…
天国へ帰っちゃおうし、
好きになっても、
どうしようもないのに…

ああ、あ、なんか…
胸が苦しいよ（>。<）

………

ん？あれ？明るっ！
僕達、いつの間にか、
眠っちゃったみたい…。

さち子と僕は、眠たい
目を、こすりながら
居間に、行ったよ。

ん、今日はね、バイト
昼からなんで、小野寺は
ゆっくりと、ソファーに
座って、テレビを観なが
ら、珈琲を飲んでるよ。

母親は、風邪気味で、
近くの個人病院へ行っ
て留守にしていた。

小野寺の母親は少しでも

調子が悪いと、すぐ病院に行く、病院大好きおばさんなんだよ。

すると、ピンポンと玄關のチャイムが鳴った出てみると、西田だった

《西田》ヨオ！あのさ…

《小野寺》悪い…！
お金だったら無いよ…。

(…)そこへ、小野寺の父親が、パジャマ姿のままで現れた。なんかね会社の創立記念日で休みだったらしいよ。

《父親》あれ？母さんはまた病院か？

《小野寺》うん…。

(…)そこへ、母親が、マスクをして咳をしながら、具合悪そうな顔で帰って来た。

《母親》ただいま。

あら、お客さん？
上がって頂いたら？

《西田》あ、いえ…すぐ
帰るんで。

《父親》母さん、お腹
空いた。朝ご飯は？

《母親》米が無いのよ。

(…)(…この時、たまたま
米が切れてただけなんだ
けどね、西田は今日、
食べる米も無いんだ…と
勘違いしたみたいだよ。

父親も、リストラされて
家に居るんだ…と思った
みたいだしね(…;))

《西田》あ、あのお…
ちよつと、お前に、
渡したい物があるんだ。
重たいから、手伝って！

(…)(…そう言って、西田
は、車の、トランクを
開けた。中には段ボール
が、2つあった。

《小野寺》これ、何？
すっごい、重たいね。

《西田》え！あ、いや…
中身は、後から見てもや。

あ、先に、こっちの
段ボールから開けてね。

(…)(…)(…) そう言って、
段ボールを玄関に置くと
西田は、少し照れくさそ
うな顔で、車に乗り込み
前に発進すると思ったら
いきなり、バックで、
帰って行った(°。°) //

小野寺は、言われた方の
段ボールから開けてみた
中には、高そうな米と、
西田とは程遠い、可愛い
封筒が、入っていた。

その、西田とは程遠い、
可愛い封筒の中には、

現金、30万円と、

これまた、めっちゃ可愛い
便せんが入っていた。

手紙には…

『今まで、悪かったな。
ついつい、甘えちゃって

なんか、昨日の電話の時

なんて言っていていいのか、

わかんなくてさ…、

ホント、ごめんな。

借りた金額、ちよっと、

わからなくてさ…

多分…この位だと思っ
んだけど、もし、足りな
かったら、メールしてく
れよな。じゃあな。』

(…) ン、西田は、親に
正直に話して、来月分の
小遣いを、前借りして、

家にある、5キロで、

6千円の、高い米を、

4袋持ってきたんだよ。

小野寺は、西田らしい、
ぶっきらぼうな手紙を
読みながら泣いてたよ。

ん、さち子も、小野寺の
背中に抱きつき、泣いて
るよ。そこへ、母親が
やって来て心配そうに…

《母親》どうしたの？
なんで、泣いてんのよ。

あらあ、ちよつとおゝ、
この、お米どうしたの？
これ、食べていーの？
ちよつど、お米切らして
たから、助かるわあゝ！

(…)(…ん、小野寺の、
返事も聞かずに、母親は
さつさと、米を持って
いって、研ぎ始めたよ。

小野寺は、部屋に戻り、
貸した、18万円だけを
抜きとり、残りの、
12万円は返そうと、
その可愛い封筒は、
机の引き出しの中に、
閉まっておいた)(…)

小野寺は、その日、
清々しい気持ちで、

バイト先へ向かった。

さち子も、元気になって
やっと、いつもの笑顔に
戻ったよ。よかったあ…

ん？あれ？今、さち子、
一瞬、消えかかったよ。

やだやだやだ…（ ）
さち子と離れたくないよ

《さち子》ん？なんか
言った？あれ…？カエル
ちゃん、どうしたの？
みどり色の顔が、青くな
ってるよ…（ ）

（ ）…（ ）い、今、さち子
さんの身体が、消えかか
ったんだ。

5【くわかれく前

《さち子》あゝ、きっと
あと、4日だからね、
だんだん、薄れていくの
かなあ（…）

まあね、どつちみち、
私の事が、見えるのは、
カエルちゃんと
ミキちゃんだけだけどね

でもね、カエルちゃん、
あの、キャンディって、
人間だと、1日効くって
言っでなかつたっけ？
なんで、1時間しか
効かないの（…）？

（…）ん？そうだけ？
1時間って言ったつもり
だけど…（…）

《さち子》1日って
言っでたわよ！得意の
『カシコモ』ケータイで
見てみたら…（…）

(;) うん、見てみるね
(。 。) " あっ！
ホ、ホントだ！あらら…
しっつれいしましたあ！

《さち子》でしょ…！
ま、これから、訂正しに
いくのも大変だからね、
今回は、許してあげる！

でも、これからは、
気をつけてね。せつかく
読んでくれる方々に、
失礼だからね(。)

(;) は、はい…
本当に、失礼しました。
これからは気をつけます

《さち子》にしても…
たにし君、結構、
いーヤツだったんだね。

(;)
でもね、世の中、いい人
ばかりじゃないからさ…
やっぱ、心配だよお…。
たくちゃん大丈夫かな…

なんか勘違いしてない？

いい？俺達は、お前が
おごるって言うから、

忙しいのに、わざわざ
来てやってんの！

金が、ねえんなら、
誘うなっつーの！

あゝあ、せつかく、
気分よく飲んだのによ
お前のせいで、しらけち
まったよっ(、ゝ、)(ゝ)

おい、こんな、ボンボン
ほっというて、帰ろうぜ！

あ、言っつつけど、
今度、誘う時は、
ちやゝんと、金ある時に
してくれよな！

おぼっちやま君！
じゃゝあな(、ゝ、)(ゝ)』

(ゝゝ)と言って、3人は
笑いながら、西田を
置いて帰って行ったんだ

西田は、この3人と、
いつも遊び歩いてたん
だけど、お金は、いつも
西田が出してたんだよ。

この、3人には、結構な
お金を使ったから、
まさか、こんな返事が
返って来るとは、西田は
思っていなかったんだ。

だからね、かなりの
シヨックを、受けたみた
いだよ。3人の中には、
年上の奴もいるのにね…

2千円位、出せつつーん
だよね！つたくう（怒）

あ、失礼しました（汗）
僕が切れてどーすんだ
つてね…ハハ（# #）

でもさ…これで西田も、
目、覚めたんじゃない？

逆に、これくらいの事で
目、覚めれて良かったよ
ね…（…><）

暴力とかさ、そんなんで
目、覚ます…なんて事
なったら最悪だもんね。

ん、あのね…西田ね、
女の子座り？して、
斜めになりながら、
ため息ついてるよ…

《西田》あゝあ、オレ…
今まで、一体、何やって
きたんだろ？あゝあ。

(…)(西田は、その場
から立てなくて…
しばらく、ボーっと
斜め座りしてたよ…。

その居酒屋は、何回か
行ってたんで、西田は、
大将に、頼み込んで、
ツケにしてもらい、
その日は、帰ったんだ。

西田は、ベッドに入り、
小野寺の事を考えていた
ウソをついても、いつも
嫌な顔ひとつしないで、
お金を貸してくれた、

優しい、小野寺の顔が、

次から次へと、走豚灯…
じゃなくて、走馬灯の
ように、西田の頭の中を
豚が駆け巡り、涙が溢れ
てきて止まらなかった。

すると、今度は、小野寺
の事が心配になってきた

《西田》1度も、断った
事がない小野寺が、
断るなんて、よっぽどの
事だよな…そういうえば、
あいつ、米も無いって
言ってたよな（ ; ）

まさか、餓死寸前とか？
親父さんも仕事してない
ってゆうしな…。

あゝあ、あんな、優しい
奴に…今まで俺は、
なんて事してきたんだろ
な…（ ; ）

どうしようかな？
今から…ああ、ダメだ。

今から、行っても、
もう…遅いし迷惑になる
だけだよな（ ; ; ）…

よし、明日の朝早くに
行こう…！

（ ; ; ）そんな事を、考え
ながら、いつの間にか
西田は、眠ってしまった
…（ ; ; ）ZZZ…。

朝になり…目覚ましが鳴
った『朝だよ！朝だよ！
浅田真央お〜』

4回転ジャア〜ンプ！

すごい（ ; ; ）西田、
4回転ジャンプしながら
ベッドから跳び起きたよ

おお〜（ ; ; ）ピタッ
と、着地も決まったよ！
ブラボー！西田（ ^ ）

ん、でも、この目覚まし
時計、いつたい…どこに
売ってんだろね（ ; ; ）

ままままま、そんな事は
こっちに置いていて…と

西田は、父親の迎えの車
が【迎えって言っても、
あの世行きの車じゃない
よ。あしからず（…）】

来る前にといい、

朝早くに起きて、父親と
母親に、小野寺の事を
泣きながら正直に話した

父親は、何も言わずに、
母親に、後の事を頼み
迎えの車が、来たので、
会社へ行ってしまった。

母親は、『ちよつと、
待っててね』と言って、
部屋を出て行った。

しばらくして、戻って
来た母親は『はい、これ
来月分の、お小遣いよ。』

言っとくけど、来月は、
お小遣なしよ。』

《西田》うん、

わかつてる。ありがと。
ママ…俺も、そろそろ、
ちゃんとしなきゃな…。

《母親》 そうね、何にも
言わないけど、お父様
はね…あなたに、会社を
継いでもらいたいと
思っているのよ。

すぐにとは、言わないけ
ど、今度、お父様と、
ゆっくり話してみたら？

(…)(…)
母親は、静かに部屋を、
出て行った。にしても…
ママって呼んでるんだね

西田は、見た目…格闘技
でも、やるかのように
見えるから、イメージが
合わないよね(…)(…)

それから、西田は、
急いで、段ボールに、
家の、ストック棚にある
めっちゃ高級な米を入れた

そして、急いで、自分の

部屋に行き、手紙を
書いたんだ…。(。。(

短い手紙だったけど、
あれでも…5回、書き
直したんだよ…。(；(…

早く起きたのにも
関わらず、小野寺の家
に行くのが遅くなったのは
手紙を書くのに時間が、
かかったからなんだよ。

1番、最初に書いた
文章なんて、笑えるよ。

いきなり出だしが、
『我が愛する友よ』…
だって…(^ #)ぷつ。

ん、西田も、これは、
さすがに、書いてて
恥ずかしかったみたいで
やめたんだけどね…。

そして…5回も書き直し
た手紙が、あれだったん
だよ…。(。。(；(”

あ、ちなみに、あの可愛

い封筒と、使せん…、
お母さんにでも、
もらったのかな？と思う
でしょ？違うんだよ。

実はね…西田の、
趣味なんだ(; ;) 〃

西田はね、小さい時から
可愛い物が大好きで、

西田の机の中には可愛い
シールや、ノートなんか
が、たくさん入ってるん
だよ(; ;)ん…

マンガもね、少年マンガ
よりも、少女マンガの方
が好きだしね(; ;)…

この封筒と使せん
セットは、その中でも。
1番の、お気に入り
物だったんだよ(#)

そして手紙も、ようやく
書き終わり、重たい
段ボールを、車の、
トランクに入れようと、
持とうとしたが…

西田は、ごつい見た目とは違い、力が無いんだよ

うんこらしよつと…と、
運んでいると、西田の
母親が、サッと来て、

軽々と段ボールを持って
トランクの中に入れ…、
ササササササつと
ゴキブリの様に家の中へ
入って行った（…；）

西田は、ア然として見て
いた（。。；）あう。

西田の母親は、ごつつい
西田とは違い…

ヒョウ柄じゃなくて…
小柄で、細くて、見た目
お嬢様育ちの、何も出来
ない人に見えるんだよ。

父親に対しても逆らわず
に、何でも、ハイハイと
聞くつてな、イメージ
だったんだ。

西田は、それが嫌で、
なんとなく今まで、
反抗的だったんだけど…

実は、この母親、お嬢様
どころか、元ヤンなんだ

ヤンキー時代は、めっちゃ
ケンカが強くて、硬派で
かつこよかつたんだよ
もちろん、西田は、
そんな事、知らないけど
ね…（…；）

そして、準備万端…
小野寺の家に向かったっ
て訳さ。（^ ^）

ところでさ、さちこさん
これから、そこらへん
散歩に…って、あれ？
さち子、居ない…どこ？

小野寺の、バイト先にて
も行ったのかな？
と思って、行ってみたん
だけど、居なかつたんだ
よね…（；。；）うう…

どこ行つたんだろ…？
あと…少ししか、一緒に
いられないってのにさ…

なんで、僕に声かけてく
れないかなあ（；。；）

………

あ、そういえば、最近…
コインと顔、会わして
ないなあ…と思い、

小野寺の部屋にいる、
インコの、コインに久し
ぶりに会いに行つたんだ
コイン元気かな（　　）

コインは、前から少し、
なまつてただけど、
ちよつと会わないうちに
なまりが、ひどくなつて
るような気がするんだけ
ど…（>。<）”

《コイン》 あんれまあゝ
ひっさすいぶりだんなあ

おめえ、どごさ行つてた
んだがや、世田谷…

だめでねがつ！家ば、
ほったらがすいにすいで

あぎんす「空き巣」でも
入ったら、どうすんだが
ばがやるがあ（　　）

ま、俺が居るがらな、
大丈夫だけんどもよ…。

おい、緑！今日、ほれ！
天気いつす「いいし」よ

たまにいはよ、
ふんだり「2人」で、
空でも、飛んでいよ、
散歩でも、するっぺや！

ほれ、はやく窓あげれ！
ほれほれほれ、はやく！
早く、あげれってばよ！

（　　）はいはいはい（汗）
そりゃあ、僕は緑色して
ますよ…してますけど、
緑って、緑っ…（　　）

まままま、そんな事は、
どうでもいいです…はい

ん、前にも言ったけど、
コインは、口は悪いけど

めっちゃ、いい鳥「ヤツ」
なんで…（# #）

1カ月前だったかな…
僕が、風邪ひいて寝てた
らさ、部屋に来てくれて
カラスの黒ちゃんから、
借りたとゆう、真つ黒な
エプロンして、

手とゆうか、足？…と
クチバシと羽を、器用に
使って、おかゆを作って
くれたんだ）。#（

ん、でもね、おかゆの中
に、鳥の餌みたいなのが
ちよつと浮いてたけど…

でもま、身体に悪いもん
ではないからさ、気にし
ないで食べたけどね…。

それから風邪が治るまで
ずっと面倒みてくれたん

だ。感謝してるんだ。

だから、少し位の事は、
許せちゃうんだよね。

んでね…あんまり、
コインが、外へ出たがる
からさ、僕…身体を
小さくして、コインと、
空の散歩へ出掛けたんだ

ああ、ホントに、天気
よくて、気持ちいい！
＼(#^ ^#)/

《コイン》 あんやあ〜！
きんもずい「気持ち」
ええなあ〜(´・`#)

あ、そういえばな、
おめえにいいよ、カッパ
みてえな客、来でだど。
マキって名前だったど。

あれ何よ？おめえの、
ながま「仲間」が？
それとも、妖怪があ？

俺よ…悪いど思ったんだ
けんどもよ、頭に皿、

乗っかってんだべか？
と思っでよ、気ん付が
れないようにいよ、

ツラ〜「チラ」っつと、
見てみだらよ、おめえ、
カツパハゲだっぺよっ！

どうせ、カツパに見えん
だからよ、皿乗せどげば
いいのにいな（><）

そすたら、ハゲ…目立た
なくなるっぺや！

おめえ、ともだずいなら
教えでやれえ（・・）

（…）ん、やつぱり、
みんな…同じ事、思っん
だね。実は、マキちゃん
ハゲ隠すのに、皿乗せた
事あるんだ…。

名前は女の子みたいだ
けど、マキちゃんは、
男の子だよ（・・）

でも…カツパに似てるっ
てゆうだけで、カツパ

じゃないから、皿を乗せても、滑り落ちちゃうんだよ(; ;) …

皿を落とさないで歩けるようにって…すっごい、練習したんだけどね…

49枚も、皿割っちゃつてさ、マキの、お母さんも、さっすがに切れちゃつてね『いい加減にしなさい!』って言うって、家中の皿、全部隠しちゃつたんだ(、。、#) //

ん…49枚、割っても、まだ隠す皿があるなんてある意味すごいよね…。

だから、マキちゃん、今度は、プラスチックの皿で練習したんだけどね軽すぎて…ちよつとでも風吹いたら、ヒラッって落ちちゃうんだって…。

飛ばされないようにってプラスチックの皿の

両端に、穴開けて…
ゴムヒモ付けたり、
色々試してみただけど
やっぱり、ダメだった
らしいんだ(> 。 <)ゞ

1度なんて、接着力の強
い、アロンア○フアで、
くっつけたら、頭かぶれ
ちやってね、更に、ハゲ
が、ひどくなっちゃった
んだよ(> < ;) あらら

それからは、女性用の、
ヘアピース？みたいな
のを、かぶってるんだけど

それすらも、片方の留め
てある、ピンが外れてて

髪の毛の髪飾りかよっ！
ってな感じでさ、横に、
ぶら下がってるんだよね

ん、だからね…結局、
何もしない方がいーと
思うんだけどさ…。

でも、中々…そんな事、
本人には直接、言えない

もんだしね…(…;))

《コイン》そつがあゝ、
カッパ巻きも、苦勞すい
でんだなあ…がわいそう
にいな(> <)ゝ

あ、いいごと思いついだ
油性マジックでよ、
ハゲんとこ、塗り潰せば
いいんでねが() (

(…)(…ん、カッパ巻きじ
やなくて、カッパ似の
マキちゃんですけどね。

でも…その油性マジック
で、塗りつぶすってのは
いい、アイデアだよね！

今度、マキちゃんに会っ
たら、教えてあげようつ
と(^ #) /

《コイン》あんれえゝ、
あすご「あそこ」の、
ベンツ「ベンチ」にい
座っでる、べっぴんさん

たぐや「たくや」の部屋

にい、来だごどあるんで
ねがな？（。。。）

俺のよお、顔見だらよ、
くしゃみすいでよ、
すいっつれい「失礼」な
オナゴ「女」でいなあ、

ま、きれい「キレイ」
だから、許すけどもよ
（＃＾　＾＃）

（。。）あ、ホントだ！
さち子だ（＃　　＃）

つて…え？コインは、
さち子の事、見えるの？

《コイン》あつたりめえ
だべよ、おめえの事だつ
て、見えんだがらよ。

俺だけじゃなくで、
俺ら…鳥だぢいはよ、
みんな見えるんでねが？

カラスの黒つやんだつで
鳩の、はつつあんだつで
スズメの、スーさんだつ
で、みんな見えでるど。

とんごころでいよ、

あぬお、べっぴんさんの
となり「隣」にい居る、
ウド鈴木みだいな、

おやんず「オヤジ」は、
誰よ？緑、おめえ、すっ
て「知って」んのが？

（ ） ううん…知らない

さち子、何も言わないで
出掛けたと思ったら…、
なんで、あんな男の側に
いるんだよ…（ ）

僕、気になって、さち子
の過去を『カシコモ』の
ケータイで見してみたんだ

ん、この男は、さち子が
勤めていた会社の、2才
年上の先輩の、桂木って
ゆう男だね…（ ）

さち子、イキイキして、
仕事してるよ。席も桂木
の隣だし（ ）ちっ

にしても…さち子は…、

桂木先輩が、好きだったんだなあ〜(。。(。…

告白する前に、死んじやったんだね…(。(。(。そっかあ…さち子には、好きな男が、いたのか。

でも、この桂木先輩って若い時から、ウド鈴木にそっくりだったんだね。

さち子は、顔で選ばないってゆーのが、よおく、わかったわ…(。(。(。

《コイン》なににいよ、緑おめえ、あの、さずい子って、べっぴんさんの事すぎ「好き」なのが？

(。(。(ち、ちがうよ…。

《コイン》ちがうよっておめえ、緑色の顔が、真っ赤にい、なってるでねが…(。(。(。

おめえも、わがりやすいやづだなあ〜(。(。(。

どうすんべ？あど「後」
づけでみるが？

（…）いや…僕、帰る。

《コイン》カエルだけに
帰るっであ（　　）

（…）（　　）。　　（　　）う

《コイン》ありやりや…
なに、おめえ？泣いで
んのが？元気出せっで。

ウド鈴木の事は、すぎだ
なんてのは、んなもの…
むがす「昔」の話だべよ

今、好きだとは、かぎら
ないっぺ。ま、あれだな

今日のところはよ、
帰るっぺか。俺も何だが
づがれ「疲れ」だしな。

（…）ん…、そして、
僕達は、小野寺の部屋に
戻ったんだ。僕、思った
んだけどさ、さち子、

辛かったんだと思うんだ

恋愛だって、結婚だって
したかっただらうし…
子供だって欲しかっただ
らうしさ…それが突然
24才の若さで、何も
出来ずに死んじゃって…

それなのに、自分を、
死なせた男を怨まずに、
許しちゃうなんて…
しかも今じゃ、あの世で
茶飲み友達だってさ…。

さち子ってさ…どこまで
人がいーんだろね。
ホント…お人よし過ぎる
にも程があるよ(；；)

小野寺の守護霊の事、
言えないじゃんかね。

《コイン》おめえはよ、
さずい子「さち子」の、
そんな所が、すぎなんだ
べよ(# 、 #)

にすいでもよ…さずい子
って、天かすみだいな、

オナゴだな（　　）

とんごろでよ、さずい子
つて、いんだい「一体」
なぬもんの「何者」だ？

（　　）…？

（…）ん、天かす…
じゃなくて、天使つて、
言いたかったんだね…。

僕、さち子の事、わかつ
てほしくてさ、一生懸命
話したら、話し終わる頃
にはもう、夕方だね…
外も、薄暗くなつててさ

それなのに、こんな僕の
話を、飽きもせず、
コインは、パツチリと
目を開けて、真剣に聞い
てくれてるんだ。

やっぱりさ、持つべきも
のは友達だよな（　　）
コイン、ありがと…。

そしたらね…いっきなり
コインが、止まり木から

バサ、バサツ、バサア！
つて、落っこちて、
あお向けになっちゃった
んだ(。。(。)"

びっくりして、トリカゴ
見に行ったら…

《コイン》ぐびっびい〜
ぐびい() Z Z Z
ぐぐぐぐっ…ぴいい〜Z

(。)(ん、寝てる……？
でも…目は、パツチリ
開いてるのになあ……？

あ、こいつう、パツチリ
おめめの絵が描いてある
トリ用の、アイマスク、
してるよ…。(。)"

ん、でも、アイマスク…
ちょっと、面白いかも…
うっけるう〜(。)"

…ふっ…

コイン…僕の話、聞いて
くれてると思ってたら、
寝てたんだね…()

落ちても、気付かない位
がつつり眠ってるし…。

あゝあ、さち子、早く帰
つて帰っこないかなあ…

……はあ……

《さち子》ただいまあゝ
カエルちゃ〜ん（　　）
どこにいるの〜お！

（　　）あ、さち子だあ！
やっと、帰ってきたあゝ

……

《コイン》あんやあゝ、
やっど、出てったでやゝ
づんかれ「疲れ」だあゝ

さずい子つて誰よ？つて
聞いただけなのにいよゝ

まああゝ、ごんなにいゝ、
はなす「話」長くなるど
は、思わながつたなや。

せどどど…ゆっぐりじじじ

鳥の本でも見るどするっ
ぺがなあ（　　）

あんやあゝ、この、
カナリヤつあん、ベツピ
ンだなやあ（＃＃）

あらららかわしずか…
ごっぢの、九官鳥つあん
は、スタイルいんでねが

（…）…ん、僕は、見て
しまった…（　　）

にしても、鳥の、グラビ
ア雑誌があるなんて、
初めて知ったわ（…）

ま、いつか！それよりも
さっち子、さち子お
＼（＃＾＾）／

おつかえりいゝ
もゝ、さち子さんったら
どこに行ってたのお？
何にも言わないで出掛け
たら、心配するじゃん！
…（　　）＃（ぶうっ！

《さち子》《ごめんごめん

ちよつと、逢いたい人が
いたから、逢いに行つて
来たの（ # ）ふふ

（ ）何が、ふふ…だよ
桂木に会いに行つてた
くせに（ ）ふん！

《さち子》ねえねえ、
カエルちゃん…、たくち
やんと、ミキちゃんつて
どう思う？（ ）。

あの2人、結構お似合い
だと思わない？（ ）

ミキちゃんが、たくちや
んと付き合つてくれたら
とゆうか、結婚してくれ
たら、私、安心して天国
へ帰れるんだけどなあ。

（ ）ん、どうだろ？
ミキには、ケンとゆう
彼氏？が、いるからね。

《さち子》ああ、そつか
ケンちゃんねえ…あんな
超イケメンが傍に居たら
たくちちゃんも、齒が立た

ないよね… (><)

(…) え？うっそ！あの南〇キャンデイズの山ちゃんが眼鏡を外した時のような顔の、ケンがイケメンだって？しかもカッコイイってええ？

ん、顔で選ばない、とかじゃなくて…

さち子や、ミキにとってはこの、たぐいの顔がイケメンなんだね…。

《さち子》でもね、

ケンちゃんは、幽霊なんだよね…。出来れば、成仏させて、私と一緒に天国へ連れて行きたいと思うんだけどね…。

ミキちゃんにとっても、本当は、その方がいいと思うんだけど(´、；)

(…) ん、僕…今まで、そんな事、全然、気にしてなかったんだけど、

言われてみたら、そうだよね。いくら好きでも、ケンは、幽霊だもんね。

そしたら僕、ケンの事がめっちゃめっちゃ、気になっちゃってさ、得意の、

『カシコモ』のケータイで、ケンの過去を見てみたんだ…(。。)

『シユガー』がある場所はね、その昔…とつても立派な、お屋敷が建ってたんだ。

ケンは、その、お屋敷の1人息子で、いわゆる、お坊ちゃまだったんだ。

どうみても、お坊ちゃまには見えないけどね…。

その、お屋敷がね、ある日、何者かによって放火され、火事になってしまったんだ(…;))

お屋敷に居た両親や執事
住み込みの家政婦さん達

や、シエフ、ペットの鳥
や猫達は、みんな逃げて
無事だった。

ただ… 1人、ケンだけは
爆睡してて、火事に気付
かずに、そのまま寝てた
んだ。そして、起きたら
お屋敷に1人、取り残さ
れていたんだ。

とゆうより、ホントはね
屋敷は全焼してしまっ
たんだ。そう、ケンは、
眠ったまま焼け死んでし
まったんだよ… (;)

そして、ケンは、何十年
もの間、自分が死んだ事
に気付かずに、その場所
で… 1人、さ迷い続けて
いたんだよ…。

それから、マンション
や、ビル等、色々な、
業者が建物を建てようと
したんだけど、あまりに
も、怪奇現象が多すぎて

その場所は、いつの間に

か、呪われた土地として
噂になり、誰も寄り付か
なくなつたんだ(…；)

もちろん、ケンの仕業な
んだけどね(…；)

ま、ケンのする事だから
怪奇現象といつても、

職人さん達が、弁当を
食べてる時に近くで臭い
オナラをしたり、ホッペ
を、ツンツンしたり、
肩を、トントンしたり、

耳に息を吹きかけたり…
とかね…。1番ひどい
いたずらはね、ペンキを
ばらまいたり、ラップ音
を鳴らしたりぐらいかな

でもね、ペンキを、ばら
まいた時は、さすがに
ケンも…悪い事したなと
思つて、一緒に、掃除を
手伝つたんだつて。

でも職人さん達にしたら
バッチバッチと、大きな

音がして、雑巾が勝手に動いてたら、驚くよね。

なんか：死に方も、ケンらしいけど、驚かせ方もケンらしいよね（…；）

でもね：不思議なのは、
『シュガー』なんだ。

『カシコモ』の携帯では8年前に『シュガー』がいつの間にか、この場所に現れてるんだよ（驚）

何回、ケータイを見直しても、8年前の、その時になると画面が、ザーッと砂嵐みたいになって…

映ったと思ったら、すでに、『シュガー』が、その場所にあるんだ。
ん、不思議だよね…。

《さち子》カエルちゃん
私ちよつと、ミキちゃんの所に行つてくるね。

（…）（僕も行くう）（…）

《さち子》ダメよあゝ！
女どつしの、秘密の話が
あるんだから）。（

それじゃあね、行ってき
まあゝす…（#^）

（…）あゝあ、さち子
また出掛けちゃった…。

ん…仕方ない、今日は、
人間の姿で『シユガー』
に行こうかな。

昨日の、お礼も言つてな
いしね（…）

それから僕は、
『シユガー』の店の前
まで行って、いつものよ
うに店の横の細い小路に
入り、二階堂光一に変身
して入って行ったんだ。

まだ客は、誰も居なかつ
た。ミキは、さち子が
遊びに行つちやっただから
今日は来ないみたいだし

ケンは、ミキが来ない時

は、ミキが、いつも座っている席に座っているんだ。だから僕は、ケンの隣に座って…

まずは、マスターと、けい子ママに昨日の、お礼を言うてから、

8年前の『シュガー』が出来た、いきさつを聞こうと思ったんだけど…
…聞けなかった…

そしたらね、マスターが僕の大好きな、オムライスを作ってくれたんだ。僕、お腹空いてたから、めっちゃ嬉しくて

『エルカ、感激い！』
つて、思わず叫んじゃった…(# #)ノ

みんなに、大爆笑されちゃった(# #)えへ

僕、オムライスを食べながら思ったんだ。

こんな…いいマスターや
けい子ママの店だもん…
8年前に何があったかな
んて関係ないよね。
今が大事なんだよね…。

そこへ、あの、プチ常連
の小林が、上司を連れて
やって来た。

《小林》マスター、ママ
紹介します。僕の尊敬す
る上司の桂木部長です。

部長、ここが僕の隠れ家
とゆうか…唯一、落ち着
ける店なんですよ。

本当は誰にも教えたくな
いんですけど、桂木部長
だけは絶対、1度連れて
来たかったんですよ。

《桂木》どうも、初めま
して、桂木と申します。
いつも小林が、お世話に
なってます。これからも
面倒みてやって下さい。

(…)(うわわっ)(驚!)

か、桂木だよ(。°。°) //
しかも、ひとつ空けて、
僕の横に座ったよ(汗)

時間が経ち、小林は結構
酔っ払って、いつの間
か、桂木部長の事も、
ほったらかしにして、
1人で、カラオケを始め
てしまった(#)

そして、あの…あの、
ど下手くそな歌を、歌い
始めた…(、 ;) げ

桂木は苦笑いをしながら
僕に、声をかけてきた。

《桂木》 すいません…、
お聞き苦しいとは思いま
すが、我慢して聞いて
やって下さい(、 ;) (

《() () 二階堂》
いえいえ、慣れてますか
ら大丈夫ですよ() (

そして、しばらく桂木と
たわいのない話をした後

僕は思いきって、さち子の事を聞いてみたんだ。

() () あのお、桂木さん
24年前に亡くなった、
さち子さんって女性の事
覚えてますか？

《桂木》 さち子さん…？
もしかして、あの、マド
ンナの、さっちゃん？

もちろん覚えてますよ。
覚えてるどころか、私ね
さっちゃんに憧れてたん
ですよ (# . #)

さっちゃんは、キレイで
優しく、男性社員にも
女性社員にも人気があっ
て…僕みたいなの、冴えな
い男にも優しく接してく
れてね… (. .)

実はね、私、あの事故が
あった日…ダメもとで、
さっちゃんを、食事に誘
おうと思ってたんですよ
でも、いざとなると中々

切り出せなくてね…。

…あの時、勇気を出して
さっちゃんを食事に誘っ
てたら、さっちゃんは
死ななくて済んだのにと
思うと、ツラくてね…。

《（…）心の声》

そうだったんだあ…。

2人は両思いだったのか

《桂木》ところで、あな
たは、どうして、さっち
やんの事、知ってるんで
すか？

《（…）二階堂》

あ、はい、ちよっと、
母親から、さち子さんの
話を聞いた事があるんで

僕は、焦って、とつさに
嘘をついてしまった（汗

あ、あのですね…（汗）
僕の母親と、さち子さん
は、幼なじみで、社会人
になってからも、家が
近所とゆう事もあって、

仕事の事とかも、よく話してみたいなんです。

母の話によると、さち子さんには、大好きな憧れの先輩が、いたらしいんですよ（　　）。

母は、しょっちゅう、その憧れの先輩の話を、耳に、タコができる位、聞かされてて、今でも鮮明に覚えてるらしいんですよ（　　；　　）

で、たまたま、この間、母が、アルバムを見ながら…また、その話をしてたんで、その憧れの先輩ってゆう人の名前を、聞いてみたんですよ。

その憧れの先輩の名前ってゆうのがですね…実は桂木ってゆう名前だったんですよ。

だから、もしかして？と思って聞いてみたんです

けど…ホント、偶然とゆ
うか、世間って狭いです
よね…（><）

《桂木》……………。

そ、そうなんですかあ…

さっちゃんが…あの、

さっちゃんが、こんな私
に憧れてくれてたなんて
嘘みたいですよ…。

さっちゃんは、私なんか
には手の届かない、

遠い存在だと思ってまし
たし、相手になんかされ
ないと思ってましたから

あゝあ、でも…なんで、
あの時、言えなかったの
かなあ…（；；）うつ…

ご飯、食べに行かない？
って、ひと言…言えてれ
ば、さっちゃんは死なず
に済んだのになあ（泣）

《（）（）二階堂》

桂木さんは、さち子さん
に逢いたいと思います？

《桂木》ええ、もちろん
逢えるもんなら、逢いた
いですよ（><）

実はね、私、さっちゃん
と、2人で写った写真が
1枚だけあるんですよ。

うちの、カミさんには、
内緒でね、亡くなった、
お袋が作ってくれた形見
の、お守りに入れてある
んです。私の宝物なんで
すよ（#。#）

財布とか手帳だと、
カミさんに、見つかつち
やいますからね（><）

（…）ん、僕：桂木とは
恋の、ライバルになるけ
ど、さち子が天国へ帰っ
ちやう前に、ひと目だけ
でも、逢わせてあげたい
な…と思っちゃった…。

ま、どうなるかは、わか
んないけどね、一応…
桂木には、電話番号を、

聞いておいたんだ（…）

しばらくして、ぐでんぐでんになった小林を、かかえて、桂木は、帰って行った。

そして結局…ミキは、その日『シュガー』には来なかったんだ。

ケンは、寂しそうな顔をして、ちよつと、キザな感じで、斜めになりながら、ウイスキーを飲み、オナラをした…（　　）く、臭つ（　>。　<）”

その、あまりの臭さに耐え切れずに…ま、時間も時間だったので、僕は急いで立ち上がり店を出た…（x。x）お、おえ〜

そして…すぐに、エルカに戻り、歩くのは、しんどいので、ゆっくりと、飛びながら帰って行った

小野寺の家に着くと、

小野寺家の、みんなと
守護霊達は、すでに寝て
いた（　　）zzz…

さち子…、戻ってきてる
のかな？と思つて、1番
奥の部屋も見てみたけど
まだみたい…（；。；）

僕は小野寺の部屋に行き
小野寺と、コインの、
イビキを聞きながら、
自分の、ルームに入った

郵便受けには、マキちゃ
んからの手紙が、入って
いた（　　）

マキちゃんは、ハゲだけ
ど…妖精界では、スタイ
リストの仕事をしてるん
だよ（　　）

小さいけど『MAKIE』
つてゆう自分の洋服店も
やってるんだ（　　）

中を見てみると…

ん、なに、なに…？

フード付の、カッコイイ

ジャージが新作で、でたので、着てみませんか？
…だって（、、）

お、写真も入ってる

……………

ん、カツコイイって言うから、期待してたんだけどね…今、着てる緑の、ジャージに、フードが付いただけだよね…。

ま、でも…せつかく、訪ねて来てくれたんだから、2枚位…買おうかな（。、）

ん、今日はもう遅いし、明日にでも、マキちゃんところに、顔出して来ようつと。しばらく帰ってないしね…（…、）

ちなみに、妖精界へはねいつも首から、ぶら下げてる、この、ペンダントの、フタを開けて、中にある、ボタンを押すと、

行けるんだよん（ ）

その、ボタンを押す時に
行きたい場所を言つと、
その場所へ行けるんだ。

さてと…さち子も今日は
帰って来ないみたいだし
もう寝ようつと…。

次の日…僕は早起きして
マキちゃんちへ行つたよ

ピンポーン 「呼鈴押」

《マキ》はあゝい（ ）
あらら、エルカちゃん！
何い？わざわざ来てくれ
たのおゝ、ありがとうおゝ

入って入って（ ）
僕、おととい、エルカち
ゃんちへ行つたんだよ。

なんか、門番みたいな、
変な鳥が居てさ、ジイ
つと僕の事、見つめてる
からさ…泥棒に間違われ
たら、イヤだなと思つて

エルカちゃんに持って行った、かぼちゃプリンをあげたんだ（　　）

そしたら、お返しに……これ、もらったんだ。

鳥の本なんだけど、はつきりいって、僕……あんまり、興味ないんだよね（　>　<　）　”

棄てるのも忍びないんで申し訳ないんだけど、エルカちゃんから返しといてもらえるかな。

（　　）ん、いいよ。にしても……コインの奴うかぼちゃプリンの事、何も言っただけだったよな

あ、ところでさ、新作のジャージを見せてよ（　　）今日、買って行くからさ

《マキ》あら、そお～おありがとぉ～、これなんだけどね……ホラ、このフード、可愛いでしょ

あ、今度…、ネームは、
左胸のどこじゃなくて、
腕のところに付けといた
からね（　　）

その方が、カツコイイと
思ってたさ（　　）

（　　）ん、カツコイイつ
て、ネームの付ける位置
の事だったんだね…。

ま、でも、写真で見ると
りも、グリーンの色が、
若干、明るくて、いいか
も…（　　）b

おまけに、グリーンその他
に、色違いで、黄色や赤
ブラックなんかもあった
んで…僕、全部1枚づつ
買った（　　）

そして、しばらく、マキ
ちゃんと世間話をして、

ネームが付いてある、
グリーンの、ジャージだ
け持って、自分の部屋に

戻ったんだ。

もう、昼だとゆうのに、
さち子はまだ、帰って
なかったよ…（；。；）

そうだよね…さち子は、
目的があつて、この世界
に来てるんだから、何の
関係もない僕なんか…
どうでもいいんだよね。

あと、3日しかないのに
なあ…（；；；）あ…あ…

あ、そうだ、さち子の、
最後の日は『シュガー』
で、送別会したらどうだ
ろ？今日の夜にでも、
マスターと、ママに相談
しに行つてこようつと。

それまで、僕は、自分の
部屋で、久しぶりに
妖精界の、テレビ番組の
『ヤマネ屋』とゆう番組
を観ていたんだ（　　）

今年の妖精界は、妖王様
が、200年ぶりに替わ

つて、大盛り上がりなんだ。人間界でゆう、総理大臣みたいなもんだよ。

にしても…この、

『ヤマネ屋』の山根さんは、イケメンでさ、

妖精界では、子供からおばあちゃんまでと、幅広い層から、人気があつて…今、何気に旬なんだよ（。b

……………

僕さ、テレビを観ながらいつの間にか…眠っちゃつたんだね（^）（^

目が覚めたら、もう、5時過ぎてたよ（…；）

僕、急いで、支度して、部屋を出たら、コインはまだ…あの、鳥の雑誌を見ていた。ん、どんだけ好きなんだかね（（

6【くわかれ】後

小野寺は、バイトに行っていて、居なかった。

僕は、食い入るように鳥の、グラビア雑誌を見ている、コインに気付かれないように、コソコソと、マキちゃんから預かった本を置いて下に降りて行った（．．）しー

さち子は、帰ってなかったよ。ミキの所にでも、泊まったのかなあ…？

もしかしたら…、
『シユガー』に、来るかもしれないなあ（…；）

なんて…少しの期待を、持ちながら…僕は、一旦自分の、ルームに戻って

いつも、マスターに、夕ご飯を、ご馳走になる

のは申し訳ないので、

今日は、妖精界から持ってきた、お気に入りのカップうどんを食べた。

ううーん、やっぱり、

この…月清の、豚兵衛のうどんは、美味しい！

この、おダシと、お揚げが、いいんだよねえー
うんまっ（ # ）

そして、シャワーを浴びて、『シュガー』に向かった。（ ）

シャワーで、シュガー…
な〜んつつてな（ ）

いつものように店の横の小路で、二階堂光一に変身して、開店時間にはちょっと早いけど、中に入った（…；）

すると、まだ開店時間の9分前なのに、すでに、ミキは、一番奥の席に座

っていた…。

いつも思っただけど、
ミキって、一体、何時か
ら来てるんだろね？

にしても、守護霊の人達
あれから、1度も見かけ
てないんだけど、どうし
てなんだろ？（…；）

そして、さち子の姿を捜
してみた。ん、さち子は
居なかった…（；。；）

すると、ケンが…

《ケン》いらっしや〜い
昨日は、どうしたの？
青い顔して、帰ったから
心配したよお（><）

《（…）二階堂》……
お前の、オナラが臭いか
らだよ（…）

《ケン》え？何？

《（…）二階堂》
うううん…（…）

何も言っていないよ(汗)
昨日は、ちよつと急な
用事思い出しちゃって…

挨拶もしないで帰っちゃ
って、めんご()>()<()〃

あ、ところで、ミキさん
ちに、さち子さん、行き
ませんでしたか?()…()

《ミキ》ええ、来ました
泊まってもいきましたけ
ど…今日の、お昼頃には
帰りましたよ()。()

《()…()二階堂》

はあ、そうなんですか

僕…、さち子の事が心配
になって…今、どこに
居るのか『カシコモ』の
ケータイで見てみた。

さち子は、今は幽霊だけ
ど、元は人間なので、
人間で、セットして、

見たい時間は、今現在に
してつと…()…()、

ん、さち子…また、桂木の
のどこに行ってたんか…
残業している桂木の横に
立って、愛おしそうな顔
で、桂木を見てるよ。

そんなに…そんなに、
桂木の事が好きなのか…

《ミキ》あ、二階堂さん
今、みんな話してたん
ですけど…明後日の、
さち子さんの最後の日、
ここで、送別会しません
か？（ ）。 （

もちろん、小野寺君にも
来てもらって（ ）。 （ね

《（ ）（ ）二階堂》はい！
実は、僕も同じ事、考え
てたんですよ（ ） （

あとですね…さち子さん
の憧れの先輩だった、

ほら、この間、小林君が
連れて来た桂木部長さん

なんですけど…あの方も呼んでいいでしょうか？

『もつちろん』()

ミキとケン、マスター、ママは、声を揃えて、言ってくれた。

ん、みんな…ありがと。

《マスター》その日は、店、貸し切りにするんで小野寺君の、お母さん…つてゆーか、さち子さんの、お姉さんも呼んだらどうだろ？()。

《()二階堂》ああ〜そお〜ですよね…。

ん、僕…マスターに言われるまで全然、思いつかなかったよ()>()

そうだよね…姉妹だもんね。お姉さんだもんね…

それから、38分程度、みんなで、さち子の送別会の打ち合わせをした。

小野寺と、小野寺の母親の方は、マスターと、けい子ママ、ミキが連絡を取ってくれるとゆうので、僕は、桂木を明後日店に連れてくる事を約束した（…；）

そして、速攻で帰った。小野寺の家に着いたのはまだ、8時前だった。

さち子は、どうせまだ…帰ってないんだろっなあと…思ってたら…

さち子も、ちょうど、帰って来たところだった

わぁ〜い〜（…）
さち子、帰ってきたあ

ねえねえ、さち子さん、あのね、天国へ帰っちゃう、最後の日にね、

『シュガー』で、送別会やるうって事になったんだけど…さち子さん、

来れるよね？（。）。（

《さち子》 シュガーに？
あ、でも…（。。。）`

（。）。ん、大丈夫だよ！
ちゃんと、桂木先輩にも
来てもらうし、さち子さ
んの、お姉さんにも来て
もらうようにするから！
もちろん、小野寺もね

《さち子》 カエルちゃん
どうして、桂木先輩の事
知ってるの？（。。。）`

（。）。ん、さち子さんの
事なら、なんでも知って
るよ（。）。 #（えへ。

《さち子》 どうせ、また
『カシコモ』のケータイ
で観てたんでしょ（

じゃあ…、桂木先輩と、
お話、出来るのね…？

（。）。ん、桂木さんと、
お姉さんには、例の…
『幽見キャンディ』舐め

てもらってから大丈夫だよ

にしても…さち子、もつ
と喜んでくれると思った
のになあ…(…;))

なんか、淋しそうだなあ

そっかあ…天国へ帰っち
やうと、桂木に会えなく
なるからなあ…淋しいん
だろうなあ(> <) ”

僕なんか…かないっこな
いよなあ…(;。 ;)

よし！まあ、こうなっ
たら、ハナクソじゃない
ヤケクソだあ〜っ！

さち子の為に、めっちゃ
めっちゃ最高の送別会にな
るように、ガンバルしか
ないっしょ(> <) ヽ

おしー！そうと決まりや、
こうしちやいられないぜ

僕は、愛しの、さち子を
居間に残し、ルームに戻
った(>。 <) ”

ん？ルームに入る時…

コインの視線を感じただけどさ…さすがに今は相手をする時間が無いので、僕は気付かないふりをして、ルームに入った

コイン、ごめんね…。

淋しいかもしれないけど
落ち着くまで、もう少し
待っててね…（人）

《コイン》いやいやいや
出だり、入っだり、世話
すいないヤツだなんやあ

でもよ、へダに声がげだ
らよ、緑のごどだからよ

まあ…だ、はなす「話」
ながぐ「長く」なるべよ

だからよ…すいらんぷり
すいでんだわ（ ）

（ ）僕は、コインが、
そんな事を思ってるなん
て、思いもしないで…

ルームに入つてすぐに、前に聞いておいた、桂木の携帯の番号に電話した

桂木は、帰りのバスを、待っているところだった。

僕は、バス停の場所を聞いて、話があるので、そこで待つてほしいと頼みこみ、急いで、桂木の元へ向かった（><）

こんな…急いでいる時はこれを使うんだ。

『どこでも自転車』ってゆうんだけどね（…；）

ん？どこかで聞いた事あるね。いわゆる、パクリつてやつだね（><）”

ん、この自転車、一見、なんのへんてつもない普通の自転車に見えるでしょ？これがまた、何気に、いい訳さ（・）（V

でも、あっちみたいに

超便利って訳じゃないんだ…(…;)”

自転車の前に付いてる、ハート型の、テレビみたいな物に、行き先を言うと、近いか遠いに関わらず、6分で目的地に着くんだよん(。)(V

ちなみに、妖精界へも、これで行けるんだよ。

妖精界へは、基本、ペンダントを使わなきゃいけないんだけど、ペンダントが見つからないとか、無くした時なんかは、サブとして、この自転車を使うんだ(。(V

ペンダントは、一瞬で行けるけど、自転車は、6分かかるから、みんな嫌がって、なるべく、ペンダントは、無くさない様につて、気をつけるんだよ(＞＜)”

作る側も、それを意図し

て作ってるんだけどね。

それに、ペンダントを無くしたら、高い罰金と始末書を書かなきゃならないんだ(> 。 <) 〃

じゃあ、ペンダントで、バス停まで行けばいいじゃん…って思うでしょ？

でもね…残念な事に、ペンダントは、妖精界と人間界の、行き来だけにしか使えないんだよね。

さてつと、二階堂に変身して…行き先を言つてと

よし、しゅっぱあ〜っ！

ん、6分つて、黙ってる…長く感じるよね？

だからね…この、ハート型の画面には、退屈しないように…今、妖精界で大人気の、お笑い芸人の『ヒロ&ジュン』のショートコントが流れて

いるんだよ（　　）

笑ってるうちに、6分
なんて、あつとゆうまさ

でも、この画面は、自分
で選ぶ事が出来ないの
でお笑いが嫌いな人には、
苦痛だよね（>。<）”

そして、画面の左下には
6分間の砂時計の画像が
映ってて、なんとなく、
時間の経過が解るよう
なってるんだ（　　）v

5秒前になると、こんな
風に、画面いっぱい…
5・4・3・2・1つて
映るんだよ…（　　）。

おお、もう、着くな（汗

僕、本当の事を言うと、
この自転車、コマース
ヤルでは、よく見てるんだ
けど、使うのは初めてな
んだよね（　　）（；）へへ

だからさ、着地の時、

どうなるんだろ？ 転倒し
たりしないよな（><）
なんて心配してたら…

自動的に、自転車が、
バランスをとり、スウ
ット、なんの音も振動も
なく、桂木が座っている
ベンチの斜め後ろに着い
たよ（。　）いーね

ん、桂木…誰も見てない
と思っで、人差し指で、
鼻ほじってるね（…；）

…どうしょっかな（焦）
今、声を、かけるのは、
ちよつと、気まずいよな
あ（…；）と思っ…

僕は、静かに自転車を持
ち上げ、その場から少し
離れた…（；…）そお

そこで、自転車の、
ハート型の画面に向かっ
て、小さな声で『手帳』
と、ささやいた（。^）

するとね、静かに小さく

なつて…ポンっ！と手帳
に変わるんだよ（・）

基本、小さな物なら、
大体は変わるよ。

ボールペンとか、タバコ
ケータイとかね（　）

でも、見た目だけが
変わるだけだから使えな
いけどね。（><）”

そして、手帳に変えた
自転車を胸ポケットに
入れ、なにくわぬ顔で、

しらじらしく、さも今、
来たかのように、鼻を、
ほじってる桂木に声を
掛けた（　　）／

《（　　）二階堂》

桂木さん！すいません。
お待たせしました。

桂木は、右の人差し指を
鼻に、突っ込んだまま、
後ろを、振り返った。

《桂木》え？早っ（驚）
全然、待ってませんよ！
しかし、早いですねえ！

《（…）二階堂》

え、ええ…、たまたま、
用事があつて、近くに、
来てたもんですから。

そして、バス停の、ベン
チで話そうと思つたが、
人が来たので僕と桂木は
近くの公園へ移動した。

その時、僕は見てしまつ
た。桂木が、ベンチから
立ち上がる時、さっき、
ほじっていた鼻クソを、
ベンチに、こすりつける
のを…（…）ん。

そして…公園の、ブラン
コに、まるで、付き合い
はじめたばかりの、恋人
同士のように、ギーコ…
ギーコしながら座つた。

僕、桂木が信じてくれな
くてもいいから、この際
思い切つて全部、話して

みよつと思つてさ)><

さち子が今、こつちの
世界に来てる事や、
明後日の夜には天国へ
帰っちゃう事等を、
正直に話たんだ)。(;

そして、明後日の夜、
『シュガー』に来てほし
いと、ダメモトで、お願
いしてみたんだ…。

桂木は、びつくりした顔
で…固まつてたよ。

………

ん、固まってる時間…
ちよつと、長すぎるね。

そして、固まってる顔…
やっぱり、ウド鈴木に、
そっくりだね)。(;

やや、しばらく経つてか
ら、桂木は、優しい笑顔
で、僕の顔を見つめ、
うんうんと、うなづきな
がら…)(“

《桂木》わかりました。
ちよつと…信じられない
とゆつか、あまりにも、
突飛すぎる話なんで、
驚きましたが…、

二階堂さんの話を、
信じましょう）（

私も、さっちゃんには、
逢いたいですし…。

《（）（）二階堂》

あゝあ、ありがとうござ
います！信じてくれて、
本当に、ありがとうござ
います！（）（）

僕は嬉しくて…思わず、
桂木の手を、両手で握り
しめた（ #）

げ！そういえば、さっき
鼻クソ、ほじってたの、
こっちの手だったよな？

と気付き、僕は何気に、
手を離れた（…；）焦っ

そこへ柄の悪い、男達
3人が声をかけてきた。

よく見ると、なんと、
この前まで、西田に、
たかっていた、あの、
3人の男達だった(驚)

1人は、ナイフを持って
いた。

《桂木》な、何なんだ！
君達はっ！(、。、)〃

《(、)二階堂》
桂木さん、相手にしない
方がいーですよ。
行きましょう…(、；、)

《男A》おおっつと、
帰るんなら…金、置いて
つてもらわないとねえ！

《男B》おらあ、イタ飯
じゃねえ、痛い目に、
あいたくなかったら、
早く…金、出せ！コラ！

《男C》ホラホラア〜！
はやぐ、すいねがあ！

おれだずいば、おごらせ
るど、こわいがんなあ！

(´´) ん？目をつむって
聞いていると、コインが、
そこに居るようだよ…。

すると桂木は《男C》の
かん高い声の、なまりが
ツボに入ったのか、笑い
出してしまう、止まらな
くなくなってしまった(汗)

《男A》おまえ、なんで
しゃべんだよ！黙ってる
って言ったるお(´´)

《男C》そつだらごど
言っただつでよ、オレだつ
で、しゃんべりだいべよ

ごらあ、そのの、
ウドみてえな、鈴木よお

おめえもよ、いづまでも
笑ってんでねえつでえ！

《桂木》ヒイヒイ(笑
わ、私は…す、鈴木じゃ
なくて、桂木ですう(笑

ヒィッヒヒヒィィィ（笑

（…）ん、桂木、ウド鈴木が、またまた、ツボに入り、腹筋が割れる位に笑いすぎて、座りこんでしまった（…）”

《男A》おい、こらあ！早く、金出せよ！出さないと、マジで刺すかな

（…）思わず僕、最初はグー『ジャンケンポン』と言ってしまった（><

すると、3人の男達は、全員、チヨキを出した。

もちろん僕は、グーを出して勝ったよ（…）。（はい、こっちの勝ちね！

と…どさくさに紛れて、帰ろうとしたら《男A》が、ナイフを持って、僕に近づいて来た（…；）

《男A》コノヤロー！ふざけた事、言ってんじ

桂木は「待てえ」と言
つて途中まで、追いか
けたが、僕の事が心配にな
り、すぐ戻って来た。

僕は胸を刺された衝撃で
半分、エルカに戻ってし
まった。ん、スーツを着
たカエルって感じかな。

中途半端に戻ったもんだ
から、桂木に姿、見られ
ちゃったぜ（…；）焦っ

《桂木》大丈夫ですか？
あれ？今、ここに、
男の人が、居たはずなん
ですが、見かけませんで
したか？

（…）か、桂木さん、
ぼ、僕が、二階堂です。

《桂木》ええ（。。）
に、二階堂さん？いつの
間に、こんな、カエルの
着ぐるみ着たんですか？

（…）これ、着ぐるみじ
やないんです。これが、

僕の本当の姿なんです。

と言うと、桂木は豚鼻をグビツて鳴らして、後ろに尻もちをつきながら…

《桂木》に、二階堂さん
つて、よ、妖怪だったん
ですかっ…！（。°。）”

（…）ん、違いますよ！
妖怪ではなく、カエルの
姿をした、『妖精』の、
エルカです（…）ぶ！

《桂木》またまたあゝ！
ホントですかあゝ？

だって…妖精つて、小さ
くて、羽根があつて、
可愛いってゆう、イメ
ージなんですけど…。

（…）ん、可愛いなくな
て、すんまそっ（…）

もちろん、そうゆう妖精
も、いるけど、僕らみた
いなのも、人間そっくり
なのや、あと、花とか、

果物の姿をした者や、
たくさんの仲間がいるん
ですよ…（…；）

《桂木》へえ、そうなん
ですか？あ、ところで
大丈夫ですか？左胸、刺
されたんじゃない？

（…）そう、確かに僕は
胸を刺されたんだけど、
ちよつと胸ポケットに、
『どこでも自転車』を小
さくした手帳を入れてた
ので、助かったんだ。

でも、刺された時は僕、
もう、ダメかなと思って

妖精界から、救急車を呼
ぼうかなと、本気で思っ
ちやつたよ。あゝ、良か
つたあゝ（。。）。

実を言うと…妖精界で
救急車を呼ぶぶんには、
お金は、かからないんだ
けど、妖精界から人間界
に来てもらうとね、高い
お金を取られるんだよ。

そうだなあ〜人間界の、
お金でゆうとね、大体…
13万円位かな(…;))
ねえ？高いでしょお！

保険も、効かないしさ。
ま、分割には出来るけど
ね(…;))

僕は、ホッ…と安心して
立ち上がり、二階堂に
変身し直して、急いで、
『どこでも自転車』が、
壊れてないか点検した。

ん、どこも、なんともな
かった。さすが、清水の
おっさんとこの自転車は
頑丈だなあ…職人技って
やつだなあ(…)ん

この自転車は、2人まで
大丈夫なので、僕は、
桂木を後ろに乗せて、
自宅まで、送り届けた。

ん…桂木は、超笑い上戸
だった。自転車の後ろに
乗ってる間中、『ヒ口&

ジューンの、ショートコ
ントを見て、ヒューヒイ
いって、笑いつぱなしだ
った（　　。　）　”　”　”

今度、桂木の前で箸でも
転がしてみようつと。

そして…無事、家の前ま
で送り届けた。ん？僕、
疲れてんのかなあ？家の
中に入る桂木の後ろ姿が
一瞬、透けて見えたよ。

目を両手で、こすりなが
ら、僕は急いで、さち子
が待つ、小野寺の家に向
かった（　　；　）

さち子さ〜ん（　　）
あれ？さち子、また居な
いよ。もお〜、どこ行っ
たんだよお〜（　　；　）

《さち子》どこ見てんの
よ？カエルちゃん！私は
ここに居るわよ（　　>　<　）

（　　）え？僕は、さち子
の声のする方を見てみた

すると、さち子の姿が、
うつすらと見えてきた。

僕は、思わず、さち子に
抱き着いた（；；；）

なんで、なんでえ〜？
天国へ帰るのは、明後日
なのに、なんで今から
消えるんだよお（；；；）

嫌だ、嫌だあ〜（ ）
僕も、さち子さんと、
一緒に天国に行くう〜！
エ〜ン（ ）。 ）大泣っ

《さち子》あらら、もお
ガマガエルちゃんつたら
子供みたいなんだから。

（ ； ）（ そう言って、
さち子も、僕を抱きしめ
てくれた。ん、さち子も
泣いてたよ…（；；；）

ん、ちなみに…ガマガエ
ルって、間違うのは、
どうか、やめてね…ん。

僕、思い切つて、告白しようと思つて、さち子を見つめたら…

《さち子》ぷぷぷ（笑）
か、カエルちゃん、目がより目になつてるよ（笑）

（…）そう…僕、目の位置が離れてるからさ、どうしても物を見る時、より目になつちゃうんだ

でも、良かったあ。

さち子が笑つてくれて…

僕…もう、それだけでいい…。告白したところで、どうなるもんでもないし、さち子には桂木が居るんだし…告白なんかしたら、さち子を困らせるだけだもんね（…）

僕に出来るのは、笑つて見送る事だけだよな…。

《さち子》カエルちゃん
今日は、私、お姉ちゃんの部屋で寝るね。

あ、それと…明日、朝から、出掛けるから…。
それじゃあね、おやすみなさい)。。

(…ん、おやすみ…。

そっかあ、ゆっくり、桂木に会えるのは、明日と明後日の昼間しかないもんなあ…(…)

…ん、僕も寝ようつと。

小野寺の部屋に行くと、コインが、目を、ぱっちり開けて、こつちを見ていた。何か、僕に言いたいのかな?と思い…

近づいてみると、例の、あの、おめめパッチリのアイマスクだった…。

………

ん、なんか…ツツコミを入れる気力もなく…僕は

ルームに入り、シャワーを浴びて、ベッドに入った（＾）zzz…

翌朝、さち子は、すでに
出掛けていて居なかった

僕は、妖精界へ戻り、
マキちゃんちに行った。

ん？なんか、マキちゃん
雰囲気が違うような…？

（…）ね、マキちゃん、
なんか、いつもの感じと
違うんだけど…（…）

《マキ》ウフ 実はね、
今まで髪…黒かったじゃ
ない！だから頭の、てっ
ぺんの緑ハゲが、目立っ
てたんだと思うんだよね

だから、髪の毛も緑色に
染めてみたのよあゝ

でもね、だあゝれも、
気付かないのよあゝ。

…さすが、エルカちゃん

よねえ〜！（><）
よく気付いたよねえ〜！

（…）ん、気付かなかつ
たんじゃなくて、多分…
回りの人達は、気を使っ
て、気付かないふりをし
てただけだと思っけどね

つてゆうか…マキちゃん
だんだん、話し方が、
おかま言葉になってるよ
ね…（…）はるな愛に
そっくりだよ（>。<）

それから、マキちゃんに
付きあってもらって、

さち子への、プレゼント
を買いに、『フェアリー
商店街』へ出掛けた。

『フェアリー商店街』に
行けば、食品、家電、
寝具、衣類、靴等…
なあんでも揃うんだよ

もちろん、アクセサリ
や、バッグなどの、お店
もあるよ。

僕は昔から両親や友達の
誕生日プレゼントは、
『フェアリー商店街』の
2丁目にある店で買うん
だ（。　）ゝ

『グレイト』ってゆう、
アクセサリー屋さんなん
だけどね（#　）

僕好きな、アクセサリ
ーが、たくさん置いてある
んだ（。　）b

ちょっと見たら、すぐに
気に入ったのが、見つか
ったよん（　　）

この、グリーンの、ブレ
スレットなんだけどさ…

さち子&エルカって、
勝手に、ネームも、入れ
てもらっちゃったさ。

へへ、実はね、お揃いで
僕の間も買ったんだ。

離れてても、この、ブレ

スレットで、さち子と僕は、つながってんだもんね〜（　　）えへっ

それから、マキちゃんの買い物に付きあっただけだ…1つ買うのに、

あっちに行ったり、こっちに行ったり、それはそれは、決めるまでが長くてさ…僕、めっちゃ疲れちゃったよ（><）”

僕の買い物とゆうより、マキちゃんの、買い物に付き合ってたって感じになっちゃったよ…（　；　）

まあね…早く帰っても、さち子、居るわけじゃないから、いーけどね。

そして、少し遅めの、ランチはね…今、妖精界で流行っている、箸で食べる、短麺パスタを食べたよ（　　）

短麺パスタはね、麺の長

さが、4cm位で短いから、ケチャップや、汁系が飛び散らないで行儀よく食べられるってゆー事で、特に女子達に人気があるんだよ（　　）

僕は抹茶クリームパスタ
マキちゃんは、麺に、
ホーレン草が練り込んである、ホーレン草と、
カリカリベーコンの、
パスタを食べたよ…

どうゆう訳か、僕たち、
グリーン色のばかり選ん
じゃうんだよね（　　）

にしても…やっぱ、ポポ
サーレの、パスタは、
まいっう〜（　　）

しばらく、マキちゃんと
ボーズトークをした。

で、最近ちよつと気にな
った事を、マキちゃんに
聞いてみたんだ（　　）

（　　）ねえ、マキちゃん

どうして、『幽見キャン
ディ』舐めてるのに、
さち子の事が見えなくな
ったりするのかな？

《マキ》 ああ、多分…、
人間界に、長く居るから
じゃないかな？説明書に
も書いてあるはずだよ。

(…) ん、説明書を見て
みたら、下の方に小さな
文字で、人間界に長く居
ると、効力が弱まるって
書いてあったよ。

《マキ》でも、その、
さち子さんって人は、
明日には天国へ帰っちゃ
うんでしょ…？

だったら、キャンディと
か関係なく、ホントに、
消えかかっているんじゃな
いの？基本、幽霊さんは
人間さん達には見えない
ようになってるんだから

エルカちゃんだって、
キャンディで見えてるだ

けだからね (><)

(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)

《マキ》もおく、エルカ
ちゃんたら、男の子なん
だから泣かないの！

ほら、涙ふいて (><)

あ、この間、買ってもら
った、ジャージに全部、
ネーム縫い付けといたか
ら、今日、持ってけば？

(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)(…)
そして、マキちゃ
んちに、ジャージを取り
に行つて、すぐ帰ろうと
思っただけど…

フットボールアワーの、
岩尾が、濃いめの化粧を
したつて感じの、マキち
やんの、お母さんが、

とくつても、薄気味悪い
笑顔で、ジャスミン茶を
出してくれたんで、ごち
そうになつちやつた…。

ん、ジャスミン茶、美味

しかったあ（　　）

あまりにも美味しくて、
香りも、よかったから、
ティーパックを少し、
もらって帰ってきちゃっ
た（#　　）

帰って来たら、コインが
ちようど、窓から出て行
くところだった（。。）

いつも、僕が窓を開けて
あげるまで、外には出た
事が無いのに、いつの間
に、自分で開けられるよ
うになっただらろう？

僕は気になって、気付か
れないように、コインの
後をつけてみたんだ。

ん…コイン、2軒隣の、
山本さんちの、カナリア
の、カナちゃんの事を…
ほっぺを、真っ赤にして
窓越しから、目を細めて
ジッと見てるよ（　　）

ん、コイン、カナちゃん

に恋してるんだね…。

ああ、でも、カナちゃんには、ハトの、ハット君ってゆう、彼氏がいるんだよね（><）前に、窓越しに、チューしてるの見かけちゃったもん。

コイン…いつきなり、失恋だね（…；）ん…。

僕は静かに、ルームに戻り、明日着て行く、ジャージを選んだ。

ん…僕、明日は、エルカの姿で、『シユガー』に行こうと思ってるんだ。

どうせ、桂木にも、バレちゃってるしさ、

小野寺にも、そろそろ、正体を明かそうと思ってるんだ。

妖精界の、ルールで、正体を明かしたい人間の前で、1度、正体を明か

すと、その人間だけには
ずっと妖精の姿で見える
ようになるんだ（　　）

僕以外の妖精は、見えな
いけどね。

あ、でも、人間の姿に変
身した時は、ちゃんと人
間の姿に見えるようにな
ってるよ（　　）。　　（　　）

だから、明日は…小野寺
親子に、ちゃんと挨拶し
ようと思ってるんだ。

勝手に壁に、住まわせて
もらってるしさ（　　）><（　　）

ん、明日はこの、黄色の
ジャージにしようつと。

にしても…さち子、今日
は帰ってこないのかな…

僕、『カシコモ』の、
ケータイで見てもよつと
思ったんだけど…

……………

ん、ダメだよな…そんな
ヤボな事は、やめよう。

さち子の事は、ほっとい
てあげよ…(> <)、

僕は、まだ、明るいうち
から、ベットに入った。

明日、さち子と別れると
思うと、後から後から、

よだれ…じゃない、涙が
溢れてきて、止まらなか
った。僕は泣きながら、
いつの間にか、眠りにつ
いてしまっていた。

朝、起きると…鼻水と、
涙と、よだれで、枕が、
ぐっちよりと濡れていた

鏡を見たら…泣きすぎた
せいで…目が、ボンカレ
ー、じゃない…ボンボン
に腫れてるし(;)

僕は、瞼の上に、冷えピ

タピタを、ピタッと貼り階段を降りた。

居間に行ってみると、小野寺と母親のあや子がソファ―に座っていた。

でも…、さち子の姿は、無かった（><）

…小野寺、今日、バイト休んだんだね（…；）

そして、母親の、あや子に、さち子の事を、一生懸命に話していた。

以外にも、あや子は、あまり驚いた様子もなくうなづいていた。

実はね、さち子が、姉のあや子の部屋で寝た時に

あや子の夢枕に立って、2人は話をしたみたいなんだ（　）（　）（　）／

あや子は、小野寺の話を聞くまでは、夢だと思っ

てたらしいんだけど、

小野寺の話聞いて、
現実だったんだと確信し
たみたいだね（…；）

だから、あまり驚かなか
ったんだね…。

でもさ、やっぱり、姉妹
だよな。キャンディなん
か無かったって、そうや
って話せるんだもんね。

僕は、さち子の事が
気になり…何回も何回も
『カシコモ』の、ケータ
イで、確かめようとした
けど…やっぱり見る事は
出来なかった。

さち子も、僕と同じで、
愛する桂木と逢えなくな
るんだから、ツライ思い
をしてるんだろうし…。

そして僕は、夜になるの
を静かに、じっと待った

『シュガー』の、約束の

時間は、8時だが、中々父親は帰って来ないので

父親に、夕飯と伝言メモを残し、小野寺親子は、

『シユガー』に向かった

僕も妖精の姿で、2人の後ろから着いて行った。

『シユガー』には、待ち合わせの時間の、17分前には着いたよ（　）

やっぱり、スーパー常連の、ミキは、1番奥に、いつものように座っていたよ…（…；）

ん、今日は、守護霊の人達も、全員居るね。

僕、ミキの隣に座ろうと思ったら、小野寺親子に先に座られちゃった。

仕方ないから、入り口の近くの椅子に座ったよ。

そして…合図をして、

ミキを、店の外に連れ出し『幽見キャンディ』を2つ渡した。

幽霊が見える、きっかけは、この、キャンディがもしれないけど…、

後は、ミキと守護霊達とこの店の、エネルギーとパワーで、1時間が過ぎても、店の中にいる限り

守護霊や幽霊達の姿が、見えるのってゆーのは、

この間で証明済みなのでさち子が来るのを、待たずに、すぐに舐めてもらっても大丈夫なんだ。

ちなみに、二階堂光一に変身してる時は、人間達には僕の姿は見えるようになってるけど、妖精の姿に戻ってる時は、見えないようになってるんだ

でも、この、キャンディを舐めると、妖精の僕の

姿も見えちゃうんだよ。

そして、店に戻り、ミキは、小野寺に、キャンデイを渡した（。）。（

小野寺は訳を説明して、母親に、キャンデイを舐めるように言った。

母親の、あや子は迷う事なく、ポイっと、口に入れた（。）。”

ん？あや子は、見えてるのかな？あまり驚いてないみたいだけど（。；）

《ミキ》どうですか？
見えてますか？

《あや子》ええ、見えますよ（。）。なんか人数が、増えましたね。

（。；）と、言つて、僕の方を見た途端、ギャー！と叫んで、跳ね上がり、椅子から転げ落ちてしま

った。 え？ なんで？

《あや子》あー、びっく
りしたあ〜（>。<）〃

カエルの、オバケかと思
つちやったあ（。。。）〃

あ、あなたは、どうして
そんな、カエルの着ぐる
み着てるんですか？

暑くないんですか？
頭、蒸れませんか？

そんなの、かぶってたら
ハゲちやいますよ（><

《（ ）（ ）二階堂》

あ、はい、大丈夫です。

…… 守護霊さん達の事は
驚かないのに、なんで、
こんな、可愛い僕の姿を
見て、そんなに驚くんた
よあ〜（ ）。（ ）う

僕さ、一旦、店の外に出
て、二階堂光一に変身し
て、店の中に入ったよ。

《小野寺》あ、どうも…
こんばんは)。。

(…ん、前回の時は僕
ずっと、二階堂光一の姿
のままでしたからさ、
小野寺は、僕が、エルカ
だとは知らないんだよ。

……………

《小野寺》さっきの、
カエルの着ぐるみの人、
戻って来ないですね…。

もお、お袋が失礼な事、
言うからだよ)。

気…悪くして、帰っちゃ
ったんじゃないの…？

《ミキ》ううん、違うの

さっきの、どう、見ても
どう見ても…妖怪オバケ
にしか見えない、カエル
さんはね、実は…妖精界
から来た妖精さんなんで
すよ)。

人間の姿に変身してる
時は…ほら、そこに座っ
ている、二階堂光一さん
なんです…（。　）ノ

「光一」だからといって
高校1年生って訳じゃな
いですけどね（・　）ゞ

ね？嘘みたいでしょ？

《小野寺》はい、嘘みた
いですっ（。　。　）〃

こんな、カツコイイ、
イケメンの二階堂さんが

実は、カエルの、オバケ
だったなんて…。

《（　）二階堂》

いやいやいやいや、僕は
カエルに似ているだけで
カエルではありませんし

妖怪でも、オバケでもあ
りませんかっ（　；　）

…まままま、イケメン

とゆうのは当たってます
けどねえ（　　）（　　）

《あや子》 あっらあ、
じゃあ、あなたが、さつ
きの、カエルさんなんで
すか？（。。。）”

にしても…二階堂さんて
ホントに、イケメンね。

カエルさんも、かわいい
けど…私は、こっちの方
が、好きだわあ（　　）

ずっと、人間の姿で居た
らいーのにい）>。<（

（　　）と、言いながら、
あや子は僕の横に座った

ん、僕が言う前に、ミキ
が話してくれたんで、
助かっちゃった（　　）

ついでに、小野寺の部屋
に、お世話になってる事
も言っただ…（　　）（　　）

《（　　）二階堂》

あのですね…実は僕…、
小野寺君の部屋の壁に、
住まわせてもらってるん
ですよ（）>。<（）”

《小野寺》え？僕の部屋
にですか？え？壁って、
どこらへんの壁ですか？

《（）（）二階堂》

机の横の壁です。ん…、
どう言ったら、わかりや
すいかな？（…；）…

机の前にある、出窓の横
って言った方が、わかり
やすいかな？

小野寺君の部屋で飼って
いる、インコの、コイン
とは…よく、2人で空の
散歩に行くんですよ。

最近では、窓開けるのを
覚えて、1羽「ひとり」
で出かけてるみたいです
けどね（）><（）

…そして僕は、ルームの
事や、コインが看病して

くれた事などを詳しく
説明した（）。#（

《小野寺》なるほど（驚
だから最近、たまに窓が
ちよつと開いてるんだ。

鍵かけたはずなのに、
おかしいなあ…とは、
思ってたんですよ）><

じゃあ…今日、帰ったら
壁の場所教えて下さいね

《（）（）二階堂》
あ、今日からは、ずっと
僕の姿、見えちゃうんで
すよ）>。<（だから、
僕の、ルームの扉も見え
ると思いますよ）（

今度から、何か用事が
ある時は、遠慮なく、
チャイム鳴らして下さい
ね（）。b（

《あや子》あつらあ〜、
二階堂さんが、我が家に
住んでくれてるなんて、
嬉しいわあ〜）#（

() それから、
守護霊さん達も、入って
みんなで、話しが盛り上
がった() () ()

いつの間にか、時間は…
23時になっていた。

天国へ帰るまで、あと、
1時間しかないのに、
さち子も、桂木も…まだ
顔を出さなかった。

一体、どうしたんだろ？
僕は、心配になって、
『カシコモ』の、ケータ
イで見てもようと思ひ、

手にとった瞬間…、プチ
常連の小林が、ワァー！
と泣きながら、ドアを、
バーンと開けて入って
きた() // ヒック

そして、カウンターに、
顔を、ガンガン、ぶつけ
て泣き続けた() ()

《マスター》小林君、

どうしたの？　なんで、
そんなに、泣いてんの？

《小林》ヒック（；；）
こ、この間、ここに連れて
来た、桂木部長が…、

たった今、たった今、
亡くなっただんですよ（涙

………

（；）ん、桂木は、ガン
だっただね…。

それも、末期のね（；）
しばらくの間、入院して
ただけど、最近、復帰
したばかりだったんだ。

この間、小林が桂木を、
店に連れて来たのは、

不器用な小林なりの、
快気祝いだっただ。

実はね…桂木は、自分の
命が、あと…わずかだっ
て、知っていたんだ。

その事を隠して、会社復帰してたみたいだね…。

そして最後に、同僚や、かわいい部下達と、心の中で、秘そかに、お別れをしていたんだ。

ん、さち子は、その事を知っていたから、桂木に付きつきりだったんだね

本来の目的は甥の小野寺に会う為だったので、

桂木の事は、ホントに、一目だけ、元気な顔を見て帰ろうと思ってたんだ

そして、たまたま、桂木のところに行ったら、その日が病院から退院する日だったんだ(…;))

さち子は、それから、桂木の事が心配で、しょっちゅう、桂木の所へ出掛けていたんだよ…。

にしても…箸が転がって

も、笑うんじゃないか…
ってゆうくらい、
笑い上戸の、桂木が亡く
なっただなんて…人の命っ
て、わからないね（…）

……………

そこへ、青白い光で包ま
れながら、さち子と桂木
が、店の中に現れた。

あれ？後ろに、すごい、
イケメンの霊も、1人…
居るよ。誰なんだろうね？

そして桂木は、泣いてい
る小林の所に行って…、

《桂木》小林君（^^）
私の為に、そんなに泣い
てくれて、ありがとう。

（…）小林は、涙と鼻水
で、ぐしゃぐしゃになっ
た顔を上げて…

《小林》えっ？か、桂木
部長？え？え？…何で？

あ？僕、なんか…勘違いしてたんですね（><）

桂木部長が亡くなった…
なんて、ありえないですもんね（。 ; ;）

ああ、よかつたあゝ！

でつすよねえゝ、この間快気祝いしたばかりなのに、亡くなるなんてね。

んな訳ないですよねえ

あゝ、勘違いでよかつた

（ ; ; ）ん、小林、キャン
デイ舐めなくても見えるんだね（ ; ; ; ; ）

ミキや、守護霊さん達のお陰もあると思うけど、

小林も、ミキ的な、そういう能力があるのかもね

《桂木》小林君、今まで本当に、ありがとう。

私が、どんなに無理を言っても、愚痴ひとつ、こぼさないで、仕事を、こなししてくれたね（　）

私は本当に、いい部下を持ったよ。

小林君、ありがとう…。

今度、部長になるのは、多分…村田だと思うけど

あいつは、裏表がない、真っ直ぐな奴なんだ。

不器用な奴だから、敵も多い。サポート頼むな。そして、会社を盛り上げてやってくれな（　）

《小林》部長、なんで、なんで…そんな事、言うんですか？そんな、別れるみたいな言い方しないで下さいよ（　>　<　…　）”

《桂木》まあまあまあ、小林君…落ち着いて、落ち着いて（　>　<　）

あのね…小林君、私はね
もう、死んでるんだよ。

今日はね…本当は、この
さつちゃんが天国へ帰っ
ちゃう最後の日で、送別
会なんだ。

それなのに、さつき私も
死んでしまったもんだか
ら、さつちゃん、ここに
来るのが遅くなってしま
って…

皆さん、本当に、申し訳
ありませんでした。

とゆう事で…ついでと
いっては、なんなんです
が…私も、さつちゃんと
一緒に、あの世へ行こう
と思ひまして…。

にしても…まさか、ここ
で、最後に小林君に会え
ると思わなかったから
嬉しかったよ。

あ、小林君、もうひとつ
君に言っておきたい事が

あるんだ。

いい加減、高木君の気持ちを、わかってやれよ。

《小林》高木さん？

高木さんが、どうかしたんですか？ちよつと…言ってる意味が、わからないんですけど（><）

《桂木》高木君は、君の事が好きなんだよ。

顔なんか、関係ないじゃないか！ 年上だって、いーじゃないか！

あんな性格のいい女性は
いないぞ！

《小林》あ、高木さんは、年上じゃないですよ。

僕より、3つ下ですから
27才ですよ。

でも、あんな、キレイな
人が、僕の事を好きだ
なんて、なんか、信じられ
ないなあ（>。<）

《桂木、心の声》

光浦靖子に似てる高木君が、キレイだつて？

しかも、高木君、33才位だとばかり思ってたのに、27才だつてえ？
そんなに若かったのか！

まままま、そんな事は、どうでもいーんだよ。

そうだよ、あんな性格のいい女性は、めったに居るもんじゃないんだから
それに、人には好みとゆうものがあるんだから、
小林君が、キレイだと思
うんなら、それでいーじ
やないか（ ; ）ん。

《小林》部長、どうしたんですか？固まっちゃってますけど…。部長！

《桂木》え！あ、いや、な、なんでもない（焦）

《（ ）二階堂》あのお話の途中で申し訳ないんですが…さつきから、後ろに居る、イケメンの男子は、誰なんですか？

《桂木》ああ…、これはこれは、失礼しました。

ご紹介します。

この方は、私の妻の守護霊の桜井さんです。

桜井さんがまだ、生きていた時、私の妻と付き合いつつてたらしいんです。

私が、さっちゃんの事が忘れられなかったように

妻も、桜井さんの事を、今でも、忘れられずにいるみたいなんです。

そして、偶然にも、桜井さんが、亡くなったのはさっちゃんと同じ時期だったんですよ。

私の場合、さっちゃんは

ただの憧れの存在だった
だけなんですけど、

この桜井さんと、私の妻
は、結婚を誓いあつた仲
だったらしいんです。

さつき、私が死んだ時、
妻の側に居たんで、連れ
てきたんです。

私、49日の前の日に…
一旦、この世に戻ってき
ますので…二階堂さん、

お願いです！その時に、
この桜井さんと、妻を
逢わせてあげてもらえま
せんか？

どうしても…妻に、桜井
さんを逢わせてあげたい
んです。お願いします。

私が死んでも、この桜井
さんが守護霊だと、わか
れば、女房のやつも悲し
くないと思うんですよ。
むしろ、喜ぶかも…。

《桜井》あ…、なんか、
すいません。いつきなり
押しかけちゃいまして。
宜しく、お願いします。

《（…）二階堂》

ええ、わかりました。

お安い御用ですよ（…）

じゃあ、桂木さんが、
いったん、こちらの世界
に戻ってきた時に、奥様
に会いに行くって事で。

…ところで、さち子は
どこ？（…）

ん…さち子、小野寺親子
と、ミキの間に座り、
ガツツリ…と、話しこん
でいるよ（…）

こちらは、こちらで、
小林と桂木が、話しこん
でしまった。

小林は相変わらず、涙と
鼻水で、ドロドロの顔だ
よ（…）。（…）”

僕は、さち子と話したいの
を我慢して、マスター
ママ、ケン、守護霊さん
達、桜井さんと話して
いた（ ）（ ）（ ）／

すると、店の扉に『貸し
切り』の紙が貼ってある
のにも関わらず、男が入
って来た（…；）

よく見ると、人間に変身
した親友の、カップパ似の
マキちゃんだった。

（…）うっそー！（驚）
マキちゃんが、人間界に
来るなんて珍しいね〜！
ん？でも、どうしたの？

《マキ》うん…これを、
エルカちゃんと、さち子
さんに渡したくてさ…。

今日『カシコモ』から、
新しく出た機種なだけ
ど、天国に居る人と、テ
レビ電話で話せるんだ。

そのかわり、話せるのは

月命日と、お彼岸だけな
んだけどね（）><（）”

もう少しすれば、もっと
改良されて、そんなのも
関係なく、いつでも通話
出来るようになると思っ
ただけどね（）。b

《（）（）二階堂》

ええ〜！めっちゃ、嬉しい
（）（）／

さち子さん、さち子さん
これで…月に、1回は、
顔、見えるし、話せます
ね（＃（）（）ワ〜イ

…ん？あれ？なんだろ？
寒気が…（）><（）（）（）

ん、小野寺親子が横目で
僕を、シラーっとした目
で、見つめてるね（）（）

（）（）あ、あのお…、
一緒に、テレビ電話しま
しょうね（）。ん。

《マキ》《でしよー…！

そお、思いまして…このパソコンを持って参りましたあ（　　）／

この、ケータイ、人間界の、PCには、つなぐ事が出来ないので、僕の使ってたPC持ってきたんで、これ使って下さい。

これだと、画面も大きいし、話しやすいですよ。

《あや子》あつらあ〜！
嬉しいわあ〜（　　）
にしても…二階堂さんもイケメンだけど、あなたも、イケメンね（＃　　）

それに、優しいし…。
私、迷っちゃうわあ〜

（…）ん、いつたい、何を迷うんだろね？
全く…全然、言ってる意味わかんないね（　　）

あ〜あ、さち子、また、

小野寺親子のところに、
座っちゃった(；。；)

僕の隣に来てくれないか
なあ。あと、19分し
かないのになあ…。

最後に、一言、話したい
よお(。)

《マキ》エルカちゃん、
大丈夫？ ちよつと僕、
さち子さん、こっちに連
れてくるわ(、。)

() マキちゃんは、
少し、ムツとした顔で、
何も言わずに、さち子の
腕を掴んで、僕の隣に座
らせた。

《マキ》さち子さん、
少しは、エルカちゃんの
気持ちも、わかってあげ
て下さい！(、。) "

ほら、エルカちゃんも、
まだ、さちさんに、
あの、プレゼント渡して
ないんですよ！

てしてくれたあ。

し、しかも、エルカつて
ちゃんと呼んでくれたよ

エヘツ、エヘツ、エヘツ
えーっへへへへえ〜！
ふふふ（　　）　　（　　）　　（　　）

《マキ》エルカちゃん！
エルカちゃん！　気を、
しっかり持って！
エルカちゃん（　）> <（　）

《ミキ》あのお、盛り上
がってる中、申し訳あり
ませんが…あと少しで、
さち子さんが天国へ帰る
時間なんですけど…。

《さち子》あ、はい！

みなさん、今まで本当に
ありがとうございました

みなさんの、お陰で今日
無事に、天国へ帰る事が
できます（　　）。

たくちゃん、お姉ちゃん

の事、頼むわね。

お姉ちゃん、もっと、
旦那様に優しくしてあげ
てね。

マスター、ママ、私なん
かの為に、今日は、わざ
わざ、貸し切りにまでし
て頂いて…本当に、あり
がとうございました。

ミキちゃん、ケンちゃん
今まで、ありがとうございます
いました。

ミキちゃんには、チョコ
レートケーキ、一緒に作
ってもらったり、

守護霊の霊子さんには
色々と相談にのってもら
ったり、本当に、お世話
になりました。

そして、エルカちゃん、
あなたには、本当に、
お世話になったよね。

桂木さんから聞いたよ。

今日の為に、桂木さんに
会いに行っただってね

本当に、ありがとう！

この、ブレスレット…、
いつまでも大事にするか
らね（；。；）…（泣）

それに、えっと…、
マキさんでしたっけ？

携帯電話ありがとう
ございました。

これで、天国へ帰っても
みんなと話す事が出来ま
す（　　）

ちなみに、私の他に…
たとえば、桂木さんの
命日とかは、ダメなんで
すか？

《マキ》なるほど…。
なにせ…今日、発売され
たばかりなんで、僕も、
ちゃんと説明書…読んで
ないんですよ。

ちょっと待って下さいね

あ、ちょうど、2人まで
大丈夫みたいですネ

《小林》じゃ、じゃ、
桂木部長の命日の時は、
ぼぼぼ、僕も仲間に入れ
て下さい…m () m

《 () () 二階堂》
もっちろん () 。 ()
みんなで、テレビ電話し
ましょ () # ()

ん？じゃあ、さち子さん
と桂木さん、2人の命日
とゆう事は…月に、2回
も話せるんだ！やったあ
\ () () /

…と、喜んでいて、
いきなり、さち子と桂木
の身体が、青白く輝きは
じめ、天上から光りが射
した。

そして…どこからか、
女性の声がするよ。

《女性？》ピンポンパン
ポンパンポーン

さち子さ〜ん

さつち子さあ〜ん

お時間…あ、お時間でえ
ございまあ〜すっ！

天国へ戻る心の準備を、
お願い致しまあ〜すっ！

ピンポンパンポーン

それでは、ダウンタウン
じゃない…カウントダウ
ン参りまあ〜す（ ）

あ、8・7・6・5・4

3・2・1…

（ ）（ ）そして、0の時、
眩しい位の光りに包まれ

さち子は『さようなら』
と言って、あっけなく
天国へ帰っていつてしま
った…。

僕は…、ちゃんとした
別れの言葉、ひとつも言

えずに…ただ、涙を流して見送る事しか出来なかった…(；。；)うう

最後は笑顔で、見送ろうと思っただのに()

……………

《桂木》あ、あのおく、悲しんでるとこ、大変申し訳ないんですが…

どうして…私、さっちゃんど、一緒に行けなかったんでしょうか？

(…;)え？振り向くと、そこには、桂木が立っていた。

どうやら、さち子だけが天国へ逝っちゃったみたいなんだ(…;))

《桂木》…私、天国へ行けないんでしょうか？

も、もしかして…地獄行きなんじゃないか？

() あ、いやあ () 焦
僕に聞かれても、ちよっ
と、わかんないですね。

《小林》何、言ってるん
ですか！部長！

そんな事ないですよ！
部長が天国へ逝かないで
誰が逝くんですか？

() () するとまた、さっ
きと同じ女性の声で、

《女性？》ピンポンパン
ポンパンポォーン

桂木、心の準備宜しく。

2、1、0…

() () ん、桂木は、心の
準備も出来ず『え？』と

一言だけ残し…そして、
光り輝きもせずに消えて
いった。

みんなは()。() ア然と

していたが…、しばらくしてから、大笑いになった。() () () /

.....

あれから、小野寺は、ある、リース会社に就職も決まり、今では、月に3〜4回は『シュガー』に来れるようになったよ

西田は、父親の会社を継ぐために、社長の息子だとゆうのを隠して、今は新入社員として結構、真面目に頑張って働いて

バイト仲間の佐々木は、バイトを辞めて、イタリア旅行に出かけたまま、未だに、日本には帰ってきていない。

スーパー常連の、ミキとケンは相変わらず、ラブ×2である () ()

僕はさ、さち子が居なくなつて、本当に辛かつた

んだけど、マキちゃんや
コインが、なぐさめてく
れてさ、ようやく最近、
心から、笑えるようにな
ったよ）。。

心の悲しみや、辛さを
癒す、1番の薬は、少し
長めの時間なんだね…。

そして、さち子と桂木の
月命日には、みんなで、
『シュガー』に集まり、
テレビ電話で話してるよ

ちなみに、PCは
『シュガー』に置いても
らってるんだ）。

え？ 小林は、その後、
高木と、どうなったか？
って？…それは、この後
の、お楽しみさ）。

後【プチ常連の小林

() あれから少しして
小野寺の父親にも挨拶し
たんだ。

思ったよりも…あまり、
驚かなかったよ。

多分…小野寺や、あや子
が…前もって、話してた
んだろね。

ありがたい事に…それか
らは僕、家の中では、
エルカの姿のままで、

小野寺家の家族のように
毎日を過ごさせてもらっ
てるんだよ。

そして、『シユガー』に
行く時…最近は、ずっと
二階堂光一の姿で行っ
てるんだ…。

前は、マスターや、ママ

以外に話す人、いなかったから、大半は、後ろの棚に座って、妖精の姿で静かに人間ウオッチングしてただけなんだけど…

今は、小野寺と待ち合わせして、一緒に飲んだりもするんだよ（。 ）

まあ、基本、1人で飲みに行く事が、多いけどね…（ ; ）ん。

ミキや、ケンや小林とはさち子、桂木の話しなんかもしたりしてさ…、

さち子に逢いたくて寂しくなる時もあるけど…、みんなと話していると、気が紛れるとゆうか…
楽しいんだ…（ ）

マスターと、ママは相変わらず、カウンターの中で、ニコニコしながら、

3回づつ、うなづいて、僕の大好きな、オムライ

スを作ってくれるしさ。

最近では、カップパ似の、マキちゃんも、人間界にしょっちゅう来るようになったんだよ（。　）

マキちゃんが、ルームの扉を貼っている家はね、

【岡田真紀・28才】
ってゆう、女子の部屋の壁なんだ（。　）

名前が同じって事で、選んだんだって。

28才かあ…、スーパー常連の、ミキと同じ年だね…（　）ん。

父親は…レストランや、寿司屋などを、日本や、海外に、何十軒も持っているんだって。

偶然にも、僕が世話になっっている、小野寺の家と岡田真紀の家は近いんだ

マキちゃんの話しによると、真紀は典型的な、お嬢様育ちで、人を疑うとゆう事を全くしない、女の子なんだって。

心配だから、ずっと側にいてあげたいらしいんだけど…、マキちゃんは、妖精界で、スタイリストの仕事をしているし、自分の店もあるから、

僕と違って、人間界に、ずっと居る訳にはいかないんだよね…。(…)

なんかね…マキちゃんはマキちゃん、別の機会に皆さんに、お話するって言ってるので、マキちゃんの話は、ここらへんで、やめとくね…。

あ、そういえば、この間スーパー常連のミキと、ケンと、話してたらさ、

プチ常連の小林が、入っ

て来たんだ。()

今にも、くずれそうな、
デレエゝとした顔で小林
話し始めたよ(ゝゝゝ)

どうやら、高木ブーじゃ
ない…高木を、デートに
誘う事が出来たみたいな
んだ。

小林は、桂木に…高木が
自分の事を好きだ…と聞
かされてから、ずっと頭
から離れずに、気になっ
ていて、高木に声をかけ
ようと思っただけだ

中々、2人になる機会が
なかったんだって。

そして、やっと今日、
2人だけになる時があっ
たので、思い切って、
声をかけたみたいだよ。

《小林》 ああ、あのお…
あゝたたたたたあ！

() おっまえは、

ケンシロウかつ！

《小林》た、高木さん！
よ、よかつたら…、

こ、今度の休みに、ドラ
ドライブに行きませ
んかあつ！（。）。（ゞ

（。）。ん、小林、カミカ
ミだね（）>（）にしても

高木…驚いた顔してたけ
ど、とても嬉しかったん
だろね…（。）。小林の
言葉に、かぶる勢いで、

野獣…じゃない、機関銃
のように話し始めたよ。

（。）。（。）。あちらあ…

《高木》はいはいはい、
待ってましたあゝ！

ドライブ、いいですね
もちろん、行かさせて頂
きますよお（。）。（。）。

行き先は、何処にします
か？出来れば、私…まだ

行った事が無いので、
旭山動物園に行きたいん
ですけど（。）。（

あ、私、お弁当作って行
きますね。おかずは何が
いいですかあ？

やっぱり、たまご焼き、
タコさんウインナー、
ちーちく、唐揚げは、
絶対ですよね（。）。（

時間は何時にしますか？
あんまり、朝早いと、
お弁当作れないから、

ちょっと遅めで、お願い
しますね。そーだなあ…
朝、8時位がいいーなあ

（。）。ん、充分…早いで
すけどね…（><）”

小林は、桂木が亡くなる
ちよつと前に車を買換
えたばかりだったんだ。

桂木に高木の事を聞いて

からは、助手席に最初に座ってもらうのは絶対、高木さん！って、決めてたみたいだよ。

そして、ドライブデートの後は『シユガー』に高木を連れて来て、みんなに紹介したいから、土曜日の夜『シユガー』に集まってくれと言うのだ

もちろん、僕達も、その光浦靖子似の高木に会ってみたかったので、即、オツケーしたよ（　　）

ま、とにもかくにも…
小林と、高木…上手くいけばいいね（…；）

おかげで、その日は舞い上がってる小林の、カラオケを何曲も聞かされるはめになってしまった。

まままま、ある意味…
めでたい事なんで、僕達は金縛りに、あいながらも、我慢して小林の歌を

聞いてたよ（　）ん。

そして、いよいよ…小林
と高木の初デートの朝が
やってきました！

天気も…まるで、これか
らの、2人を暗示してる
かのような…うすらハゲ
…じゃない、薄曇りです

小林は前の日とゆうか、
もう、今日だね…

緊張のあまり、眠れなか
ったみたいだよ。

夜中の、1時に寝て、
3時には目を覚まし…

ドキドキを落ち着かせよ
うと部屋の中を、スキッ
プして、足の小指を、
タンスの角に、ガツツリ
ぶつけ、その拍子に壁に
顔を、ぶつけた。

結局…余計に目が冴えて
しまったようだ…。

しばらくして足の小指の
痛さも和らぎ、寝ようと
思い、ベットに入ったが
やっぱり、眠れずに…

また起き上がり、今度は
足の爪を切りはじめた。

もう、小林…何をしてい
いんだか、訳わかんなく
なっちゃったんだろね。

グビツと、豚鼻を鳴らし
ながら…、ルービツクキ
ユーブ、ジグソーパズル

1人トランプ、1人しり
とり、1人コツクリさん

ん、1人コツクリさんは
やめようね…！何かに、
とり憑かれたら困るから
ね（><）ゞ

ままままま、小林の場合
ある意味、ある意味、
何かに、とり憑かれちゃ
ってますけれどもね…。

そして、やっと…6時に

なつた。

待ち合わせ…とゆうか、
高木を迎えに行く時間は
8時なので、小林は、

シャワーを浴び、意味も
なく念入りに足の指の間
や耳の裏等も、きれいに
隅々まで洗いまくった。

そして、洗面台の前に、
雑誌から切り抜いた、
嵐の桜井君の写真を置き

フーンフーンフーンと
鼻歌まじりに、嵐の桜井
君の髪型を意識しながら
整えたみたいなんだけど

どうみても、その、七三
分けは、オードリーの
春日にしか見えないね。

そして、いくら…じゃな
い、たらこ唇が、やたら
と乾くので、メンソレー
タムを塗り…、

デートが決まったら着て

行こうと、前々から決めていた、ブルーの水玉のジャケットを羽織った。

(…)(ブルーの水玉っておっまえは、女子かつ！

ま、さわやかっちゃあ、爽やかですけどねえ)。

あらあらあらあら…
あらかわしずかつ(驚)

小林…靴まで、ブルーだよ(驚)こんな色の靴…
一体、どこに売ってたんだか(…)(逆に、そっちの方が気になるよね…。

そして、小林は自分なりの、オシャレをして、
意気揚々と、高木の家へ向かった。

高木は、両親と弟との、
4人住まいである。

小林は、高木の家の前に車を止め、緊張で震える手を左手で押さえながら

ピンポン と、玄関の
チャイムを鳴らした…。

すると『はあゝい』と、
中から声が聞こえ、玄関
のドアが開いた。

『おはようございます』
と言って、小林が頭を上
げると、そこには高木の
両親、弟が、右から順に
笑顔で並んでいた。

ん、みんな、メガネを
かけていて、高木が、
3人、並んでいるかのよ
うに、そっくりだね…。

小林は、まさか、こんな
出迎えがあるとは思わな
かったので、思わず、

ビビってしまい、一歩踏
み出そうとした足を、
静かに、引っ込めようと
した時、奥から高木が、

手作りの、弁当を持って
メガネを、ずらしながら

タッタタタタターっと
走って来た(…；)

《高木》ごめーん！

お待たせえ〜！ちよつと
お弁当作るのに、手間取
つちゃってえ〜(＞＜)

ほらほらあ〜、何、みん
なして、並んでんのよ！
小林が、驚くじゃん！

小林、気にしないで、
早く行こう！早く早く！

(…；)ん、小林…一番驚
いたのは、高木が自分の
事を、呼び捨てにする事
だったみたいだね。

それでも小林は、挨拶だ
けは、ちゃんとしていこ
うと思つて、高木に腕を
引っ張られながらも、

後ろを振り返り、何度も
頭を下げてたよ。

そして、助手席に高木が
座った時、小林は心の中

で『やったあ！高木さんが座ってくれたあ〜！』と、ガッツポーズをしながら叫んでいた（　　）

《高木》小林、早く車…
出してくれる！

玄関のドアの隙間から、
みんなが見てるから。

（　　）え？と、小林が、
玄関の方を見ると、少し
開いた、ドアの隙間から

上から父親、母親、弟と
縦に並んで、こつちを、
ジッと見ていた（　　）

多分…家族にとっては、
高木が、男とデートだ
なんて信じられなかったん
だろね…ん、わかるよ。

小林は高木に言われるが
まま、車を発進させた。

少し走ったところに、
自動販売機があったので
小林は車を止めた。

《高木》 どうしたの？

《小林》 うん、ごめん。
ちよつと、缶コーヒー、
買ってくるね。

(…)(…)
小林は、そう言っ
て、車を降りた。

つられるように高木も、
降りてきて、小林に聞い
てきた。

《高木》 小林は、缶コー
ヒーが、好きなの？

《小林》 うん、缶コーヒ
ー、大好きなんだ。

この自販機…僕の好きな
『ジョージア』置いて
あったからさ…思わず止
まっちゃった(…)(…)

高木さんも、缶コーヒー
飲む？

《高木》 私は、落とした
珈琲が好きだから。

(…)(…)すると小林は何を
思ったのか…もう1本
缶コーヒーを買い、

少し、しゃがみこみ、
2本の、缶コーヒーを、
コンクリートの地面に
落としたのだ(。。)(…)

そして満面の笑顔で…

《小林》はい、落とした
よ(…)(…)こうすると
美味しいんだよね うふ

(…)(…)小林…そう言う
と思いきり、缶コーヒーを
上手に振って、美味しそ
うに、一口飲んだ…。

《小林》ああ、朝の、
ジョージュアは、うまい
なあ(…)(…)はあ…。

(…)(…)そんな小林を高木
は、アゴが外れたみたい
に、口を、あんぐり開け
て見ていた(…)(…)

《小林》高木さんも、
落としたて…飲んでみた
ら？美味しいよ（　　）

《高木》え？あ、うん…
く、車に乗ってからね。

（　　）ん…高木、本当は
『おいっ！お茶！』が飲
みたかったんだけど…、

仕方なく、缶コーヒーを
手にとったよ（><）”

少し走った所で、小林は
缶コーヒーを飲もうと思
い、さっき、フタを開け
たのを、すっかり忘れて

思いつきり上下に振って
しまった（　　）。あっ

コーヒーは、新車の…、
しかも、白いシートの
後部座席に、キレイに、
円を描いて、こぼれ落ち
たよ（　　）。あう…

小林は慌てて、端に車を
停めて、トランクから、

タオルを持ってきて、

こぼれた、コーヒーを、
拭きはじめた（><）

《小林》 ああ、
失敗したなあ（><）

コーヒーの、シミが目立
たないように黒か茶色の
シートにすればよかった
なあ（、。、）。。

（、） そつちかいつ！

僕と高木は、心の中で…
多分、同じ突っ込みを
入れたと思うよ（><）

すると、どこからか…、
ザブーン、ザブーンと、
波の音が聞こえた。

《小林》 ななな、なんで
こんなところで、波の音が
聞こえるんだろ？

こ、こ、怖っ（。。）”

《高木》 ごめん、ごめん
この波の音、私のケータ

イの着信音なんだ。

(…)(…この着信音…夜にいきなり鳴ったら、ちょっと怖いかも(…;)””

そして、電話の相手は、高木の母親だった。

横浜から、高木の母親の姉夫婦が来たので、戻って来いとゆうのだ。

《高木》ええ、叔母さん達来たのお(…)(…でもお(…;)。

《小林》どうしたの？

《高木》うん、横浜の叔父と叔母が来たんだって

そう言えば前に電話で話した時に、今日あたり来るような事、言ってたかも…忘れてた(…>(…)

《小林》あ、じゃあ、戻りますか？

《高木》え、いーの？

《小林》そりゃあ、高木さんと、デート出来ないのは残念ですけど、

でも、ほら、デートは、いつでも出来るけど、叔父さんや叔母さんとかには中々、会う機会ってないでしょ？（；；）

（；；）そして、小林は、Uターンして高木の家へ向かった。

家に着くと、ワイワイと賑やかに盛り上がっていた（；；）（；；）

小林は、高木を送り届けて、帰ろうとしたが、

高木の弟の鉄二（中3）が、ちよつと照れ気味に『こっち』と言って、

小林の水玉の上着の袖口を、つまんで、家の中に招き入れた（；；）#（；；）

小林も、ちよつと嬉しそ
うに『うん』と言って、
ニヤけながら、家の中
入って行った。

リビングに行くと、どう
ゆう訳か小林に向かって
みんなが拍手をした。

そして、小林は、横浜の
叔母夫婦よりも、ちやほ
やと、もてなされた。

昼は、みんなで、近くの
食べ放題の店に行った。

高木の弟の鉄二は兄が欲
しかったみたいで、小林
の側から離れなかった。

小林も、年の離れた姉と
2人姉弟だったので、
鉄二が本当の弟みたいで
可愛かった（　　）

そして、横浜の叔母夫婦
は、知り合いの家に行か
なくてはならないとゆう
事で、そこで別れた。

小林は、高木の家を車を停めてあるので、一緒に高木家まで戻った。

すると今度は、小林のケータイが鳴った

亡くなった桂木の後に、部長になった村田からだった。

仕事で、ちょっとした、トラブルが発生したので2〜3時間でいいから、今すぐ会社まで来てくれないか？と言うのだ。

小林は、高木に事情を説明した。

高木も同じ会社なので、一緒に行くと言ったが、

さすがに、同じ会社に勤務しているとはいえ、呼ばれたのは、自分なので…と言って、小林は、高木を置いて会社に向か

った。

会社に着くと、誰も居なかった…。

小林は、ビルの1階にある自販機で缶コーヒーを一応…部長の分もと思い2本買って、戻った。

戻ったのはいいが、やっぱり、誰も居ない。

村田部長に電話をしようと思い、ケータイを握った時…

《村田》おう！小林君！早いなあ！もう、来たたのか（><）いつやあゝごめん、ごめん！

昼、食べてなかったから腹減っちゃってさ、近くの、コンビニまで、おにぎり買いに行ってたんだ

《小林》そうなんですかところで部長、トラブルって、何なんですか？

(…)(…) そう話していると、朝、作った弁当を、ぶらぶらさせ、メガネを押さえながら高木が入つ来た

《小林》高木さん(驚)
来なくてもいいって言つたのにいゝ(> <)

《高木》いやいやいや…
違うから！私も村田部長に、呼び出されたのよ！

あ、これ、お弁当…せつかく作ったんだからさ、夜にでも食べてよ！

(…)(…) と言つて、高木は朝、作った弁当を小林に手渡した。

村田部長は、そんな2人の、やりとりを見て…

《村田》え？何？あれ？
2人は、一緒だったの？

《小林》は、はい…(焦

今まで、高木さん家族と
食べ放題の店に行つてた
んですよ（　　）。#（　　）

《村田》なあ〜んだあ！
もう、家族と食べ放題に
行く程の、仲なのかあ！

いや、実はさ…、桂木に
2人の事、頼まれてたん
だよ（^^）2人の間を
取り持つてやつてくれっ
てさ。

だから今日、2人を呼び
出して、会わせようと思
つてただけど…

そっか、そっかあ、俺の
出る幕なんか、これっぽ
っちも無いって事じゃな
いかあ…なあ（　　）

よかった、よかった…。
これで、桂木も喜ぶよ

あ、あいつう…ホントに
自分の事より、みんなの
事ばかり、心配してた
からさ…（　　）。（　　）うっ

() () そう言いながら、
村田は、泣きはじめてしま
まった。

おもわず小林は、村田も
『シユガー』に誘おうと
思い…

《小林》部長、高木さん
2人と、今日の夜、
空いてませんか？

《村田》俺は単身赴任だ
から、いつでも空いてる
ぞお () () (泣笑)

《高木》私も、大丈夫！

《小林》じゃあ、じゃあ
僕の大事にしてる隠れ家
みたいな、飲み屋がある
んですけど、今日の夜、
3人で、そこに行きませ
んか？ () () "

実は、桂木部長も亡くな
る直前に、連れて行った
店なんですよ。

開店は、7時からなんで
10分位前に、××ビル
の1階にある、コンビニ
の前で、待ち合わせって
事で…どーでしょうか？

そこから、すぐ近くな
んで。 () b

あ、それと、夜ご飯は、
食べて来ないで下さいね

その店は、一応…

『カラオケ すなつく』
なんですけどね、

お腹を空かして行くと、
マスター、お手製の、

オムライスや、カレーラ
イス、ピラフなんかを、
通しで、出してくれるん
ですよ。

特に、オムライスなんか
へたな洋食屋で食べるよ
りも、マスターの方が、
めっちゃめっちゃ、ウマイ
んですからあ () b

()すると、高木は、
小林から、さつき渡した
弁当を取り上げ、単身赴
任の村田に渡した。

《高木》部長、お昼まだ
なんですよね？よかった
らこれ食べて下さい。

本当は今日、ドライブが
てら、旭山動物園に行く
予定だったので、お弁当
作ったんですけど、用事
出来ちゃって、行けなく
なっちゃったんですよ。

夜その店で夕飯食べるん
なら、これ余っちゃっ
いますし。その、コンビニ
の、おにぎりよりも少し
は美味しいと思いますよ
()ね、小林！

小林も、高木の後ろで、
うんうん…と、うなづい
ていた()。 ”

村田は『ありがとう』と
言って、喜んで久しぶり
の手作り料理を、ウマイ

ウマイと言って、一気に食べてしまった（ ）

それから、1時間程、桂木や仕事の話しで盛り上がり、3人は、一旦…そこで、別れた。

もちろん、高木の事は、小林が、ちゃんと家まで送り届けたよ（ ）

そして、小林は自分の部屋に戻り、すごい汗をかいたので、すぐに、シャワーを浴びた。

それでもまだ、時間は、15時44分だったので

小林は、ベットに大の字になって、倒れこんだ。

《小林》はあゝ。。。今日は、なあゝんか、いい日だなあ（ ）

初めての、デートで高木さんの家族とも、仲良くなれるなんてなあ…。

このまま…いったら、
結婚かなあ（ # ）

えへっ、えへっ、えへっ
えーっへへへへへへえ〜

☆☆☆（ ）☆☆☆

（ ）ん、小林、余りの
嬉しさに少し壊れ気味だ
ね。ま、それでなくても

すでに、ある意味…
ある意味、壊れかけです
けどね…。

にしても…小林、なんだ
かんだいっても、やつぱ
り緊張して疲れてたんだ
ろね…。

にやけながら、そのまま
アラームも、かけずに、
ぐっすりと、眠ってしま
ったよ（ ）…あちら…

しばらくすると携帯が鳴
った 高木からだった。

時計を見ると(。。()
18時22分だった(焦

《高木》もしもし、小林
起きた？

《小林》え？な、なんで
僕が、寝てたって、わか
ったのお？(。。() ” ”

《高木》わかるわよ！
そのくらい)。() b

緊張して疲れてたみたい
だし…ってゆーか、もう
支度しないと間に合わな
いよ！() >。() < ()

部長、待たせる訳には、
いかないんだからね！

《小林》たかぎさあ〜ん
もお〜、だあ〜いすき！
ありがとうあ〜 () # ()

《高木》なななななな…
何言ってるのよ) > < ()
ききき、切るからねっ！
早く支度してよ！

(…)(おやおや…小林、
寝起きのせいか、思わず
本音を言っちゃったね。

にしても…高木ってさ、
普段あんなに、ぶつきら
ぼうなのね、小林に、
好きって言われたら、

顔真っ赤にして電話切っ
ちやったよ(…)>。<#(

こんな…可愛い、一面が
あるなんてねえ(…)

そして、小林は急いで、
支度をして、出掛けた。

コンビニの前に着くと
すでに、村田と高木が待
っていた。

《小林》すいませんっ！
遅くなりました(焦っ

目覚ましも、かけないで
つい、うただヒカル…
じゃない、うたた寝寝し
ちゃって(…)><(

(････)そして、小林は、
寝癖のついた頭で、2人
を連れて『シユガー』に
向かった。

『シユガー』の中に入る
と、こちらにも、みんな集
まっていた(････)

ま、みんなと言っても、
幽霊のケンと、スーパ
ー常連のミキと僕だけ････だ
けどね(････)

1番奥の席には、もちろ
ん、スーパ
ー常連のミキ
が座っていて、ミキの隣
に僕、小林は僕の隣に････
そして高木、村田の順に
席に着いた。

席に着いたと思ったら、
小林は、いきなり立ち上
がり、村田と高木の紹介
を始めた。

《小林》マスター、ママ
ご紹介します。
こちら、村田部長です。

亡くなった桂木部長と同期で仲も良かったらしいので、今日、一緒に来てもらっちゃいました。

《村田》初めまして、村田です。すみません、今日は、おじゃま虫かなとは思ったんですが、一緒に来てしまいました

《小林》ええ、そして、こちらが同僚の高木さんといまして、

えつとあ…、あのですねぼぼぼ、僕の大好きな女性「ひと」ですが（焦

え、今、この場を借りまして、たたたたた、高木さんに、ここ、告白したいと思えますっ！

あ、あのあののっ…たたたたた、高木さん！

（…）だっからあ、お前は、ケンシロウか！つつーの！…小林、落ち

着け（><）”

《小林》ぼぼぼぼ、僕と
付け、結婚を前提として
っ、付き合っ下さい！
お、お願いします（汗）

（…）おっつと、小林、
みんなの前で『です』を
『がす』と、カミまくり
ながら…、

そして時には『たたた』
と、ケンシロウのように
なり、緊張MAXで、
告っちゃいましたねえ。

ん、小林…中々やるね！

にしても…高木も小林も
顔…真っ赤だよ（＃＃）
すると、村田が…

《村田》高木君は小林君
の事どう思ってるの？

男が、ここまで、ハツキ
リ、みんなの前で告白し
ただから、高木君も、
ちゃんと考えてあげない

とね。

今すぐ答えるのが無理なら少し時間をもらって…

《高木》いえ！時間なんて要りません！わ、私は私は…ずっ…と前から小林の事が好きでした。

だから、だから…ドライブに誘われた時、もう…嬉しくて嬉しくて…

なんて答えていいのか、わからなくて、舞い上がっちゃって、一人でペラペラ、しゃべっちゃって（。 ）”

今日だって、家族と一緒に、嫌な顔もしないで、食べ放題の店に行ってくれて…おまけに、お会計までしてくれて…、

今は今で、こんな…皆さんの前で告白してくれるなんて…夢のようです！

こんな私の、どこがいいのか、わかりませんが、ホントに、もったいないと思っってます。

私は、私は…自分の事『ブス』だって、ちゃんと、わかってます…。

小さい頃は、メガネブスって、よく、いじめられてました(；。；) "

ある意味、会社に入ってから、そうでした。

前の課長の吉田さんは、私達女子社員なんて、居ても居なくてもいいってゆうような態度で…。

だから私…仕事で見返そうと思っ、何を聞かれても答えられるように、

どんな仕事でも、こなせるようにっ、頑張ってきたんです。

まだ、桂木部長が生きていた時の話しです…。

吉田課長が、私の担当の発注を、私に確認もなく勝手に間違った数の、しかも、全然違う商品を発注していたんです。

それが結構…大きな問題になってしまつて…。

私も回りも、まさか吉田課長が勝手に発注してるなんて思わないですから

…結局、私の責任になつてしまつたんです。

そんな、ある日…、
残業している私に向かつて、吉田課長は、にやけながら、言つたんです。

《吉田》おまえ、なんで残業してんの？ 残業するなんてのはな、能無しのする事なんだよ！

これだから、腰掛けで
仕事してるようなバカ女
は駄目なんだよなあ！

中途半端な仕事しか出来
ないんだったらさ、早く
嫁にでも行つて、会社辞
めてくれないかなあ？

あ、ごめん、ごめん、
嫁に行きたくても、
もらつてくれる男が
居ないってかあ！（笑）

仕事でミスつたと思つた
ら、顔の造りも、ミスつ
つてるもんなつ！
なあ、高木い！

《高木》その時…、
桂木部長が入つてきて、
吉田課長に言つてくれた
んです。

《桂木》吉田君！君に、
そんな事を言う権利は無
いんだよ！

今回の事は、吉田君！
君のミスじゃないかつ！

《吉田》部長おっつ！

何、言ってるんですか！

今回のミスは完全に、

高木の、ミスじゃないですか！

《桂木》君こそ、何言っ

てるんだ！私は、ずっと

高木君の仕事を見てきたが、高木君はな、こんな初歩的なミスは、しないんだよっ！

さっき、本部長と一緒に発注先に直接行って確認してきたよ…！

注文してきたのは男の声だったそうさ。

《吉田》あのですねっ、

どうして、男の声だったからって、それが私だつて言いきれるんですか？

全く、いい加減にして下さいよ！バカバカしい！付き合ってらんないです

よ！

《桂木》君は、どこまで最低な男なんだ（怒っ）

君は回りに誰も居ないと思つて、電話をしたかもしれないが、その電話を聞いてた社員が居たんだよ。

《吉田》そんなの、作り話かもしれないじゃないですか？

誰なんですか？そんなくっだらな事を言うヤツはっ！

《桂木》その、くだらない奴は今、君の目の前にいる、この私だよっ！

発注の電話の時は、普通の注文だと思つていたから別に、気にもとめていなかったが、

こんな問題になり、おかしいな？と思つて

調べたんだよ！
日にちや、時間をね。

相手先が、発注を受けた
日と時間は、君の電話し
た日や時間と、ぴったり
だったよ！

相手先様にも迷惑をかけ
たんだぞ！悪いとは思わ
ないのかっ！

それに、今回の事だけじ
やないぞ！

君は自分の言う事を聞か
ない部下達を今のような
やり方で、辞めるように
しむけていたらしいな！

言っとくが、私は前の
部長のように、見て見ぬ
ふりはしないからなっ！

今までの事は全部調べて
もう上には通してある！

高木君の事を、笑う暇が
あつたら、自分の首でも
洗って待ってるんだな！

(…)(吉田は、バンツ！
と、拳でデスクを叩いて
何も言い返せずに出て行
った。(、)(…)

ん、にしても、高木…、
こんな事があったんだね
辛かっただろうね…。

それから、吉田課長は…
次から次へと色々な事が
明るみに出て、もちろん
クビになったよ(…)

《高木》ホントに、あの
時は、桂木部長に助けら
れて感謝しているんです

それなのに、それなのに
亡くなっちゃうなんて…

(；。)(…)

(…)(すると小林は、
涙を、こらえながら話す
高木を、いきなり抱きし
めたよ。

《小林》高木さん(泣)
そ、そんな事があったな

んて僕、全然知らなかつたよ！（。）

いつも笑顔で、仕事も淡々とこなしていく頼れる素敵な女性だなあつて憧れてただけだからさあ。

気付いてあげられなくてごめんね、ごめんねえ〜

《高木》そんな…小林が謝る事なんてないよ…。

それに、素敵な女性なんて言ってくれるのは小林だけだよ…ありがと。

でも、今の課長の伊藤さんや村田部長つて、なんとなく桂木部長と似ていますよね。

これからは、会社の雰囲気も善くなるんじゃないかな（。）

《村田》そうだな！
みんなで、よくしていいかな（。） b

それが結局は会社の業績アップにつながるんだからな！桂木も、あの世で喜んでるぞ（　　＃）

（　　） ちょうど、その時マスターお手製の、ふわとろオムライスが出来上がり、3人は『美味しい美味しい』と言って、食べたよ（　　）／

そして、たわいのない話で結構、盛り上がり…

意外な事に、スーパー常連のミキと、高木が、めっちゃ話しこんでいるではないか（。。。）”

ん、高木、小林そつちのけで話してるね（＞＜）

いったい…どんな話してるんだろね？

《ミキ》私ね、最近…、とっても気になる男性がいるんですよ（＞。＜）

《高木》 ええ、どんな人なんですかあ？

《ミキ》 中年の男性なんですけどね…とつても、気になるんですよ…。

() () あららららら、ケンのヤツ、悲しそうな顔してるよ()、()…

そうだよね…今まで、どんな、カッコイイ男が来たって、ケンしか目に入らないミキが、

いきなり他の男の事が気になるなんて言いだしたら、シヨックだよね。

《高木》 へえ、そんなに素敵なんですかあ。

《ミキ》 素敵？

うん…、そうですねえ、素敵といえば素敵なんですけどね…

実はね、あの方の…頭の

てっぺんに生えている、
あの1本の毛が、とても
気になるんです。

なにゆえに、あんなに…
かたくなに、1本だけを
大事に残しているのです
ようか？

よく、ホク口から毛が生
えているのは縁起がいい
ので抜かないとゆうのは
聞いた事が、ありますが

どう見ても、あの方の頭
の、てっぺんには、ホク
口等は無いんですよ…。

それなのにですよ、そん
なに大事にしているわり
には、ドライヤーをかけ
たりしちゃうんですよ

なにゆえに、たった1本
の毛の為に、ドライヤー
をかけるのでしょうか？

熱風を当てるなんて、
抜いてくれと言ってるよ
うなものですよね。

でも、もし私の父親が、あんな風に毛を、てっぺんに1本…生やしてたら

私、あつ(。。(。))って、こけたフリして、何気にブチッ！って、抜いてしまうかもしれません。

でも、頭の毛とゆうのはとても、デリケートな、問題ですから、娘のサザエさんも、奥様の、お舟さんも、ふれる事が出来ないんでしょね。

多分…それが許されるのは、目に入れても痛くない程、可愛い、タラちゃんだけでしょね…。

(。)(。)) はい、久しぶりに出ました！スーパー常連ミキの、ド天然ぶり！

マンガや、アニメの話しを、これだけ熱く自然に語れるのは中々、いませんよね…と思ったら、

高木が…

《高木》よかつたあゝ
気になるのが毛の事で。

だつて、妻の鏡のような
奥様から、旦那様を奪う
なんて事になったら、
どうしようかな…と思っ
ちやいましたもん。

《ミキ》私、お舟さんか
ら、波平さんを奪いとろ
うだなんて、そんな罰当
たりな事、しませんよ！

それに私には、イケメン
の彼氏の、ケンちゃんが
居ますから（　）うふ

（　）ん、高木もミキに
負けない位、天然だね。

だから、話しが合うんだ
ね（　）。（　）ん。

にしても…ケン、さっき
の、ミキの言葉が嬉しか
つたんだろね（　）（　）

気持ち悪い顔でミキを見つめているよ(。°。#)

すると、小林は、高木に捧げると言つて、マイクを持ったよ(…;)…。

《小林》高木さんに愛を込めて、胃袋じゃない…

コブクロの『永遠にともに』を歌います()

(…;)ん、その歌つて…陣内 則が、藤原 香に捧げた歌じゃないのか？

コブクロの2人には悪いけど、その歌は縁起が悪くないか？

あゝあ、歌い始めちゃったあ(> <)ん？でもね

みんなが凍りついて金縛りにあつてる中、高木はニコニコしながら時々、歌に加わりながら、ノリノリだったよ()

僕、小林と高木の事が心配になり、『カシコモ』の、ケータイで、2人の5年後を見てみたんだ。

ん、2人は、すでに結婚していて、2才になる、子供もいるよ）（

2人に似てない、可愛い女の子だよ。

あれ？2人目が、お腹にいるみたいだね（…；）

めっちゃめっちゃ、幸せそうだね（#。#）

そして、32年後も見てみたよ（…）ん、すでに孫までいるよ。

コブクロの『永遠にともに』は、小林と高木には縁起が悪い歌どころか、

『永遠にともに』の題名の通り、とつても縁起の良い歌になったんだね

それから村田も、歌い出
したりして、盛り上がっ
たよ。() () /

そして桂木が、49日の
前の日に、こちらの世界
に戻って来るので、また
ここに集まる事を約束し
て、その日は解散になっ
たよ。() () b

村田と高木には、秘密に
しておいて、驚かせるみ
たいだよ。() () "

裏の顔(1)

次の日、マキちゃんが、遊びに来てくれたよ。

なんかね、マキちゃんがお世話になってる…

ママ、お世話になってるとは言っても、勝手に壁に住まわせてもらってるんだけどね…(> <)

その…勝手に住まわせてもらっている部屋の壁は《岡田真紀》ちゃんって子の部屋なんだ()

名前が同じ、マキってゆうだけで、ここに決めたらしいよ。

真紀はね、大学を卒業した後は、父親の会社に勤めているんだ。

本当は、父親とは関係の

ない会社で働きたかった
んだけど…なにせ真紀は
一人娘なもんだから、
父親が、他のところで働
く事を許さないんだ。

真紀は、特別扱いを受け
るのが嫌だとゆう事で、

身分を隠して、わざわざ
父親の会社の面接を受け
たんだ。

それで、ダメだったら、
働くのを諦めようと思っ
ていたら…すんなり、
真紀は、面接に受かった
やったよ（　　）

申し分ない学歴と面接時
の受け答え…

そして、なんといつでも
真紀の清楚な容姿…なの
にも関わらず、全体から
放たれる、眩しいくらい
華やかな、オーラが、
面接管達を釘づけにして
しまったんだ（　　）

もちろん、真紀が社長の娘だとゆうのは、誰も知らないよ（>。<）

真紀は、お嬢様だけどね仕事は出来るんだよ…！でも…こと、恋愛となるよね、消極的なんだ…。

家が厳しいとゆう事もあ
るけど…一番の原因は、
高校時代に、東条直也と
ゆう男子に、いじめられ
ていたのが、トラウマに
なってるみたいなんだ。

真紀は小さな頃から華や
かな、オーラがあり男子
の憧れの的にはなっても
まず、いじめられるとゆ
う事は無かつたんだけど

この東条だけは恨みでも
あるのか、真紀の事を
いじめていたらしいんだ

真紀が廊下を歩いている
と、足を引っ掛けて転ば
したり…

月1の手づくり弁当の日には、弁当を取り上げ、食べてしまったり（><）

ある雨の日なんかは、傘を隠したり…

ここまでなら、まだ可愛いもんで、靴の中に、ガビヨウを入れたり…

でも、真紀が1番シヨックだったのは、赤の油性マジックで、ノートや机に…『死ぬ』『殺す』と書かれた事だったんだ。

でもね…真紀は、先生や親には、ひと言も、いじめられてるとゆう事は、言わなかったんだよ…。

どうしてかとゆうとね、真紀は、いじめられる前は、東条の事が好きだったからなんだ（><）

初めて、東条を見た時、真紀は、ドキドキが止ま

らず、顔も赤くなり熱が上がり、保健室へ運ばれた程なんだから（＃＃）

真紀は、その初恋の相手に、いじめられた、トラウマのせいで、28才にもなるのに、男と、デートもした事が無いんだ。

もちろん、キスなんて、真紀の中では、ありえないんだよ（><）”

そんなある日、高校時代からの親友の《田川じゅん子》から久しぶりに、日曜日に、ランチしようと、メールがあつた。

真紀も仕事が、ひと段落したら、じゅん子に、メールをしようと思っていたところだった。

そして日曜日：札幌駅の地下のカフェレストランで、パスタとサラダを食べながら…、

《じゅん子》ねえ、真紀は、彼氏出来たの？

《真紀》ううん…、私は相変わらずだよ（><）じゅん子は彼いたんだよね？うまくいつてるの？

《じゅん子》ううん、ちよつと前に別れちゃった（><）”

ね、ね、ね、今度さ、合コンしない？

《真紀》ううん…私は、無理かなあ（><）”

門限もあるし…お母様は許してくれると思うけどお父様が許してくれないと思うし…。

《じゅん子》はあ〜？門限？真紀い〜、私達、もう、28才だよ！

いい加減、父親離れしなよお！過保護されすぎだつちゅーの（>。<）

まあ、真紀の、お父さんなら、かっこいいから私も過保護されたいけど…
なぐんちやって(><)

それにさ、合コンなんて言わなけりゃ、わかんないじゃん！私は、真紀のお父さんに信用あるんだから、私の家に泊まるって言えばいいんだしさ。

それに、そろそろ彼氏ぐらい作らなきゃ、おばさんになっちゃうよ(><

今度の土曜日、夜から出掛けたら、怪しまれるから、テニスを、やるとか言って…朝から、あたしんちに、おいでよ。

それで、夕方、お父さんに、疲れたから、このまま、あたしんちに泊まるって、電話すればいいじゃん)。。(b

私の、お母さんにも電話

に出てもらってさ！
そしたら、完璧じゃん！

男子の方は、3人来るから、こつちも、あと1人…真紀、誰がいる？

《真紀》会社の先輩でもいいかなあ？ちよつと、性格は、キツイけど、バリバリ、お仕事出来てね、かっこいいんだよ！

《じゅん子》年は？

《真紀》33才になるんだけど、ダメかな？

《じゅん子》
33才ね…うん、大丈夫じゃないかな？

男の人って、年上の女性好きみたいだし（　　）

あ、それとき、真紀は普通の、サラリーマンの娘って事にしとくからね。

お金目当てで、近づいて

来るような男だったら、
困るからさ（><）”

《真紀》うん、その方が
私も助かるわ（^ ^）

会社では…誰も、私が、
お父様の娘だとゆう事は
知らないし、先輩にも
言っていないので…。

《じゅん子》そうなんだ
了解！よし、じゃあ、
決まりね（　　）b
楽しみだね（　　）

（　　）ランチの後、二人
は、某百貨店で、シヨツ
ピングをして別れた。

真紀は、お嬢様だからと
いって、むやみに、タク
シーに乗る事はしない。

ちゃんと、地下鉄やバス
で帰るんだよ。

仕事や会社の飲み会で
遅くなった時には、
タクシーを使うけどね。

翌、月曜日の昼休み…、
真紀は先輩の《石田みゆき》を、ランチに誘い、
土曜日の合コンの話しをした（ ）

石田みゆきは、仕事に厳しく…時には、真紀を叱り付ける時もある。

回りは、石田みゆきが、真紀をいじめてるように見る人も居るが、石田は決して、いじめてはいなかった。

女だろうが男だろうが、間違った時には、キチンと叱り直す…そう、仕事に純粹なだけなんだ。

そんな石田みゆきだが、
これまた、仕事一筋で
きたもんだから、男つけ
が全く無いんだ（><）

《真紀》先輩…今度の、
土曜日に合コンあるんで
すけど、一緒に行つてく

れませんか？

友達が、セッティングしてくれたんですけど…
心細くて…（><）”

《石田みゆき》そっか…
そうゆう事なら、仕方ないわね…、いいよ！

（…）ん、石田、仕方ないふりしてるけど…結構乗り気だね（><）

《土曜日…午後6時》
真紀は朝から、田川じゅん子の家に行っていたので、一緒に待ち合わせの

和食レストラン『食』へ向かった。レストランに着くと、入口に綺麗な女性が立っていた。

よく見ると、先輩の石田みゆきだった（…）”

普段は化粧つけの全く無い石田なので、真紀は、その美しさに、びっくり

してしまつた（>く）”

《真紀》せんぱあゝい！
とつても、きれえゝい！
お化粧したの、初めて見
ましたあゝ（ ）”

《石田みゆき》そ、そう
ありがとう（# #）照

《田川じゅん子》

あ、初めまして！今日は
宜しく、お願いします！
ほら、真紀！早く入るよ

（ ）そして、中に入り
予約してある個室へ入っ
た。にしても…じゅん子
機嫌悪そうだね…。

男子3人は、すでに来て
いた。

そして、飲み物を注文し
てから、自己紹介をして
普通の合コンのように、
進んでいった。

じゅん子は、真紀が連れ
てきた、先輩の石田が、

こんなに綺麗だとは思ってなかったので、面白くないみたいだね。

真紀は、3人の中では、とても誠実そうな好青年で、1才年下の《市原あつし》に好感を持った。

そして…初めて、男の人と、メアドを交換した。

先輩の石田みゆきは、
《尾崎たけし・32才》
と話しが合ったみたいで
うまくいきそうだよ。

じゅん子は、心の中で…
『ちっ！なんで、あたしが、こんな冴えない、ブ男と話さなきゃなんないのよ！真紀も真紀よ！

お局みたいな冴えない女を連れて来ると思ったら

こんな綺麗な女を連れて来るなんて（　　）と

面白くないのを抑え、

作り笑顔で冴えない

《井上誠二・28才》と
話していた。

なんか、じゅん子って、
ちよつと、怖い感じがす
るのは、なんでだろう…

そして、その日は真紀も
石田も、慣れない合コン
で疲れたのか、二次会に
誘われたが断り、そこで
解散とゆう事になった。

先輩の石田みゆきは、
方向が同じとゆう事で、
尾崎が送っていった。

真紀は、田川の家泊ま
るので、一緒に帰った。

市原と井上は、合コンで
初めて会っただけなので
バラバラに帰っていった

じゅん子の家に着いた
2人は、化粧を落として

パジャマに着替えて、
缶ビールを飲みながら…

さっきの、合コンの話し
で盛り上がった（ ）

すると、真紀に市原あつ
しから、メールがきた。

《市原あつし・メール》
もう、家に着いたかな？
今日は、本当に楽しかつ
たよ（ ） /

もし、よかつたら…
今度、2人だけで
食事でも、どうかな？

いい返事、期待してます
それじゃあね、
おやすみなさい…。

《田川じゅん子》

おお〜！すごいじゃん！
早速、メールですかあ！
真紀の事、気にいっちゃ
ったんだね（・。・）

市原君つてさ、1コ下だ
けど、誠実そうで、いい
人みたいじゃん！

思い切って、付き合ってみれば？

そんな、重く考えないでさ！ダメだったら、私みたいに、すぐ別れちゃえばいいんだから（笑）

ほらあ、ボーっとしてないで、返信しなきゃ！

《真紀》え？あ、うん…でも、なんて返信したらいいのかなあ…（焦っ）

《田川じゅん子》

そんなの、テキストで、いいんだって（><）”

あ、じゃあさ…私が、メールしたげる！貸して

《メール》こちらこそ、今日は、とても楽しかったです。ありがとうございます。ございました。

お食事…是非、誘って下さいね。楽しみにしています。

ます。おやすみなさい。

《真紀》じゅん子、あり
がとう／＼（　　）

（　　）それから、真紀と市原は、会社も近い事があり、ランチを、よくするようになった。

夜は、仕事関係以外で遅くなると、真紀の父親が、うるさいため、市原とは、なるべく、ランチや土日の昼間に逢う事にしていった。

もちろん…真紀は普通の家庭で育った事になっっている、バレないように、家まで送ってもらう事は絶対にしなかった。

そりゃそうだよね…門の中は、まるで…ゴルフでも出来るんじゃないか？

って思うくらい芝生が敷きつめられ、ずっと奥に見える真っ白い、お城

みたいな、お屋敷までは
高い塀で囲まれてるんだ
もんね。

そして、塀の内側には、
桜の木が、ズラーッと植
えてあつてさ、春になる
と、それはそれは見事な
桜庭園になるんだから！

まままま、お屋敷の事は
こっちに置いていて…と

真紀は、損得関係なく、
自分を愛し…大事にして
くれる市原に、段々と心
ひかれていった…。

そして、あつとゆう間に
ラブ×2な、3ヶ月が過
ぎ…真紀は結婚するのは
市原しかいないと思い始
めていた。

そんな、ある土曜日の
午後…真紀と市原が、
映画を観終えて、歩いて
いると…向こうから、

高校時代に真紀を、いじ

めていた、そして初恋の相手でもある、東条直也が歩いて来た。

真紀は、びつくりして、かすかに震えながら市原の腕を、ギュッと掴み、市原の後ろに隠れるようにして歩いた。

東条も…真紀に、気付いたみたいだが、何も言わずに通り返した。

にしても、真紀が好きになるのも無理ないわ！

東条直也…かなりのイケメンだし、背高いし、見た目、爽やかだもんなあ〜（><）”

でもさ、東条って、イジメするようには見えないんだけどなあ（><）

人は見かけによらないって事なのかなあ？

その夜（夜といっても、

まだ5時だけどね…)

市原は、大事な話しがあ
ると言つて、初めて逢つ
た和食レストラン『食』
に真紀を連れて行つた。

予約してあつた個室に入
り、ひと通り食事を終え
た後、市原は…

ん、ん！と、咳ばらいを
して、ポケットから何か
取り出しながら…

《市原》あ、あのさ…

あのね、突然なんだけど
付き合つてまだ、3ヶ月
で、ちよつと早いかもし
れないけど、俺、真紀ち
ゃんが大好きなんだ！

愛してるんだ！だから、
真紀ちゃん、僕と結婚し
て下さい(> <)”

何があつても、一生、
真紀ちゃんを大事にする
し、守り通します！

() 真紀は、顔を赤くして、コクリと、うなづきながら…

《真紀》はい、私も一生あつしさんを、大切にします(#^。^#)

() そして市原は、ポケットから取り出した指輪を、緊張のあまり、手を震わせながら、真紀の薬指に、はめたんだ。

市原は、このまま真紀の両親に挨拶に行きたいと言ったが、親には自分が一応、話してからとゆう事で、その日は別れた。

家に着いた真紀は、指輪を外し、中に入った。

ちょうど、父親と母親がソファ―に座り、くつろいでいたので、真紀は、話があると、2人の前に座った。

《真紀》お父様、お母様
突然ですが…私、結婚し
ます。

(…)(父、孝太郎は、
金縛りにあつたように、
しばらく固まっていたが
なにせ真紀が、こんな事
を言うのは初めてだし、

しかも付き合うつてゆう
んなら、まだしも、いき
なり、結婚するとゆうか
らには、相当な覚悟が
あるんだなと思ひ、冷静
に話しを聞く事にした。

《岡田孝太郎》

結婚まで話が進んでいる
のなら、なぜ相手の男は
直接挨拶に来ないんだ？

《真紀》それは…、
私が、お父様の娘だとゆ
う事を隠しているから。

いやらしい事かもしれな
いけど、お金目当てとか
財産目当ての人だったら

嫌だから…。

でも、そんなの関係なかった。市原君は、そんな人じゃないって事が、とつてもよく、わかつたから。

お父様も、会ってみたらわかると思う…。(^^)

《岡田孝太郎》

市原君つてゆうのか？
今度、連れて来なさい。

うーん、そうだ！私も、ちよつと変装でもして、外で食事をするか！

私も、市原君とやらの本性が知りたいからな！
よし、早速、実行だ

(…) ン、孝太郎…
ちよつと楽しんでるね…

そしてまた…例の和食レストラン『食』で、真紀と、真紀の両親と市原の4人で食事をする事にな

った。

孝太郎は、40代前半から、スキンヘッド…つまり、つるつばげ…なんだ

でも、その日は、カツラを被り、メガネをかけて変装してきたよ (><)

にしても…さすが、お金持ちだよね (。。() ”

たった、1回しか使わないカツラなのに、100万円だってさ (><) ”

でも…さすが、100万の、カツラともなると…

まあ、自然で…本当の髪の毛に見えるんだね！

メガネは、ただの老眼鏡だけだね… (><) ”

これだったら、誰が見たって、岡田グループの社長だなんて、わからないよね (…;) ン。

《市原》は初めまして！
僕、真紀さんと、お付き
合いさせて頂いてる、
市原あつしと申します。
宜しく、お願い致します

《岡田孝太郎》初めまし
て…真紀の父親の岡田と
申します。こつちが妻の
すみ子です。

《市原》ああ、なんか
ホツとしました（　）

真紀さんは絶対、家まで
送らせてくれないし、
挨拶も、まだ、ダメだと
言われていたので、

相当…怖い、お父さんな
のか、それとも…

《孝太郎》それとも…？

《市原》ええ、とつても
失礼で言いつらいんです
が…もしかして、家が無
くて、漫画喫茶やネット
カフェで寝泊まりしてる

んじゃないのかな？

…なんて事も考えてたんですよ（><）そんな訳ないですよね（焦っ）

《岡田孝太郎》ハハハ…
そうですか…でも、もし本当に家が無く、結婚したら、私達の面倒をみなきゃならなくなったらどうしますか？（ ）

《市原》それはもう！
大好きな真紀さんの、ご両親なんですから全然構いません！こっちから頼みたい位です（ ）

それに僕は次男ですし、すでに、兄は結婚していて、昨年から僕の両親と同居していますから、なんの障害もありません！

《岡田孝太郎》そうか、そうか、私達の面倒をみてくれるのか（ ）
よかったな、母さん…。

《母・すみ子》ええ、
じゃあ、早速、結婚式の
日取りとか決めなきゃ、
ダメですね（　　）

《市原》あ、あの…
その前に…僕、まだ真紀
さんを、お嫁さんに下さ
いって、言っでないんで
すが…言っでいいでしょ
うか？（><）”

《岡田孝太郎》（笑）
そうだったな…まだ、嫁
にくれとも言われてない
のに、結婚式の日取りは
ないな！ハア〜ツハハ！

《市原》は、はい（汗）
じゃ、じゃあ、いかさせ
て頂きます！ん、ん、ん

ま、真紀さんを、僕の…
お、お嫁さんに下さい！

（　　）市原は、掘ごたつ
から足を出し、正座をし
て、真紀の両親に深々と
頭を下げ挨拶をした。

どうやら市原は、真紀の

両親に、気にいられたみたいだね。よかったね！

その後：孝太郎は市原を自宅に連れていった。

市原は、訳がわからず、キョロキョロしていた。

《市原》あのお…ここは一体…どこですか？
美術館か何かですか？

《岡田孝太郎》ここは、私達の自宅だよ（ ）（ ）

（ ）（ ）そう、言いながら孝太郎は、カツラと、メガネを外した。

《市原》あ、あなたは、岡田グループの社長（驚

え？え？じゃ、じゃあ、真紀ちゃんの岡田って？

ええーっ（ ）（ ）

《真紀》騙すつもりは無かったんだけど…特別扱

いされるのが、嫌だっから…本当に、ごめんね。

《市原》特別扱い…？

それって……………

すみません、僕、今日はこれで失礼します（><

（…）市原、そう言っ出て行っちゃったよ…。

きつと自分が試されたような気がして、シヨックだったんだろっね…。

でもさ…市原の、この態度が、これまた孝太郎は気にいっちゃったんだ。

その後…真紀が、いくらメールしても、電話をしても、市原からの返信は無かった。

最初に、正直に話しとけば、よかったと、真紀はとても後悔していたよ。

そして、毎日のように、

じゅん子に相談していた

じゅん子も、めんどくさ
がらずに、真紀の相談に
のっていた。

《じゅん子》ごめんね…
私が最初に、あんな事
言っちゃったせいで…

《真紀》ううん、じゅん
子のせいじゃないよ！

私も、その方がいいと思
ったんだもん…だから、
気にしないでね（><）

でもね…逢えなくなつて
まだ、5日しか経つてな
いのに、わたし…胸が苦
しくて、逢いたくて…

自分が思つよりも…、
市原君の事が好きなんだ
な…って、思い知らされ
ちゃった…（；。；）

《じゅん子》たぶん…、
市原君も同じ気持ちだよ

市原君の心の整理がつくまで、もう少し待ってあげたら？大丈夫だって！絶対、連絡くるって！

（…）真紀は涙ぐみながら、じゅん子の、大丈夫って言葉に癒されていた

そして、おとなしく、市原の連絡を待つ事にした…。

それから…2日経ったある日の午後、市原から例の、和食レストランで会いたいと、メールがあった。

真紀は、嬉しすぎて、その日の午後からは仕事にならなかった。

待ち合わせ時間は、7時だったが、真紀は30分も早く着いてしまった。

少ししてから、市原も来た。しばらく沈黙が続いたが…

《真紀》市原君…本当に
ごめんなさい（；、；）

市原君を、騙すつもりは
なかったんだけど…、

でも…結果、市原君を傷
つける事になっちゃって
本当に、ごめんなさい。

市原君に会えなかった
この、一週間は、とても
長くて、苦しくて…

私は…私は、市原君の事
が好きで、好きで…どう
しようもないんだって…
思い知らされたの。

だから、お願い！許して

《市原》僕だって…僕だ
って、真紀ちゃんの事が
大好きだよ！

その気持ちは今だって…
いや、永遠に変わらない
よ…！

実は、昨日…岡田社長から直接、会って話しがしたたって連絡があつて、話しをしたんだ（><）

《真紀》 え？お父様が！何か言われたの？もし、ひどい事、言つたんならごめんなさい（><）

《市原》 いや、違うよ！逆だよ。真紀ちゃんと結婚してくれって言われたんだ…。

岡田社長に言われて、気がついたよ（><）

一番、大切なのは、お互いの気持ちだけでいいのに、それだけで、じゅうぶんなのに…余計な事まで考えちゃつてさ…。

でも、もう迷わないよ！僕は、真紀ちゃんを愛してる！

だから、改めて、プロポーズするよ！真紀ちゃん

僕と結婚して下さい！

《真紀》は…い（　）

（　）ん、よかったね！
それからは、あれよあれ
よと、事が進んでいった

結婚式は、2ヶ月後の
9月に決まったよ。

籍を入れるのは、式の少
し前か後でいいと…真紀
は思っていた。

市原も最初は、それでい
いと言っていたのだが、

どうゆう訳か、急に…
7月7日の、七夕の日の

今日、籍を入れたいと、
昼休みに電話が掛かって
きた。

真紀の両親の了解も、
もう、すでに、市原が取
つてあるみたいだよ。

真紀は、少し早いけど、

七夕ならば記念日として
絶対忘れないし、ロマン
チックだし…両親の了解
も取ってくれてるんなら
…と了解した。

婚姻届けは、いつでも出
せるように、とっくに書
いてあるんだ。

そして、真紀が肌身離さ
ず持っているんだよ。

真紀と市原は、仕事を終
わった後、一緒に籍を入
れに行こうと決めていた
のだが…

午後6時頃、帰る支度を
していると、市原から、
電話があり…

《市原》真紀ちゃん、
ごめん！今日、残業で遅
くなりそうなんだ！

1人で行って来てほしい
んだけど…（><）”

《真紀》遅くなってもい

いから、一緒に行きましよう（ ） 確か、届け出は、24時間受け付けてるんだよね？

《市原》それが、今日中には帰れないかもしれないんだ！

でも、僕は真紀ちゃんと絶対に、7月7日の今日夫婦になりたいんだ！

だから、お願い！会社の帰りに、真紀ちゃん1人で籍入れに行ってきて！絶対だよ！

《真紀》ううん…
うん、わかった！1人で行って来る（ ）。（ ）

《市原》それじゃあね…
仕事忙しいから、もう、切るよ！宜しく頼むよ！
愛してるよ！

（ ）市原は、そう言って、あわてた様子で、
電話を切った。

真紀は、仕方がないから
その時は、1人で行こう
と思っていたが：

やっぱり、日にちも大事
かもしれないけど、2人
で行く事の方が大切な
んじゃないのかな？

それに、北海道の七夕は
1ヶ月遅れの、8月7日
だし：その日に、2人で
行った方がいいと思い直
して、真紀は籍を入れに
は行かなかった。

市原に電話をしようとも
思ったが、仕事の邪魔に
なると思い、電話はしな
かった。

その日、真紀の両親は、
古くからの友人のホーム
パーティーに呼ばれてい
て遅くなると言っていた
ので、

真紀は、仕事の後、久し
ぶりに先輩の石田と食事

をして帰る事にした。

石田は、合コンの帰りに送ってもらった尾崎と、うまくいつてるのかな？と思っていたら、ダメだったらしいよ（><）

そして、今日の…籍を入れる話しを相談したら、

《石田》ええ〜（。°。°）
1人で、籍入れに行けてゆーの？

私だったら、やっぱり…彼と一緒に行きたいな。

どうして、市原さんが、7月7日に、こだわるのかは知らないけど、別にどっちの誕生日の日でも何でもないんでしょ？

だったら、無理に今日、籍入れに行かなくても、いいんじゃないの？

市原君は、女心わかってないなあ〜（。°。°）

それに…北海道の七夕は
来月だし！

(…)(真紀は、石田が、
自分と同じ事を言ったの
で、市原には悪いな…と
思いながら、なんか…、
ホッとしていた。

真紀は、市原には明日、
話す事にした。

ま、市原の事だから、
そんなに怒らないとは思
うけどね(…)(…)

話しは変わるけど、どう
して、カッパ似の、マキ
ちゃんが出てこないの？
って思うでしょ？

前にも話した通り、マキ
ちゃんは、妖精界で小さ
な店だけど『MAKIE』
ってゆう洋服屋さんをや
ってるし、スタイリスト
の仕事もしてるんだ。

岡田真紀の部屋の壁に、

レンタルルームの扉を
貼付けた途端、スタイリ
ストの方の仕事が忙しく
なっちゃったんだ。

人気女性ロック歌手の、
ウサギ似の、ロコモコち
やんが、自分の、スタイ
リストは絶対、マキちゃ
んじゃなきゃ、ダメだつ
て言うんだって。

たまたま：1度、担当し
たら、それから気にいら
れちゃったみたいだよ。

にしても：ロコモコだな
んて、美味しそうな名前
だよね（。 ） "

今日、シュガーのマス
ターに頼んで、ロコモコ
井作ってもらおうと

ちなみに、ロコモコって
芸名はね、ロックで白い
毛が、モコモコしてるか
らなんだって。

ん、そのまんまだね…。

とゆう事で、あれから、
ほとんど、マキちゃんは
人間界には来てないんだ

岡田真紀は、疑う事なく
すぐ人を信用しちゃうか
ら、騙されないか…って

マキちゃんは、とても
心配していたんだ。

だから、僕が、ちよくち
よく、岡田真紀の様子を
見に行つて、マキちゃん
に、報告してるんだよ。

さあ、僕も今日は、もう
帰つて、シュガーに行こ
おつとお（ ）。

シュガーに行くと、相変
わらず、スーパ―常連の
ミキが、1番奥の席で、
ケンと楽しそうに話して
いた（ ）（ ）（ ）／

席は結構、空いてたんだ
けど…ミキや、ケンと話
したかったから、僕は、
迷わずに、ミキの横に座

つたんだ（　　）

お腹、空いてたんで、
マスターに、ダメ元で、
ロコモコ丼が作れるか、
聞いてみたら…、

『作れるよ（　　）。』
だつて！やったあー

しばらくして、美味しそ
うな匂いをさせて、ロコ
モコ丼が出来たよ（　　）

ん〜ん！おいすう〜い

ジューシーな、手づくり
ハンバーグと、この半熟
の目玉焼きが、ライスに
からんで…めっちゃめっちゃ
美味しいい〜（　　）

ホントに、マスターって
何でも出来ちゃうんだね
ああ〜、しあわせえ〜

ロコモコ丼を食べ終えて
幸せに、浸ってる時…
小野寺が、会社の先輩を
連れて、やって来た。

にしても…小野寺、すっかり、スーツ姿が板についてきたなあ（。）。（

《小野寺》 あれえ〜！

二階堂さん、来てたんですかあ！最近、家の方、チャイム鳴らしても、

いつも、留守だったから心配してたんですよ！

（…）小野寺は、そう言つて、ウイंकをしながら、僕の横に座った。

そくだよなあ…最近、

岡田真紀の所にはばかり行つてたもんなあ（…）

実は…ここだけの話し、

岡田真紀つて、なんか…

さち子に似てるんだよね

だから、マキちゃんに頼まれたから様子を見に行つてるとゆうよりも、

自分から積極的に様子を

見に行ってるんだ。

岡田真紀の…特に、横顔
なんて…めっちゃくちゃ、
さちに、そっくりなん
だあ（、、#）。

《小野寺》二階堂さん！
どうしたんですか？
顔、真っ赤ですよ！風邪
ですか？（。。；）”

《（）二階堂》
い、いや…なんでもない
です（#><#）焦っ

《小野寺》なら、いいん
ですけど。あ、ミキさん
も、こんばんは（）
今日、この間、頼まれて
たCD持って来ましたよ

《（）二階堂》
あ、僕、そっちの席に移
るからさ、小野寺君、
ここ、どうぞ（）。

《小野寺》ええ！いいで
すよお、そうですかあ
（#^^^）^^

(…)(…)そして、僕は、
小野寺の連れて来た会社
の人の横の席を、ひとつ
空けて座ったんだ。

《小野寺》あ、そうだ、
二階堂さん、紹介します

こちら、会社の先輩で、
僕の教育係でもある、
東条さんです。

東条さんは、シュガーに
は今日で、3回目なんで
すけど…最初、一緒に来
た時に、すごい気にい
つてくれて、今日は逆に
誘われちゃいました。

(…)(…)ん?…東条?
ま、まさか…高校時代に
岡田真紀を、いじめてい
た…あの、東条なのか?

僕は挨拶をするふりをし
て、じつくりと顔を見た

ん、間違いない!
東条直也だ(、。(、(、)
”

でも、やっぱり…イジメをするような人には、見えないんだけどなあ…。

小野寺は、ミキと話しが盛り上がってるみたいなので、僕は東条に、ちょっと話しかけてみた。

《（ ）二階堂》

いきなりなんですけど、東条さんって、僕の友達に、そっくりなんですよ

そいつ、すっごい、かつこよくて、イケメンで、女子達に、めっちゃくちゃ人気あつたんですよ！

あれでしょ？東条さんも高校時代と違って、モテモテだったんじゃないですか？

《東条直也》いやあ、僕なんか、高校時代なんて全然モテませんでしたよ。逆に、好きな女の子に嫌われてましたから。

真紀ちゃんってゆうんで
すけどね。今、思うと…
本当に俺って子供だった
なあ〜って思いますよ。

(…)(え？東条って…、
真紀の事、好きだったん
だあ(。。(あらま…

《(…)(二階堂》
どうしてですか？

《東条直也》俺の高校は
ね、月に1度だけ、手作
り弁当の日があっただ
すよ。

本当は自分で作ってこ
なきゃならないんだけど、
ほとんどは、みんな親に
作ってもらってくるんで
すけどね…

僕の大好きな真紀ちゃん
だけは、家が大金持ちで
お嬢様なのに、ちゃんと
朝早く起きて、自分で、
弁当作ってくるって

女子達が話してるのを聞
いちゃったら、俺…真紀
ちゃんは、一体どんな弁
当作るんだらう？…って…

まあ、食べたくて、食
べたくてさ…（><）”

昼休みに入る前に、思わ
ず、真紀ちゃんの机の中
から、弁当取り出して食
べちゃったんだ。

いやあ、美味しかった
なあ（ # ）。

あ、あとさ…雨の日に、
真紀ちゃんの傘隠してね

困ってる所に、俺が行
って、相合い傘で、一緒
に帰りたいな…なんて、
計画してたんだけど…

そこに、ちょうど、担任
の清水先生が通りかかっ
て、真紀ちゃんに、ビニ
ール傘を貸しちゃってさ

なんだか、俺のやる事っ

て全部、今ひとつだった
んだよね（＞、＜）”

でもさ、あん時、俺のや
つてない事まで、俺のせ
いにされちゃってさ…

何が、ツライって、真紀
ちゃんに誤解されたまん
まなのがツライんだよね

だって俺、恥ずかしいけ
ど、今でも、真紀ちゃん
の事、好きだからさ…。

でも、この間、シヨック
だったなあ…。

狸小路歩いてたら、男と
歩いてる真紀ちゃんと、
すれ違っただ…。

そりゃあ、この歳だから
男くらい居て当然かもし
れないけど…、一緒の男
を見て、びっくりしたよ

真紀ちゃん…なんで、
あんな男と付き合ってん
のかなあ…（＞＜）”

ままままま、俺が言うのも説得力無いけどね…。

《（…）二階堂》

どうして、あんな男…なんですか？

《東条》ん、それがね…すれ違った時、あまりにも、まともっぽくなつたんで…最初、気付かなかつただけけど、相手の男つてのがね、俺よりも1コ下の奴で…確か、市原ってゆう奴なんだよね

たまたま、俺の従兄弟が市原と同じ高校だったんで、知ってたんだけど…

市原は、めっちゃ悪い奴で…カツアゲ、万引きなんかは当たり前で…

薬はやるわ、女は取っ替え引っ替えだわ…

レイプまがいな事も、やってたらしいんだ。

ままま…昔、悪だった
からって、今も悪とは限
らないから、決めつけち
やダメだけどね（><）

でもさ…高校ん時に、
市原が付き合ってた女っ
てのが、真紀ちゃんの
親友の女子なんだよね。

1度、いちゃつきながら
歩いてたから、なんと
なく、後をつけてみた事
があるんだけど…ホテル
に入っちゃってさ（。。）
びっくりだよ（><）”

にしても…自分の彼氏が
親友の元カレだって、
真紀ちゃんは、知ってて
付き合ってたのかなあ？

それと、もう、ひとつ…
すっごく気になる事があ
るんだ。

実は…真紀ちゃんの机や
ノートに『死ね』とか、
『殺す』って書いた犯人

も、その女子なんだよね

ある日さ、おふくろに、

『今日、ジャージ持って帰って来ないと、永遠に洗濯してやらない』って言われてたんで、

俺：学校に、ジャージ忘れたの思い出して、教室に取りに戻ったんだ。

中に入ろうとしたら、

薄暗い教室に誰か居てさ

真紀ちゃんの机に何か書いてるんだ。

見えたのは、横顔だけだったけど、めっちゃ怖い形相でさ…(> <) 〃

なんか、俺、怖くてさ…

中に入らずに隠れながら

そおっつと見てたんだ。

その女子はさ、誰にも見られてないと思って、

帰り際に、真紀ちゃんの

机に、ツバ吐いて、思い
きり蹴飛ばして帰って
いったんだ。

本当に、めっちゃ怖かつ
たんだから(。。()

靴に、ガビヨウを入れた
所は見えないけど…多分
それも、田川の仕業なん
だろうなあ(> <)

《() 二階堂》えっ！

田川…？田川って、

田川じゅん子ですか？

《東条直也》そうです！

え？田川じゅん子の事、
知ってるんですか？

もし、少しでも付き合い
があるのなら、田川には
気をつけた方がいいです
よ(> <) () ()

性格ってのは、そう簡単
に変わらないですからね

それに…あいつは、演技

が上手いですからね…
怖いですよお(。°。()”

あの時だつて…赤のマジ
ツクで『死ね』『殺す』
つて書いたのは、自分が
やったくせに、みんなの
前で…

《田川じゅん子》

ひどくいい！誰よ、こん
な事、書いたの！

ああ！わかつたつ！

やったの東条君でしょ！

真紀に謝りなさいよつ！

(、()”

《東条》え？お、オレ？
俺、やってねえし！

《田川じゅん子》じゃあ

誰が、やったのよ！

こんな事するの、あなた
位しか、いないじゃん！

《東条・心の声》

つてか…おめえだし！

でもね…そこでもし、
それを言っちゃったら、
真紀ちゃんが、もっと、
ひどいめにあわされそう
で怖くて…言えなかった
んだよね…(> 。 <)

(…) 僕…真紀ばかりを
見ている、回りの人達の
様子って…見てなかった
もんなあ。

すると、急に、胸騒ぎが
したんで、トイレに入る
ふりをして『カシコモ』
のケータイで…市原が今
何をしているのか、画面
に映し出してみた。

ん？これ誰だ？市原…？
黒の帽子を深く被って、
黒のサングラスをしている
から、最初、市原だって
気付かなかったよ！

あれ？この車は、岡田が
プライベートで乗ってい
る車だね…。

今日は、知り合いの、

ホームパーティーなのでいつもの運転手は居ない

プライベートで飲む時の運転は…いつも、妻の、すみ子がするんだ。

すみ子は、アルコールが一滴も飲めないので、ちようどいーんだよね。

にしても…市原は残業のはずなのに…どうして、こんな、変装までして駐車場に居るんだろ？

んん？これ、ヤバイな！ブレーキが利かなくなるように細工してるんだ！

え？これって…岡田夫妻を事故らせようとしてるんだよね？

ってゆう事は、殺害しようとしてるって事だよ

(。°。)

ヤバイ！急いで、この駐車場に行かなきゃ！

ん、でも、駐車場で市原と、鉢合わせになるのは怖いな（><）”

岡田夫妻のそこに行った方がいいか（>。<）

僕は、トイレから出て、あわてて、そのまま店を飛び出した。

そして、どこでも自転車で、岡田夫妻の所へ向かった（><）”

しばらくして、ある豪華なマンションの、22階のドアの前に着いた。

僕は衿を正して、チャイムを鳴らした。

中では、僕の顔が、インターホンの、テレビに映し出されている。

《中の住人の中年女性》
あらあゝ、ちよつとあゝ
すごい、イケメン君が来

たわよお〜！（ ）

あら、失礼（><）
どなたかしら？

《（ ）二階堂》

あ、あの…僕、二階堂と申します。岡田社長に、お話がありまして…

《中の住人の中年女性》

岡田さんに、イケメンのお客さんですよ〜！

《岡田孝太郎》

はい、岡田ですが、どちら様ですか？

《（ ）二階堂》

突然で、すみません…
僕、二階堂と申します。
実は、真紀さんの婚約者の市原あつしさんについて、お話がありまして。

《岡田孝太郎》………

今、開けますから、中に入ってきて下さい。

…（ ）扉が開くと、そこ

は何処かの、ラウンジの
ように広くて豪華だった

上を見上げてみると、
見た事もないような、
大きな、シャンデリアが
吊されていた(。。(。ゞ
すると岡田がやって来て

《岡田孝太郎》

初めまして…岡田です。
市原君の話しとは、どう
ゆう事でしょうか？

(…)(玄関先なのにも関
わらず、どこかのカフェ
のような、テーブルと
椅子が置いてあったので

僕と岡田は、そこに座っ
て、話しをした。

《(…)(二階堂》あのお
突然で、大変失礼だとは
思いますが、今日の帰り
は、タクシーで帰って頂
けませんか？

《岡田孝太郎》タクシー

でですか？それは一体…
どうしてですか？

《（ ）二階堂》実は…
とても言いづらいんです
が…、岡田社長の車の、
ブレーキが利かないよう
に、細工されてるみたい
なんですよ（ ）><（ ）”

《岡田孝太郎》市原君の
仕業ですね…。

《（ ）二階堂》え？
岡田社長は、知ってたん
ですか？

《岡田社長》いや、ブレ
ーキを細工されたのは、
知りませんが、市原君な
ら、やりかねないなと思
いまして…。

実はですね…私は、最初
市原君の事を全面的に信
用してまして、市原君の
事を調べもしないで娘の
婿には、この男しかいな
いなと思ってたんですが

私は、まだまだ…人を見る目がないみたいです…

昨日：取引先との会食を終えて帰る途中の、車の中で見てしまったんです

真紀の親友の、じゅん子君と市原君が、仲良さそうに腕を組んで歩いているのを…。

運転手に言っただけを付けさせたら…愕然としましたよっ！あるうことが、2人は、ホテルに入っていったんですよ(。。)

それで今日、市原君の昼休みの時間に合わせて電話をしたんです。

《岡田孝太郎》すまんが市原君、何も言わずに、真紀と別れてほしい。

《市原》え？別れてほしいって、どうゆう事ですか？言ってる意味が全くわかりませんが！

どうして、真紀ちゃんと別れなきゃならないんですか？

《岡田孝太郎》 どうしてつて、それは、君自身が1番よく知ってるんじゃないのか…！

とにかく、真紀との結婚は、諦めてくれ！

《市原》 真紀ちゃんはこの事は、知ってるんですか？真紀は、何て言ってるんですか（、、） //

《岡田孝太郎》 真紀にはまだ、話していないよ。今日か明日にでも、話すつもりでいるが…。

いいか！とにかく、真紀には、今後2度と近づくんじゃないぞ！

《市原》 フッフッフッ…ア〜ッハツハハハハ〜！

岡田さんよお〜！俺様に
そんな口きいちゃって
さあ〜、あんた…ただで
済むと思うなよなあ！

(…)

ん、僕、この場面を後か
ら『カシコモ』の、ケー
タイで見してみたんだけど

あまりの、市原の豹変ぶ
りに、びっくりしすぎて
言葉が出なかったよ…。

あんな…優しそうで、
好青年な市原が…まるで
鬼のような顔で(怖っ)

なんか、僕…人間不信に
なりそうだよ(…)

それで僕、岡田に今日の
籍を入れるとゆう話しも
したんだ。

ままま、結局、籍は入れ
なかったから、よかった
んだけどね(＞＜) //

すると岡田は、携帯を取

り出して、真紀に電話をかけた。

《岡田孝太郎》真紀か？
今、何処に居るんだ？

《真紀》うん、今ね…
石田先輩と、お食事してるの（　）／

でも、どうしたの？
お父様が、電話してくるなんて珍しいね！

《岡田孝太郎》市原君に籍を入れて来てほしいと言われたんだよな？

《真紀》そうなの…
お父様も、お母様も了解してくれたってゆうし、

どうしても、七夕の日に籍を入れたいって言うから、行ってこようとは思っただけど…、

やっぱり、こんな大切な事は2人で行きたいなと思っ行って行かなかったの。

それに、北海道の七夕は
来月だし（　　）

明日、言おうと思ってる
の。市原君の事だから、
笑って許してくれると思
うけどね（　>。<　）

《岡田孝太郎》 うんうん
わかったわかった！

いいか、真紀…もし、
市原君から、メールや
電話がきたら、籍は入れ
たと言っておきなさい！

絶対、入れてないなんて
言っちゃ、ダメだよ！
わかったね！

それともし、市原君が会
いたいと言っても、今日
は、石田君と別れた後は
すぐに、タクシーに乗っ
て、真つすぐに家に帰り
なさい！わかったね。

私達も、もう少ししたら

帰るから。

《真紀》うん、わかった
それじゃあね)。。

(。)(ん、岡田は、真紀
に危害が加わらないよう
にしたんだね。

今日は…これで、一応は
ひと安心とゆう事で、僕
は何かあつた時の為にと

岡田に自分の電話番号を
書いた紙を渡して、マン
ションを出たんだ。

でもね…僕、マンション
を出た後、市原の事が気
になって…『カシコモ』
のケータイで、市原の
今現在ボタンを押して、
見てみたんだ。

ん？ここは、市原の部屋
かな？

え？じゅ、じゅん子が居
るよ)。。(。(。(。

ふ、2人で、ベッドの中に居るよ(。。(；(；) ”

じゅん子は、タバコを吸いながら…

《じゅん子》どうだった上手くいった？誰にも見られなかったでしょうね

《市原》バツチリさ！

これで、明日の新聞には岡田グループの社長夫妻事故死って載るんじゃないかな！

《じゅん子》ところで、あの、バカ女、ちゃんと籍入れに行っただんでしょね…。

《市原》だあ、いじょうぶだって！あいつは、俺のゆう事なら、何でも聞くんだから。

《じゅん子》でもさ…、一応、確認してみたら？万が一って事があるからさ。

《市原》めんどくせえな
まっ、大丈夫だとは思っ
けど、かけてみるか！

ピッピッピッ……

あ、真紀ちゃん、今日は
1人で行かせちゃって、
ごめんね（><）え？今

まだ、仕事が終わらな
く……残業中さ。

ところで、婚姻届け出
てきてくれたんだよね？

そっか、じゃあ、今日か
ら僕達は、晴れて夫婦な
んだね。よかつた！

これで、残りの仕事も、
頑張れるよ！

それじゃあね、おやすみ
また明日ね！愛してるよ

（。 ）

プチ……

ほらね、ちゃんと入れに
行ってるだろ！

裏の顔(2)

《じゅん子》ふん、何が
愛してるよ…よ(、、)
ばっかじゃないのっ！

《市原》なに、ヤキモチ
妬いてんだよ！ばっか！

一応…真紀とは、夫婦な
んだからさ(笑)

それに明日には、邪魔な
岡田夫妻は、この世には
居なくなる…。

そして、一人娘の真紀は
両親を、いつぺんに亡く
した悲しみに耐え切れず
に首吊り自殺をする。

ん？手首を切って死ぬ方
がいいかなあ？
ま、殺^やり方は、

その時の気分次第だな！

そうだったら、全財産は

全部、俺と、お前の物に
なるんだぜ！

いくら、バカ女でも、
愛してるよ…ぐらい言っ
てやらなきゃ可哀相だろ
が（　　）（　　）（　　）

《じゅん子》でも、もし
岡田夫妻が助かったら
どうすんのよ！

《市原》そんな時は、3人
まとめて、殺^やつて
やるよ（　　）（　　）（　　）

（　　）（　　）（　　）（　　）
2人は笑っていた（怖っ

（　　）（　　）（　　）（　　）

ん？…なんか、視線を感
じるんだけど…

ヤバイ！おまわりさんが
近づいて来ちゃったよ！

スーツ着て、自転車に
またがって、ズーっと、

怖い顔で、ケータイ見
たから、怪しいと思われ
ちゃったのかな(><)

僕は急いで『ルームに戻
る』ボタンを押した。

…と言っても、この
『どこでも自転車』は、

近くても遠くても、必ず
6分、かかっちゃうんだ
けどね(><)ゞ

おまわりさんは、急に
自転車ごと僕が消えちゃ
ったんで、ビックリして
自転車と一緒に、ひっく
り返ってたよ(。°。)

おまわりさん、
ごめんね、ごめんねー！

僕は、その6分を利用し
て、カップ似のマキちゃ
んに今日の出来事を報告
しようと思ひ電話した。

偶然にも、マキちゃんも
僕のルームに来る所だっ

たらしい。

ルームに着くと、ひと足早く、マキちゃんが先に着いていた。

どうゆう訳か、ロコモコちゃんも、一緒だった。

マキちゃんの友達の僕に会いたいと言って、くっ付いて来たらしい。

ロコモコちゃんは、妖精界では、今1番人気のロック歌手なんだ…。

普通は、会う事なんて中々…出来ないんだよ。

テレビで観た事しかないけど…真っ白くて、フワフワで本当に可愛いなあ…。とても、ロッカーには見えないよね…。

でも、そのギャップがいーのかもね (><) //

僕は、ルームに入り、

マキちゃん達と一緒に、

妖精界から持ってきた、
PCで、じゅん子と真紀
の高校時代から今までの
流れを、要所要所だけ、
ザッと観てみる事にした

全部見るには時間が、か
かりすぎちゃうし、ケー
タイだと3人で観るには
キツイからね（><）ゞ

この、PCには、すでに
『カシコモ』のケータイ
から、田川じゅん子、
市原、真紀の写真や、
データは、送ってある
んだ。

前にも言ったと思うけど
『過去』『今現在』『未
来』の場面を観る事が出
来るんだけど、その他に

見たい時代や時間が、
わからない場合…

そんな時は、見たい人物
名と出来事を入力すれば

検索してくれるんだよ。

例えば…田川じゅん子の場合はね『田川じゅん子高校時代、机蹴る、ツバ吐く』って入力すればいいんだよ（、）

お！ヒットしたよ（、）
したけ…ど…

じゅん子は、まるで何かに、とり憑かれたようなもっのすごい怖い顔で…

『このバカ女！ちょっとぐらい、可愛いからって

チヤホヤされて、いい気になってんじゃねえよ！

バカヤロウ（、、）
死ね！死んじまえっ！』

と、叫びながら、東条が見た以外にも…何十回も蹴飛ばしていたんだよ！

ん…じゅん子は、真紀に異常なくらいの嫉妬心を

抱いていたみたいだね。

市原も、そうだけど…

今までの、真紀に対する

あの、優しい態度が全部演技だったなんて、本当に信じられないよ…。

でも…ちょっと、ホツとしたのが東条だったよ。

じゅん子が、ツバを吐いて蹴った机を元に戻して

ティッシュで、その、ツバを拭き取り…

自分の汗拭き用のタオルを濡らして、少しでも、字が消えるように、一生懸命ゴシゴシしてたよ。

でもね、油性マジックだから中々…消えなくて…

途中で諦めて帰っちゃったんだけどね（><）”

初めて見た時、思ったん

だけど、やっぱり東条つて、イジメなんか出来る人じゃなかったんだね。

そして『田川じゅん子、岡田真紀、靴、ガビヨウ』で入力してみた。

ん？ここは、学校の裏にある大きな木の下だね。

じゅん子と、もう、1人誰か…女子がいるよ。何か話してるね…。

その女子の情報が無かったので、その顔をピクアップして情報を引っ張ってみた。

えっとお…何？なに？ん…じゅん子や真紀と同じクラスの『寺田栄子』とゆう女子だね。

一体、何を話してるのかな？（…；）ゞ

《寺田栄子》こんな所に呼び出して、何の用？

《じゅん子》真紀の靴の
中に…この、ガビヨウ入
れて来てよ！はい、

《寺田栄子》え…？何言
つてんの？そんな事、出
来る訳ないじゃない！

…つてゆうか、真紀ちゃ
んって、田口さんの親友
だよな？

どうして…ね、どうして
そんな事するの？

《じゅん子》うっせえー
んだよ！そんな事、あん
たには関係ねえんだよ！

それに、あの…バカ女が
あたしの親友だつてえ？
ハッ、笑わせないでよ！

都合がいいから仕方なく
付き合つてやつてんだよ

つてかさ、あんたの弟…
あたしの彼氏と同じ高校
なんだよね…弟を痛い目

に合わせたくなくなかったら
言う事、聞いた方が身の
ためだと思っただけど！

《寺田栄子》バカみたい
そんな脅し、誰が聞くも
んですか！帰るわ！

《じゅん子》ふう〜ん…
あっそ！じゃあ、あんた
の弟が、どうなっても
いーんだあ！

() そう言いながら、
じゅん子は、ケータイを
取り出して、誰かに電話
をかけたよ。

《じゅん子》もしもしい
あつしい？そこに、栄子
の弟いるんでしょ？

栄子がさあ、弟なんか、
どうなってもいーって言
ってるからさ、ポツコボ
コに、やっっちゃってよ！

《寺田栄子》な何なの？
どうして、そんな事する

の？それに弟までつて…
一体、何が目的なの？

《じゅん子》だあゝから
あんたには、関係ないっ
つってんだよっ！

ほらあゝ、どうするの？
あんたが『はい』って言
うまで、弟…ボコボコに
されっぱなしだよ！

あゝあ、男のくせに大き
な声出しちゃって、女み
たいに泣きながら『やめ
て！』って叫んでるよ！
ほらあ、聞いてみる？

(…)(…)そう、電話の向こ
うでは寺田の弟が市原に
殴る蹴るの暴行を受けて
悲鳴をあげていたんだ。

栄子は、『やめてー！』
と叫びながら、真紀の靴
の中に、ガビヨウを入れ
るのを承諾した。

そして、栄子が真紀の、
靴の中に、ガビヨウを入

れる所を、じゅん子は、ビデオで撮っていた。

《じゅん子》あんたが、ガビヨウ入れるとこ、バツチリ、ビデオで撮ったからね（、、）”

これで、あたしと、あんたは、共犯者だよ！

ちくつたら、これ、ネットで流すからね（、、）

（、）それからの、寺田姉弟は地獄の日々だった

寺田の弟は、その日から市原に目をつけられ、

毎日のように、こき使われ、金を巻き上げられ、

少しでも反抗すると、殴る蹴るの暴行をうけ…

栄子は栄子で、じゅん子の言いなりになり万引きなども、やらされていた

1番、むごいとゆうか……
残酷だったのは、栄子を
無理矢理、ドライブに行
くよ！と連れ出し、

市原と、市原の仲間の男
の2人で栄子を暴行した
事だ。

顔が、わからないように
男達は覆面をしていた。

じゅん子は、ニヤニヤし
ながら、栄子の顔だけは
ハッキリと、わかるよう
に、ビデオで撮っていた

そして……もし、誰かに
少しでも、ちくつたら、
ガビヨウの件も今日のも
ぜえくんぶ、ネットで流
しちゃうからねっ！』

と……笑いながら言い放つ
て、栄子を薄暗い倉庫に
1人、置き去りにしたま
ま帰って行った。

栄子は、悔しさと怒りに
震える手で、バツクから

ケータイを取り出し、

弟の洋二に、ジャージを持って、迎えに来てほしいと電話をかけた。

栄子の、ただならぬ声に洋二は悪い予感を覚え…

急いで栄子の、ジャージを紙袋に入れ、自転車を走らせた。

倉庫に着くと、栄子の服は、スタスタに破られ、顔には、抵抗した時に、殴られたと思うアザと、鼻血が出ていた。

『誰に、やられたの？』
洋二が、いくら聞いても警察に行こうと言っても栄子は首を振り、うつむくだけだった。

栄子はジャージに着替えスタスタになった服を紙袋に入れ、弟の自転車

の後ろに乗って帰った。

そして、帰る途中の川にその紙袋を捨てた。

栄子と洋二は母子家庭で母親は仕事から、まだ帰っていないかった。

栄子は弟に『お母さん心配するから、余計な事言わないでね…』。

私、今日はもう寝るから起こさないで…』と言って、自分の部屋に入ってしまった…。

母親が帰ってきて夕飯の支度を始めた。

栄子の部屋のドアを…

『ご飯、出来たよ!』とノックして声をかけても

『食べたくない…』と返事が返ってくるだけで顔を見せる事はなかった

次の朝…洋二は、姉の事

が気になり、部屋をノックした。いくら声をかけても返事が無い…。

洋二は『入るよ！』と…ドアを開けた。そこには手首を切った栄子が静かに、ベットに横たわっていた。

そう…栄子は傷心のあまり…自ら、命を絶ってしまっただ…。

かわいそうな、栄子…

僕は、田口じゅん子と市原あつしの事を、もっと調べてみた。

その後の、PCの画面に映し出された映像は、

とても口では言えないような残酷なものばかりだった。

この2人は栄子を自殺に追いやったばかりでなく

その後も洋二を、イジメ
続け…、洋二の彼女だっ
た『青木かずみ』をも
暴行し、泣きわめく青木
の首を絞めて殺害し、
山奥に埋めていたんだ。

僕たちは、こんな残酷で
むごい事を、ヘラヘラと
笑いながら出来てしまう
2人に…怒りと、とてつ
もない恐怖を覚えた。

最後に、合コンの10日
前の映像を観てみた…

市原の部屋で2人は、
ソファ―に座りながら…

《じゅん子》

ねえ…この間、言ってた
ムカツク上司は、あれか
ら、どうなったの？

《市原》 ああ、あいつ…
俺様に偉そうに説教した
バカ部長の須田だろ？

この間の飲み会の帰りに
酔っ払って、ボケ〜っと

夜道1人で歩いてたから
階段から思いつきり突き
落としてやったよ！

残念ながら、命は助かっ
ちやったけどね（、、）

ま、でも、一生…植物状
態らしいから、良かった
けど（笑）

俺様に、あんな偉そうな
口きくから、罰を与えて
やったよ（、）フン！

でも…罰を与えなきゃな
らない奴が、もう1人
いるんだっ（、、）”

やっと、バカ部長の須田
が居なくなつて、せいせ
いしたと思つたら、

今度は、課長の岩田が、
ナンダカンダと、うるせ
えんだよ（、、）”

《じゅん子》そんなの、
いつものように殺^や

つちやえばいーじゃん！

《市原》そうだなあ…
来週、会社の飲み会があるから、その時にでも、殺^やつちやうか（笑

《じゅん子》そうだよ！
目障りな奴らは、みんな消しちやえばいーんだよ

あゝあゝ、なんかさあゝ
最近、面白い事が無いんだよねえゝ（、。ゝゝ）”

ねえ、あつしい！今度、合コンやらない？

高校ん時の同級生で、
真紀ってゆう、バカ女がいるんだけどさ…

あの、岡田グループの、
一人娘なんだよね。

真紀は、あたしの事…
大親友だと思ってるから

あたしの言う事は何でも
信用するしさ。

そうだ！真紀を落として
岡田グループ乗っ取ちゃ
えば？

《市原》いゝいねえ…！
面白そうだなあ、やって
みるか！

にしても…気にいらない
奴は、すぐ痛めつける
おまえがさ…よく今まで

その真紀って女には、
手出さなかったな？

《じゅん子》ムリムリ！
何てったって真紀の父親
は…あの、岡田グループ
の社長なんだから…

手え出したくても、出せ
なかったつーの！

社会人になってからは、
付かなくなっただけど、

真紀の回りには、小さい
頃から、ボディガードみ
たいな奴らが、いつも、

2、3人、私服で真紀の回りを、うろろろ見張ってたんだから（、、）”

もし…真紀に下手な事して…バレたら、仕返しに何されるか、わかったもんじゃないじゃん！

机を蹴る位が精一杯よ！それに、真紀の友達っただけで、結構いい思いも出来たしね…。

それに、真紀を、やるにしても…昔の、あつしじや、ボディガード達に邪魔されて、真紀に近づく事すら出来なかったと思うよ！

でも今の、あつしだったら…なんとなく、サラリーマンやってるし、真面目そうな好青年に見えるから、うまく騙せると思うんだよね。

ま、楽しみは後に取っつけて言うじゃん！

それが今なんだよね！
あつしの腕にかかってん
だから、頑張つてよ！

あゝ早く、真紀の苦し
みで歪む顔が見たいな〜！

(…)(…この、2人…
こ、恐すぎる…。

僕、こつちの世界に来て
こんな悪い人間に今まで
会った事が無かったから

なんか…サスペンスドラ
マでも観ているようだよ

でも…これは、ドラマで
も何でもない…現実なん
だよ。

こつしちやいられない！
でも、どうしたら…

と、その時、僕のケー
タイが鳴った…

岡田からだった。

《岡田孝太郎》夜分遅く

に申し訳ありません。
今、大丈夫ですか？

《（ ）二階堂》はい、
大丈夫です。どうかした
んですか？

《岡田孝太郎》あ、いや
ちゃんと、お礼を言っ
てなかつたと思ひまして…

今日は本当に、ありがと
うございました。

ブレーキの事を知らない
で車に乗っていたらと思
うと、背筋が、ゾォッ
としますよ。

もしかしたら、今ここに
存在しなかつたかもしれ
ませんからね。

《（ ）二階堂》…そ、
そうですね…それで、
真紀さんには、もう市原
の事は話したんですか？

《岡田孝太郎》いや…、
それが…まだなんです。

真紀の顔を見たら、中々
言いだせなくてね…。

話さなきゃいけないとは
思ってるんですが…悲し
む顔を見るのが辛くて…

《（ ）二階堂》

岡田さん！そんな悠長な
事は言ってられないんで
すよ！

あの、じゅん子と市原の
2人は人間じゃありません
ん！あの2人は人間の皮
を被った悪魔ですっ！

辛くても、この事實は、
真紀さんに、しっかりと
話さなければダメです！

そくだ！もし迷惑でなけ
れば今から、そちらに、
お邪魔してもよろしいで
すか？

僕達が真紀さんに説明し
ます！説明させて下さい

岡田さんや奥様、真紀さ

んにも見せたい物がある
ので！

《岡田孝太郎》

え、そうですか！いや、
ありがとうございます！
逆に助かります…が…

でも、僕達って？

二階堂さん、1人じゃな
いんですか？

《（ ）二階堂》はい、

僕1人じゃないんです。
みんな、真紀さんに助か
ってほしいと願っている
仲間達です！

《岡田孝太郎》仲間達？

そうですか…真紀の為に

ありがとうございます。

では、お待ち致しており
ます。

（ ）さ、マキちゃん！

今から岡田真紀ちゃんち
に行くよ！

《マキ》うん！わかった

ロコモコちゃん、悪いんだけど、先に妖精界へ帰っててもらえるかな？

僕も、ちゃんと仕事には間に合うように戻るからさ（；）

《ロコモコ》ち、ち、ち何、言ってるのよ！

こんなの観せられて、私が黙ってられると思ってるの？

マキちゃん、エルカさんロコモコ行くわよ！

それに、いい考えがあるの！ちよつと待ってて！

私のマネージャーが、三つ子の忍者妖精の1人なんだけど…今すぐ、みんなに来てもらうから

（；）ん、忍者妖精とゆうのはね…僕や、マキちゃん、ロコモコちゃんとは違って、見た目は人間

そつくりなんだ。

僕は、二階堂光一の姿に
だけしか変身出来ないん
だけど、この忍者妖精の
人達は、どんな人間や
妖精の姿にも変身出来る
んだよ。

人間だけじゃなく動物や
物にも変身出来るんだ。

身体も身軽で、忍者より
も忍者らしいんだよ！

だから、妖精界では、
忍者妖精の半分は、スタ
ントマンの仕事をしてい
るんだよ。

ま、ロコモコちゃんの
マネージャーのように違
う仕事をしている人も
いるけどね。

《ロコモコ》もう、外に
来てるから出ましよう！

《マキ》え？だってまだ
電話してから、1分も経

ってないよ) (;)

《ロコモコ》うん、人数多いから高速カーで来るように頼んだの。

(…)(へえ〜?そんな車あるなんて、僕:知らなかったよ…(; ;))

《ロコモコ》知らなくて当然よ。高速カーは、オーダーで、出来上がるまで、1年かかって、

やっと先月、出来上がったばかりだもん。

さ、早く出ましょ!

(…)(そして、僕達は、ルームを出て人間に変身して外へ出ようと思ったらって…わお!人間の姿の、ロコモコちゃん、めっちゃ可愛いーっ!

僕、しばらく見とれちゃったよ(#、(#)〜。

すると小野寺が、ベット

から起き上がり目をこすりながら声をかけて来た

《小野寺》こんな時間に何処に出かけるの？

あれ？この人達は誰？
エルカちゃんの友達？

(…) あ、この2人は妖精仲間のマキちゃんとロコモコちゃんです。

《マキ・ロコモコ》
初めまして、お邪魔します。

《小野寺》あ、どうも…
小野寺です。宜しく！

(…) そして僕は小野寺に誰か…警察関係の知り合いがいないか聞いてみた。だってさ…どうせ、説明するんなら、警察の人にも居てもらっ方が、

色々、すぐ動いてもらえんじゃないかと思うんだよね(…;)ん。

だからといって、信用の出来る警官じゃないと困るんだ。僕等が妖精界から来た事を秘密に出来る警官じゃないとね…。

《小野寺》 ああ、それだったら、スーパー常連のミキちゃんの、お父さんが確か警察関係の仕事してるんじゃないかな？

() へえ、知らなかったよ…ミキの父親が警察関係者だったなんて…！

僕は、すぐ、ミキに電話した(ピ…ポ…パ…ポ)

《() 二階堂》

あ、ミキちゃん？こんな夜遅くに、ごめんね。
今、大丈夫かな？

《ミキ》 大丈夫よ！電話くると思ってたから、お父さんも起こして待ってたわよ()。()

(…)(…)(…)
僕が何も言わなくても
分かっていたよ。

やっぱり…ただもんじゃ
ないよね(…)(…)(…)
ん。

そう話していると、東条が
入って来た。

どうやら、終電に間に合
わずに、小野寺の家に泊
まるらしい…。

そうだ！仲間は少しでも
多い方がいいよな(…)(…)

僕は、小野寺と東条も連
れて行こうと決めた。

小野寺と東条には…

『明日、仕事だから』と
一旦…断られたが、

『岡田真紀』の家に行く
と言ったら…東条が僕の
言葉に、かぶるように、

『行きます！』と言って
すぐスーツに着替えた。

小野寺も訳がわからない
ままスーツに着替えた。

外に出ると、ピザの宅配
のバイクのような小さな
車が停まっていた。

え？これが？1年もかか
って作った車なの？

そんな事を思いながら…
ドアを開けてみると、
なんとなんと、その中は
とおくっても広かった。

ベットか？と思うくらい
大きなソファート、テー
ブル…そして、大画面の
大型テレビが置いてあっ
た。

なんかね、奥の方には、
キッチンやバスルーム、
おトイレ、ゲストルーム
なども、あるんだって。

すごいいね！車とゆうよ
り…もう、家だよね…！

東条は、この小さな車が
なぜに、中は、こんなに
広いのが、不思議で…

何回も、車の外と中を、
まるで、鳩のように首を
動かし見比べていたよ。

しまいには、ガツツリと
ドアに、おデコを、ぶつ
けてたけどね（××） //

僕達は、その超大きな、
ソファーに座り…まずは
ミキ親子を迎えに、ミキ
の家に向かった。

にしても…この高速カー
は、すごい！
1分もしないうちに、
ミキの家に着いたよ。

大きな家の前では、
ミキハウスじゃない…

ミキと、ミキの父親の
『笹木宏之』が立ってい
た。

ミキの父親は、とつても

貫禄があつて、ちょっと
近よりがたい雰囲気の人
だったが…

やっぱり、この小さな車
の中が、どうして、こん
なに広いのが不思議ら
しく、またまた何回も車
の外と中を、鳩のように
首を動かし、頭を出し入
れして見比べていたよ。

そして、お約束のように
ガツツリと、ドアに、
おデコを、ぶつけていた
よ（x。x）”

車の中に入り…ゆつくり
と挨拶をする間もなく、
岡田の屋敷に着いてしま
った。

僕は車を降りた。

ちなみに、この車は、
『どこでも自転車』と違
つて、車の鍵に付いてる
センサーボタンを押すと

百円玉位の大きさになり

まるで、シールのように
鍵を持っている人の洋服
の胸辺りに、ピタッと、
くつつくんだよ！

すごいよね！妖精の世界
も進化してるんだなあ。
やっぱり、欲しいなあ…

でも、オーダーだなんて
めっちゃ高いんだろうな

まままま、車の事は、
こっちに置いて…と

僕は衿を正して、岡田の
家のチャイムを押した。

岡田は…僕達が門の所で
はなく、いきなり玄関の
チャイムを鳴らしたんで
ビックリしてたよ。

そりゃそーだよね！
あんな、セキュリティの
厳しい門の所を、スルッ
と、スルーして来ちゃっ
たんだから…（>。<）

みんな…優しいな（…）

こんな下手なダジャレに
一応…ズルっと、コケて
くれてさ…（。。）

そんな事をしていると、
大きな扉が、ギィ〜と
自動で開いた。

昨日のマンションも凄か
ったけど、岡田の家は、
もはや、ケタチガイで、

何処かの美術館か、ホテ
ルのようだった。

あまりに凄すぎるんで、
みんな、ボーっと立ち尽
くしていたよ（><）”

すると、岡田と執事らし
き人が出迎えてくれた。

《岡田孝太郎》いやあ〜
わざわざ、すいません！
使用人達はもう、寝てし
まっているもので…。

それにしても早かったで
すね。それに、すごい人
数ですね（><）”

ささ、上がって下さい！
靴のままです結構ですので

どうぞ、ど…あ、あなた
は、道警（北海道警察）
の笹木本部長（警視監）
ではありませんか（驚）

《笹木宏之》どうも、
初めまして、笹木です。

今日は娘の友達の、これ
また知り合いの娘さんが
事件に巻き込まれて大変
な事になってると聞きま
して、少しでも、お役に
たてればと思ひまして。

（…）あ…あ…あ…
ミキの父親は警察関係者
どころか、道警のトップ
だったよ！ビックリ！

どうりで、貫禄あると思
ったよ。ま、おデコは、
ガツツリ、ぶつけてたけ
どね…（…）

そして、僕達は客間みた

いな所に、通された。

そこには、岡田の妻と、真紀が、ソファーに座っていた。

まずは、僕達の正体を、あかしてから、じゅん子と市原の悪事の数々を観てもらおうと思った。

その方が…いきなり、市原と、じゅん子の悪事を観せるより、少しは、衝撃が和らぐでしょ。

多分…この客間の中は、スーパー常連の、ミキパワーで包まれてるはずだから、妖精の姿に戻つても、みんなには、僕らの姿は見えると思うし…。

《…》二階堂《あの、本題に入る前に、お話ししなければならぬ事があります。

信じられないとは思いますが…驚かないで落ち着

いて聞いて下さいね…。

実は僕達、こっち側の、
6人は、妖精の世界から
来た、妖精なんです！

僕は今、こちらの小野寺
君の家に、お世話になっ
ています。

でもね、マキちゃんが
真紀の部屋の壁に、ルー
ムの扉を貼付けてあるの
は言わなかったよ(…)

そして、僕らは妖精の姿
に戻った(ボワンツ)

忍者妖精は元々、人間そ
っくりだから、そのまま
だけだね(><)”

岡田家族と東条は、
目の前に緑のカエルと、
カッパ、そして真っ白い
ウサギが現れたので、

『ワー！よ、妖怪！』と
言って驚いていたが、
ミキの父親は、眉ひとつ

動かさなかった。

ん、なんか、わかる……。
ミキの父親だもん、多分
今まで色んな驚く事とか
あつたんだろうしね。

つてゆーか……。さっき、僕
妖精界から来た妖精って
言っただばかりなのにさ……
妖怪って……。；。；。う

でも、そんな事言ったら
妖怪さん達に失礼だよね

僕は、みんなに驚かれて
も、めげずに話しを続け
た。すると岡田夫妻や
東条も慣れてきたのか、
僕の話真剣に聞いてく
れたよ。

ただ……。真紀だけは、なぜ
か、おどおどしていた。

あ、そっか！東条が居る
からだ！真紀は、東条の
イジメが、トラウマにな
ってたんだもんね！

僕は、口で言うよりも、映像を観せた方が早いと思ひ、PCを出したが…

この人数で観るには、ちよつと画面が小さい。

かといつて、人間界のテレビには繋げる事は出来ないし…(; ;)

そうだ！ロコモコちゃんに頼んで、この客間にさっきの高速カーを出してもらおう！

この家は靴のままで大丈夫だし、車といつても見かけはピザの宅配のバイクのように小さいしさ。

岡田もロコモコ快く

オツケーしてくれたし。

そして、お約束のように岡田家族も、この小さな車の中が、どうして、こんなに広いのが不思議らしく、3人は縦に並んで、何回も車の外と中を

3人、頭を揃えて鳩のよう
に首を動かし、頭を出
し入れして見比べていた

はい、そして、これまた
お約束のように、3人揃
って、ガッツリと車の
ドアに、おデコを、ぶつ
けていました（x x）”

そして、高速カーの中に
入り僕は、大画面のテレ
ビに、持ってきたパソコ
ンを繋げた。

まずは、じゅん子が真紀
の机に『死ね』と書き、
ツバを吐きかけながら
机を蹴っている映像から
始めた。

真紀は、信じられないよ
うな顔で、金縛りにあつ
たように固まり、青い顔
をして、涙を浮かべて
母親に、もたれかかって
いた…（；。；）”

場面が変わり、東条が、
一生懸命、真紀の机を、

キレイにしようとしている映像が映し出された。

真紀は、え？と小さな声をあげ、顔を赤らめて、東条の方を見た。

東条は照れ臭そうに下を向いていた（ > < ）

ん、よかった！これで、東条の濡れ衣は晴れたね

それからの映像は、みんな、目を背けながらも…

でも、事実を知ろうと、しっかりと観ていた。

全てを見終わった後、全員…怒りと恐ろしさに身体が震えていた。

この映像を、警察に届ければ、一発で、じゅん子と市原は逮捕されるだろうと思うでしょ（…；）

でも、そう上手くはいかないんだ。

この映像は過去機能で映しだしているんだけど…

何も、わからない人間さん達は…

『この映像は、一体、誰が撮ったのか？』

なぜ、警察に、すぐ届けなかったのか？

そして、なぜ犯行現場に居たのか？

この映像を撮ったのは、共犯者ではないのか？』

つて…疑かわれちゃうでしょ（><）ゞ

ごく身近で親しい人間にだけなら、いいんだけど

公に、妖精界の事を世間に知られるのは、とてもまずいんだ（><）”

そんな事になったら、

僕達はもう2度と人間の
世界に来る事が出来なく
なってしまうからね…。

すると、ロコモコちゃん
が急に大きな声で、
しかもミュージカル口調
で話し始めた…。

《ロコモコ》

さあ、みんなっ！私達、
力を合わせて、役者にな
ったつもりで、お芝居を
するのよ！

そして、この人間の皮を
かぶった悪魔の市原と、
じゅん子を、現行犯で
捕まえましょっ！

まず…岡田夫妻は運転を
誤って、崖から転落して
即死だったって事にす
るわっ！

そして、エルカさんには
その『もぐろふくぞうマ
スク』で、東条の声にな
って、じゅん子に電話を
かけてほしいの！

真紀ちゃんの机を蹴つて
た事や、高校時代に市原
と付き合ってた事を、

真紀ちゃんに、バラす…
と、さりげなく脅迫して
ほしいの！

たぶん…いえ絶対、この
2人は、東条さんを殺し
に来るはずよ！

でも大丈夫よ！こちらの
三つ子の忍者妖精の1人
『タン君』が東条役をす
るから身の安全は保証す
るわ！

そう！そして、あの悪魔
達が、東条を殺そうと
襲いかかった…その時！

警察の人達に、2人を
現行犯で捕まえてもらう
のよ！

その警察官達に指示を出
すのは、笹木警視監、
あなたよっ！

全ては、あなたの腕に、
かかっているわっ！
頼むわねっ！

そうすれば、芋づるしき
に、2人の今までの全ての
の犯行が明らかになるっ
てもんよ！オッッホッホ

(…)(口、ロコモコちゃ
んって…ロツカーってゆ
うよりも、どっちかって
ゆうと、宝塚の男役みた
いなんだけど…)(><)

それに…すっごい迫力…

いい大人達が、どこかの
生徒のように、ハイハイ
って声を揃えて、返事を
してるよ…(…;)ん。

その後…僕達は朝方まで
作戦を練った。

そして、この高速カーを
拠点に動く事にした。

前にも話したけど、

この車の奥の方には、

お風呂もシャワーも、
キッチンもあるし、

ゲストルームなんか7つ
もあるから寝泊まりも
出来るしね。

そして、ミキの父親と、
小野寺、東条は、会社に
出勤する前に、着替えに
家に戻りたいと言うので

高速カーで家まで送り届
けた。

岡田は会社の、一部の
役員、屋敷の執事や、
お手伝いさん達に、市原
が来た時には、お芝居を
するように話した。

ちなみに、この高速カー
は『透明』ボタンを押す
と透明になって見えなく
なるし…

『小』ボタンを押すと、
妖精や人間達が乗ったま

ま、タバコ位の大きさになるし…

『ワープ』は、もちろんだけど、そのまま宙に浮く事も、飛ぶ事も出来るんだよ。

ん、この車の機能を知れば知る程、めっちゃ欲しくなるなあ…いくなあ…

いやいや、僕には、この『どこでも自転車』があるんだから、身分不相応な事を言っちゃあ、罰が当たるよね（>。<）”

そして僕は、例の…あれを出した。

そう、あの白いマスクにもぐるふくぞう』のよ
うな大きな唇の絵が描いてあるマスクだ（　　）

真紀の写メを撮り、マスクの唇に写真をかざした
そして市原に、こちらか

ら電話をかけた。

《（…）真紀の声で…》

あ、あ、あ、テス、テス

どう？真紀ちゃんの声に聞こえる？

《全員》聞こえる、聞こえる（…）ゞ

《（…）真紀の声で…》
じゃ、電話かけるから、
ちょっと静かにしててね

（プルルルルル…）

もしもし、市原君…真紀
です。こんな朝早くに、
ごめんなさいね…。

今、お話してても大丈夫
ですか？

《市原》もちろん、
大丈夫だよ。僕も今、
電話しようと思ってたと
こだし。どうかしたの？

《（…）真紀の声で…》

実は…実は、昨日…

お、お父様と、お母様が…
…ううう…(泣)

《市原》真紀ちゃん！
真紀ちゃん、何？どうしたの？泣いてるの？
真紀ちゃん！

《(…)(真紀の声で…》
ごめんなさい…実は昨日の夜、お父様と、お母様が事故で亡くなってしまったの(…)(…)(うう…

わ…たし…、どうしたらいいの…うう…(泣)

《市原》そんな…岡田夫妻が亡くなったただなんてでも、そんな、ニユースどこも、やってなかったけどなあ…(…)

《(…)(真紀の声で…》
(焦)両親が亡くなったのは…まだ、ごく身近な人達だけにしか知らせて

ないの…（…；）

マスコミの方は、会社の
役員の方達が、まだ記事
にしないようにって、
止めてあるみたい（焦）

私には、わからないけど
色々面倒な事があるみ
たいで…（焦・汗）

でも…お父様と、お母様
は、市原君の事、大好き
だったから…やっぱり、
市原君だけには知らせな
きゃと思って…（焦っ）

《市原》そっかあゝ、
そおゝだったのかあゝ

真紀ちゃん、今すぐ行く
から、気をしっかり持つ
て、待っててね！

《（…）真紀の声で…》
ありがとう…市原君（泣
待ってるわ…。（切）

（…）そして、20分程
して、市原が、やって来

た。

真紀の役は、忍者妖精のロコモコのマネージャーの『メン君』に、お願いした。

あ、言い忘れたけど…
忍者妖精の人達は姿だけじゃなく、ちゃんと声も変えられるから、マスクなんか無くても、大丈夫なんだよ（。）。b

《ロコモコ》さあ、みんな！打ち合わせ通りに頼むわよ！ここからは役者になったつもりで、堂々と演技をして下さいね！

じゃ、真紀ちゃん役の、マネージャーの、メン君

市原に、何を言われても動じないようにね！

執事の野口さん、召し使いの皆様方、オーバーな位の悲しい演技よろしく

れて大丈夫だから。

岡田社長には生前…色々
と話を聞いてたし…

自分に何かあつたら、
会社は僕に任せるとも言
つてたしね。

それに僕はもう…岡田家
の、一員なんだし。

岡田社長が亡くなった今
真紀ちゃんと僕しか、い
ないんだから、2人で力
を合わせて、お父さんの
会社を守っていこう。

《真紀役 メン君》

市原君、ありがとう…。
もう…私には、市原君し
かないの（涙）ずっと
側にいてね。

《市原》もちろんだよ！
真紀ちゃんを、ひとり
なんかするもんか！

これからは、ずっと真紀
ちゃんの側にいるよ。

でも…今日は、午前中にとても大事な会議があるから、それだけは、行ってくるよ。

会議が終わったら、すぐ戻って来るから、心細いかもしれないけど、それまで待っていてくれる？
ごめんね。

(…)(…)そう言っつて、市原は、部屋を出て行つた。

振り返り、部屋を出て行く市原の顔は、薄気味悪い笑みを浮かべていた。

《ロコモコ》ハイ、OK
オツケー！ グレイト！

さっすが、私の、ジャー
マナーだわ(…)/

真紀ちゃんに成り切つたわ！名演技だったわ！

次は、エルカさんよ！
今すぐ、じゅん子に電話

して、打ち合わせ通りに話してちょうだい！

() はい、了解！

そして、僕は『もぐるふくぞうマスク』をして、東条の声で、じゅん子に電話した。

じゅん子は、ちょうど、会社に着き、ビルの中に入る所だった。

電話の相手が、東条だとわかると急いで、ビルから出て、ひと気の無い場所に移動した。

高速カーの中の、テレビでは、『今現在』機能でじゅん子が映し出されている。みんなは食い入るように観てるよ(。°。(

にしても…電話の向こうの、じゅん子は、まるで鬼のような形相で…めっちゃ怖い…(> < (

こんな事言ったら、逆に

鬼に悪いくらいだ…。

僕との電話を切った後、
じゅん子は、すぐ市原に
電話をした。

市原は、地下鉄に乗ろう
と、階段を降りる所だっ
た。

市原は、人に聞かれては
マズイ…と思い、ひと気
の無い場所に移動した。

《じゅん子》あ、あつし
大変！さっき、東条から
電話があつて、高校ん時

机を蹴った事とか、
あつしと付き合ってた事
とかを、真紀に、バラす
って言うのよ（><）”

《市原》え？何だよ！
誰なんだよ、そいつ？

《じゅん子》高校ん時に
真紀に、ちよつかいだし
てた男よ！

真紀の机に『死ね』とか
書いたのを、そいつのせ
いにしてただけど…

ヤツは、あたしが書いて
た所を見てたみたいなの
あつしと付き合ってる事
も知ってたし(、´；)

《市原》ばつかじゃねえ
の！そんな昔の事…、

見間違いだとか、なんと
か…どんな言い訳だつて
出来るじゃん(、´)

《じゅん子》高校ん時だ
けなら、なんとか、ごま
かせるんだけど…

この間、あつしとホテル
に入る所を偶然、見かけ
て、写メで写したつてゆ
うのよ(、´) ”
どうしたらいい？

《市原》ちつ、めんどく
せえゝなあ…！せつかく
岡田夫妻が死んで上手く

いったと思つてたのに…

なんなんだよ？そいつ！

何が目的なんだよ？

金が目当てなのか？

《じゅん子》うん…

一千万円、用意しろつて

受け取り場所は、また電話するつて言つてた。

《市原》はあゝ？一千万だつてえゝ？

なんで、そんな虫けらに

そんな大金払わなけりゃ

なんねえんだよ！

でもな…今、真紀に知ら

れたら、マズイな…

その、東条つてヤツ…
殺^やるしかないな。

《じゅん子》それならさ

真紀を、殺^やつちや

えばいーんじやない？

そしたら別に、東条に

脅迫されても肝心の真紀が、いないんだから、何言われてもいーじゃん

《市原》おお、そうだな
そっちの方が、手っ取り早いなあ（、、）”

どうせ、殺らなき
やならないんだからな。

でもなあ…召し使いや、執事がいるから、屋敷の中で、首吊りや手首を切つて、殺るのは、
難しいなあ…。

《じゅん子》じゃあさ、
岡田夫妻が落ちたつてゆう崖から、突き落としたらいーんじゃない？

手を合わせに行こうつて言つてさ、花でも持って連れ出せばいーじゃん！

両親いっぺんに無くしてあまりの悲しみに、後追い自殺したつて事にすればいいのよー！

《市原》 おお、そうだな

おまえ今日、冴えてんな
よし、そうと決まれば早
い方がいいな！

でも…今日、明日はまだ
事故あつたばかりだし、
警察とか、うるちよろし
てたら、ヤバイから…

明後日位に、殺^や
か(、、)〃

その前に、東条にバラさ
れたら、マズイからな…

金を用意するのに時間か
かかるとか何とか言つて
うまく時間稼ぎしとけよ

《じゅん子》 オツケー！

まかせといてっ！

じゃあね！ (電話切)

真紀のヤツ〜！親友だな
んて言っておきながら、
親が亡くなった事、あつ
しには知らせといて、

あたしには、メールの、
ひとつも、よこさないの
かよ！（、、）”

この、あたしを…バカに
したら、どうなるか思い
しらせてやる（、、）”

ああ〜にしても…やっ
あの、バカ女を殺^や
れるんだ！楽しみい〜

（、、）この2人は、
人の命を…尊い命を…
いったい、何だと思っ
てるんだ（怒）

こんなヤツらは…こんな
卑劣で最低なヤツらは…

絶対…絶対、許さない！
植物人間にされた須田や

自殺した栄子、殺された
かずみの、みんなの怨み

僕らが絶対、はらしてみ
せる（怒）

ただ、捕まえるなんて、
そんな、生ぬるい事はし
ない…自分達がしてきた
事を…そして、みんなが
味わった恐怖を…

そのまま…じゅん子と
市原に味あわせてやる！

高速カーの中にいる全員
が、何も言葉を交わした
訳ではないが、そう思っ
たんだ。そしてまた作戦
を練った。即、実行だ！

まずは、じゅん子からだ

その日の昼、じゅん子は
同僚の加代と会社の近く
のカフェレストランに、
ランチに出掛けた。

こうして見ていると、
じゅん子は、本当に…
そこいら辺にいる普通の
キレイな、OLさんにし
か見えないのに…。

じゅん子は、パスタを食
べながら、目の前の加代

の後ろの席に、何気に…
目をやった。

その席には、食事を終えたのか：1人の女性が、本を読んでいた。

本を閉じ：静かに、女が顔を上げた瞬間：

じゅん子は凍りついた！

その女は：殺して山奥に埋めたはずの…

『青木かずみ』だったからだ！（。。）（）（）（）

恨めしそうな笑みで…

じゅん子を、じい…っと見つめている。

じゅん子は、青い顔で、ブルブルと震え、フォークは、カチャカチャと皿に当たっている。

《加代》田口さん、どうしたの？顔が青いわよ！大丈夫？

《じゅん子》う、ううんだ、大丈夫…！ちよつと風邪気味なのかな？
寒気がするの（ ）（ ）

（…）そう言うと、
じゅん子は震える手で水を、一気に、グツと飲み干した。

そして、後ろの席に目をやると、さっきまであった珈琲も『青木かずみ』も居なかった…。

じゅん子は、キョロキョロ、辺りを見回した。

《加代》どうしたの？
何、キョロキョロしてんの？誰か居るの？

《じゅん子》ううん…、人違いだったみたい。

あ、私ちよつと、お化粧直してくるね（ ）（ ）

（…）そう言って、じゅん子は化粧室に立った。

じゅん子は、さっきの
『青木かずみ』の事が気
になっていた。

《じゅん子》さっきの女
は『青木かずみ』だった
でも、どうして、ここに
居るの？あの時、確かに
首を絞めて殺して、山奥
に埋めたはずなのに…。

まさか：あの後、息を吹
き返して生きてたの？

() じゅん子は、化粧
を直しながら、青い顔で
そんな事を考えていると
トイレから、1人の女が
出て来た。

その女は、うつむき加減
で、手を洗っていた。

すると、その女は…うつ
むいたまま、静かな低い
声で、じゅん子に話しか
けて来た。

《女》たぐ…ちさん…
お久し…ぶりで…す…。

(…)(…)じゅん子は、え？
と鏡ごしに、隣の女の顔を
を見た。

その女は、静かに顔を上
げ、ニヤリと笑った…。

鏡越しに微笑みかけてき
た女は、自殺したはずの
『寺田栄子』だった！

じゅん子は、『ギヤー』
と悲鳴をあげ、化粧室か
ら飛び出し、会計もせず
に、店から出て行った。

加代は、訳が分からず、
じゅん子の分の会計も済
ませ店を出て、じゅん子
を探したが…どこにも
姿は無かった。

裏の顔(3)

じゅん子は物凄い勢いで
しばらく走った。

すると、どこかの公園に
着いた。

この公園は、三つ子の
忍者妖精の人達が、お芝
居の時に使うセットを持
つて来てくれたものなん
だよ。

じゅん子は、『あれ…？
こんな所に公園なんか、
あつたかなあ…？』

と、思いながら、辺りに
誰も居ないかを確認して
ベンチに座り、あつしに
電話を入れた。

あつしは午前中の会議が
終わり、午後からは休み
を取って、真紀の家に向
かう途中だった。

《じゅん子》あ、あつし
大変！あの2人、生きて
るよ！

《市原》あの2人って？

《じゅん子》『青木かず
み』と『寺田栄子』よ！

《市原》はあ？おまえ
何言ってるの？

栄子は、自殺したって、
新聞や、ニュースにもな
ったろ！（、・）”

かずみだって確かに首絞
めて埋めたんだから、

生き返る訳ないだろが！
他人の空似だよ！

《じゅん子》でもでも、
栄子は、『お久しぶり』
って声かけてきたもん！

じゃあ、じゃあ、あれは
ゆ、幽霊っ！（。。）”

《市原》な…何、馬鹿な
事言っただよ！幽霊な
んて居る訳ないだろが！

そんな、くだらない事で
電話してくんな（怒）

（…）市原は、そう言っ
て電話を切った。

じゅん子は、青い顔で、
ベンチに座りながら、
ボーっとしていた。

すると両脇に、女性が座
り、『大丈夫ですか？』
と、声をかけてきた。

じゅん子は、うつろな顔
で、頭を上げ『大丈夫で
す』と言いながら、両脇
の女性達の顔を見た…。

『青木かずみ』と『寺田
栄子』だった…！

じゅん子は、『ギャー』
と叫んで立ち上がるように
するが…まるで、ベンチ
に縛り付けられてるよう

に、動けない…（。。）

その間にも、両脇から、
ジリジリと、女達は近づ
いてくる…。

じゅん子は、あまりの
恐怖に、気を失ってしま
った。

《市原》じゅん子のヤツ
… 今頃になって、おじ気
づいたのか…

真紀を殺^やったら、
様子を見て、じゅん子も
殺^やった方がいいか
もな…（、、）”

（…）そんな事を思いな
がら歩いていると…

後ろから『市原君！』と
呼び止める男性がいた。

振り返ると、そこには…
階段から突き落として、
植物人間になつてゐるはず
の『須田』部長が…

「やあ、久しぶり！」と
言って、薄気味悪い笑み
を浮かべて立っていた。

《市原》ぶ、部長…

ど、どうしてここに（驚

《須田》びっくりしたか
い？市原君ニヤリ

残念ながら私は、奇跡的
に意識が戻ってしまった
んだよ。

意識が戻った事を、早く
君に伝えたくてね…

なにせ、あの時…君が私
を突き落としたんだから
ね…心配してるんじゃない
かと思って…

今日は…無理矢理、外出
許可をもらって、君に会
いに来たって訳さ…。

《市原》な、何を言うん
ですか、部長！突き落と
したただなんて…！

そんな事、僕がする訳ないじゃないですか！

《須田》ふっふっふっ…
往生際が悪いなあ。

私はね…階段から転げ落ちながら、見てしまったんだよ…。

落ちていく私を、嬉しそうな顔で眺めている君の悪魔のような顔をね…。

じゃあ、私は病院に戻らなければならぬので…
これで、失礼するよ。

それじゃあまた会おう…
い・ち・は・ら・くん！

(…)(…)そう言つて、須田は、市原の肩に、ポンと手をやり、ニヤリと笑いスウ〜っと、歩いて行ってしまった。

《市原》くっそー！
須田のヤツう！意識が戻

ってただなんて（、、）

ま、何度でも、殺^や
ってやるけどな！

待ってる、須田！今度は
完全に息の根を止めてや
るよ（、、）ふふ

（、）市原は、真紀に
『少し遅れる』と電話を
入れ、須田が入院してい
る病院へ、様子を見に行
った。

病院に着き、須田の病室
向かって歩いていると、

須田の妻の、洋子が声を
かけてきた。

《洋子》市原さん？市原
さんじゃないの？

《市原》あ、奥様…ご無
沙汰しております。

全然、お見舞いに来れな
くて申し訳ありません。

《洋子》いいの、いいの

せつかく、お見舞いに来てくれても、主人は眠ったままで、何も話せないんだから。

それに…市原さんだけよこんな風に、お見舞いに来てくれるのは！

ありがとう…。顔だけでも見ていってやって。

主人も喜ぶわ（　　）

（　　）市原は、意味が分からずに、洋子に言われるがまま病室に入った。

そこには、ベットに横たわる、須田が居た。

《市原》須田部長は…、意識が、戻ったのではないのですか？

《洋子》いいえ、そうだったら嬉しいんですけどね…。

今は、私も諦めてますけど…最初の頃は、何度も

何度も、お医者様に聞いたもんです。

意識は、いつ戻るんですか？いつになったら元の主人に戻るんですか？…って。

その度に、お医者様に言われたわ。

奇跡が起きない限り、それは無理なんだって。

でもね…いつか、何事も無かったように目を覚ますんじゃないか…って。

今日もね…仕事が午前中休みだったから、ずっと側に居たんですけど…

意識が無いはずなのに…なぜか、私に笑いかけてるように見えたのよ…。

今にも、洋子って呼ばれそうなのがしたわ…。

バカでしょ…そんなはず

ないのにね（><）”

ホントは、ずっと主人の側に居たいんですけど…

仕事があるから、中々、一緒には居てあげられなくて…寂しい思いをさせてるんですよ…。

でも本当に…バカですよ。酔っ払って階段から落ちちゃうなんて（泣）

あ、市原さん、ごめんなさい（><）私、これから、仕事なの。

申し訳ないけど、これで失礼するわね。あなた、また明日、来るわね…。

《市原》あ、僕も仕事の途中なんで、一緒に出ます。須田部長、また顔、出しますので、頑張ってくださいね！

（…）（洋子と市原は、須田の耳元で、そう言っ

て、一緒に病室を出て、
病院の前で別れた。

《市原》 いったい、どう
ゆう事だ？

確かに：須田は病室の
ベットに意識の無いまま
横たわっていた。

洋子も、今日は朝から付
き添っていたみたいだし

じゃあ、俺に話しかけて
きた、あの男は、一体：
いったい、誰なんだ？

(…) 市原は何がなんだ
か分からずに、歩くのを
やめて、真紀の家には車
で行こうと思い、手を挙
げて、タクシーを止めた
ドアが開き、市原が乗り
込もうとすると、奥の方
に女性が座っていた。

《市原》 なんだよ(怒)
客が乗ってるのに、なん
で空車にしとくんだよ！

ってゆーか、なんで止まるんだよ（、、）”

《運転手》え？お客さん冗談やめて下さいよぉ〜

もぉ〜、怖いじゃないですかぁ〜！誰もいませんよ！早く乗って下さい！

《市原》え？だって…

（…）その女は市原だけにしか見えていなかった

うつむいている為、髪が邪魔して、顔がよく見えない。すると、その女はうつむいている顔をあげ静かに…市原の方を見た

市原は、凍りついた。

その女は、首を絞めて殺害し山奥に埋めたはずの『青木かずみ』だった。

市原は、『ギャー！』と叫び、腰が抜けそうにな

りながら走って逃げた。

ここで、ちよつと、ネタ
バラシしとくね（><）

タクシーの運転手と須田
役は、三つ子の忍者妖精
の、ワン君で…

『青木かずみ』役は、
タン君なんだ。

そして『寺田栄子』役は
メン君が、やっているん
だよ（><）真紀もね。

あれ？市原は、どうした
かな？ん、青い顔して、
フラフラと歩きながら、
じゅん子に電話をかけて
るよ。

じゅん子は、気絶してい
たが、あつしからの電話
で、目が覚めた。

《市原》じ、じゅん子！
い、今、俺も見た！
『青木かずみ』を見たよ

おまえの言う通り、息を
吹き返して生きてるのか
もな…！

《じゅん子》 そう……
あつしも見たんだ…。

でもね、あれは…生きて
るんじゃない！幽霊よ！

あたし達に復讐しに来た
んだわ(。(。(。(。

ねえ、今から会えないか
な？なんか、あたし…
怖いよ…。

《市原》 あ、ああ…、
そうだな…じゃあ、俺の
部屋に、来るか？

《じゅん子》 ええ、今か
らすぐ行くわ！

(。(。(。(。(。
の声と重なり…

『わ…たしも…はやく…
会…いたい…』と『青木
かずみ』の声が聞こえて

きた。

市原は、『ワァー!』と言って携帯を投げ捨てた

あれ? 『青木かずみ』役の、タン君は高速カーの中に居るよね?

え? じゃあ、この声は誰なんだ? すると、ミキが

《ミキ》本物の、かずみさんの声よ。深く暗い土の中に埋められて、苦しんでいたから、魂だけ、私が連れて来たの。

今のは、かずみさんの、ささやかな復讐です…。

かずみさんはね…もちろん怨みもあるけど…

それよりも…早く、この深くて暗い…土の中から見つけ出してもらって、

その苦しみから開放されて楽になって…成仏した

いんですって。

(…) そうだったんだ！
ん、かずみさん、わかつ
たよ！もう…ちょっと待
つててね。

そうだよね… 現行犯で捕
まえなきゃならないんだ
から、驚かせてばかりい
ても、駄目なんだよね。

僕達は、しばらく、ほっ
とく事にした。

市原は、投げ捨てた携帯
を拾い耳に当ててみた。

電話の向こうでは、じゅ
ん子が… 『あつし！どう
したの？ねえ、大丈夫？
あつし！』と叫んでいた。

《市原》 ああ… 大丈夫。
悪いけど… 俺、これから
真紀の家に戻るよ…。

《じゅん子》 じゃ、じゃ
あ、あたしも、真紀んち
に行くわ！

《市原》 ああ…好きにしろ！でも、余計な事は言
うなよ！バレたら何もかも、おしまいだからな！

(…)(…)よし、動き出したよ。僕たちは、真紀の家に戻り、2人が来るのを作戦を練りながら待った

《ロコモコ》 さあ、またまた、メン君の出番よ！

真紀ちゃんに成り切るのよ！落ち着いてね！

(…)(…)しばらくすると、市原が、戻って来た。

《市原》 ごめん、ごめん
会議が長引いちゃって。
かわいそうに…心細かった
たでしょ。

《真紀役 メン君》
ええ…とても、心細かったわ。ねえ…市原君、
お願いがあるの…。

《市原》もちろん、一緒に行くよ！バカバカしいだなんて思わないよ！

(…)そこへ、じゅん子が、やって来た。

じゅん子は、高校時代から、岡田家には出入りしているので…すんなり、入れるんだ。

ま、その時は特別に、すんなり入れるようにしたんだけどね。

《真紀役 メン君》

じゅん子…どうしたの？
こんな時間に？会社は？

《じゅん子》あ、ううん
今日、用事があつて、昼から休みをとつたの。

思ったより、用事が早く
終わったし、真紀んちも
近かったから寄ってみよ
うと思つて。

《真紀役 メン君》

でも…よく、私がお社じやなくて、家に居るって分かったわね？

《じゅん子》そ…それは

《市原》ままま、そんな細かい事は、いいじゃないか（焦っ）

せつかく、じゅん子さんが、わざわざ来てくれたんだから（焦っ）

それに、じゅん子さんは真紀ちゃんの親友なんだし、ご両親の事、話していた方がいいよ！

あ、そうだ！今日、じゅん子さんにも、一緒に行つてもらつたら、どうだろ？

《じゅん子》え…？何かあつたんですか？

《市原》ええ、実は夕べ真紀ちゃんの、ご両親が

車の、ブレーキが利かずに…崖から、車ごと落ちて、亡くなっただんです。

それで、真紀ちゃんが、その落ちた場所に、手を合わせに行きたいと言ってるんですよ。

《じゅん子》ええっ（驚おじ様と、おば様が亡くなったですって（。。）

真紀、どうして、知らせてくれなかったの？

《真紀役 メン君》
あら？知らなかったの？

てっきり、じゅん子には市原君が知らせてくれるもんだとばかり思ってたわ…。

《市原》な、なんで…、僕が、じゅん子さんに知らせなきゃならないのさ

《真紀役 メン君》

ううん…別に意味は無いわ…。何となく、そう思っただけ…。

《市原》…じゃ、じゃあどうやって行こうか（焦

《真紀役 メン君》

行くのは、執事の野口に車を出してもらってから大丈夫よ。

あんまり暗くなると、あそこら辺は、あぶないから、明るいうちに行きましょう。

私、野口に言ってくるわ

（…）そういつて、真紀は、部屋を出て、わざと2人だけにした。

部屋に残った2人は、僕達が居るのも気付かず、話し始めた。

《じゅん子》真紀の、あの態度…絶対、何か知ってるわ（、、）

どうする？今日殺
っちゃおう？

《市原》いや、今日は、
ダメだ。執事の野口も
一緒だし、多分…まだ、
警察も、うるちよろして
るだろうし。

今日は場所だけ確認して
殺るのは明日だ！

() タイミングを見計
らって、真紀役の、メン
君が部屋に入った。

《真紀役 メン君》
ごめんね…お待たせしち
やって。

今、お花を用意してもら
ってるから、あと、
10分くらい待ってね。

お花が用意出来たら、
すぐ出掛けるけど、じゅ
ん子も市原君も大丈夫？

《市原》もちろんだよ！

《じゅん子》あたしも、
大丈夫よ！早く、おじ様
と、おば様に手を合わせ
たいわ。

(…) 執事の野口さん役
は、忍者妖精のワン君に
頼もうと思ってただけ
ど…

野口さんが『いえ！私も
何か、お役にたきたいの
です！私に運転させて下
さい！』と言って、危険
もかえりみずに申し出て
くれたので頼んだんだ。

ちよつと、余談だけど、
執事の野口さんや、召し
使いの方々は、僕達が、
妖精だと分かってても何ひ
とつ態度が変わらずに、
接してくれるんだ。

驚いたり怖がるどころか
召し使いの、リーダー的
存在の『トキ』さんは
『昔…自分の部屋にも壁
に住み着いてた妖精が居

た』と教えてくれたよ。

なんか、嬉しかったよ
だからね…この人達は、
ミキパワーが無くても、
僕達の事が見えるみたい
なんだ（。 ）”

あ、そう言ってる間に、
花の用意が出来たみたい
だね。

3人は、野口の運転する
車で…その、落ちたとゆ
う崖に向かった。

その崖は、僕らが勝手に
選んだ場所だけだね。

もちろん、その場所には
すでに何人も警官達が
隠れて準備をしているよ
しばらく走り、その場所
に着いた。

《野口》お嬢様、着きま
した。ここが、旦那様と
奥様が落ちた場所です
います。

あ、お嬢様…私、この先の、お宅に旦那様と奥様が亡くなった事を、お知らせに行かなければなりません。

《真紀役 メン君》

ああ、夕べ、お邪魔した…お宅ね？ 時間は、どの位かかるのかしら？

《野口》行って帰って来ますと、20分位でしょうか…。

《真紀役 メン君》

私は大丈夫ですけど…市原君と、じゅん子は大丈夫？

《市原》僕は全然、大丈夫だよ…まだ明るいし。

《じゅん子》私も大丈夫です。

《野口》それでは…ご迷惑を、おかけしますが、宜しく、お願い致します

なるべく早く戻れるように急いで行って参りますので。

(…)(…) そう言って、野口は、走り去った。

真紀は、両親が好きだった赤いバラを、落ちたとゆう場所に、そつと置き手を合わせた。

市原と、じゅん子も、手を合わせた。

《市原・心の声》

なあ〜んだ！警察とか居ねえじゃん。

今日、殺^やつてもいいかもな。あ、野口が戻つて来るから無理かあ…

(…)(…) 市原は、手を合わせながら、真紀の殺害を考えていた。

しばらく手を合わせた後真紀が話し始めた。

《真紀役 メン君》

ありがとう、市原君、

じゅん子…。

お父様も、お母様も天国
で、喜んでると思うわ。

でもね…私は、てつきり
こちら辺は夜になると
真っ暗になるし、それで
ハンドルを、きり誤って
落ちた…って思ってたの

警察の人も、そう言って
たし…。

それなのに、さっき…
じゅん子に説明する時、
市原君は、ブレーキが効
かず崖から落ちた…
って言ったわよね？

私、事故死としか言わな
かったと思うんだけど。
どうしてそう思ったの？

もしかして…市原君が、
ブレーキオイルを抜いた
とか…？

《市原》な、何を言うんだよ！僕が、そんな事する訳ないじゃないか！

なんとなく、そう思っただけだよ（焦っ）

《真紀役 メン君》

どうして、そんなにムキになるの…冗談に決まってるじゃない…。

そういえば、昨日…お父様に、籍を入れたと報告した時…喜んでくれると思ったら、物凄く怒られたの。

市原君と、じゅん子が、どうのこうの…って言うてたわ…。

帰ってから、ちゃんと話すって言ったのに…

話しを聞く前に亡くなっちゃうなんて…。

お父様は…市原君と、じ

ゆん子の、いったい何を
言いたかったのかしら？

あ、そういえば、じゅん
子、東条君ってゆう男子
覚えてる？

《じゅん子》え、ええ…
知ってるわ…。

真紀の机に、死ねとか書
いて、いじめてた男子で
しょ…。

《真紀役 メン君》
その東条君から、午前中
電話があったの。

大事な話があるから、
今日の夜、会いたいって
言ってたわ。

《じゅん子》えっ！（驚
そ、それで、真紀は東条
に会うの？

《真紀役 メン君》
ええ、7時半に東条君に
自宅の方に来てもらうよ
うに、お願いしたの。

《市原》な、何を言ってるんだ！岡田夫妻が亡くなっただばかりなのに…

不謹慎じゃないか！

そんなの断りなよ（怒）

《真紀役 メン君》

ええ…でも、東条君も、市原君と、じゅん子の事で話がある…って言ったの。

だから、お父様が話しかかった事と同じなんじゃないか…と思っで。

（…）真紀は…わざと、崖の方を向いたまま、話しをした。

後ろにいる、じゅん子と市原は、顔を見合わせ、

回りに誰も居ない事を確かめて、真紀の後ろに近づき…

《じゅん子》真紀…

東条になんか会わなくても、あたしが教えてあげるわ！

(…)(真紀が、『え?』と、振り向いた時、

じゅん子が、うわ目使いの怖い顔で真紀を、ぐつと、にらみつけ…

『死ね!』と言って真紀の両肩を、ドンっ!と押しした。

真紀は『ギャー!』と悲鳴をあげ崖から落ちた

《じゅん子》フン!

ばあ〜か!おとなしくしてれば、もう少し長く生きられたのに(、)(…)

両親と同じ場所で死ねてよかったねえ〜(笑)

(…)(うん、真紀役の…メン君は、羽は無いけど宙に浮く事も出来るし、飛ぶ事も出来るから、

崖から落とされても、
全然…平気なんだよ。

それに、メン君の身体は
スツポリと、透明の
『吸収ベール』とゆうの
に覆われているんだ。

この『吸収ベール』は、
妖精界で、スタントを
やる時に使う物なんだ。

だから、血ノリも含まれ
ていて、転んだり、ナイ
フで刺されたりすると、

リアルな感じで、血が滲
んだり噴き出したりする
んだよ！

ここからは、ちょっと、
えぐい場面とか出てくる
けど、いくら蹴られよう
が、ナイフで刺されよう
が、見た目すごい事に、
なっっちゃうけど…

全部、血のりだし、実際
は吸収ベールが、ナイフ
の刃も衝撃も全部、吸収

してくれるから全然、
大丈夫なんだよ（><）

さあ、これから、メン君
打ち合わせ通りに…今、
崖から、はい上がつてく
るよ。お、来た来た。

《真紀役 メン君》

じゅ…ん…子…、ど…う
して…？ど…うして…？

（…）真紀は、指先を血
だらけにして、崖をよじ
登ってきた。

じゅん子は、驚きながら
も、怖い顔で真紀を見下
ろしながら…

《じゅん子》どうしてだ
って？目障りだからに
決まっってんじゃん！

なんでもかんでも、思い
通りになると思ったら
大間違いなんだよっ！

このバカ女、早く落ちな
さいよ！あたしの前から

消えなさいよっ！

往生際が悪いわね！

ほらあゝ、早く落ちて死
んじゃえよっ！バカ女！

() と言って、市原と
じゅん子は、ニヤニヤし
ながら、真紀の指を、
踏み付けたり、顔を、思
いっきり蹴ったりした。

いくら、踏み付けても、
落ちない真紀を見て、
市原は、だんだんと怖く
なり、後ろに尻もちをつ
いてしまった。

《市原》な、何んなんだ
こいつ！どうして落ちな
いんだ？

() 真紀は、じつと、
2人を見つめ崖から、は
い上がるうとしていた。

すると、じゅん子は用意
してあった、ナイフを取
り出し…

『死ね！死ね！死ね！』
と叫び、真紀の指や肩や
頭や顔を刺しまくった。

真紀は顔中…血だらけに
なりながら、崖からはい
上がった。

じゅん子も尻餅をつきな
がら、後ずさりをしてい
た。

真紀は2人に、ジリジリ
と近づき、低い声で笑み
を浮かべながら、こう言
った。

《真紀役 メン君》

私を殺せなくて、残念だ
ったわね…。

市原君…悪いけど…籍は
入れてないの。

だから、もし…私が死ん
でも、会社は、あなたの
物にはならないのよ…。

(…)(…)
すると、じゅん子
は、ナイフを振りかざし

『わあー！』と叫んで、
真紀に襲いかかった。

真紀は、そのナイフを、
素手で掴み…じゅん子を
グツと睨みつけ…

《真紀役 メン君》

じゅん子、あなたも…
往生際が悪いわね…ふっ

あなた達の悪だくみは、
全て、お見通しなのよ！

さあ、みんな、もう出て
きてもいいわよ！

現行犯で、この2人捕ま
えちゃって下さい！

（…）すると横の草むら
から警官たちが出て来て

『市原あつし、田口じゅ
ん子、現行犯で逮捕する
っ！』と言って、2人に
手錠をかけた。

その、どさくさに紛れて

高速カーも姿を現し、中から、岡田夫妻、ミキ、マキ、ロコモコ、僕、

そして…忍者妖精の残りの2人は『寺田栄子』と『青木かずみ』の姿で降りて来た。

それを見た市原は、ブルブルと震えながら、

『おお、俺は関係ないんだ！た、助けてくれ！』

ややや、やったのは、全部、ぜんぶ、じゅん子なんだ！俺は、無実なんだあー！』と狂ったように叫びながら、暴れた。

それを聞いた、じゅん子は『この最低野郎！』と言つて、市原に唾を吐きかけた。

暴れる2人は、警察官に押さえつけられながら、各々…パトカーに乗せられて連れていかれた。

執事の野口は、すぐ先の角を曲がった所に車を停めて待つていた。

じゅん子と市原が乗ったパトカーが通り過ぎるのを見て、野口は、ホッとした顔で戻って来たが…

血だらけになつた真紀を見て…

《野口》ギャー(。。(。)
お、お嬢様あーっ！
ななななんて、お姿に！

(。(。(いやいやいやいや
野口さん、この真紀ちゃん
は、本物じゃないです
から！！本物は、ほら、
すぐ後ろにいますよ！

あららら…野口、泣いち
やっただよ(。(。(。 ”

真紀役のメン君は、元の姿に戻り、本物の真紀は野口の肩に手をやり…

《真紀》野口：ありがと
私の事を、こんなに心配
してくれて（；。；）

（；）野口は本物の真紀
を見て、やっと落ち着き

涙と鼻水で、ドロドロに
なった顔で真紀に近づこ
うとしたが…

あまりにも鼻水が垂れ下
がっていたため、真紀は

ポケットティッシュを差
し出しながら何気に野口
から離れた（；）…

にしても、よかった…
よかった（。；）

そして…僕たちは、岡田
の家に戻った。

高速カーを降りて、岡田
の家の中にある、レスト
ランに通された。

普通に話してるけど、
すごいよね…家の中に、

レストランがあるんだよ

そこには、僕たちのためにと岡田が、シエフ達に頼んでくれてたみたいで

和洋中関係なく、牛ステ
ーキやら、お寿司やら、
鯛の尾頭付きやら…フカ
ヒシやら、ありとあらゆる豪華な食事が、ズラッと並んでいた。

わお！（。。。）すごい！

もちろん、ミキの父親の
笹木本部長（警視監）や
小野寺、東条も会社帰りに集まったよ。

僕たちは無事に、お芝居を、やりきった充実感と

市原と、じゅん子が捕まった安堵感があったが…
なぜだか、虚しかった。

2人の裏の本当の顔を、目の当たりにしてしまったからだ…（><）

カチャカチャと食事をとる、ナイフと、フォークの音だけが響いていた。

食事が終わると、ロコモコちゃんが話し始めた。

《ロコモコ》え〜今日はみなさん、お疲れ様でした。特に、三つ子の忍者妖精の皆さん、ご協力頂いて本当に、ありがとうございます。ございました。

みなさんの、お陰で無事事件も解決致しました。

今回は、真紀さんにとっては、辛かったかもしれませんが…、

ま、そこはね…誤解が解けた東条さんに、ホローして頂くとゆう事だね！

（。　）ウフッ

（…）（あららら…真紀と東条、顔赤らめて下向いちゃったよ）>。<（

ああ、よかつたあゝ
ロコモコちゃんの、お陰
で、雰囲気なごんだよ

そこからは、市原と、じ
ゆん子の事には触れずに
妖精界の事や、シュガー
の話して盛り上がった。

その日はね、執事の野口
や、召し使いさん達も、
横の別テーブルで、一緒
に食事してたんだ。

嫌な事件だったけど最後
は、みんな笑顔で別れた
よ（　　）

ロコモコちゃんや、マキ
ちゃん、忍者妖精達は、
ライブの、リハーサルや
スタントの練習をしなき
やいけないとゆう事で、
その日のうちに帰って行
ったよ。

捕まった、じゆん子と
市原は、観念したらしく
全てを自供したそうだ。

次の日、青木かずみは、深く暗い土の中から無事掘り出されたよ。

これで、やっと成仏できるね！かずみさん、よかったね）。（b

そうそう、あれからね、こんな事もあつたんだ。

ミキがね『寺田栄子』の家と、須田が入院している病院に行きたい…って言うんで、僕と小野寺とミキの、3人で行つてきたんだ。

小野寺の仕事の終わる時間に合わせて、待ち合わせをして、まずは…『寺田栄子』の家に、お邪魔したよ。

栄子の弟は、東京で就職したらしく、お母さんが1人で暮らしていた。

僕たちは、仏壇に手を合

わせた…。

僕らが、顔をあげると…
ミキは、まだ手を合わせ

中森明菜のように…聞こえるか聞こえないような小さな声で口を動かし、何か、ブツブツ言っていた。

すると電気が、バチバチと音をたてて、点いたり消えたりした(。°)〃

そして、パァーっと、青白い光りに包まれて、

『栄子』が現れた。

栄子の母親は驚きながらも、嬉しそうな顔で、
『栄ちゃん！』と、泣きながら抱き着いた。

すり抜ける事もなく、ちやんと抱き合ってたよ。

『幽見キャンディ』なんか舐めなくても…
ミキパワーだけで、十分

なんだね…またまた今日は、ミキの力を思い知らされたよ(。。()”

《栄子》お母さん…勝手に先に、死んじゃって、ごめんなさいね(; ;)

《母親》そうだよ！本当に、親不孝者だよ！お母さんは、栄ちゃんの花嫁姿を見るのが楽しみだったのに…(; ;)

《栄子》お…母さ…ん…ほんとに…本当に、ごめんね。親不孝しちゃってごめんなさい…ね。

() しばらく抱き合った後…栄子は、静かにミキの方を向き…

《栄子》ミキ様ですね？今日は、わざわざ、ありがとうございます。

私たちの世界で、あなたは、カリスマ的な存在なんです。ミキ様に、お願

いすれば成仏できるって

でも、私は…自ら命を絶つてしまったため、この場所から動けずにいたのです。

ですから、どうやって、ミキ様と、コンタクトをとったらいいのか分からなかったのですが…

まさか、ミキ様の方から来て頂けるなんて、とても有り難いです。

本当に、ありがとうございます。

《ミキ》どういたしましたして。あなたの声は、ちゃんと、届いてましたよ。

それに、この事件に関わったのも何かの縁です。あ、来ました！

(…) え？一体、誰が来たんだろね？…すると、ピンポーン と、玄関の

チャイムが鳴った。

栄子の弟の洋二だった。
なんかね、こつちに出張
で来たらしいよ。

にしても…ミキが、カリ
スマ的存在って…(汗)

ミキの能力って、なんか
…計り知れないよね。

あ、洋二が家の中に入っ
て来たよ。

《洋二》ただいまあゝ！
つて…ええゝーっ！

おおおお、お姉ちゃん！
なななな、なんでえっ！
ええゝーっ！うっそー！

(…)
洋二は、驚きのあ
まり、尻餅をついてしま
った。ん…想像した通り
の、リアクションだね。

そりゃ、そーだよね、
亡くなったはずの姉が、
目の前に居るんだもんね

驚くのも無理ないよね。

すると…ミキは、まるで洋二が来る事を知っていたかのように、ニツコリと微笑んで、洋二を手招きした。

洋二は、催眠術にでもかかったように、静かに手招きされるがままにミキの前に正座した…。

ミキは、水晶の数珠を洋二の額に当てた。

しばらくすると青白い光に包まれて、洋二の恋人だった『青木かずみ』の姿が、スウ〜と現れた

洋二は、一瞬…訳が分からなかった。

『青木かずみ』の遺体はつい先日…白骨化して見つかったが、それまではただの行方不明とゆう事になっていたからだ。

洋二は、遺体が見つかった事をまだ知らなかったので…かずみは、いつかふらふらと戻って来ると信じて待っていたんだ。

でも…亡くなつたはずの姉がいて、青白く光るかずみがいる。洋二は、この状況を見て、かずみはもう、この世には、いないとゆう事を悟つた。

洋二は、何も言わずに、かずみを抱きしめた。

隣で、姉の栄子が『いやいやいやいや、私には、来ないのかいっ！』とゆう、リアクションをしていたよ（><）ゞ

かずみは、洋二に抱きしめられた途端…無念の思いは、スウ〜と無くなり穏やかな顔になった。

………

ん、そろそろ離れよっか

すると、ミキは…んんんと咳ばらいをしながら話し始めた。

《ミキ》みなさん、それぞれ思いがあり、離れがたいかとは思いますが…

『栄子』さん『かずみ』さんは今日、成仏して、ひと足先に、天国へ逝きます。そして…お母様と洋二さんが寿命を全うして天国へ逝った時、また会う事が出来ますからね

それでは、そろそろ…
あ、ごめんなさい(焦)

ちょっと待って下さいね
もうすぐ、かずみさんのご両親も見えますので。

(…)(…)
すると、またまたピンポンと、玄関のチャイムが鳴った。

どうやら、ミキは事前に一人で、青木の家に行っ

て今日、来るようにと頼んであつたらしい…。

玄関には、ミキと、かずみが出迎えに行った。

青木の両親は、ドアを開けた瞬間：気絶してしまつた。

はいはいはい、そーだねま、そーなるよね（…）
つい先日、遺体で見つかったはずの娘が目の前に現れたんだからね。ん。

みんなは、青木の両親を抱え上げ居間に横にならせ、うちわで扇いだ。

また気絶されては困るので、栄子と、かずみにはキッチンの方で待機してもらつた。

かずみは、洋二と付き合い合っていたので、寺田家には、しょっちゅう遊びに来ていたので、姉の栄子とも仲が良かったんだ。

あ、かずみの両親が目を
覚ましたよ（…；）

《ミキ》青木さん…大丈
夫ですか？青木さんっ！
さつきは、驚かせてしま
って申し訳ありません。

（…）青木夫妻は、ゆっ
くりと起き上がり、辺り
を、キョロキョロと見回
した。かずみを探して
るんだろね（><）”

《青木母親》あ、あの…
さつき、かずみが…かず
みが、居たんです！

ね、あなた！さつき、
かずみが居たわよねっ！

《青木父親》あ…ああ、
た、確かに…かずみが見
えました。わ、私たちの
錯覚でしょうか（。。）

《ミキ》いいえ、錯覚な
んかじゃありません。
今日、この家の娘さんの

栄子さんと一緒に成仏して天国へ旅立つために…

娘さんの魂は今ここに来ているのです。

その前に、ご両親と、かずみさんを会わせかけたので、こちらへ来て頂いたので。

また、気絶されては困ると思い…今、キッチンの方に行ってもらってます

(…)すると、青木夫妻は、バツと立ち上がり、キッチンへ向かった。

台所にある、テーブルでかずみと栄子は、お茶を飲んで、せんべいを食べながら昔の話して盛り上がった。

そこへ、青木夫妻が、いきなり入ってきたので、かずみは、ブツ！…っと

栄子に向かって、お茶と

せんべいのカスを嘔き出してしまった。

栄子は、『もぉ〜!』とブツブツ言いながら、フキンで、腕にかかったせんべいのカスを拭き取り、テーブルの上も、キレイにした（　　）

《かずみ》お、お母さんお父さん！（；。；）

《両親》かずみいー！

（　　）と言って、ガッツリ抱き合った。

ん、ドラマのワンシーンみたいだね（；；）

《ミキ》すみません、みなさん、そろそろ…居間の方に戻って頂けますか？

（　　）ミキの言われるがまま、全員…居間に揃い

栄子と、かずみの2人を真ん中にして、後は回り

を囲むようにして座った

《ミキ》それでは、栄子さん、かずみさん、心の準備は宜しいですか？

《栄子・かずみ》はい、宜しく…お願いします。

《栄子》お母さん…洋二これからは、2人の事、お空の上から見守ってるからね。

《母親》ええ、ええ…、お母さんも、しばらくしたら、栄ちゃんの所に行くから、待っててよ！

《栄子》うん…待ってるそれじゃあね、お母さん洋二…寿命が来る、その日まで元気に生きてね

() 母親は栄子の手を握りしめ、洋二も横で、うんうんと、うなずいていた。

《かずみ》お母さん、

お父さん、元気でね。

あの世で待つてるからね

洋二君も元気で(；；)

あ、でも、洋二君の場合は…早く、かずみの事は忘れて、ちゃんと彼女作ってね(。(”

洋二君が家庭を持つて

幸せになってくれるのがかずみの、1番の幸せなんだからね(。(

(。(かずみの両親や、洋二は涙をボロボロ流しながら、うんうん…と、うなづいていた(；；)

《ミキ》それでは、いきますよ…。

《栄子・かずみ》はい、宜しく、お願いします。

(。(ミキは数珠を手に取り…なんだろ？お経とは違う何か…呪文のような言葉を聞こえるか聞こえないような小さな声で

口を、モゴモゴしながら
唱え始めたよ。

ん…やっぱり、何回見ても、友近が中森明菜の、モノマネをする時のような感じにしか見えないんだけど…(; ;)ん…。

え…！？…うわうわうわ！
部屋中が、パァーっと、
光り輝いたと思ったら、

いつきなり、部屋の中に
透けた、白い階段が現れたよ(。。(うわぁ〜！

階段の両端には、何の花
だろ？キレイな花たちが
ズラーっと咲いてるよ。

そして、7段目の先には
天国の入り口なのかな？
花に包まれた…とゆーか
花だらけのドアがあった

ん、見た感じ…開けにく
いんだろうなあ…って、
全員、思ったと思うよ。

にしても…キラキラして
きれいな階段だなあゝ
なんか…メルヘンだなあ
°。(、ゝ、)ほえゝ。
僕も昇ってみたいなあゝ

《ミキ》それでは、栄子
さん、かずみさん、あの
ドアの向こうが天国です

ドアの向こうには、ここ
らにいる小野寺君の叔母
さまの、さちこさんが、
待っていてくれますから

分からない事があつたら
何でも、さちこさんに聞
いて下さいね()

それでは、栄子さん、か
ずみさん、お逝きなさい

() () お逝きなさい…だ
つて…ミキは、やっぱり
何か、神様な人の生ま
れ変わりなのかなあ？

そして、栄子と、かずみ
が階段を昇り始めようと
した時…どこからともな

く、ド演歌が流れ始めた

みんなも、え？とゆうよ
うな顔で、ざわざわと
し始めた。にしても、
どこから流れてんだろ？

ん？…どうやら、ドアの
向こうから聴こえてくる
みたいだよ。たぶん…
さちこが、盛り上げよう
と気を利かして音楽を流
してくれてるんだ…と思
うけどさ…（；；）

でもさ…なんで、なんで
『兄弟船』なのさっ！
ままま、鳥羽一郎さんの
声は、迫力あつて素晴ら
しいと思うよ！思うけど

今の、この状況とゆうか
秀囲気には、ちよつと、
合わないよね（；；）

せつかく、花に囲まれた
キラキラした白い階段で
なんとなく、メルヘンチ
ツクな感じで天国へ逝こ
うとしてたのにいゝ、

まあ、さちこったらあ！

だから僕：もつと静かな
きれいな曲に換えてもら
おうと思つて、カーテン
を開けて『UFOだ！』

と叫んで、みんなの視線
を窓の外に向いてる間に
ドアの所まで飛んでいつ
て、ドアの向こうにいる
さちこに、この状況に
ふさわしい曲に換えてく
れるように頼んだんだ。

さちこは、オツケー！と
快く了解してくれたよ。

窓を見ていた、みんなは
『UFOなんて、飛んで
ないよ』と言いながら、
階段の所に戻つて来た。

仕切直して、栄子と、
かずみが、階段を昇り始
めようとした時、今度は
民謡が流れ出した（…）
まあさちこったらあ！

すると、かずみが、コロ

コロで部屋を掃除し始めた…じゃなくて(焦っ)

コロコロと、こぶしを…
きかせて、めっちゃ通る
声で民謡を歌い始めた。

そして、気持ち良さそう
に階段を、ゆっくりと
昇っていった()
栄子も、かずみの歌に合
わせて、手拍子をしながら、
昇っていった。

かずみの両親に聞いたら
かずみは、小さい頃から
民謡を習っていたらしく
民謡の、のど自慢大会で
は、何回も優勝した事がある
んだって(…;))

さちこは、ちゃんと分か
つてたんだね…さすが！

そして、2人は、最後の
7段目の所で止まり…
『さよなら』と手を振り
ドアを開けようとしたら

案の定…花が邪魔して、

ドアノブが、どこにあるのか見つからず、アタフタしていた。(> <) //

すると…中にいる、さちこが、これまた気を利かしてくれて、カチャッとドアを少し開けてくれた

2人は『あ、ありがとうございます』と言って、焦っていたのか、こちらを振り向きもせず、とつとつ、ドアの向こうへ逝ってしまった。

そして最後に、さちこがヒョイト、顔を出し、ニヤリとして、Vサインをして、ドアを閉めた。

その途端…ドアも階段もスッと消えてしまった。なんか…あっけない感じで…残された、みんなはボクゼンとしていた。

なんか…手持ちぶさたな感じで、かずみの両親は

《両親》今日は本当に、

かずみの為に、どうもありがとうがとうございました。

今までは、毎日：かずみは、どこで何をしているんたろう…無事で生きているんだろうか…って、寝ても覚めても、心配で心配で、心休まる日が無かったです。

そして、先日：遺体で見つかり、亡くなってるって、分かってからは、

今度は、かずみの魂は、ちゃんと成仏して天国へ逝けてるのだろうか？

もしかして、成仏出来ないで、さ迷っているんじゃないか…って、まあ…心配で心配で。

でも今日：こうやって、かずみが成仏して天国へ逝くの見届ける事が出来て…私たちも、これでやっと安心して眠る事が出来ます…。

本当に、ありがとうござ
いました。じゃあ、私達
は、これで失礼致します

(….)と言つて、かずみ
の両親達は帰つていった

栄子の、お母さんも弟の
洋二も、多分…早く2人
になりたいんだろなと思
い僕達は帰る事にした。

挨拶をして、玄関を出た
途端…ミキは気絶したの
かな？いきなり、小野寺
の腕に倒れかかつてしま
った。

きつとさ…もつのすごい
エネルギーを使ったんだ
ろうね。みんなの前では
気を使わせないようにつ
て、気を張つて、今にも
倒れそうなのを我慢して
たんだね…(….)

すると、ミキの、お腹が
結構…大きな音で、

キュルキュルキュル！
つと…まるで、ふくらま
せた風船が、しぼむ時の
音みたいに鳴った（…）

ミキは手で、お腹を押さ
え…白目をむきながら…

《ミキ》お、おな…か…
す…い…た…（××）”

エルカちゃん、小野寺君
私をスキーに…じゃない

回転寿司に連れてって…
お腹と背中が、くっつき
そう…こ、このままだと
骨と皮だけになってしま
うわ（×。×）”

（…）（骨と皮って）汗（
そっか…ミキ、腹ぺこり
んだっただんだね（…）

エネルギー使い果たして
このまま、目を覚まसान
いんじゃないか…って、
心配しちゃった（…）
あー、よかったあ（焦）

そーいえば、なんか…
僕たちも、お腹空いたよ
ね… (><) ”

小野寺は、ミキを背負い
僕は、タクシーを拾い、
ミキの行きつけだとゆう
回転寿司屋に向かった。

話しによると、その店は
カウンター7席と、4人
掛けのテーブル席が1つ
あるだけの、小さな店ら
しい… (; ;)

なので…ミキは、携帯で
寿司屋に電話を入れた。

《ミキ》あ、おじさん、
ミキです。今、お友達と
そっちに向かっているんで
すけど、着いたらすぐ食
べられるように、いつも
の用意してもらって
いますか？

あと、席も3つ、確保し
てもらっていいですか？
宜しく、お願いしま
すね (; ;)

() しばらくして、
着いてみたら、なんと
その場所は、いつも僕が
シユガーに入る前に変身
する、シユガーの横の
小路だった。

その小路を、もお少し奥
に行った所に、その回転
寿司屋はあった。

でも、寿司屋なのに、
看板も無ければ、のれん
も掛かってないんだ…。
そりゃあ、気付かない訳
だよな (><) ”

中に入ると、ちよつと太
め…いや、随分と太めの
ちよいハゲ…いや、オー
ルハゲの大將らしき親父
さんと、これまた体格の
いい、マ コデラックス
のような、奥さんである
う女性が、癒される満面
の笑顔で迎えてくれた。

ふらつく、ミキを真ん中
に座らせて、寿司を注文

しようとしたら…

《大将》いらっしやい！
ミキちゃん、今、急いで
握ってるから、ちよっと
待っててよおっ！

ホラホラ…そのの、イケ
メンの兄ちゃん達も、

ポケーっとしてないで、
早く注文しないと、ここ
にあるネタ…全部、ミキ
ちゃんに食べられちゃう
よっ！

(…)(…)(…)(…)
またまたまたあゝ
そりゃあ…ミキは…毎日
食べても飽きないとゆう
位、寿司が大好きって言
ってたけどね…

だからとって、いくら
なんでも、こんな細い身
体で、ネタが全部無くな
る位、食べるだなんて…

んなわけない…(。。(。
…って、あつたよ)(…)

《大将》はいよおっ！
いつもの、ミキスペシャル！出来上がり！

(…)(ふ、ふっうさ…
回転寿司って、1皿1皿
注文するよね…)(…)(…)

でもさ、出された、ミキ
スペシャルってのはさ…
大きな皿でさ…(焦っ)

ウニ…(6貫)
ホタテ…(8貫)
いくら…(4貫)
たまご…(2貫)
マグロ…(10貫)
メサバ…(10貫)
サーモン…(4貫)
ボタン海老…(6貫)

僕…思わず、数えちゃっ
た(°。°)(す、すごい！
…計50貫あるよ)(…)

でも、さすが常連だよね
いつもの…ってゆうだけ
で、ネタや数まで分かる
なんてさ)(…)(…)

つてゆーか、もしかして僕達の方も入ってるのかな？と思って、一応…聞いてみたんだけど、

やっぱり、ミキの分だけみたい（…；）ん。

でもさ…回転寿司って言うてるわりには、皿は回ってないんだよね（…；）

それに見た目も、なんか高級感あるし（…；）

そして、僕達も、まるで好み？のような感じで食べたよ（…；）うま！

素人の僕や小野寺でも、ネタが、めっちゃ新鮮でイキがいいってのが分かる位だよ（…；）

えんがわを2貫食べて、次は何を食べようかな…

なんて思いながら何気にミキを見てみると…

食べるのに集中したいのか、長い黒髪を1つに束ねて、まるで、ビデオの早送りのように寿司はみるみる間に無くなっていった…(。。(わお”

そして、僕達が4貫目を食べ終える頃…、ミキは50貫全部、食べ終えていた(。。(うそっ！

さ　まのからくりテレビにビデオ投稿したいよ！

美人で、モデル並のスタイルで長い黒髪の、ストレートヘアの女性が、たった3〜4分で、寿司を50貫食べるってね！

でも…ミキは違う能力もあるから、そっちの方でも有名になっちゃったら困るし、こんな風に会えなくなっちゃうから、やっぱり、ダメダメ…！

なんて考えながら、またミキを見てみると…

ミキは、満足したのか……
めっちゃ、しあわせそう
な顔で、お茶を呑んでい
た(´。、。)(´。、。)

(´。、。)ん……僕さ、思うん
だけ……あれだけの、
エネルギーや、パワーを
出すとゆうか使うには、
これだけ食べないと身体
が持たないんだろね……。
やっぱり、ミキは凄いよ

《ミキ》あ、おじさん、
お土産に持っていきたく
いで、5人前……握っても
らえますか？

エルカちゃんも小野寺君
も、おじさんが握ってる
間に早く食べちゃってね
やっぱり、ここまで来た
ら、ケンちゃんや佐藤夫
妻の顔見てかなきゃね

それに今日は珍しい2人
も来てるみたいだし……。
お寿司を差し入れに持つ

て行きたいの)。)

(..) 僕達は、ミキに言
われるがまま急いで食べ
たよ(焦)でも、珍しい
2人って誰だろね？

裏の顔(4)

ちなみに…どうして、
ミキが大将の事を、おじ
さんって呼ぶのかとゆう
とね…その店の大将は、
ミキの父親の笹木宏之と
幼なじみらしいんだ。

ミキが産まれた年に、
この寿司屋も開店したん
だって。色んな意味で、
縁があるんだね()

にしても、店の名前は、
なんてゆうのかな？
看板が無いから、分から
ないんだけど…(;)

んでね、僕…大将に店の
名前…コソツと聞いてみ
たんだ。

そしたらね…『寿司屋』
ってのが、店の名前なん
だって(;)…

『そのまんまかよっ！』
って僕、心の中で突っ込
み入れたよ！

でも、どうして、ミキは
回転寿司って言うのかな
…と思ったら、多分ね…
値段が安いからなんじゃ
ないかな？

店の造りは、小さいけど
高級感あるし、ネタも超
新鮮だし、絶対…高そう
に思っちゃうんだけど、

メニュー表を見たら…
ビックリしたよ(。。(

以下のような感じですよ。
これは、全部2貫の値段
なんだよ！

さば…¥1000
まぐろ…¥1000
ホタテ…¥2000
いくら…¥3000
うに…¥4000
ぼたん海老…¥4000

ね、安いでしょ(。(

『いくら』は、プツチプツチだし『ぼたん海老』は、プリップリだし！めっっちゃ、美味しいんだから（　　）／

そして、お土産用の寿司も出来上がり、僕達も、腹一杯食べたので、会計をしようとしたら、

そこへ、笹木と岡田が入って来た。あの事件以来

年も近いせいか、意気投合して、たまに、この『寿司屋』に2人で来るんだって。

にしても、なんか明るくなっただと思ったら、岡田も大将も、オールハゲだもんなあ…（…；あ）

いいゝねえ！2人の頭を見てると、未来は明るいつて思っちゃうよね〜！

でもさ…かたや道警の

トツプの笹木、かたや
岡田グループの社長がさ
庶民的な店で食事をする
つてのは、なんか嬉しく
なっちゃうなあ（　　）

あれ？でも…岡田の会社
でも何軒か、寿司レスト
ラン…経営してるんじゃない
なかつたっけ？

まままま、そんな事は
関係無いよね（><）”

《ミキ》あ、お父様、
今日はね、小野寺君と
二階堂^{エルカ}さんに

とつても、お世話になっ
たの。だから、お寿司代
払ってもらつていいです
か？宜しく（　　）。　　（　　）

（　　）僕と小野寺は、
『いえいえいえ、そんな
ダメです！ダメです！
僕たち、払いますんで』
と言つただけど…

《笹木》いやいや、会計
の、ほとんどは、娘の分
だと思えますから、今日

は私に払わせて下さい。
事件解決にも協力して頂
いたんですから。

《岡田》 いやいや、笹木
さん、今日は私に払わせ
て下さい。皆さんは私達
家族の命の恩人なんです
から（><）”

《笹木》 いやいやいや、
今日は、私が！

《岡田》 いやいやいや、
今日は、私が！

（…）ん…なんか…、
おばさん達の、ノリにな
ってきちゃったね。
僕達は、そんな2人を、
尻目に、シュガーに向か
った。

シュガーに着くと、東条
と真紀が仲良く座ってい
たよ…（…）（…）

ミキが言ってた、珍しい
2人って、東条と真紀だ
ったんだね（…）（…）

そっか…そうだよね…
2人は、元々…両思いな
んだもんね。

すると、真紀と東条が、
僕達に気付いて立ち上が
り…

《真紀》あ、みなさん、
先日は大変、お世話にな
りました。本当に皆さん
がいなかったら、私…
今頃…この場所に居なか
ったんじゃないか…と思
うと、鳥肌が立ちます。

本当に、ありがとうござ
いました。皆さんは私達
家族の命の恩人です。

東条君とも、こうして、
誤解が解けて、トラウマ
だった記憶も…消す事が
出来ました。

《東条》オレからも、
お礼…言わせて下さい。

この度は、本当に、あり

がとうございました。

まっさか、大好きな真紀
ちゃんと、こうやって、
『シユガー』に来る事が
出来るようになるなんて
夢のようです。

これも本当に、皆さんの
お陰です。ありがとう
ございました。

《ミキ》あらあらあらあ
らあらかわしずか（
大好きな真紀ちゃん…だ
なんて、何気に告白です
か？）（うふふふ

（）（おやおや、東条と
真紀、顔を見合わせて、
2人とも、耳まで真っ赤
にして、うつむいちゃっ
たよ。かわいい〜！

《ミキ》あの…これ、
お寿司です。みなさん、
お腹空かせてると思って
持ってきました（（

（）（そーなんだ！マス

ターも…ママも、用事があつて、買い物する時間もなくて、ギリギリに店に入ったみたいで…

今日は、お手製のカレーライスも、ドリアも何にも作れないんだつて。

ミキは、それが分かつてたんだね。やっぱ、ミキつて、凄いな…（…；）

あれ？ところで…オナラが、めっちゃ臭いイケメンもどきの、幽霊のケンが居ないんだけど、どこに行ったんだろ？

早く来ないと、寿司無くなっちゃうのにい…

あゝあ、みんな美味しそうに、寿司を全部平らげちゃったよ。お腹空いてたんだね（><）

ぼく…ケンの事が心配でミキに聞いてみたんだ。

そしたらね…ケン、今ま

で、この店から出た事、
なかったんだ…ってゆー
か、出る事が出来なかつ
ただけどね…

ある日、ミキと一緒に出
てみたら、今まで絶対出
る事が出来なかったのに
その時は、すんなり出る
事が出来たんだって。

どうゆう訳か、その日か
ら、1人でも出られるよ
うになつたらしく、嬉し
くて、散歩ばかりしてる
らしいんだ。結構…遠く
まで散歩に行ったりもす
るらしいよ。

何回も言うけど、やつぱ
り、ミキパワーは凄いね

あ、そんな事言つてたら
ブサイケメン…じゃなか
った、イケメンもどきの
ケンが、戻ってきたよ。

どうしたんだろ？暗い顔
してるけど…。

ミキは、ケンの顔を見ながら、心配そうな顔で、話しかけた。

《ミキ》ケンちゃん…、

あの…薔薇の、お屋敷の前を通ったのね（><）

《ケン》うん…え？どうして分かったの？

まあ…ミキちゃんなら、分かっちゃうのかあ（汗

（…）ん、ケンの話しによると、その薔薇屋敷とゆうのは、高い塀に囲まれた大きな、お屋敷で、

どうやら、広い裏庭には二羽ニワトリ…じゃなくて、薔薇の花が、どうしてだか季節関係なく咲き乱れているらしいんだ。

めっちゃ高い塀に囲まれているし、裏庭は門からは見えないはずなんだけど…これまた、どうゆう訳か近所の人達には薔薇屋敷と呼ばれてるんだ。

それで…ケンが、その前を通った時、とても綺麗な女の人がピンクの薔薇を1本持って、門の中で手を振りながら悲しい顔をして、ケンに向かって何か言ってるようなんだけど、聞き取れなかったんだって。

とても気になったので、ケンは中に入ろうとしたらしいんだけど、門に近づくと…まるで、そこには見えない大きな壁が立ちだかっってるみたいに中には入れなかったらしいよ。

ケンは気になりながらも仕方なく帰って来たらしいんだ(; ;)

《ケン》ねえ、今度一緒に行ってくれないかな？ミキちゃんが居てくれたら中に入れると思うし、あの女の人が、何を話したいのか分かると思

うんだ。

《ミキ》そうね…でも…
あの薔薇屋敷は、ちよつと私にも…手に負えないかも…。

でも、その女性は助けを求めてるのよね。なんとかしてあげたいわよね。

でもまだ、やらなきゃならない事があるので、ちよつと待っててね。

それが済んだら、みんなで、その薔薇屋敷へ行ってみましょ。

(…) あ、そつか、そういえば…まだ、市原が階段から突き落として植物状態で入院している須田部長のところに行つてないもんね…。

そして、明日は小野寺が用事があるとゆうので、明後日の土曜日に、須田が入院している病院に、

れていたもので、他にも、
須田と同じ状態で入院し
ている人が、2人いた。

にしても…ミキが持つて
いる紙袋から、なんか…
美味しそうな匂いがする
んだけど（。）。
一体、何なんだろう？

《ミキ》小野寺君、エル
カちゃん…カーテン閉め
てくれますか？

（。）。僕は、ミキに言
われた通りに、カーテン
で須田のベッドを仕切っ
た。洋子は不思議そうな
顔で僕たちを見ていた。

《ミキ》奥様、大変…申
し訳ありませんが、部長
の手を握っても、いいで
しょうか？あ…別に、変
な関係ではありませんか
ら（。><）”

《洋子》え、ええ…構い
ませんけど（。）。

(…)(…) そうは言いながらも、洋子は疑いの眼差しで、ジツと、ミキを見つめていた(…)(…)じっ

ミキは椅子に座り、須田の左手を両手で握りしめデコに、くつつけて、また何か…ブツブツと呪文のようなのを唱えた…。

しばらくすると、須田の身体が青紫色に、優しくフンワリと光り輝いた。すると、須田の瞼が…ピクピクと、ケイレンしたように動いた。

洋子は、『あなたー！』と叫んで、須田の右手を握りしめた。

1〜2分過ぎた頃だろうか…須田は、いきなり、ムクツと起き上がり…

『ふあ〜！(…)(…)よく寝たあ〜！』と、何事も無かったように、あくびをしながら目を覚ました！

洋子は、「先生、先生！
主人が、主人があ！」と
叫びながら病室を出て行
った。騒ぎになると面倒
なので、僕たちは帰る事
にした。

《ミキ》これ、部長の好
きな鯛焼きです。よかつ
たら、奥様と食べて下さ
いね。それでは失礼致し
ます。

() そう言うと、ミキ
は鯛焼きの入った紙袋を
須田に渡した。

須田は「ミキさん、あり
がとう！」と、ニッコリ
と微笑みながら、ミキと
握手をしていた。

その後…ドクターや看護
師らが駆け付けると、
須田は美味しそうに鯛焼
きを食べていた()

『き、奇跡が起こった』
と、ドクターが驚いてい

ると、入院していた他の2人も意識が戻り、目を覚ましたのだ。

なんか、大変な騒ぎになっちゃってるよ。やつぱり帰って来て良かったね

にしてもさ…ミキパワーつて、やつぱり凄いね！病室にいた、他の2人も効いちゃうなんてね。

しかも、ちゃんと須田の好きな鯛焼きを持つてるなんて…流石だよね！

それに、どうして須田がミキの事を知っていたかとゆうとね、ミキは今までに何回か、須田の意識の中に、お邪魔してたんだって（…；）そして、

『必ず、助けに来ますから、もう少し待って下さいね』と…会話もしてたらしいんだ。

病院を出た途端、ミキは

また、小野寺に倒れかかり、ギョルギョル〜！とお腹を鳴らしていた。

やっぱり、エネルギーをたくさん使うから、体力消耗するんだね。

まだ時間が早いため『寿司屋』も『シュガー』も開いてないので、僕らは食べ放題の店に入った。

その店は寿司もあるし、焼肉もあるし、ケーキ等の、デザートも豊富にあるから、ミキには、持ってこいだった。

もちろん、寿司は50貫焼肉はカルビと、サガリを3人前づつ、サラダ、ケーキなんか、10個位食べたんじゃないかな？

僕たちは、それを見ているだけで、腹一杯になっちゃったよ(…；)

何回も言うけど、ミキっ

てさ、顔も綺麗だけど、
背も、スラ〜っとしてて
モデル並に、スタイルい
いし、長い黒髪も、シャ
ンプーのCMに出れるん
じゃないの？ってゆうく
らい、サラサラでさ…

バクバク食べるだけでも
すっごい目立つのにさ…
おまけに綺麗なもんだか
ら、回りの男達が目…、
ハート型になっちゃって
るんだよ。

中には…3人、握手を求
めてきた男がいたよ（汗
ミキは、ニツコリと微笑
みながら両手で握り返し
たもんだから、相手の男
らは、鼻血ブツ！だった
よ（><）”

そして、ようやく…ミキ
の食欲もおさまり、店を
出た。すると店の前に、
女子高生っぽい女子達
2人が、僕たちと写真を
撮りたいとゆうので、

仕方なく…なあ〜んてね
ホントは嬉しかったよ
多分…店の中で握手とか
してたから、売れない芸
能人だとも思ってたんじ
やないのかな (><) ?

僕は、しっかり、カメラ
目線で、カッコつけたよ

女子高生達は、『ありが
とうございます!』と、
言って、キヤッキヤと
嬉しそうに帰って行った
よ ()。

話しは変わるけど…須田
が入院してた病院には、
後日談があるんだ。

須田が退院した後、須田
が寝ていた、ベッドに、
患者が寝ると病気が善く
なるんだって。

今では『奇跡のベッド』
と呼ばれてるそうだよ。
噂が広まり、その病院、
今では、超有名になっち
やっただ。

多分…ミキの送った念が
ベッドに少し残ってたん
だろうね（…；）

ま、そのうち…残った念
も薄れて消えていくと思
うけどね…。

須田も、元いた会社に、
無事に復帰する事が出来
たんだ。よかったね

1【薔薇屋敷】

る日、シュガーに行ったら、また…ケン居なかったよ。

それから数日が経ったあ

せつかく、薔薇屋敷につ

いて、どうしたらいいか話しをしようと思っただのに。

ねえ、ミキちゃん…って

言おうとしたら、ミキは白目をむいて、いきなりガクンとカウンターに、うつぶせになり、気絶とゆうか寝てしまった？

起こそうとしたら、マスターが僕の腕を、そっと掴み、首を振りながら、こう言った。

《マスター》今、起こしちゃ…ダメだよ(> <)
カシコモの携帯で、ミキちゃんが今、何処にいるのか観てみるといーよ！

(…) え？だって、ミキ

は、ここに居るのに、なんで？

僕と小野寺は首をかしげながら、カシコモの携帯で、ミキの『今現在』を観てみた（・・・）

すると画面には、ミキとケンの姿が映し出された

ええ、っ（。。。）
な、なんで？どうして？
だって、ミキは此処に居るのに（；）

えっ？ミキが、2人いる
って事？えっ？マスター
どうして？どうゆう事？

《マスター》（笑）そんなに驚かなくても（汗）
もちろん、ミキちゃんは1人だよ。

今、ミキちゃんの魂は、
ケンちゃんのとこへ飛んで
ってるんだよ（><）

ま、いわゆる幽体離脱っ

てやつさ(^。^)

(;) へえ、すごい…
ミキって、そんな事も出
来るんだ。まあ、ミキだ
から何でも出来るとは思
ってたけどさ。

でも…あらためて、スゴ
イと思ったよ(; ;)

ミキとケンが居る場所は
薔薇屋敷の門の所だった
ので、僕達は『どこでも
自転車』で、まずはその
場所へ向かう事にした。

急いでる時の、6分は、
とても長く感じた(;)

薔薇屋敷の前に着くと、
ミキとケンの姿はなかつ
た。

あれ？何処にいるんだ？
僕たちは、屋敷の回りを
2人を探して歩いた。

すると、いきなり、ケン
の悲鳴のような叫び声が
聞こえた(。°。) ”

《ケン》ギャー！ミキちゃん大丈夫！ミキちゃん

(…)どうやら、その声は、門の中から聞こえるようだ。

僕たちは、門の中を覗きこんで、叫んだ！

《(…)・小野寺》

おいっ！ケン！ミキ！

どうした？大丈夫か？

すると屋敷の中から人が出て来た。どうやら、この家政婦さんのようだ

その家政婦らしき人は、じっと僕たちを睨みつけ

《家政婦》何か、ご用ですか？こんな夜中に大声を出して！ご近所迷惑なので、やめて下さいね。

(…)怒鳴られると思ったら、以外に優しい口調だった。

《（ ）・小野寺》

え…いやあ、そのお、
友達がですね…お宅の門
の中に入っちゃったみた
いなんです。ちよつと捜
させてもらってもいいで
すか？

《家政婦》そんなはずは
ありません。門の回りは
セキュリティが、ガツチ
リしていますから虫一匹
だつて通れば、警報音が
鳴るはずですから。

それに、そんな事を言わ
れて、はい、そうですか
つて普通、開けませんよ
ね（笑）はい、お帰り下
さい（ ）

《（ ）・小野寺》

あ、はい、ご迷惑おかけ
して申し訳ありませんで
したm（ ） m

と、頭を下げた僕たちに
得体のしれない何かが、
ザワザワと身体に、まと

わり付くような感じになり、何故だか全身の震えが止まらなかった。

仕方がないので、僕たちは、ひきあげるふりをして、少し離れた場所で2人を待つ事にした。

しばらくすると、ケンがミキを背負って出て来た

ケンの話しによると、ミキは、その日シユガーで大好きな、オムライスを食べようと思っていたので、家では何も食べないで店に来たらしいんだ。でも、ケンの事が心配でオムライスも食べずに、

お腹を空かしたまま幽体離脱をした上、門の中に入る時にも、パワーを使ってしまったもんだから貧血をおこしてしまったらしいんだよ(…;))

なんだか、ミキらしいよ

ね（笑）と思つていると
ケンに、おんぶされてい
る、ミキの姿が、スウ
と消えてしまった。

僕と小野寺が、うわうわ
うわうわあゝ！と驚い
ていると、ケンが苦笑い
しながら、こう言つた。

《ケン》ああ、心配しな
いで大丈夫だよ。本体の
身体に戻つただけだから

さあ僕たちも、シュガー
に戻ろうよ（　　）

（　　）そう言つと、ケン
も、スツと消えてしまつ
た。残された僕と小野寺
は『どこでも自転車』で
シュガーに戻つた。

またまた帰りの、6分も
長く感じたよ（　　；）

シュガーに着くとミキは
長い黒髪を後ろで、1本
に束ね…

カウンターには、オムライス、カレーライス、ドリアが並び…まるで早送りのようにヒュッヒュッつと、もの凄い早さで食べていた(…；)

にしても…食べている姿は、ギャル曾根にも負けないくらいに、おつきな口を開けて、こぼしたりせずに、キレイに食べていたよ。

すると、マスターは

『お腹空いたでしょ？』

と言って、僕たちにも、オムライスを作ってくれた

涙が出るほど嬉しかったよあ〜(…)

本当に、マスターが作るオムライスは、ふわとろで、めっちゃ上手いんだよなあ〜(…)

にしても…さっきの身体の震えは何だったんだろ
うね(…)。…？

.....
ここからは35年前に、
タイムスリップするよ。

【35年前】

(..)(..この、バラ屋敷に
は(この時はまだ、庭に
は、バラの花は咲いてい
なかつた)

父親の

《高梨大三郎：53才》

母親の

《はつえ：51才》

ひとり息子の

《三郎：25才》

家政婦の

《沢田しのぶ：30才》の
4人が暮らしている。

家政婦の、しのぶは..
5年前(25才)から、こ
の屋敷に住み込みで働い
ているんだよ(..)(..)

三郎は、この5才年上のしのぶの事を、実の姉のように慕っていた。

家政婦のしのぶも、三郎を弟のように可愛いがっていた。

この高梨家は、財閥とまではいかないが、かなりの資産家である。

三郎は、大学を出た後、父親のコネで、仕事には就くものの…一人っ子で甘やかされて育ったせい、どの仕事も長続きはしなかった（><）”

父親の大三郎は呆れ果てて、それからは三郎の好きなように、させていた母親の方は、ひとり息子の三郎を溺愛していたので仕事になんか行かなくてもいいと思っていた。

三郎は、絵を描くのが好きで、離れに、アトリエ

を作ってもらい、一日中
そこで過ごしていた。

最初は、アトリエに、
モデルとなる女性を呼ん
で人物画を描いていた。

三郎は、気にいったモデ
ル（サヤカ）を毎日のよ
うに、アトリエに呼び、
描いていた。

もちろん三郎は、純粹に
モデルとしか見ていなか
ったし、ちゃんと洋服を
着たままの姿しか描かな
かったんだけどね…。

それが、ある日を境に、
サヤカは姿を見せなくな
ってしまっただ。

これは後で分かった事な
んだけどね…モデルの女
性達が、息子のアトリエ
に出入りするのを、母の
はつえは我慢が出来なか
ったらしいんだ。

なので、はつえは、サヤ
カに、お金を渡して二度

と、アトリエには来ない
ようにしたらいいんだ。

三郎は、その事を家政婦
の、しのぶに聞いてから
は人物画を描くのをやめ

それから…風景や果物
などを描いて過ごすよう
になったんだ（><）”

きつと三郎は、母はつえ
の底知れない怖さみたい
なものを肌で感じていた
んだろうね。

そして5年後【30年前】

大三郎は元々、心臓が悪かったみたいだね。いつもは家政婦の、し
のぶが大三郎に何かあつては大変と注意をしていたんだけど…

その日…しのぶは風邪気味で体調が悪く、夕食の後片付けをした後
…

大三郎が風呂に入らないのを確認してから、しのぶは自分の部屋で
少しの間、横になり、しばらくしてから鍵かけ確認と、おやすみの
挨拶をしようと起きて来た

いつもなら、大三郎と、
はつえが、リビングで、
クラシックを聴きながら

(たまに、三郎が居る時もあるけどね) 各々好きな事をしながら過ごしているんだ) 。)
でも…その日は、なぜだか誰も居なくて、しのぶは、みんな寝てしまったんだと思い、鍵をかけながら電気を消して廻った。

すると風呂場の灯りが、
ついていたので、しのぶは、おかしいな…と思い声をかけてみた。

でも、中からは何の返事も無かった。しのぶは…首をかしげながら風呂場のドアを開けた。

すると、そこには湯舟の中に顔半分浸かって、ぐったりした大三郎の姿があった

風呂の中で発作を起こしたのだろうか？

大三郎は、緊急の時のためにと、各場所にブザーが鳴るように、スイッチも取り付けてあったし、

用心のために、必ず近くには薬を置いておくのに。

その時…妻の、はつえは
離れの三郎のアトリエに
夜食を持っていったまま
三郎と話し込んでいた。

2人は、しのぶの悲鳴に
驚いて、風呂場に駆け付
けた。

すぐに、救急車を呼んで

主治医のいる病院に搬送

したんだけど、残念な事に大三郎は、病院に着くと同時に息をひきとってしまったんだよ（…；）

しのぶは、大三郎を本当の父親のように慕っていたので、余りの悲しみに涙が溢れ出て止まらなかった。

とゆうのも、しのぶの両親と知り合いだった大三郎は、しのぶの両親が亡くなった後、行き場の無かった、しのぶを養子として迎えようと思ったのだが…

しのぶは、それでは申し訳ないので、家政婦として雇ってほしいと願い出たんだ。

大三郎は、しのぶの気持ちをくんで、住み込みのお手伝いさんとして雇う事にしたんだよ。

でも誕生日や正月等は、

しのぶも、一緒になり、

みんなで祝い本当の家族のようにしてくれてたんだ。妻の、はつえだけは面白くなかったみたいだね。しのぶと三郎が泣きくずれる中、はつえだけは無言で泣き崩れる2人を、シラーっとした顔で見つめていたし…（…）

後で分かった事なんだけど…その日、大三郎は何か嫌な事でもあったのか、寝室で、ひとりで、ウイスキーのストレートを、かなり飲んでいたらしいんだ。

そして何を思ったのか、
ぐでぐでんに酔ったまま風呂に入り、眠ってしまったみたいなん
だ。

ん、結局…心臓発作が原因ではなかったんだね。

.....

どんな事があっても、
時とゆうのは経つもので…

大三郎が亡くなってから、
あっ！とゆうまに、5年

【25年前】の月日が流れた（><）

三郎は35才になっていた。なんの苦勞もしてないせいか、三郎は、
どうみても、20代後半くらいにしか見えなかった。

大三郎が残した遺産は莫大な金額で、三郎は働かずに相変わらず、
好きな絵を描いて過ごしていた。

そして、屋敷から少し離れた場所に、大三郎が生前、書斎と称して
使っていた、2階建ての建物があるんだけど、三郎は自分の描いた、
たくさん絵達に日の目をみせたくて、その建物を真っ白な…まるで
城のように、リフォームして喫茶店をOPENさせた。

『TS Cafe gallery』店の名前は、高梨三郎の頭文
字のTSと…後は、珈琲と絵を置いてるので、カフェギャラリーっ
て、つけただけなんだよ（。）

その建物は大三郎の主治医がいる病院の近くにあって…とゆうか、

近くに建てたらしいんだけどね。

ちょうど屋敷と病院の真ん中に、この建物があると
言った方が分かりやすい

かな（。。）”

ちなみに、今の主治医は、二代目なんだ。確かね…　しのぶとは、
小中一緒に、幼なじみらしいよ。

もちろん、この建物にも、何かあった時には、ブザーが鳴って知ら
せるように、屋敷と病院には、緊急用のスイッチを取り付けてある
んだ。

だから、大三郎は気持ち的に安心できて、誰にも邪魔をされずに、
大好きな本を仕事を忘れて、思う存分：心置きなく読めたみたいだ
ね（。。）”

でもね、なぜだか…その建物に行くのは、毎週火曜日って決まっ
てるんだ。

どうしてだろうね？

どんなに仕事が忙しくても火曜日だけは絶対、仕事は入れないよう
にと、大三郎は秘書に、きつく言っているみたいだし。

なので、火曜日になると、大三郎は朝早くから、そちらの建物の方
に行ってしまうんだ。

大変なのは、しのぶさ。

はつえと三郎の朝食を作り終えたら、急いで大三郎の朝食を作り
行ってたんだから。

もちろん、それだけじゃないよ。大三郎が、そちらの建物に行つて
る時は、心配なので、しのぶは、しょっちゅう自転車に乗って何回
も様子を見に行つてたんだよ。

にしても…しのぶは天使のように優しいよね。こんな我がままな家
族にも文句ひとつ言わずに…逆に自分を、お屋敷に置いてくれてる
と感謝しているんだから。

はつえは、お嬢様育ちだから、どんな細かい事でも、全部しのぶま
かせで、自分では、今日着る服さえも用意出来ないんだよ。

とゆうか、そうとう甘やかされて育つたらしいから、何にも出来な
いんだろね。

そんな、はつえだから息子の三郎にも甘いんだよね。でも…三郎は、
はつえと違って、まだ常識あるし、一応は、自分の事は自分です
るし、しのぶが忙しいと食事の材料なんかも面倒くさがらずに、車
で、パパッと買って来てくれたりするんだよ。

でもね…もし、そんな事をはつえが知つたら、しのぶが怒られてし
まうでしょ。だから、そんな時、三郎は絵の具を買いに行くと言つ
て出掛け、買った物は裏口の台所に、コソツと置いておくんだ。

そんな、はつえだから、喫茶店で女性を雇つたりなんかしたら…絶
対、嫉妬するに決まっているの、従業員は男子を、2名だけ雇う
事にしたんだ。

1階部分は、大三郎が遣

(のこ)した本をズラーっと、まるで、ちよつとした図書館のよう

に並べ…

座って読めるように、細長いテーブルと椅子も用意した。

2階を喫茶コーナーにして三郎が今まで描きためた、たくさん絵を、壁一面に飾った。そして、だだっ広い真ん中には、3人掛けの丸いテーブルが5つ…あるだけだった。

絵は、売るのが目的ではないのだけど、どうしても欲しいとゆう客には、かかった材料代だけを頂く事にしてるんだよ。

まままま、かかった材料代だけと言っても、額縁だけで、15〜20万円はするんだけどね。

だから、ほとんどの人は、値段を聞いただけで、びっくりして買わないんだ。

しかも、この店には、クロワッサンと珈琲しか置いてないんだ。

あくまでも…自分が描いた絵を飾っておく事がメインだからね。

でもね…意に反して、1階には、本好きの主婦や学生達が集まり、2階のカフェギャラリーでは、クロワッサンと珈琲が美味しいと評判になっちゃって、毎日たくさんのお客様が押し寄せるようになっちゃったんだ。

ん…絵が、メインだったのにね（汗）いつの間にか、BOOK C

A F Eになっちゃったよね (><) わお！

なので、2人のバイトだけでは間に合わないの、すぐに、1人増やし、テーブルも3つ増やしたんだ。

ちなみに、クロワッサンはここで作っている訳ではないんだよ。

珈琲だけでは、物足りないよなあ…と思いつながら、車を走らせていた三郎は、たまたま見かけた、小さな可愛いらしいパン屋に入った。

そして、自分の大好きな、クロワッサンを買って食べてみたところ、とっても美味しかったので、三郎は、その店に頼んで作ってもらったんだよ。

喫茶店は昼からの営業なので、クロワッサンは毎日、三郎が午前中に取りに行ってたんだ。

ってゆーか…三郎には、もうひとつ、そのパン屋に行く理由があるんだけどね。

実はね…その、ひとり娘の《吉岡美奈子…25才》に逢いたくて…とゆうよりも恋をしちゃったからなんだ)。。

店の名前は『hitomi』とゆう、パン屋らしからぬ名前だよ。昔は、美奈子の父親の《吉岡正則》と、母親の《ひとみ》の夫婦2人で、パン屋を営んでいたらしいよ。

『hitomi』とゆうのは、奥さんの名前から取ったんだね)。

（うふふ）

でもね…母親は、美奈子がまだ6才の時に交通事故で亡くなっちゃってるんだ。だから今は父親と2人だけでガンバっているんだよ。

一方…三郎は、苦勞をした事がないし、人間の汚い部分とゆうのも全く知らない人間だから、ある意味…とても、ピュアなんだ。

そして見た目も三郎とゆう名前からは想像もつかないほど、キレイな顔立ちで、物越しも柔らかいもんだから、実は美奈子も三郎に恋をしていたんだよ。

でね…なんとなんと三郎は、このトシになって、これが初めての恋だったんだ。

なので、どうしたらいいのかわからなくて…何かあるたびに、姉のように慕う、しのぶに相談していた。

しのぶは、2人が上手くいくように、あれこれと、三郎にアドバイスをしてくれただ。

まだ携帯も無かった頃だから…しのぶは、まず美奈子に手紙を書く事を薦めた。

三郎は、アドバイス通りに…何度も書き直しながら、心を込めて手紙を書いた。

そして、ある日、三郎は…クロワッサンを買った後、会計の時に、一緒に手紙を渡そうと思ひ、客が居なくなるのを見計らって、ポケットから手紙を取り出そうとした時、

逆に美奈子の方から… 『あのお、よかつたら私と交換日記をして頂けませんか?』と、顔を真っ赤にして、小さな日記帳を手渡してきた。

三郎は、まさか、10才も年上の自分に好意を持ってってくれるとは思ってもいなかったので、びっくりしていた(。°) "

三郎は平静を装っていたが内心は… 大声を出しながら思いっきり、スキップをして壁や柱に、油性マジックの赤で、傘マークを書きまくりたい衝動に、かられていた()

ルンルン気分で、カフェ

ギャラリーに、クロワッサンを置き、屋敷に戻った三郎は、真つすぐに自分の部屋に入り、美奈子からの日記を見た(。°) "

そこには、可愛い文字で… 『いつも、クロワッサンを買いに来てくれて、ありがとうございます』とか、『今度こんなパンを作ります』とか、たわいのない事が書いてあった()

でも三郎は、それだけでもめちゃくちゃ嬉しかった。そして日記帳は、机の引き出しに鍵をかけて大事に、しまっておいた。

三郎は、アトリエに行き、美奈子の顔を思い浮かべながら、スケッチブックに鼻歌まじりで美奈子の顔を描いていた()

どうやら、美奈子に絵を プレゼントするみたいだね()。

でもね… そんな浮かれた 三郎の様子を、はつえは、まるで鬼のよ

うな形相で、下唇を、ギリギリと噛み締めながら、上目づかいで、じい〜っと見つめていたんだ（怖っ）

いつもの三郎なら…気付くはずなんだけど、何てったって浮かれちゃってるもんだから、そんな事には気付くはずもなく、絵を描くの
に夢中だったんだ。

それからも、三郎は毎朝：美奈子のいる、パン屋に、クロワッサンを取りに行つた。もちろん時間をかけて書いた交換日記も忘れなかったよ（ ）。

そして休みの日には、映画や、ドライブ等にも出掛けるようになった。

三郎は、姉のように慕う しのぶにだけは、美奈子を紹介した。しのぶは、可愛いくて、くつたくの無い 美奈子を、とても気に入って二人を応援した（ ）

ある日：三郎は、美奈子に思い切つて、プロポーズをした。もちろん美奈子は、涙を浮かべながら、顔を真っ赤にして、コクンと、うなづいたよ（ ）。

三郎は、嬉しさのあまり、断崖絶壁から、驚^{ワシ}もしくは鷹^{タカ}になって、バツバツと羽を広げて飛び降りたい気分だった（ ）

そうなる問題は…母の、はつえである。

大三郎が亡くなり、たったひとつの生き甲斐である三郎が結婚となると絶対反対するに決まっているからだ（ > < ）

三郎は、どうしたらいいのか、しのぶに相談した。しのぶは『美奈子ちゃんに会わせれば人柄が分かるはずだから、まずは会わせてみたら?』と、アドバイスをくれた。

三郎は、しのぶの言う通り駄目元で、はつえと美奈子を会わせてみる事にした。

そして…ある日曜日の午後…美奈子は、自分で作ったパンを土産に高梨家にやって来た。

はつえは、最初から最後まで、ムツツリしていて、美奈子とは目も合わせようとしなかったんだけど…なぜだか、結婚だけは認めてくれた。

そう、しのぶが、はつえを説得してくれてたみたいなんだ。

にしても…あれだけ、息子に依存してる、はつえを、どうやって説得したんだろうね? (><)

一方、美奈子は、はつえに口を聞いてもらえずに、ずっと無視をされていたが、美奈子は、めげずに、はつえを本当の母親のように慕っていたんだよ。

きっと美奈子は、はつえに早くに亡くなった母親の面影を求めているんだろうね。

にしても…美奈子って本当に、いい子だね)。。

で、美奈子の父親はね、これを機に、奥さんとの思い出が、たくさん詰まった、この、パン屋を閉めようと考えていたんだ。

実は、結構前から店は暇で最近では三郎が、パンを買ってくれていたから、なんとか店は、もってたようなもんだったんだ。

ならば、喫茶店専属になって、パンを焼いてほしいと、三郎は美奈子の父親に頼みこみ、喫茶店の一画に、パン作り専用の工房を作った。

美奈子も、父親と一緒に、喫茶店を手伝いたいと言い出したので、三郎は、美奈子のために、パン工房の横にキッチンも作った。

屋敷から喫茶店までは歩いても近いし、家にいて、ずっと、はつえと顔を突き合わせてるよりは、いいだろうと思ひ…三郎は、快く承知したんだ（。 ） b

式は、三郎の意思により、2人だけで、ハワイで挙げた。新婚旅行も、そのままハワイで済ませたんだよ。

三郎は、小さい頃から絵ばかり描いていたし、絵を描いてない時は、ひたすら勉強ばかりしていたので、友達とか、ましてや親友と呼べる者は誰もいなかったからなんだ。

そして、日本に帰ってきた次の日から、美奈子は喫茶店で働きはじめた。

美奈子は、もちろん、パン作りもするが、料理を作るのも大好きなので、パンを焼いてる父親の横で、パスタや、グラタン等を作っていた。

またまた、それが美味しいと評判になり、喫茶店は毎日のように混んだんだよ。

材料の買い出し等は、バイトの男子の3人が、交代で買いにいってくれてたので

美奈子は、午前中は屋敷で、三郎や、はつえと過ごしていた。

相変わらず、はつえは美奈子とは目を合わせないし、美奈子が話しかけても無視を、し続けるだけだった。

それでも美奈子は、持ち前の明るさで、肩コリの、はつえの肩を揉んであげたり

刺繍の好きな、はつえのために、刺繍糸を買ってきたり、なんとか仲良くなりたいたいと一生懸命だった。

そんな生活が、半年過ぎた頃だった…。とても信じられない事が起きたんだ。

2【薔薇屋敷】

なんと、美奈子がね、バイトの男子の1人と恋に落ちてしまい駆け落ちをしてしまったんだ。

いくら、三郎や家政婦の、しのぶが、美奈子に優しくしたり励ましたりしても、はつえの、いじめには耐えられなかったみたいなんだよね。

実はね、こんな事があったんだ。はつえは階段で足を滑らせて落っこちてしまい右腕を骨折してしまっただんだ。

そのちょっと前に、美奈子が、しのぶの手伝いと言って、階段の拭き掃除をしていたんだけど…

その時に、わざと滑りやすくなるように、ロウでも塗ったんじゃないの！と言って、美奈子を責めたんだ。

もちろん、美奈子は、そんな事はしていないんだよ。多分はつえは…利き腕が、思うように使えなくなっちゃって、イライラしてたんじゃないのかな？

でもね、なんだろう？はつえの何らかの、スイッチが入っちゃったみたいでさ…

その日を境に、美奈子への執拗な、いじめが始まっちゃったんだ。

ちよつと太り気味の、はつえのために、甘さ控えめのヘルシーなケーキやクッキーを作っても、はつえは、ひと口も食べずに、美奈子の目の前で、ごみ箱に棄てちゃうし、

いつものように肩を揉もうとすると、すごい怖い顔で、キッと、にらみつけ、大きな声で『汚らわしい手で触るな!』と、ののしり…

美奈子が買ってきた色とりどりの綺麗な刺繍糸は、ハサミで切り刻むんだよ。

そして、何か気にいらぬ事があると、『あんたが、この家に来てから不吉な事ばかりだよ!疫病神には、とつとと出て行ってほしいもんだよ!』と、美奈子に八つ当たりしていたんだ。

美奈子は、愛する三郎を産んでくれた母親ははなのだから…どんなに罵られようが大事にしなきゃ…

いつか分かってくれる仲良くなれると信じて耐えて、ガマンしていたんだけど…

やっぱり、限界だったんだらうね(; ;)

そんな時、優しくしてくれた、年の近い、バイトの男子に、フラフラといつちやうのも無理ない…よね。

美奈子の父親も、はつえに罵られて、居づらくなっちゃってね…何も言わずに、出て行ってしまったんだ。

喫茶店の方は、すぐに別のパン職人を雇い、何事も無かったように

営業していたよ。

お客様達は、いつもの、クロワッサンの味と違うな…味がおちたな…
…と思いながらも、

いつの間にか近所の主婦達の憩いの場になっていたので、そんなに
客が減る事は無かったし、

三郎にとっては元々、自分が描いた絵を飾るためだけで、よかった
ので余り気にはしていなかった。

でもね…不思議な事に、
美奈子や、美奈子の父親が居なくなっても、三郎は探そうとはしな
いんだよね。

こちらも、まるで何事も無かったように、普通にしてるんだ…
…
…

そりゃあね、自分を裏切って他の男と駆け落ちしたらさ…ショック
だし、腹も立つと思うけど。

でもね、なんかちょっと違うんだよね…
…
…

三郎を見ると、怒^{いか}ってるようにも見えないし悲^いしそうにも見えない
んだよね。

しのぶも、そうなんだよ…なんて言ったらいいのかな

まるで今まで、美奈子と美奈子の父親は、最初から居なかったよう
に振る舞うんだよ…
…
…

なんか、ちょっと異様な…とゆうか怖い感じがするのは、僕だけかな？

それから…しばらくして、やっと腕も治りそうって時に、はつえは、また階段から足を滑らせてしまい、今度は運が悪い事に…足を折ってしまっただんだ(…；)

美奈子を、いじめた罰が当たっちゃったのかな…。

でもね…それから、はつえは魂が抜けてしまったみたいになっちゃってさ…

足は、とっくに治っているはずなのに、車椅子に頼りつきりなんだ。

またまた大変なのは、しのぶさ。

トイレや、お風呂に入れてあげたり、少しは外にも、連れ出してあげなきゃ…と車椅子を押して、買い物にも一緒に連れて行ったり…

まあ、とにかく、こまめに面倒をみてあげてるんだ。実の娘でもないので…中々出来る事じゃないよね。

それから今現在まで、喫茶店のスタッフも変わらず、家政婦の、しのぶも嫁にもいかに、はつえと三郎の面倒をみてきたんだよ。

なんてゆうか…血は繋がってないかもしれないけど、本当の家族よりも絆は強いんじゃないかな(…<)

ここまでが『カシコモ』の携帯で調べた結果なんだけど…途中、何
回か画面が…ザーッと砂嵐のようになって、観る事…出来な
かったんだ(…;))

ほら、前にも…なんで、

ケンが、シュガーに居着くようになったかを観た時、こんな風に、
ザーってなって、砂嵐の後、いきなり、シュガーが出現して…

結局シュガーは、いつ出来たのか観られなかったじゃない(…;))
？

シュガーの時は、砂嵐は、1回だけだったんだけど、このバラ屋敷
の場合は観られないところが多すぎてさ…

だから、自分なりに話を繋げてみたんだけど…まあ、なんとなく、
こんな感じだと思うんだよね(…><)

そして…徹夜で、高梨家の関係を、みんなに解りやすいように写真
付きで相関図を作ったんだ。

ほら、よく刑事ドラマとかでさ、白板に写真貼って関係を説明して
るじゃない？あんな感じ(…))

なんか、刑事になった気分さ(…) 。 、 # (…) へへ…。
題して、『薔薇屋敷』

ん、自分で言うのも何だけど、こつゆづの、やらせたら上手なんだ
よね 題は、そのまんまだけどね(笑) みんな、僕の才能に驚くだ
ろうな(…)) (…) ふふ

で、日曜日の昼間、ミキと小野寺に、シュガーに集まってもらったんだ。なぜだか…インコの、コインも、『おいらも行くう』って勝手に付いてきちゃったよ。

もちろん、ケンにも、どこにも出かけないようにつて言つといたし
(。^。^)

シュガーはね、本当は日曜日、休みだし…ましてや昼間なんて開けてないんだけど…マスターと、ママに無理言つて開けてもらったんだ。そして、みんなにA4でプリントした薔薇屋敷の資料を配つたよ
(。^。^)

《ケン》うわっ、なんだよこれ…見づらいなあ(汗)

《ミキ》そ、そうですね…見づらいうえに、内容も全く違いますしね
()

() (徹夜で作つたのに…なにさなにさ) ()

《ケン》あつ、この人!

この美奈子つて人だよ!

門の中から僕に何か言いたそうにしてた、キレイな女の人つて…

(。^。^)

《() エルカ》え?何?…とゆう事は、美奈子は駆け落ちじゃないな
くて、亡くなつてたつて事?

《ミキ》ええ、そうです。美奈子さんだけではありません。この、お屋敷では、何人もの方が亡くなつています。

さい（　　）

（　　）「いやいやいやいや、『カシコモ』から、あんなのが出てたとは知らなかったなあ（＞＜）明日にでも見に行つてこなきゃな。」

《ミキ》「じゃあ、はじめますね。おおまかな関係は、エルカちゃん
の資料を参考にして下さいね。」

（　　）「お、僕の作った資料も役立つんだね（嬉）」

そして、ミキは…淡々と『igood』を使って話し始めた。ミ
キの場合は、三郎がまだ産まれていない時に戻つたよ（＞＜）”

じゃあ、ここからは観たまんまを僕が話していくね。ミキじゃなく
て、メンゴ。

……………

はつえは、双子を身ごもつていた。その頃の、はつえといえは…つ
わりを我慢しながら、なんと！ 大三郎のために料理を作つたり、
掃除、洗濯なども、かいがいしくやつていた（驚）

一方…大三郎は、女グセが悪く、臨月で、もうすぐ生まれそう…つ
て時も愛人の所へ行つていて、はつえをほつたらかしにしていた。

はつえは、気をつけてはいたんだけど、階段で最後の三段を踏み外
してしまい、軽く、お腹を打つちやつたんだ（＞＜）”

その時は、大丈夫だったんだけど、しばらくして急に、お腹が痛く
なり、はつえは自分で救急車を呼んだ。

可哀相に…双子だったんだけど不運な事に、ひとりには亡くなってしまったんだ。そして助かった片割れが、三郎だったんだ。なるほど…そうだったのか(。°。)

当時は携帯電話なんか無いから連絡もとれず、大三郎が、その事を知ったのは、次の日の夕方だったんだ。

はつえは、悲しくて悲しくて自分を責め続けていた。

そんな、はつえに追いうちをかけるように大三郎は、自分の事は棚にあげまくって『なんで、ちゃんと気をつけてなかったんだ！二郎は、お前が殺したようなもんだぞ！』と、罵声を浴びせたんだ！

なんだかんだ言っても大三郎も子供が生まれるのを楽しみにしていたみたいで…大三郎は、双子の名前を、『二郎』『三郎』って決めてたんだ。でも、どうして『一郎』がないんだろう？…て、思うでしよ！

大三郎は傲慢な男で、一とつくものは、自分だけだと思っているから、たとえ、血の繋がった子供の名前にでも、一は付けたくなかったらしいんだ(°>°) "

その時、亡くなった二郎の魂は…なんと、三郎の身体に入ってしまったんだ。

身体は一つで、魂は二つって事さ。一見、多重人格っぽいけど、この場合は作られたものじゃなく、産まれた時から宿っていて、二郎は、三郎と一緒に心も成長していったんだよ(°>°)

同じ身体で、一緒に育ったんだけど…穏やかで優しい三郎とは違って、二郎は、大三郎に似たのか傲慢で、おまけに凶暴なんだ。

三郎は、自分の身体の中に二郎がいる事を知らないが

二郎の方は分かってるみたいだよ。二郎は、ちゃんと産んでくれなかった、はつえと、その時、側にいなかった大三郎の事も憎んでいた。二郎には特殊な能力があるみたいで、お腹の中から、ちゃんと、それを見ていたんだよ(。。(。) ”

3【薔薇屋敷】

あれ？でも…お腹の中から見てたって、どうゆう事？お腹にいる時から人格があつたって事？いったい二郎って…？（。。；）”

でね、しばらく観てて解った事があるんだ。ザーって砂嵐になつて観られなかつた所は、二郎が現れるところみたいなんだ（><）

きつと…二郎の、なんらかの力が砂嵐にさせて観られなくしてたんだよ（。。）

ままま、同じ『カシコモ』から出た『i g o o d』では観られるけどね（イジ）

ごめんごめん、話しを元に戻すね（><）”

ある日…はつえは、赤ちゃん（三郎）を、あやしながら昼寝をしていた。

すると、いつもは大人しいペットのプリン（白猫）が赤ちゃんの頭のところで、鼻にシワをよせて怖い顔で『ふうふう』と、うなりながら歩き回っていると

さつきまで…バブバブしながら、ニコニコしていた赤ちゃんが、ムクッと起き上がり、プリン之首ねっこをつかんで持ち上げ、怖い形相で、プリンを睨みつけ、舌打ちをしながら低い声で

『ち！さつきから、うるせえんだよっ！俺の回りを、うるちよろずんじゃねえ！あっちに行け！』と言って放りなげたんだ。〃

はつえはね、驚きながらも…怖かったので、声を殺して寝たふりをしながら、その光景を見ていたんだ（；。口。）

でもね…赤ちゃん（二郎）は、その時…ゆっくりとはつえの方に顔をやり…

『おい！寝たふりしてんじゃねえよ！　　いいか、あんたも、俺には逆らわない方がいいぜ！もし、逆らったりしたら、命はないからな（、。、）

言っとくがな…おれは、たまに、この身体を拝借するだけで、基本…この身体は、あんたの可愛い三郎のなんだからな！！わかったか！』と低い声で言っただ。。

それからの、はつえは…いつ、二郎が現れるのか

と怯えながら暮らしてい
たんだよ（）（）（；）（。）（）

二郎の正体を知っている
のは母の、はつえだけだ
った。二郎が現れない時
の三郎は、それはそれは
可愛くて、どんな時も、
まるで静電気のように、
ピタッと、はつえに くっ
ついてたんだ（*´）ノ

はつえは、自分が三郎を
守っていくと決めて絶対
に：もうひとつの人格の
二郎の事は誰にも言わな
いと、心に決めたんだ。

それに二郎が現れるのは
自分の前だけなんだと、
はつえは思っていたし。

でも…二郎は三郎に危害
を加えようとする人間の
前には気づかれないよう
に現れてただけだね。

そして、三郎は すくすく

と育った。はつえは二郎が現れないように、三郎につきつきりだった。

それが周りには1人息子を異常なくらい溺愛しているように見えていたらしいけどね（ ; ）

三郎はね、学生時代：いじめにあつてたんだ。でもね、イジメにあう時は必ず、兄（二郎）の人格が現れていたから、

弟の三郎は、自分がイジメにあつてたなんてこれっぽっちも思つてないんだ（ ; ）

結局：二郎は、身体をはつて弟の三郎を守つてるって事なのかな？

だとしたら、めっちゃめっちゃ兄弟愛だよな（ ; 。。 ; ）

ままままま、身体をはるつて言つても、元々は：三郎の身体なんだけどね

(;)

でね…誰かが、ちよつとでも三郎を、いじめたりなんかした時には、大人だろうが子供だろうが、容赦はないんだ(;)

そりゃあもう、二郎のハンパない逆襲に遭うんだよ！だから仕返しされた者達は三郎には2度と近づく事が出来なくなっちゃうんだ(;)

例えば、小学生の頃…

三郎と同じクラスに、若林優也とゆう、とんでもなく、プライドが高くて陰湿な性格の男子がいた(;)

優也は、そんな自分の性格を、よおしく解っていた。

でもね…先生や、クラスメート達には絶対、そんな自分の醜いところを知

られたくはなかつたんだ

だから、みんなの前では
自分の本性を押し殺し、
作り笑顔の仮面を被り、
優しさを装い常に善い人
を演じ続けていたんだ。

でも…目の奥は笑ってな
かつたけどね（ - ）

学校で、つるんでる仲間
にでさえも…優也は善い
人だと思われてたくらい
だからね（ ; ）

そんな性格だから、自分
よりも女子達にモテたり

テストでも、さほど勉強
している風でもないのに
いつも1番をとる三郎の
事を、疎ましく
思っていたんだ（ - ）

そう、どんなに頑張つて
も…全てにおいて優也は
三郎を越す事が出来ずに
いつも2番だったからね

三郎の写真が入ってるんだよ（（；。。））

あれ？もしかして本当は三郎の事、好きなのかな？
って思っちゃうよね。

でも、違うんだ（＝＝；）

毎晩…優也は箱の中から三郎の写真を、1枚だけ取り出して…手には、カッターを持ち、

《優也》こんなヤツ、1番から引きずり落とすてやる（、。（）”

次は絶対、僕が1番になるんだ！

こんな顔こんな顔なんかこうしてやる！！

（。・。）と、まるで呪文のよう
に、ブツブツ言いながら三郎の顔を、カッターで何度も何度も切りつけ

その後は父親が使っていた灰皿の上で、ボロボロ

になった三郎の写真を燃やし『この灰のように消えて無くなってしまえ』と、つぶやきながら灰を窓から、ばらまくのが優也の日課だったんだ。

とにかく、これを、しない事には 勉強に、とりかかれないし集中も出来ないみたいなんだ(。；)よっぽど悔しいんだね。でも、ちよつと異常だよね(；。o。)

優也には、3つ上の姉と飲食店を何軒か経営している両親がいる。

普段：両親は仕事が忙しくて家には、ほとんどいない。そんな後ろめたさが あるからなのか：

信じられない事に、この親：まだ小学生の優也に、おこづかいを10万円も渡してるんだ。

優也にとっては、わずら

わしくなくて逆に快適だったみたいだね。

でも…がさつで口うるさくて、勝手に人の部屋に入ってこようとする姉の事は大嫌いみたいだよ。

優也には…お金にものを言わせて出来た仲間がいる(。 ;)

松下、崎田、高野の3人
なんだけどね。

この3人、いつも学校が終わった後は優也の家に集まり、ゲームをしていたんだ。

なんて…たつて優也んちには色んなゲームがあるし、おやつも限りなくあるし、お寿司やピザが、食べたくなったら、出前もとつてくれるし…

松下ら、3人にとつては
パラダイスなんだ

優也は、この仲良くしている3人にさえも自分が必死で勉強しているなんて事は絶対に言わない

そんな事、優也のプライドが許さないからね。

そして ある日 いつものように優也の家で、ピザを食べながら、ゲームをしていた時…

《優也》あのさ、みんなまた、お金欲しくない？

《松下・崎田・高野》
欲しい欲しい（ ; ）”

《優也》1人、1万円あげるからさ、僕の頼み…
きいてくれる？（ ; ）

《松下》やったあー
1万円！ 1万円！
（ * ˙ ）ノ ところで頼みって何？

《優也》三郎君をさ、懲らしめてほしいんだ！

《崎田》え”っ！うそ！？
三郎君を！なんで？（。。。。）

《優也》うん…三郎君、
みんなの見えないところで
僕の事 蹴ったり、つねっ
たりして…いじめるんだ

《高野》ううつそおー！
あの、三郎君があ！？
たまたま、足が ぶつかっ
ただけなんじゃないの？

《松下》だよな！あいつ
つて、そんな事しない
ヤツだよな（。。）

それに俺さ、結構…色ん
なヤツ、いじめたけど…
なんでか解らないけど、
あいつだけはイジメたい
つて思わないんだよな。

つてゆーか、イジメちゃ
ダメな感じがするんだ！

《崎田》あ、それ！わか
る！わかる（。。）

なんか三郎君って不思議な感じがするよね！

顔も女の子みたいに、可愛いくて、キレイだしさあ（ノノノノ）”

つうかさ、うちのクラス
の女子で…三郎君より、
可愛い女子って、いない
んじゃない（笑）（ ; ; ）

（ ; ; ）（ ; ; ）すると、優也は…
いきなり泣き出した。

《優也》ぼくだって、
三郎君は、そんな事しな
いって思ってたよ（T^T）
でも本当なんだもん（泣）

三郎君に会うのが嫌で、
学校に行くのも怖いくら
いなんだから（ノ・。・）

じゃあさ、2万円にする
からさ、三郎君を懲らし
めるの手伝ってよ（<|>。。
）
お願い（人。。）

（ ; ; ）（ ; ; ）松下ら3人は 気が

進まなかったが、2万円に目がくらみ、優也の嘘泣きに騙され：仕方なく承諾してしまった（|| || ;）

三郎の懲らしめ方は、すでに優也が考えていた

その作戦とは、小学生最後の夏休みの思い出作りに、女子達も誘って学校の裏山で、肝試しをやるうと、裏山に三郎を誘きだし…

あらかじめ掘ってある落とし穴に三郎を落とし

頭だけを残して土で埋めて、ひと晩：放置するとゆう残酷なものだった。

3人は、この作戦を聞いた時：内心、驚いたが優也の前では、一旦承諾をして、話を合わせた。

そして、優也の家を出た3人は打ち合わせをした

三郎を埋めた後、帰ったフリをして、3人で落とし穴のところに戻り、三郎を救いだすとゆう計画をたてたのだ。

次の日：優也は、周りに人がいないのを確認して三郎に近づき声をかけた

《優也》ねえ、三郎君
夏休みに入ったらさ、
女子達も誘って、小学生最後の思い出作りに肝試しをしようと思うんだ

日にちが決まったら連絡するからさ、三郎君も来てよね（　　）

《三郎》うん（　　）。”
わかった　　絶対行く
あつ！何か持ってく物とかあるの？

《優也》んん：暗いから
懐中電灯は持ってきた方がいいかもね（　　；）

《三郎》うん、わかった。

懐中電灯ね　　じゃあ、
連絡待ってるね（　　）”

（　　）（　　）そう、三郎は何の疑
いもなく、優也の言葉を
信用してしまったんだ。

と…思うでしょ！実は、
今のは三郎じゃなく、
兄の二郎だったんだよ。

二郎はね、何かよくない
事があると本能的に出て
きてしまうみたいなんだ

まるで三郎の身体の中に
ボディーガードが、いる
ようだね（　　）（　　）

にしても、優也も二郎も
自分の本性を全く見せず
に…名演技だよ（　　）（　　）（　　）

そして、小学生最後の
夏休みの、ある夜…

二郎は、弟の三郎を演じ
ながら、裏山の入り口の
ところへと、やって来た

《優也》三郎くうん
こっちこっち（ ）（ ）”
もう、みんな来てるんだ
よ！行こっ（ ）（ ）

（ ）。 ） 優也は 三郎の腕を
掴んで、裏山の中へと
連れて行った。

《優也》あ、三郎君！
ごめん！入り口んとこに
リュック置いてきちゃっ
た。取りに行つてくるか
ら先に行つててくれる？

ここ、真つ直ぐ行つたら
みんな いるからさ

（ ）。 ） 三郎は『うん、わか
った』と、騙されたフリ
をして歩いて行った。

その後ろ姿を見て優也は
ニヤリと、ほくそ笑んだ。

しばらく歩くと、三郎は
ズボツと、落とし穴に落
ちてしまった（ ； ）。 〇（ ）

《三郎》うう”わあー！
何これえー！？ 優也君！
優也君！助けてえー！

《優也》三郎君、どうしたの？大丈夫？

ねえ、みんな、三郎君が
穴に落ちちゃったよ！
早く助けに来てよー！！

(´。´) そう叫ぶと、松下、
崎田、高野の3人が、
スコップを持ってやって
来た。

そして4人は穴の周りに
立ち…優也は懐中電灯で
三郎の顔を照らした。

《優也》さあ、これから
三郎君のために、小学生
最後の思い出作りの肝試
しを、スタートします

(´。´) (´。´) 優也の合図で、
松下ら3人は、心の中で
『三郎君、ごめんね』と
謝りながらも、土を被せ
始めた(´。´) (´。´)

《三郎》な、何するの！？
松下君！崎田君！高野君！
やめてえ！ どうして？

《優也》何するのおゝ！
やめてえゝ！（ ; ）

なんだよ、その声（笑）
ホントに女みたいだよな
（ ; ）（笑）（ ; ）

せつかく、三郎君の為に
みんなで一生懸命考えた
肝試しなんだからさあ、
もつと喜んでよあゝ（笑）

穴を掘るのだって大変だ
つたんだからね（ ; ; ）

あ、安心して！息が出来るように、ちゃんと首から上は出しといてあげるからね

ミミズや色んな虫達に
顔這いずり回られたりしてさ……めっちゃ思い出に残る肝試しになるよあ

あ！でもさ、腕は拳げといた方がいいと思うよ。少しでも自由な方がいいでしょ（、・）”

（、・）（三郎は 言われるが ままに両腕を挙げた。

優也は、三郎の両手首をガムテープでグルグル巻きにしようとして焦ったのか、バランスを崩して自分も穴に落ちてしまった（、・）

《三郎》あ、優也君も穴に入るの？なあ〜んだ
今のは肝試しの演技だったんだね（、・）

びっくりしちゃったあ！
これから、どうするの？

（、・）（三郎は、ニコニコしながら、ワクワク顔で
優也に聞いた（、・）”

優也は、焦りながらも、
作り笑顔で…

《優也》そ、そうなんだ！

やっぱり、肝試しは、

怖くなくっちゃね(=| |=:)

あ、じゃあさ、三郎君…

両腕を後ろにやっつけてくれ

る？(、、:)

《三郎》《うん》。

(。)(三郎は 言われるが

ままに両腕を後ろに廻し

た。優也は、ニヤリとし

ながら三郎の後ろに回り

両手首をガムテープで、

グルグル巻きにした。

《優也》ごめんね三郎君

肝試しのために、ちよっ

との間、ガマンしてよね

(。)(と言いながら、優也

は、三郎の目と口にも、

ガムテープを貼った。

そして…松下らに目配せ

をして自分は穴の中から

引っ張りだしてもらった

三郎はまだ、優也の言葉

を信じていたから大人しく、ジツとしていた。

なあゝんて事…あるわけ
ないよね（　　）だって
ここにいるのは二郎なん
だから（|| || ; ;）内心…結構
楽しんでるみたいだし

（　　。　　）　何も知らない4人
は、また黙々と土を被せ
始めた。さあ、そろそろ
二郎（二郎）の仕返し
が始まるよ（ ; ; 。 。 ）

二郎の身体が、腰辺り
で土で埋まった時…

《三郎》…お…まえ…ら

《優也》今、何か聞こえ
なかった？（　　） ; ; 。 。 ）

《松下》え？何も聞こえ
ないけど（　　） ; ; ）

（　　。　　）松下が、そう言った
瞬間…三郎の頭の上
が青白く光りだし、辺りは
うっすらと明るくなった

そして、三郎の両手に巻いたガムテープも目と口をふさいであつた、ガムテープも、どうゆう訳だかハガれていた(；。〇。)

三郎は穴の中から、まるで捨てられた仔犬のように、はかなげな顔で、順番に4人の顔を見つめながら…

《三郎》松下君、崎田君、高野君、優也君、僕ね…今日の事…ずっとずっと忘れないよ(＊。＊)

大人になつても…死んでも…生まれ変わつても…ずっと永遠にね(――)

(。) 松下ら、3人は、三郎の可愛さに見とれながらも同時に底知れない恐怖を感じた(；。〇。)

3人は怖くなり、優也に『ねえ、優也君！やめよ

もう、やめよおよつ！！
三郎君、可哀想だよ！！
と頼んだ。すると優也の
顔は、見る見るまに、
鬼のような形相に変わり

《優也》《うるさいっ！！
ここまできて何言っつてん
だよ！！ (、口、)ノ”

ビビってんじゃねえよ！
帰れる訳ないじゃん！

こうなったら、やっちま
うしかないんだって！！

じゃなきや、先生や親に
チクられちゃうじゃん！

もしかしたら、警察にだ
って捕まっちゃうかもし
れないんだよ(、、)

2万円、欲しかったら、
俺の言うこと聞けよ！！

(、、) 3人は豹変した優也
に驚いた(、;)！

《松下》やっちまうって

優也君：何言ってるの？
それって…（；。〇。））

おい！こいつ、変だよ！
やばいよ！ 帰ろうぜ！

（'。'）そう言うと 3人は
スコップを放り投げて、
走って、逃げて行った。

《優也》なんだよ！バカ
ヤロー！ んぁあ”ー！！

（'。'）優也は、大声で叫び
ながら…1人で、三郎に
再び、土を被せようとし
たが…穴の中に三郎の姿
は なかった（ ; ; ）！！

優也は、キョロキョロと
三郎を探した。

（。； ; ; 。

《三郎》ゆうくや君
キョロキョロして、誰を
探してるの？もしかして
僕を探してるのかな（笑）

（'。'）三郎の 声は聞こえ
るが姿が見えない。

独りになつた優也は無性に怖くなり、その場から逃げようとしたが、首から下が、まるで石にでもなつたかのように、ピクリとも動かない…

声を出そうとしても、口は動くが声が出ない…

優也は、訳がわからない事態に、怖くて怖くて…涙がポロポロと溢れ出て顔中…涙と鼻水でグシャグシャになつた（Ｔ―Ｔ）

すると誰もいないはずの穴から…何やら声が聞こえてきた（（（；。。（（

身体が動かない優也は、首だけを動かして穴の方を見た。土の中からは、頭の、テツペンが見えていた。そして、しばらくすると、三郎の顔が出て来た（（；！！

《三郎》ばああゝ

《三郎》アハハハハ（笑）

優也君、ミイラみたい

あ、身体も隠しちゃう？

（'。'）（そう言つと 今まで

三郎が埋まっていた穴の

土が、竜巻のように渦を

巻いて舞い上がり…また

穴が出来た。

すると、ふわあ〜つと…

優也の身体が浮いて、

ポツカリあいた穴の中に

スポツと入った。

と、同時に…また、土が

渦を巻いて舞い上がり、

見る見るまに優也の身体

を頭だけを残して埋め尽

くした。

《三郎》どお？土の中の

感想は？ふふふふふ…

僕はね結構…好きだよ

ふあ〜（ 〇。 ）ノ

ごめん…優也君（ . . . ）

一緒に いてあげたいん

だけど…僕、なんだか…

眠たくなつてきちゃった

(、)

そろそろ…帰るねえ！

そおいえばさつき、優也

君 言つてたよね。

ここつて…野良犬が多い

つてさ。怖いよねえ！

顔、食いちぎられないよ

うに気をつけてねえ(笑)

じゃあね…おやすみ

(、) (、) 三郎は 優也に手を

振りながら帰つて行つた

翌朝…三郎は、いつもの

ように学校に行つた。

優也は居なかつたが、

先に逃げ帰つた…松下、

崎田、高野の3人は来て

いた。

もちろん、三郎は、夕べの

事なんて知らないから、

普通に…松下達に笑顔で

『おはよう(、) (、)』と

声をかけた。

三郎が席に着くと、3人は、机をとり囲んで…周りに聞こえないように小さな声で…

《松下》三郎君、昨日はあんな…ひどい事しちゃって、ごめんね（<―>）

《崎田・高野》

ごめんなさいm（――）m

《松下》僕達、あれから三郎君を助けに行こうと思っただけど…

なんか…優也君が怖くてさ（||―||;）でも良かった。ここに三郎君がいるって事は、大丈夫だったって事だもんね（ ;）

で、あれから、優也君とどうなったの？（ ;）

《三郎》えっ？優也君？
ゆづべ？…何の事？

僕は、昨日は何処にも出かけてないよ（ ; ）

それどころか、すっごい眠たくて早くに寝ちゃったんだから（ | ）”

（ ！ 。（ ）三郎は、爽やかな顔で、そう答えた（ ）

松下達も、そんな三郎の笑顔を見てみると…

もしかしたら昨日の事は自分達の思い過ごしで、空想だったんじゃないかって思えてきて、なんか不思議な感覚だった。

《松下》そ、そうなんだ。ああ…ごめん、変な事言っちゃって…（ ・・・ ）

（ ！ 。（ ）そう言うと、3人は三郎の机から離れ、自分の席に着いた（ 。（ ）

ちょうど、その時…
キンコンカンコン
と始業のベルが鳴った

そして担任の坂本が暗い顔で教室に入ってきた。

《坂本》 皆さん、おはようございませう。今日は、悲しい、お知らせがあります（。；）

若林優也君が、ご両親の都合で急に転校してしまいました。

あまりにも急だったので皆さんに挨拶も出来なかつたと、優也君…悲しんでいたそうです（<―>）

《松下》 先生！優也君は何処の学校へ転校になったんですか？

《坂本》 ううん、それがね、日本じゃなくて、海外らしいのよ（。；）

ご両親は、すぐ戻ってくるそうなんです、

優也君は、そのまま残る

みたいですよ（＜|＞）

《松下》住所とかは
わかるんですか？

《坂本》ごめんね、これ
以上は、先生も分からな
いのよ（。；）

もし分かったら、すぐに
教えますね（。b

では、授業を始めます。

（。；） 優也は、三郎ほど
ではないが、女子達にも
ソコソコ人気があったの
で、教室は、ざわついた。

松下は、ボーゼンとして、
斜め前の席に座っている
三郎を何気に見つめてい
た（。|。；）すると、三郎の…
口元が、ニヤリとしたの
が見えた（。；）！！

松下は、三郎から底知れ
ない恐怖みたいなのを感
じて鳥肌がたった（||；）

そして、昨日：三郎が言
つていた『大人になつて
も：死んでも：生まれ変
わつても忘れないよ：』
とゆう言葉を思い出し、
身体中が震えた（〃 〃 ・ ）（ ）

優也が転校：表向きは、
一応：そうなんだけど、
実は優也は、転校なんて
していないんだ。

優也はね、三郎が帰った
後：しばらくしてから、
たまたま：学校の脇道を
巡回していた、お巡りさ
んに発見されてたんだ。

その日、お巡りさんは、
いつものように自転車で
学校の脇道を巡回してい
ると：何匹もいるような
感じで犬が吠えて、うる
さかったので、何かあつ
たのかな？と思い、犬が
吠えてる方に行ってみた
らしいんだ。

すると：首だけ出してる
優也が、野良犬3匹に囲

まれて…顔に巻かれていたガムテープは食いちぎられ顔中、血だらけになっ
ていたらしいんだ。

お巡りさんは警棒で犬達を
追い払い、すぐに救急車
を呼んだ。

顔や頭を結構深く噛みつ
かれたらしく、救急車で
運ばれて、そのまま手術
になっ
たらしい()

命に別状はなかったが…
麻酔から覚めた優也は、
周りが、声をかけても…

ただ、ううう”〜！と唸り
ながら小刻みに頭を振る
だけだった。

優也は、よっぽど怖い思
いをしたのか記憶も無く
して、ダラダラと、
ヨダレを垂らしながら、
話す事も出来なくなっ
ていた()。(;)

優也の両親は、おかしく

なつた息子を見て、

本当は病院に入ってるのにも関わらず、世間体を気にするあまり、周りには海外へ留学させてる事にしようと思いたつたらしいんだ（|| || ; ;）

優也は、よつぽど…

野良犬が怖かったみたいだね（（（ ; ; 。 。 ）（

優也を襲つた犬たち…

野良犬には違いないんだけど…結構、人間に慣れていて普段は大人しい犬たちなのに…（ 。 ; ;）

可哀想に…二郎に暗示をかけられて凶暴になつてたみたいなんだ（|| || ; ;）

にしても…二郎は、人間だけじゃなく、動物も操れてしまうなんて…！

しつこいようだけど、本当に何者なんたる？

超能力者？宇宙人？妖怪？

なんか、全部当てはまる

感じがするよね…(|| ||)

4【薔薇屋敷】

気がつくつと、いつの間にか『薔薇屋敷』を観始めてから、2時間ちよつとが過ぎていた。

にしても…このカシコモの『i good』は、とても優秀で、本当はね、もつと長くて、かなりの時間がかかるところを…

この『I good』は、観せなければいけない重要な場面だけを自動的に選んで編集までして…

まるで、火サス（火曜サスペンス）か何かのドラマのように分かりやすく仕上げてくれてるんだ。

『i p d』よりも、ひと回り大きくて、色なんかも人間に合わせて、目が疲れないようになって柔ら

かい感じに設定してくれてるらしいよ。至れり尽くせりだよね）　（　b

でも…さすがに、2時間ぶっ続けて観ていると疲れるよね。とゆう事で…ここで、15分だけ休憩する事にしたよ（、ー、）

するとミキは、すました顔で、マスターの所へ、ツツツツ…と歩いて行って、小さな声で、オムライスを頼んでいた（><）

うっそおー！！あつれだけ食べたのに…もう、お腹空いたつての（　　）！

でも、マスターは嫌な顔ひとつしないで、これまた作ってくれるんだよ。いい人だなあ（　　）

他のみんなは、トイレに行ったりして次に備えていたよ。

でもね…小野寺の部屋で

飼われてる僕の話し相手
で友達のインコのコイン
は…いつもは、うるさい
くらいに、インコなまり
で、しゃべりまくるのに

今日は、ずっと無言のま
まで、小野寺の左肩に止
まっついて、かっこつけ
てるつもりなのかな？
ド短足の足を無理矢理、
クロスさせていたよ。

僕は、そんな コインの
事が気になりながらも…
ちよつとばかり、新鮮な
空気が吸いたくなって、
外に出ようと、ドアを開
けた。すると突然、目の
前に、ちよこんと、ちっ
ちやくて可愛い、お菓子
の家が現れた！？何これ？
かわいい〜（ 艸 ）

よく見ると、チルチル
ミチルに出てくる、お菓
子の家みたい、デコレ
ーションされた、あの…
ピザの宅配のバイクのよ
うに小さい、ロコモコち

鼻血ついちゃったあ！！
ど、どうしよう（ー”ー・じ）

僕は、ドアについた鼻血を、なんとか、ごまかそうと人差し指で、ハート型に延ばしてると…

中から、親友のカツパ似の妖精のマキちゃんが、てっぺんハゲを光らせ…

緑色に染めた、サイドの髪を、武 鉄矢のように耳にかけながら顔を出し

片鼻から鼻血を出してるまぬけであるう僕の顔を見て…（> <・じ）ぷぷ…

と、吹き出すのを我慢していた。いやいやいや…
言っときますけれども、僕の鼻血よりも、マキちゃんの、アップの方が、吹き出すどころか、吐き出しちゃうくらい、きついですからね（ー”ー・じ）

すると、マキちゃんの後

るからロコモコちゃんが
ひよいと顔を出した。
か、かわいい(ノノ艸ノノ)

マキちゃんの後ろからだ
と余計に可愛いさが引き
立つよね(;) A h a

ロコモコちゃんは、僕の
鼻血に『うつぴょー!?!』
と驚いて、何を思ったか
急いで、トイレトペー
パーを持ってきた…?

そうそうそうそう…
やっぱり、鼻血が出た時
は、このトイレトペー
パーに限るよね って…

違あーう(ノ-”-)(ノ

あ、あのね…普通はさ、
箱ティッシュとか、
ポケットティッシュじゃ
ないのかな? あれ?

なのに、なぜ?どうして
トイレトペーパー?と
心の中で呟いていると…

ロコモコちゃんは、トイレ
レットペーパーを、ちぎ
って丸めて、僕の鼻の穴
に詰めこみ始めた…!?

(。)(い…痛い(泣)

にしても、マキちゃんの
アツプは きつついけど、
ロコモコちゃんのアツプ
は可愛いくて、ドキドキ
しちゃう(ノノ艸ノノ)

違う意味で、鼻血ぶっ！
だわさ (TT)

でも…鼻血が出るのは
右の方だけなんだよね。

なのに、ロコモコちゃん
ったら…シングルで、
おまけに硬めの紙質の
トイレレットペーパーを、
結構な大きさに丸めて
両方の鼻の穴に無理矢理
ねじこんでくるんだ…

(。)(痛っ…(泣)

《ロコモコ》あのね、
この間、テレビでやって
ただけど、トイレット

ペーパーって、シングルでも、ダブルでも、使う長さは、ほぼ同じなんですって。だから私も、シングルにしたの（ ）
エコでしょ！ネコじゃないにゃん（＼ エ 〓）

（ ． ． ） うん… もぉ、
ネコでも、エコでも、
エコでも…なんでもいいよ！なんなら、トイレツトペーパー丸ごと詰めてくれているよ

ハッ！？ （ ; ） ”

ああ…あまりに可愛い
ロコモコちゃんのアップ
に惑わされて、一瞬自分
を見失ってしまった（汗）

それに、ロコモコちゃん
って元々（うさぎ似の妖精）
が可愛いから、人間の姿に
変身しても、やっぱり、めっ
っちゃ可愛いんだ（ 艸 ）

だけど…僕の親友のマキ

ちゃんはさ、ふつつうの
てっぺんハゲのカツパ似
の妖精なのにさ、どうゆ
う訳だか人間の姿に変身
すると、中々のイケメン
になるんだ。なあくんか
納得いかないんだよね。

まままま、そんな事 言

つたら僕だつて…ただの
カエル似の妖精だけど、
人間に変身したら、超イ
ケメンになるもんね
人の事は言えないか(笑)

なんつってね(;)
自分で、イケメンつて
言っちゃったよ(ノノ艸ノノ)

.....

どうやら、『i good』で
流れてる映像は自動的に
『高速カー』の中にある

例の、あの大きなテレビ
で観られるように設定し
てあったみたいで...

マキちゃんと、ロコモコ

ちゃんは、いても立って
もいられなくて来ちゃっ
たみたいなんだ（――；）

ロコモコちゃんは、これ
から、ロックのライブツ
アーが始まるから、きっ
と、リハーサルとかで忙
しくなるんだろなあ……と
思って遠慮して声かけな
かったんだけど、こんな
事だったら最初から声か
けとけば、よかったね。

あ！そうだ！（――）b
いい事 思いついた

薇屋敷の後半は、
『高速カー』の、あの大
きなテレビで観たいな

僕は、鼻を手で押さえな
がら、マスターとママに
『高速カー』を店の中
に入れてもいいかどうか聞
いてみた。

マスターとママは、快く
承知してくれたよ（――）

『シュガー』は、カウンターだけの小さな店だけど、カウンターの奥には

ちよこつとだけ 広い

スペースがあつて、

『高速カー』みたいに、ちっこい車なら余裕で中に入れちゃうんだ

にしても．．．ミキは、まるで、ロコモコちゃん達が来る事を分かつてたかのように．．．

『待ってたわ』だって！

(。°。°ノ)ノ わかってたんかあゝい!?!?

みんなは可愛く、デコレーションされた、お菓子の家を見て、めっっちゃ．．．盛り上がったた(´・`)

僕は、鼻を手で押さえ、目立たないように後ろの方にいたので、誰も．．．トイレットペーパーを詰め込まれて、パンパンになっている僕の鼻には

気づかなかった（ ; ）

ほっとして、鼻から手を
離れた瞬間：小野寺の肩
に止まっていたコインが
急に後ろを振り向き：

僕のパンパンの鼻を見る
と、いきなり全身を、
プルプルさせて震えだし

笑いをこらえすぎたのか
（ > < ; ）ぶひ！！ っと . .

鳥のくせして豚鼻を鳴ら
した後：（ 。 ）ふん_{||}3
と鼻息を僕の顔に吹きか
けて真顔に戻り、プイッ
と正面を向いた（ ）

な、なんだよ（ ; ）
そりゃあさ：そりゃあ、
僕だって恥ずかしいし、
痛いし、鼻で息 出来な
くて苦しいし：今すぐに
でも取りたいさ（ T T ）

でもさ、ロコモコちゃん
が、せつかく一生懸命に
詰めてくれたのに：まさ
か目の前で取るなんて事

出来ないんよ)。(

しかも…いつものコイン
なら、激しいインコなま
りで、うつるさい位に、
ツッコミいれてくるのに

その方が、よっぽど笑っ
て、ごまかせるのに…。
なんで今日に限って、
ずっと、だんまりなんだ
よお(T T)(泣)

なのに足だけは、ド短足
のくせして、相変わらず
無理矢理、クロスさせて
るし)。(…)ったくう

でも、コイン…ホントに
どしたんだろ?やっぱ、
気になるよね)。(…)

そんな事を思いながら…
僕は、手で鼻を隠して、
みんなの後ろから、高速
カーの中に入った。

にしても、このテレビは
何回見ても迫力あるよね

まるで映画のスクリーンのようだもんなあ…。
音も部屋中から聴こえてきて、リアルだし（　）

みんなは、ドリンク等を広いテーブルに置き、
これまた、ベッドのように広くて、フカフカで、
背もたれなんかも各々で調節出来ちゃうソファ―に座り、次に備えてた。

僕は、ソファ―には座らずに…1番後ろの方で、
1人がけの大きな椅子に座った（　；　）

《ミキ》それでは、次…
いきま…すね…（*・…*）

（　・…　）　そう言うと、ミキは黙ってしまい動かなくなってしまうた（*・…*）

ん…？どしたんだろう？
と不思議に思っていたら

ツツツツツ…と、僕が目

の前まで歩いてきて、
僕のパンパンの鼻を見る
やいなや（> <…）ぶひひ！

つと吹き出した後、クル
つと、何事もなかったよ
うに戻り、淡々と話し始
めた（*…*）

《ミキ》後半は、目を背
けたくなる映像など、
たくさん出てきますので
みなさん、心構えしてお
いて下さいね（…*）

（…） いやいやいや…
今までも、かなり…目そ
むけたくなる場面ありま
したけどね（―”―）

てか、さっきの、ぶひっ
て何さ…ぶひっって！
しかも、なんでコインと
同じリアクションなんだ
よ！感じ わる！（-”-…）

にしても…この映像って
確か、ミキも観るのは初
めてのはずだと思うんだ
けど…すでに内容が分か

ってるみたいだね。なんだかんだいっても、ミキは凄いよ（ ; ）

そんな事を、ボーツとしながら考えてると何気に部屋が暗くなり、テレビが映りだし、次が静かに始まった。なんか本当の映画館みたい（ | ; ）

おお〜っと！（。 。 ノ）ノ

中・高・大は、すつ飛ばして、いきなり社会人になった三郎ですかい！！

.....

三郎は、大人になっても相変わらず物腰柔らかかで品のあるキレイな顔立ちだった。大学を出た後は父親のコネで、ある会社に就職していた。

思った通り会社や営業先の女子社員達や、そっち系？の男子社員には、王子様とか貴公子などと

呼ばれ、ファンクラブが出来るほどに、人気があった。

でも、男子社員の中には三郎を、ねたましく思う者も何人かいた。

三郎は、営業先や取引先では、清潔感があり、仕事に対しても誠実に対応してくれるとゆう事で、とても評判がよく…

結構なクレーム等でも、三郎が対応すると速やかに収まってしまっ程だった。お陰で業績もUPして三郎は新人ながらも、上からは、とても期待されてみたいだよ（　・　）

でもね、品がいいからとか、綺麗な顔立ちだからといって仕事がとれる程世の中そう甘くはない。

三郎はね…どんなに、ややこしい案件だろうが投げ出さずに足しげく通

い、お客様にとって何が
ベストなのかを、第一に
考え、いいと思った事は
即 実行に移して 走り回
ってたんだ。

客の中には、わざと、
理不尽な無理難題を吹っ
掛けてきて意地悪する者
もいた。でもね、そんな
相手に対しても嫌な顔ひ
とつせず真摯に向き合
い結果を出し納得させ、
意地悪してくる相手も
根負けするほどだった。

だからといって三郎は、
俺は頑張ってるんだ！的
な顔や行動は一切しない
し、言葉にも出さない。
とにかく、さりげなくや
ってしまっんだ。

だから最初の頃、他の
営業マン達は、さほど頑
張ってる風には見えない
三郎の事を、『親のコネ
使って、仕事とってきて
んだろ！』ぐらいにしか
思っていなかったんだ。

特に、7つ上の井上は、
三郎が仕事を獲ってくる
度に嫌みを言っていた。

《井上》まあ、た、親の
コネ使つて、お手柄です
か！いいよなあ、お金持
ちの坊っちゃんは！苦労
しないで仕事とれちゃう
んだもんなあ〜！（、、）

なんかさあ、一生懸命や
つてる自分らが、バカみ
たいだよなあ、みんな！

（、、、） そりゃあ最初は、
他の営業マン達も、そう
思っていたのは確かだけ
ど…これだけ続くと、
そんな事だけで、仕事が
とれてる訳ではないし、
営業先から聞こえてくる
評判等を耳にしていると

三郎の努力の結果つて事
は、みんな分かっている
のに、なぜか井上の言葉
には、うなずいてしまっ
んだよね（；、）”

でも、三郎よりも3つ上の村井は違った。

仕事に対する姿勢や、仕事が出来る三郎の事を年下だろうが関係なく、とても尊敬していた。

一方：三郎は、どんなに嫌みを言われようが、そんな事は、どこ吹く風つてな感じで淡々と仕事を、こなしていた。

それどころか、残業している時には、吉 家の牛井を人数分買ってきて差し入れしたりしてさ。自分だって忙しいのにな

三郎の若い頃にはまだ、携帯なんて便利な物は無かったから、仕事でも何でも、とにかく動くって事が身についてるのかな

お茶だつて、仕事の手を止めさせては悪いと、

女子社員達にも入れてあげるんだから（ ^ - ^ ）

—旦

本当に三郎って、ピュア
とゆうか何とゆうか……

だから、二郎が弟の三郎
を守りに現れるのが、
何となく分かるような気
がするよね（――；）

でもね、そんなところも
よく思っていない奴等にと
っては、カンにさわるだ
けなんだけどね（・・；）

特に井上なんか、あから
さまに、しかも差し入れ
してもらってる立場なの
にも関わらず……

《井上》そんなもん、
いらねえよ！金持ちの、
坊っちゃんならケチケチ
しないで、ドーンと、
寿司くらい、差し入れし
てくれよ（・・；）！！

あれか？ 俺たちには、
安い牛丼が、お似合いっ
てか！（・・；）

《村井》井上さん！なんて事、言うんですか！！高梨君は、みんなが食べたい物を聞いて回って、牛井にしてくれたんですよ！（、口、）ノ”

その時、たまたま、井上さんが居なかつたから、僕が、井上さんも好きだと思つよ（．．）b 　　つて
言つたんじゃないですか

怒るんなら、僕を怒つて下さいよ！（、口、）”

つてゆーか、別に井上さんが、お金出してる訳じゃないんだから、嫌いなら食べなきゃいいじゃないですか！　僕が2つ食べますから（、口、）ノ

《三郎》む、村井さん…そこまで言わなくても…僕も直接、井上さんに聞かなかつたのが悪いんですから、そんなに怒らないで下さい（．．）（；）

すいません、井上さん…
勝手な事をしてしまいました。
でも…僕、この
牛丼大好きなんですよ

確かに安いかもしれませ
んが…長年、変わらぬ味
で美味しく、みんなか
ら愛されてるじゃないで
すか。バカにするどころ
か、こつゆう企業努力は
見習うべきところでもあ
り尊敬すらしています。

それにですね…この牛丼
に紅生姜を、こつやつて
ガツリ入れて食べると
これがまた、美味しいん
ですよ（ 艸 ）って…

す、すいません（ . . . ）
余りにも好きすぎて、
ちよつと熱くなつちやい
ました（ / / 艸 / / ）汗

これからは気をつけます
ので、今日のところは、
これ…食べて頂けません
か。すいませんm（ ー ） m

(････) 女子達や、そっち系？の男子は、品がいいキレイな顔で牛丼を熱く語る三郎のギャップに、これまた、ぽくっとしていた(艸)

にしても、三郎の若い頃から 吉 家って あったんだね(････)

それにね、本当は井上も会社帰りに よく、テイクアウトするくらい、この牛丼は大好きで内心は喜んでいたんだ(ー ；)
まったくね････素直じゃないんだから(････)

でもね････三郎は、どんな事があっても、どんな事を言われても声をあげたり歯向かうとゆう事はしないんだ。本当に人間出来るとゆうか、なんとゆうか････頭が下がるよ

でも、三郎は よくても二郎の方は、そうゆう訳にはいかなかったみたい

だよ（；。〇。）

その日の帰り…残業が早
めに終わった社員達は、
金曜日とゆう事もあって
飲みに行ったりデートに
行ったりと各々バラバラ
に帰って行った。

井上は、自分の仕事を終
わらなかつたため、1人
残り、すっかり遅くなっ
てしまった。やっと仕事
も片付き帰る支度をして
いると、ゾクツとする程
の強い視線を背中に感じ
た（（（（；。〇。））））

《井上》誰？誰がいる？
警備員さん？（；。〇。）

（‘；；） 井上は、声をかけ
ながら辺りを見回してみ
た（。；；。〇。）

すると、本当に警備員が
入ってきて『こんな時間
まで、お仕事ですか？
お疲れ様です』と、声を
かけてきた（—）”

井上は、こわばった顔で
『なんだあ…やっぱり、
警備員か』と、ホツとし
ていた（ ; ）

井上は、『お疲れさん！
お先に！』と、警備員の
肩を、ポンと叩き帰って
行った。鼻唄を歌いなが
ら帰って行く井上の後ろ
姿を、警備員は深く被っ
た帽子のツバの奥から、
ジツと見つめていた。

最終電車は、とっくにな
くなってたるので、井上
は仕方なく、タクシーで
帰る事にした。

いつもの金曜日だと、
とても混んでいるのに、
その日の、タクシー乗り
場は珍しく人もまばらで
すぐ乗る事が出来た。

井上は、ラッキーと思
い、運転手に行き先を告
げると、疲れていたのか
急に眠気が差ってきて、

いつの間にか、ぐっすり
と眠ってしまった（――） z z

そんな井上を、運転手は
バックミラーから、じつ
と見つめていた（――）

.....

《運転手》お客さんっ！
お客さん着きましたよ！
起きて下さい！お客さん！

（・・） 井上は、運転手の
声で、ハッとして目を覚
ました。瞼をこすりなが
ら何気に窓の外を見ると

タクシーは、ピッタリと
自分のマンションの前で
停まっていた。井上は、
これまた、ラッキーと
思いながら、タクシー・料金を
払い、車から降りた。

すると、そこは…薄暗い
どこかの橋の上だった。

《井上》えっ？ あれ？

え？（。；。；。）

さつき、窓の外を見た時は確かに自分の、マンシヨンの前だったのに…？え？なんでなんで？

（。；。） 不思議に思いながら、井上は、タクシーに戻ろうと、後ろを振り向いたが、タクシーは跡形もなく消えていた！え？

うつそー！？（；）井上は、パニクリながらも…寝ぼけてんのかなと

この、ありえない状況を自分の都合のいいように考えようとしていた。

井上は仕方なく、カバンを両手で抱え、肩をすぼめながら…薄暗い道をキョロキョロしながら歩き始めた。

しばらく歩いていくと、前を スーツ姿の サラリーマン風の男が背を向け

て歩いているのが見えた

井上は、ホツとして声をかけた（　　）

《井上》あつのおく！
すみません…道に迷つち
やったみたいなんですけ
ど、ここつて、いったい
どこなんでしょうか？

（　　）すると、スーツ姿
の男は、ゆうくつくりと
後ろを振り向いた。

なんと！ 三郎だった！
いや、ちがう！！ これは、
二郎だね（　　）

分かりづらいと思うので
これからは、二郎が現れ
た時は《二郎》でいく
ね（　　）

《二郎》あつれえ？
井上さんじゃないですか
あ（　　）

どうしたんですかあ？
こんな所でえ（薄笑）

《井上》えっ？高梨…？
なんで お前が、ここに、
いんだよ！（ ; ）
つか…ここ、どこよ！

《二郎》はあ？それが、
人に ものを聞く態度か
なあ？いくら先輩でも、
そんな言い方じゃ教えた
くありませんねえ（薄笑）

《井上》なに、にやけて
んだよ（、・、）”

つか、お まえ… 高梨じ
やないな…（ー”ー” ; ）

高梨は、そんな品のない
話し方はしないんだよ！
お前 いったい 誰だ！？

《二郎》へえ、仕事が
出来ないくせに、いつも
文句ばかり言ってる馬鹿
で無能な奴だと思っ
てましたけど、人の見分けだ
けはつくんですねえ（笑）

おっしゃる通り…私は、

三郎じゃありませんよ。
双子の兄の二郎です…。

あ、言つときますけど、
私ね…産まれる前に死ん
じゃってるんですよ…。

どうゆう訳だか…魂だけ
は弟の身体の中に残っち
やっただけですけどね。

だから、たまあゝに弟の
身体を借りて、こつこつ
て表に出てくるんですよ

じゃなきゃ、ストレス溜
まっちゃいますから(笑)

でね…バカで無能な井上
さんの事は、三郎の身体
の中から、ずゝっと見て
ましたよお(、、)

いつも、弟の事…可愛が
つてくれてるようで、
ありがとうございます。

ですからね…兄の私が、
おとなしい弟に代わって
井上さんに、お礼をした

いなあ：なんて思ってたんですよね（、（、（）”

《井上》お、お礼なんか
いらないよ！俺は ただ
早く帰りたいだけだよ！

（、（、（） 井上は、そう言う

と、二郎から逃げるよう

に走り出した（；||”）

少し走ると、前の方に…

また、人影が見えた。

よく見ると、そこには、

腕を組んで、ニヤけなが

ら上目遣いで、じいっ

と、こちらを見る二郎が

立っていた：（（（）

『え？なんで？』井上は

後ろを振り返りながら、

怖くなって唇が震えだし

た．．（（（；．．（

とにかく その場から、

逃れたくて、がむしやら

に走った ||（；．．（

《二郎》井上さあ〜ん！
なあ〜んで、逃げるんで

すかあゝ！ 私は ただ、
お礼がしたいだけなのに
い（、（ふふふ．．．

（、（（ 逃げる井上の横を

二郎は まるで 宙にでも

浮いてるかのようにな…

スウ〜と追いかけてき

た（、（（（（（（（（（（

《二郎》井上さんってば
そんなに走っちゃ危ない
ですって（、（（ふふ．．

（、（（（（ いくら走っても、

ピタッ！と横に くつつい

て、ニヤニヤしながら、

こつちを見つめる二郎に

井上は計り知れない恐怖

を感じ、全身トリ肌がた

った．．．（（（（（（（（（（

前のめりになり、けつま
ずきながら息も切れ切れ
に走っていると、遠く、
ほんやりと灯りが見えた

助かった！（。．（；…と

思い、井上は その灯り
に向かって最後の力を振

り絞って走った！！

すると急に井上の視界から灯りが消えた。そう……そこは崖だったんだ。

灯りは二郎が見せた幻覚だったんだよ（――）

《二郎》 あゝあ、落っこちちゃったあ（、、）

あれほど危ないって注意してあげたのにい（笑）

人の親切を素直に受け取らないから、こんな目にあうんだよねえ……ふふ……

馬鹿だ馬鹿だと思ってたけど、ホントに馬鹿だったんだあ（、、）ふふ……

……

（、、） 崖から落ちた井上は岩に全身を強く打ちつけ、息も絶え絶えに、スーツの内ポケットから手帳を取り出し、血だらけの震える手で、ボール

井上の口元に耳をあて、息がない事を確かめた後スクツと立ち、右手を高く挙げ、手首をクルッと回した。すると、まるでマジックのように1本の血のように真っ赤な薔薇が手の中に現れた。

二郎は その赤い薔薇を、井上の胸元に、そっと置き、笑みを浮かべながらすう〜と消えていった

でもね、おかしいんだ。残業の後、三郎は村井に誘われて焼き鳥屋『串』に行つてたはずだから、その時間に井上の所へは行けないはずなんだよ。

どうして、ひとつの身体なのに、同じ時刻に違う場所にいれるの？（-”-…）
二郎って 一体…!?

.....

その日・・・（残業の後）

村井は 前々から、自分の
行きつけの焼き鳥屋に、
三郎を連れていきたいと
思っていた。

でも、狭いし…混んでく
ると、1つしかない、
テーブル席は自動的に
相席になるし、それに
決して キレイな店では
ないので、どうしても、
育ちのいい三郎を誘う事
が出来ずにいたんだ。

でも、牛井が好きだとゆ
う三郎を見て、その日は
ダメ元で誘ってみた。

三郎は嫌がるどころか、
『焼き鳥 大好きなんで
す 誘って頂けて嬉しい
です』と言って、とて
も喜んでくれた(´・`)

そんな三郎を見て村井は
嬉しくなり『なんだあ、
こんなに喜んでくれるん
だったら、もっと早くに
誘っとけばよかったな』

と思っていた（ 艸 ）

村井は、まだ独身なので
『串』には週に2〜3回
多い時には、5日連続と
ゆうほど通ってるみたい
だよ。ちなみに、彼女は
いないらしい（ ; ）

『串』の大将は、村井を
息子のように思ってるみ
たいで、村井が顔を出し
た時は何も言わなくても
大将特製の『串スペシヤ
ル』略して『串スペ』と
ゆう定食が、勝手に出て
くるんだ（ - ）

スペシャルといっても…
焼き魚、味噌汁、漬物、
ライスは定番で、その他
に…その日お薦めの煮物
などが付くだけなんだけ
どね。でも美味しそ

そして、その後に…
何本かの焼き鳥を食べな
がら、焼酎の玉露割りを
飲むってのが定番になっ
てるみたいだよ（ . ） b

《村井》 大将！今日は、
後輩を連れてきたんです
けど．．．いつもの 串スぺ
2つ作ってもらってもい
いですか？（．．；）

《大将》 おう！お疲れ！
いいよっ！ 2つね！

《村井》 やったあ（＾．＾）
大将！ ありがとう
高梨くん！入って（　　）

（．．；） この大将はね、
見た目も、そうだけど、
頑固で中々の偏屈なんだ

だから、村井は、一応．．
大将の了解を得てからと
思い、三郎を外に待たせ
ていたんだ。

三郎が暖簾を くぐり、
こんばんは！と入ってく
ると、2人は気づいてな
いみたいだけど、大将の
ゴリラみたいな顔が、
さらにゴリラ度が増し
て険しくなっただよ（．．；）

《大将》 いらつしゃい！
そこに座って（――；）

《三郎》 ありがとうございます。
います。失礼します。

（'・'・'） 大将って元々……
そんなに話す人ではない
みたいなんだけど、

その日は、いつにもまして
無口で……まるで避けて
るかように三郎とは目を
合わせなかったよ。

村井は、三郎と来てるか
ら邪魔しないように声を
かけてこないのかな……？
ぐらいにしか思っていな
かったけどね（――；）

にしても……金曜日だと、
いつも満杯で、ぎゅうぎ
ゆう詰めなのに……今日は
村井と三郎しかいない。
それも、なんか意味があ
るのかな？（――；）

2人は、串スぺ定食を食

べ終わり、三郎も一緒に
焼き鳥を食べながら、
玉露割りを飲み始めた。

三郎は、アルコールは、
あまり強くないんだけど
きつと楽しかったんだろ
うね…頬を真っ赤にして
結構飲んでいたよ

()

《三郎》すみません…村
井先輩、僕 なんか酔っち
やっただみたいです (><)

10分位、ちよつと寝ても
いいですか? (><)

《村井》いいよいいよ!
僕は、その間…大将に付
き合ってもらうから!
ね、大将 (*´)(´ノ”

《大将》ああ”(ー”ー;))

(…)(…)(…)
カウンターで、腕を枕に
寝始めた”(ー)(ー)(ー)
ZZZ

キレイな顔で眠る三郎を見ながら村井は、まるで自分の事のように嬉しそうに、三郎の自慢話を始めた（　　）

大將は、そんな村井の話を、目一杯の作り笑顔でうんうんと、思いつきりうなづきながら聞いていた。でも、その作り笑顔が、妙に…怖い（――）

しばらくすると、三郎は『こんな時間まで、お仕事ですか？お疲れ様です』と寝言を言った。

《村井》ぷつ（笑）高梨君
つたら、1人 残って
残業してる井上さんに話
しかけてるみたいな寝言
言ってるよ（　；）

あんな理不尽な、イヤミ
言われても、井上先輩の
事が心配なのかな？
本当に高梨君って、いい
ヤツだよなあ（　艸　）

それからまた15分程が過ぎた頃、三郎は目を擦り時計を見ながら…

《三郎》 すいません(汗)
10分位って言ったのに、
こんな時間まで寝ちゃっ
て(、)

《村井》 いいって、いい
って、そんな事() (笑

今日は付き合ってくれた
だけでも嬉しかったんだ
から 今度また付き合っ
てくれよな(*、)ノ

《三郎》 はい！喜んで

《村井》 じゃあもう遅い
し…今日は、これで帰ろ
うか！ 大将、ご馳走様
でした() ヽ

《三郎》 あ、お会計…僕
も払います(…;))

《村井》 やめてよお(笑)
今日は俺が誘ったんだか

らあ！それに、ここはいつも、ツケなんだ。

《三郎》え、でも（><）

《大将》むらつちが、そう言っただから、ありがたく、ごちそうになりゃあ、いいんだよ！

《三郎》そ、そうですか
すいません、じゃあ…
今日は、お言葉に甘えてご馳走になります。ありがとうございました。

でも…今度は絶対、僕におごらせて下さいね！
約束ですよ）（

大将も今日は、ご馳走様でしたm（――）mとても美味しかったです（、、）

また、村井先輩と来させて頂きますので、その時は宜しく お願いします。
おやすみなさい）（ゞ

（、、）（ そう言って2人は

店を出た。大将は相変わ
らずの険しい顔で、暖簾
の隙間から、じい〜と
2人の姿が見えなくなる
まで見送ると…（　　；
ピシヤリ！と、戸を閉め
鍵をかけてしまった。

大将：本当に、どしたん
だろ？そういえば、三郎
が店に入った時から目を
合わせないようにしてた
もんね（―”―；）

もしかして大将は、ミキ
と同じで霊的な、なんら
かの 力があるのかな？

う”〜ん（―”―；）でもね、
言っちゃあ悪いけど…

どお見ても、ゴリラみた
いな顔と体型だしさ…
とても、靈感があるよう
には見えないんだよね。

いやいやいやいや、
人を見かけだけで判断し
てはいけないよね（><）

それに、人は見かけによらないって言うしね。

もしかしたら、こんな顔で、趣味は編み物だったりして…しかも、レース編みなの（＝|＝；）きもっ…

にしても…さっきの三郎の寝言って、井上が会社から出る時に声をかけてきた警備員と…

あの消えた タクシーの運転手の セリフだよね。

じゃあ、あの2人は、どちらも二郎だったの？とゆう事は、二郎は三郎が寝ている間に魂が入れ替わってるって事？

いわゆる…幽体離脱ってやつなのかな？（―”―；）

だとしたら、二郎のあの説明のつかない行動も、なんとなく納得できるもんね（><）

でもね、井上が落ちた崖

つて…タクシー乗り場から車で、ゆうに5時間かかる場所なんだ。

二郎は幽体離脱だから、なんとなく理解できるけど、井上は幽体離脱でもなんでもなく身体ごとだよ（ ; ）！！

あのタクシーが、ロコモコちゃんの『高速カー』のような物だったとしたらば分かるけど…

『i good』では、そんな情報は出てきてないし…

とゆう事は、やっぱり、二郎の、とてつもないなんらかの力で時間移動させてるって事だよな。

そういえば、最初の頃、あの、ミキでさえも…

『私の手には おえないかも』って言ったもんね（ ; ）

.....

焼き鳥屋「串」を出た後：

村井の部屋は『串』から歩いて帰れるくらいに近
いんだけど、ひと気のな
い夜道を三郎1人で歩か
せては、あぶないと思い
タクシーが掴める場所ま
で付き合う事にした。

しばらく歩くと、1台の
タクシーがやってきた。

村井は、三郎を見送った
足で『串』に戻った。

村井もやっぱり、いつも
とは違う大将の態度が気
になってたんだね。

「串」に戻ると、いつもは
朝方：3時4時まで営業
しているのに、その日は
すでに暖簾も片付けられ
ていて、店には鍵が掛か
っていた（。―。；）

明かりが点いていたので
村井は、よっぽど声を掛

けようと思つたが…

大將が、こんなに早くに閉めるなんて、何か…よつぽどの事があつたんだろうし、1人になりた
いんだろうな…と思い、
村井は、気になりながら
も帰る事にした（´・・・、）

一方…大將は、三郎が座つていた椅子に座り…
腕を組み、眉間にシワをよせ、目を閉じて…

じつとしていた（―”―”）
なんで、そんなところに座つてんだろ？（―”―”）

あ！そつか！そうゆう、なんらかの力が、ある人つて、人や物に触れたりすると、何かが見えたり聴こえたりするつてゆうもんね！（。°。°；）

じゃあ、きつと大將には二郎の何かが今、見えたり聞こえたりしてるのかな？とつても気になるけ

ど、大将の事は、また後
でね（　　）”

.....

そして、次の日（土曜日）

小さな頃から絵を描く事
が大好きだった三郎は、

就職してからは、仕事が
忙しくて、あまり絵を描
く機会がなかった（あま
りといっても最後に描い
たのは4日前だけどね）

この日は昨日の二日酔い
もなく、すっきりと目覚
めたので、三郎は無性に
絵が描きたくなった。

家政婦の　しのぶに、
昼食用のサンドイッチを
作ってもらい、スケッチ
ブックを片手に、近くの
高台に出かけ、目にとま
った花や風景等を描いて
いた。

本当はね、三郎は人物を

描くのが好きで、ちょっと前までは近くの公園に行つて、無邪気に遊んでいる子供達の笑顔を描いていたんだけどね…

なにせ、この容姿なもんだから、子供を連れて来た母親達に囲まれてしまい、あれこれ聞かれ…

自分の子供の絵が描かれてたりなんかしたらもお

『ぎゃーっ!! うちの子

描いてくれてるう』と

大騒ぎで、しまいには、

『この子と一緒に私の事も描いて下さい(。(

サインもお願ひします』

と、次から次へと入れ替わり立ち替わりで…

律儀な三郎は、断る事も出来ずに、まるで街角で似顔絵を描く人のように

行列が出来てる親子達をせつせと描いていた。

本当は、ゆつくりと落ち
着いて、自分の好きな絵
を描きたいのにね（|| || ;）

やっと全ての親子達を描
き終えて、ぐったりして
帰ろうとする三郎の背中
を、トントンする者がい
た（><）

後ろを振り返ると、まる
で、お相撲さんのように
大きくて、まるっこい
2人の男が立っていて、
自分達も描いてほしいと
言ってきた（。 ;）

男に見えた片方は母親で
もう片方は、娘だった。

恥ずかしくて、みんなが
帰るのを、じっと待って
いたらしいよ（| ;）

三郎は、疲れているにも
関わらず優しい笑顔で、
いいですよと、まんまる
親子を描きだした（ ;）

出来上がった絵は、その

親子とは思えないくらい
細く、そして誰が観ても
女の子に見えるように描
かれていた。それでいて
特徴も よく とらえてい
て、その親子だつて、
ちゃんと分かるんだよ！

グレイト！！ () b

親子は、とても喜んで、
スキップして帰って行っ
たよ、(^ - ^) 人 (^ - ^) /
スキップするたびに三郎
は、地面の揺れで、コケ
そうになってたけどね。

公園に行く度に、そんな
風になってしまうので、

三郎は、自分のせいで
子供達が、のびのびと遊
べなくなつては可哀想で
申し訳ないと思い、しば
らくの間は公園に行くの
をやめる事にした。

それから、この高台に

来て、静かに流れる時間
の中で…植物や風景など
目についたものを描くよ
うになっただんだ（　）

こんな穏やかで、優しい
三郎を見ていると…この
身体の中に、あの凶暴な
二郎が　いるだなんて、
とても信じられないよね

………

そして、月曜日・・・

三郎は、いつものように
早めに会社に行き、まだ
誰も来ていない事務所で

たまに会う掃除の、おば
ちゃんと、ひと言ふた言
言葉を交わした後は、
自分で持ち込んだ、お気
に入りの珈琲を落とし…

キッチンと整理された自分
のデスクで、仕事前の、
しーんと静まりかえった
事務所で飲む珈琲と…

やがて： 1人、2人と来
はじめ、静かだった事務
所が、いつもの活気ある
光景に変わってゆく様が
とても好きだった（ ）

村井といえば、いつも
時間ギリギリに入り：
その日は寝癖なのか、
右の、もみあげが直角に
跳ねあがっていた。
それを手で押さえながら

《村井》ノ（ ）ノ”

高梨君、おつはよー
この間は、ありがとね！

《三郎》あ、おはようご
ざいます。こちらこそ、
すっかり、ごちそうにな
っちゃって、ありがとう
ございましたm（ ）m

『串スぺ』美味しかった
ですね 頑固そうな大将
も味があつて、いい感じ
でしたし。是非また、
ご一緒させて下さいね

（ ）（ ） 村井は、三郎から

ご一緒させて下さい…と
言われた事が嬉しすぎた
のか、直角に跳ねあがっ
た、もみあげの寝癖なん
かもう、どうでもよくな
って、水をつけて直そう
ともしなかった。

とゆうよりも、舞い上が
りすぎて忘れたと言った
方がいいかな（ ; ）

でもね…少し離れた所か
ら見たら、耳から毛が生
えてるように見えるんだ
よね（笑）耳毛ながっ（笑）

一方、井上は遅くなって
も必ず15分前には来てい
たが、その日は連絡もな
く、時間になっても現れ
なかった。

たまに、営業先に寄って
から出社する事があるの
で周りは、さほど気には
していなかったけどね。

でも…昼になっても、
井上からは何の連絡もな

かった。

この頃は…まだ携帯電話なんて物は無かったので

女子社員の1人が、井上の自宅の方に電話を入れた。しかし何度かけても留守番電話に切り替わるだけで、井上が出る事はなかった。

すると、井上と同期の、大野が青い顔をして…

《大野》あ、あのぉ～
実はですね、みんなには黙っててくれと、井上に言われてたんですけど、

ほら、2年前に井上のお袋さん倒れたじゃないですか…その時、なんともなかったってゆうのは実は嘘だったんです。

お母さんは、ずっと意識が戻らず、植物状態で、今も病院に入院しているんですよ。

あいつ、ホントに不器用な性格だから、みんなに心配されて優しくされるのが嫌だったみたいで…
ってゆうより、照れくさいんですよ。

ついでだから言っちゃいますけど、高梨君の事だつて、本当は とつても心配していて、高梨君が仕事しやすいようにって

結構、裏では動いてたんですよ。営業先には『何かあった時には、自分が責任をとりますから、高梨の事、宜しくお願いします』って、頭を下げて回ってたんですから。

なのに、あいつは…高梨君に突っかかってばかりで…本当に素直じゃないんだから（。；）

あ！もしかしたら、お袋さんに何かあつて、連絡する事が出来ないのかも

しれません！ 俺、病院
知ってるんで、ちよつと
行つてきます。何か分か
つたら、すぐ連絡入れま
すんで！

(´・`・´) そう言うと大野は
事務所を飛び出し、タク
シーを拾い、病院へ向か
った。大野は、2、3度
見舞いに来た事があつた
ので、病院に着くと、ま
っ直ぐに病室に向かった

ドアをノックしても応答
がなかったので、大野は
そおつと開けて覗いて
みた。するとそこには、

母親のベッドの横に置い
てある椅子に、背中を丸
めて座っている井上がい
た。大野は、井上…！と
静かに声をかけた。

井上は…青白い顔で、
ゆっくりと、こちらを
振り向いた。

《大野》連絡もしないで

どうしたんだよ（――）
みんな、心配してたぞ！
おばさんに何かあったの
か？（。；）

《井上》 ああ、いや…
母さんは、相変わらず、
眠ったままだよ。
ごめんな、心配かけて。

（。；） そう言うと、井上
は、クルッと背をむけ、
母親の手を両手で握りし
めながら、静かに…つぶ
やいた。

《井上》 大野…（――）

人間ってさあ、一体…
何なんだろうな。この世
に生まれて、学校行って
仕事に就いて、結婚して
まあ…俺は、結婚しよう
と思ってた女には、フラ
れちまったけどさ…。

でもさあ、俺…死ぬ前に
1度でいいから家庭つて
ものを持ってみたかった

なあ。子供なんか、たつ
くさんいてさ、賑やかな
家庭がいいな（ ; ）

まあ…現実には、母さんが
倒れ、付き合ってた女に
はフラれ…飼ってたハム
スターには逃げられ…

仕事は上手くいかないし
今は今で、こんなだしさ。

《大野》こんなって、
どなんだよ？お母さんの
事は別としても、女にフ
ラれる事なんて、俺なん
か、しょっちゅうだし、

お祭りに買った緑亀にな
んか、驚きの8回も逃げ
られてんだぞ（ ; ）！！

おまけに、おにぎり屋で
フンパツして、高めの鮭
おにぎりを買ったら、鮭
が入ってなかった事もあ
るんだから！（T—T）

それに…仕事なんか、
俺より、お前の方が数段

出来てるし優秀じゃん！

何があつたのかは知らないけど、ひとまず今日のところは、俺と一緒に会社に戻ろうぜ！ な！

《井上》う…ん、一緒に行きたいんだけどさ…
行けないんだ（――）

大野お…俺に何かあつたら、母さんの事…頼むな

たまに見舞いに来てくれるだけでいいんだ。

俺…ひとりっ子だからさ
俺が いなくなっちゃつたら、誰も見舞いに来てくれる人いなくなっちゃうし。そしたら、母さん寂しがるからさ…

たまに来て、話かけてやつてくれよ（…）

《大野》お、おまえ…
なに 訳わかんない事
言ってるんだよ！縁起でも

ない事、言つなよ！

よし！分かった！もし、
お前に何かあつたら、
おばさんの見舞いには、
俺が、ちゃんと来るから

大丈夫！まかすとけて

(;) なっ！

《井上》よかつたあ…

大野、ありがとな…。

《村井》いいから いい
から！ほら、行くぞっ！

(; ;) 井上は、『ああ』

と言って立ち上がった、
こちらに歩いて来た。

大野は病室を出ながら…

《大野》腹へったからさ

昼、食べてこうぜ！

久しぶりに、ラーメンで
も食つてつか？な！

(; ;) と、何気に後ろを

振り向くと、井上の姿は
なかった。てつきり後ろ
を歩いてるもんだと思っ

ていた大野は…

《大野》もお、何してんだよ！早くつてば（><）
昼休み終わっちゃうって

（'・'・'） そう言つて、病室を覗いた。すると確かに今までいたはずの井上の姿が、どこにも見あたらなかった（ ; ）！！

大野は、狭い病室を探し回った。

《大野》え…？ 井上！
井上！どこだよ！井上！

（'・'・'） すると、窓の外に透き通つた井上が、手をふりながら…

『大野：ありがとう…。
母さんを頼むな…』と、
にっこり微笑んで（'・'・'）
すう〜と消えていった

大野は、あわてて、窓の下を覗きこんでみたが、そこは5階で、もちろん井上の姿は、どこにもな

かった（ ; ）！！

《大野》なんだよ！なん
でだよ！井上！（<|>。）
嘘だろ（泣）いのうえー！

（ ; ; ） 大野は この時
井上はもう、この世には
いないと悟った。

そして、待合室の公衆電
話から会社に連絡をいれ
た「（ ; ; ）

《大野》あ…もしもし、
大野です。病院には井上
いませんでした。

（ ; ; ） 電話を切った後、
大野は、もしかして…と
思い、また病室に戻って
みた。でも…やっぱり、
井上の姿は なかった…。

大野は、今まで井上が座
っていた椅子に座り、
安らかな顔で眠り続ける
井上の母親の顔を見つめ
ながら…

《大野》おばさん…
あいつ 一体 どこに行っ
ちやったのかなあ？

なんで、なんで あんな
透けた身体し…て…(泣)
井上えく。。(ノ、)。。

(。；) 大野は、ベッドに
顔を埋めて声を殺して泣
いた。その時、母親の瞼
が、ピクッと動いた事に
大野は気づかなかつた。

しばらく泣いた後、大野
は、スクツと立ち上がり

グレーのハンカチかな？
と思つたら、ただの薄汚
れた白いハンカチを、
ポケットから取り出し、
ぶーっと鼻をかみ、くし
やくしゃのまんま、また
ポケットに、押しこんだ

汚なっ！ (。ノ)

そして、泣きすぎて腫れ
た瞼を両手で押さえ…

グリグリして…

《大野》おばさん、今日はもう俺、帰るよ。また来るからさ、井上の為にも早く目え覚ましてよ。

そして…もう…遅いかもしれないけど、あいつの事…守ってやってよ。

(……) 大野は、そう言っ
て、肩を落として病室を
出て行った。

井上と新規の客をとろうと、2人で汗だくになりながら歩き回った事…。

やっとの思いで契約がとれて、2人で祝杯をあげた事…。彼女がいない者同士で淋しく、クリスマス
を祝った事…。

井上との思い出が走馬灯のように頭を駆け巡った

どこをどう歩いたのか…
気がつくつと、いつの間に

か会社のビルの前に立っていた。大野は、ビルの入り口を見つめながら…

顔を両手で、おおいながら上下に、さすった。

多分…気を引き締めようとしたんだろうけど、

両手の小指が鼻の穴に、ズボッと入ってしまった

ある意味、目が覚めた。

大野は、鼻の穴の結構な痛みを、ガマンして…

『みんなには、何て言うかな…』と考えながら事務所に入ると、中は、ざわついていた。

すると村井が、青い顔をして、欽ちゃん走りで駆け寄ってきた。

《村井》あ、大野さん！大変です！井上さんが、亡くなつてたそうです！

《大野》え！（；）！
亡くなつたって!？

そっかあ…やっぱり…。
で、死因は何なんだ？

《村井》崖から落ちて亡
くなつたみたいです。

警察は自殺じゃないかっ
て言つてたそうです。

つてゆうか…さっきの、
やっぱりつて、どうゆう
意味ですか？大野先輩、
何か知ってるんですか？

(…)(…) 大野は自分のデス
クに座り、さっきの病室
での出来事を、みんなに
話し始めた。そして最後
は、こつ締めくくつた。

《大野》あいつ、窓の外
から手を振つた時…すつ
ごい、いい笑顔でさあゝ

だから本当に自殺したの
かもしれないな(…)

何があつたのかはしれな
いけど、お袋さんを残し

て逝っちゃうなんて、親不孝だよな（<|>。）

なんで、なんで死ぬ前に俺に相談してくれなかつたんだよ！ばかやろう！

あ、遺書は？遺書はなかつたんだろか？遺書があったら、自殺の原因が分かるかもしれない！

《村井》あ、いや…どうなんですかね？それも、ちょっと分からないです

………

（……）側に落ちていた手帳の書き渋った後や…

亡くなる直前まで、バリバリ仕事もして残業もしていたのに、なぜ自殺したのか？等々…色々な疑問が残るが、

結局、井上は自殺として処理されてしまった。

.....

そして、あつとゆう間に
2ヶ月が過ぎ…… 井上の
話題も出なくなつた頃……

三郎は、一身上の都合と
ゆう事で、いきなり会社
を辞めてしまった。

三郎は上司に、1ヶ月前
には辞表を出していて、
みんなには、言わないで
いてほしいと、お願いし
ていたんだ。

責任感の強い三郎は、
自分の担当してきた営業
先の細かい仕事内容や、
相手先の性格や、好きな
食べ物、趣味、癖……等も

誰が見ても分かるように
資料に纏まとめてあつ
た。

絵が上手な三郎は、
引き継ぎをした人が、
資料を見ていて飽きない
ようにと、あいだあいだ

に、三郎には珍しく、
マンガチックの絵が描い
てあった。

女子社員達は勿論の事…
1番、シヨックを受けて
いたのは、村井だった。

井上が亡くなって、バタ
バタしてた事もあって、
結局 あれから 三郎とは
『串』には行けなかった
からだ。

僕、思うんだけどさ…
そりゃあ三郎は責任感強
いと思うよ。それは否定
しないけど…でも本当に
責任感強いんなら、こん
な形で急に辞めたりする
かな普通（――…）

井上が亡くなった穴埋め
だって大変なのに、急に
三郎まで居なくなったら
残された社員達が迷惑す
るし、大変な思いをする
ってのは分かりきってる
事だよな！ハッキリ言っ
て責任放棄だよな（――…）

あと、気になるのが…
確か二郎は胸のあたりに
赤い薔薇を1本 そつと
置いたはずだよな？
その赤い薔薇は どこに
いったの？（―；）

そんな事を考えていると
小野寺の肩に止まってい
た、コインが、クルつと
こっちを振り向き…

しらあゝつとした細い目
で、僕の顔を覗きこみ…
（；）（フンっ〓3
と、めいっばい鼻息を吹
きかけた。おまけに鼻水
みたいなのも飛んできた

（。°ノ）ノ

汚なっ！

そして今まで、ひと言も
喋らなかった コインが
バツサバツサと羽を抜き
散らかしながら、ミキの
方に飛んで行った。

《コイン》ムギイ〜！
ごら、ムギイ〜！ぢよっ
ど、そとデリビ、げせ！

【 ミキ〜！ くら、
ミキ！ ちよっと、その
テレビ消せ！ 】

(・・・) うん、コイン…
あまりに、なまりすぎて
何を言ってるんだか全然
分からないね (;)

するとミキは、テレビを
消し、部屋を明るくして
教壇のようなものを、テ
レビの横に置き、コイン
が止まりやすいようにと
止まり木まで用意した。

《コイン》なあぬいよ？
ムギイおめえ、あでが？
もすいがすで、おだのご
ど、でうぎだんでねが？
いやいやいや、でれでゆ
つぺよお ()

【 なによ？ミキ…
お前、あれか？もしかし
て俺の事、好きなのか？
いやいやいや照れるな 】

(・・・) コインは、そう言

いながら頬を真っ赤にしていた。ん、キモイね。そして細い目を、めいっぱい開けて正面を向いた

《コイン》おめだぢいのまだこはふすいあだが？よんぐ見でびれ！ざぶろうは、ふどりだけがんな

【 お前達の眼は節穴か？よく見てみる！三郎は1人だけだからな！】

(…) すると、今度は…
ロコモコちゃんがやってきて…コインに、バスガイドが使うようなマイクを渡した。

《コイン》なぬいよ、おめえも、おだのごと、でうぎだんでが？いやいやいや、ぼでぼでたなや

【 何よ、お前も俺の事、好きなのか？いやいやいや、モテモテだな】

でぼ おでいな ガダデヤ

ど、ガダつちあんが、で
うぎだがんだ、いぐだ、
ボージョンがげでも、
ブダだつぺよ！わでいだ

【でも俺はカナリヤ
のカナちゃんが好きだか
ら、いくらモーシヨンか
けても無駄さ！悪いな】

(…)(…)
ん、誰も、コイン
の事を好きだなんて、
これっぽっちも言つてな
いんですけどね(…)(…)

コインは片足で、マイク
を持って話し始めようと
したが…また動がなくな
ってしまった(…)(…)

しばらくの間、沈黙が続
いた後 コインは 固まっ
たまま、ブルブルと震え
出し、バツサアと、止ま
り木から落ちてしまった

(…)(…)
え？ コイン！
大丈夫かな？そういえば
さつき、三郎は1人だけ
つて…言つてたよね？

でも、三郎が1人つて、
どうゆう事なのかな？

だから、得体のしれない
何かがコインを喋らせな
いようにしてるのかな？
すると、コインは…

《コイン》みでうり！
ごら、みでうり！ちよっ
ど、ごっちさごい！
おめえ、おでのがわでい
ぬい、しゃべってげね！
おでい、あすつっだっぺ
よ！がだあずいは、ぎっ
づいべや）（…

【 みどり！ごら、
みどり！ちよつとごっち
に來い！ お前、俺の代
わりに話してくれ！
俺、足つっちやってよ！
片足はきついわ！】

（…）（うん…コインは、
普段の運動不足が、タタ
って 足が つっただけだ
っただね）（…）

でも、話せって言われても、何を話していいのかわかんないし……（――；）

あ！みどりってゆうのはね……僕の事なんだ（・；）

普段は緑のカエルの姿のままにいるし、おまけに着ている服も緑のジャージだから、初めて会った時から、コインは僕のみどりって呼んでるんだん？ ロコモコちゃん、どうしたのかな？小走りで、スタンドを持って来たよ（。。；）？

何をするのかな？と思ったら、偉そうに寝そべってるコインの口元に置き

横になりながらも話せるように、マイクをセットしたよ。おまけに、首が疲れないようにって鳥用の小さな枕まで用意されちゃってるし（。。）

すると、ロコモコちゃんが何気に封筒を渡してよこした（。ノ）え？

な、何？このハイテクの時代に、ラブレター？し、しかも…こんな公衆の面前で（ノノノノノノ）

顔を真っ赤にして、ドキドキしながら封筒の中の紙を観てみると（―）（；）

うん…だだの、マイクの説明書だね（；）A h a

僕は、下アゴを突きだしアイソンと なりながら説明書を見た（。。）（；）

説明書によると、このマイクはね…

【あらゆる国の言葉】

【あらゆる生物の言葉】

【やっかいな なまり】

これらの全てが、このマイクを通すと、自動的に分かりやすい言葉に変換

してくれるらしいよ…。

でも、話してる人には
気づかれないようになって
るんだって！凄いね！

しかし、ロコモコちゃん
は 色んな道具 持つてる
よなあ（ ; ）

人間界で人気のアニメ…
『ドラ もん』のポケッ
トのようだもんなあ。

まままま、僕だって、
ドラえ んの『どこで
ドア』みたいな、『どこ
でも自転車』持つてるも
んね（ ; ）

この『どこでも自転車』
があれば、地球の裏側に
だって、たったの6分で
行けちゃうんだから。

そのかわり、1分しか
かからない所でも、6分
かかっちゃうけどね…。

『どこもドア』のよう

に、ドアを開けたらすぐ
って訳にはいかないけど

これはこれで愛着があっ
てさ。この先…どんなに
便利になっても、この自
転車だけは絶対、手放し
たくないんだ(´・`・´) b

にしてもさ、【あらゆる
生物】の欄を観ると…

動物や植物の他に、宇宙
人等って書いてあるんだ
けど…(´・`・´) ;) なんか
ワクワクするね

僕、一応…妖精だから、
動物さん達の言葉は分か
るけど、さすがに宇宙人
の言葉は分からないから
さあ(´・`・´) ;) もし、宇宙
人に会う事があったら、
ロコモコちゃんに借りよ
うっと、(´・`・´) ;) /

あれ？ところで、コイン
は、どうしたのかな？

ん…(´・`・´) ;) コインったら

片手（羽）を頭にやって、
片足を偉そうに組んでる
よ。遠くから見たら、

よく、テレビとかで観る
ポテチを バリバリ食べ
ながら、ソファーに横に
なって、亭主の帰りを待
っている、ぐうたら さ
んのようにだよ）。 ;)

お！いよいよ、コインが
話し始めるみたいだよ！
どうやって聴こえるのか
楽しい（ 艸 ）

《コイン》 おお！これは
楽チンだわ こんなに
至れり尽くせりで、ミキ
とモコモコは、俺の事が
好きみたいだなあおい

おい こら！ みどり！
お前、もう戻っていいぞ
ほら、見ての通り、横に
なっただままで話せるから

あ！その前に、みどり！
いい加減 その鼻の穴に

詰まってるやつ、取っ
たらどうよ？さっきから、
みんな、笑うの、ガマン
してんだから）
（；）

（・・・）僕は、すっかり、
鼻の穴に詰め込まれた、
トイレトペーパーの事
を忘れていた）
（；）

コインに言われて、チラ
っと、みんなの顔を見て
みると、声を出さないよ
うに肩をブルブルさせて
笑いを堪えていた（<|>。
）

僕は恥ずかしくなって、
鼻から抜き取るうとした
が、かなり前に鼻血は止
まっでいて、トイレト
ペーパーは乾き、鼻の穴
の壁に、へばりついてし
まっで、抜こうとすると
（
（；）い、痛い…

どうしようかなあ（><）
と考えると、後ろにい
た ミキが、僕の両肩を
掴んで、クルッと回転さ
せ、僕の両穴の詰め物を

グツと掴み、思いつきり
引っこ抜いた！（ ）

いったあーい！僕は余り
の痛さに涙が出てしまっ

。。。。(ノ、)。。。。

するとミキは また 僕の

両肩を掴んで諭す

ように…

《ミキ》男の毛は泣かな
いの！さあ戻りなさい！

(…)() ミキは、優しく言

ってくれたけど、さっき

男の子って言おうとして

さ、男の毛って言ったよ

ね？ 絶対かんだよね？

まあ、こんな天然なミキ
が好きなんだけどさ(照)

それに…コインも、さっ

き、ロコモコって言おう

として、モコモコって、

かんでたし(笑)() 艸

にしても、このマイクは
きれいな標準語に変換し

てくれるのかな…と思っ
たら、そうじゃないんだ
ね。なまりが取れても、
乱暴な感じは、そのまま
だもんね（――；）

ま、その方が、コインら
しくて、いいけどさ

《コイン》おい！みどり
座ったか？次　いくぞ！

ミキ！俺に見とれてばか
りいないで、部屋の明か
り消して…いやいやいや
明かり消してつて、変な
意味じゃないぞ！勘違い
するなつて（――）

（……）ん…ひとつも
いしてませんけどねっ！
勘違

つてゆうか、ちよいちよ
い、下ネタ入れてくるの
やめてよねっ！（――；）

それに、ミキは、見とれ
てるどころか　全然　違う
方向見えますから！もお
自意識過剰なんだから！

だから、お前らが観てる
狂暴な二郎が本当の三郎
なんだよ！（　　）”

優しい三郎は本物の三郎
の良心から生まれた、
二郎とは全く関係のない
もう1つの人格なんだ！

（　　） えええーっ！

あ、あの…狂暴な二郎が
本物の三郎だつてえー！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4953/>

エルカと『シュガー』な仲間達

2012年1月3日02時51分発行